

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 29 年度調査）

医薬品の適正使用のための残薬、重複・多剤投薬の実態調査  
並びにかかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の  
影響及び実施状況調査報告書



◆◆目 次◆◆

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	7
1. 回収結果	7
2. 保険薬局調査の結果	8
(1) 薬局の属性（平成 29 年 6 月末現在）	8
①かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況	8
②組織形態	9
③開設年	9
④同一法人等による薬局店舗数	10
⑤チェーン薬局の状況	11
⑥処方せんの応需状況	11
⑦売上高に占める保険調剤売上の割合	12
⑧調剤用医薬品の備蓄医薬品目数	13
⑨医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況	14
⑩患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無	14
(2) 調剤の状況等（平成 29 年 6 月末現在）	15
①調剤基本料	15
②処方せんの受付回数	16
③主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合	17
④特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無	18
⑤調剤基本料の注 1 ただし書きの該当状況	18
⑥1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況	19
⑦基準調剤加算	20
⑧後発医薬品調剤体制加算の算定状況	21
⑨後発医薬品調剤数量割合	22
(3) 薬局の体制等（平成 29 年 6 月末現在）	23
①管理薬剤師の状況	23
②職員数	24
③かかりつけ薬剤師の人数等	27
④土日の開局状況	29
⑤開局時間	31
⑥24 時間対応が可能な体制の整備方法	33
⑦地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況	35
(4) 薬学管理の取組状況等	36
①薬剤服用歴管理指導料等の算定回数（平成 29 年 6 月 1 か月間）	36

②在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数.....	41
③居宅療養管理指導費の1年間の算定回数.....	42
④疑義照会の状況.....	43
⑤平成28年4月以降の服薬情報等提供料の算定実績の有無.....	45
⑥重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組.....	47
(5) かかりつけ薬剤師に関する取組状況等.....	48
①かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等.....	48
②かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数等.....	49
③かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数と年齢構成割合.....	50
④かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数.....	51
⑤かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師の有無とその理由.....	52
⑥かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由.....	53
⑦かかりつけ薬剤師指導料等の届出に関する今後の予定・意向.....	54
⑧かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等.....	54
3. 診療所・病院調査の結果.....	58
(1) 施設の概要等.....	58
①開設者.....	58
②標榜診療科.....	59
③診療所の種別.....	59
④許可病床数.....	59
⑤職員数.....	61
⑥研修の受講状況.....	62
⑦在宅療養支援診療所・病院の状況.....	63
⑧地域包括診療料等の施設基準の届出状況.....	63
⑨診療所における時間外対応加算の種類.....	64
⑩救急医療体制等.....	64
⑪病院における承認等の状況.....	65
⑫診療所における在宅医療の実施状況.....	66
⑬診療所における診療報酬1,000点以上の手術の有無.....	67
(2) 外来診療の状況.....	68
①外来患者数.....	68
②各診療報酬の算定患者数と算定回数.....	68
(3) 医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等.....	73
①外来における院外処方率.....	73
②いわゆる門前薬局の有無.....	73
③地域における24時間対応の薬局の有無.....	74
④連携している24時間対応の薬局の状況.....	74

⑤診療時間外の外来患者に対する処方状況.....	76
⑥院外処方せんにおける残薬確認のチェック状況 .....	77
⑦院外処方せんにおける長期投薬の処方せんの発行状況等.....	78
⑧湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響 .....	80
⑨薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師 .....	81
(4) 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等.....	82
①診療所 .....	82
②病院.....	84
4. 患者調査の結果 .....	86
(0) 記入者の属性等 .....	86
①記入者と患者の関係 .....	86
(1) 回答者の属性等 .....	87
①かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況 .....	87
②性別 .....	89
③年齢.....	90
④公的医療保険の種類 .....	91
⑤自己負担額の有無 .....	93
(2) 医療機関や保険薬局の連携状況等.....	95
①定期的に受診している医療機関数 .....	95
②かかりつけ医の有無 .....	98
③お薬手帳の保有状況 .....	100
④保有しているお薬手帳の数 .....	101
⑤医療機関におけるお薬手帳の活用状況 .....	104
⑥薬局におけるお薬手帳の活用状況 .....	106
⑦お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況 .....	108
⑧電子お薬手帳の利用意向 .....	110
⑨定期的に、医療機関に行って処方してもらっている薬の有無.....	112
⑩現在、1日あたり使用している薬の種類 .....	113
⑪処方せんを持っていく薬局の決め方.....	122
(3) 調査日に利用した薬局との関係等.....	125
①調査日に利用した薬局の利用期間 .....	125
②平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況 .....	127
③本日利用した薬局を選んだ理由 .....	131
④本日利用した薬局を選んだ最大の理由 .....	135
⑤薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無 .....	139
⑥残薬について薬局に相談した経験の有無 .....	141
⑦残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか.....	143
⑧結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか .....	145

(4) かかりつけ薬剤師についてのお考え等 .....	147
①かかりつけ薬剤師の有無 .....	147
②かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験 .....	149
③かかりつけ薬剤師について重視すること .....	153
④かかりつけ薬剤師について最も重視すること .....	157
⑤かかりつけ薬剤師についての意向 .....	161

#### 参考資料

# I. 調査の概要

## 1. 目的

平成 28 年度診療報酬改定では、残薬解消や多剤・重複投薬の防止等に係る取組として、①医療機関において処方されている医薬品の調整を行い減薬した場合の評価の新設や、②薬局において処方されている医薬品の調整を行い減薬した場合の評価の新設、③薬局において処方内容の疑義照会を行い処方変更した場合の評価などの充実が図られたほか、④医薬品の適正給付の観点から、湿布薬の処方に関して新たなルールが導入された。また、患者本位の医薬分業を進めるため、⑤患者の服薬状況を一元的かつ継続的に把握することを目的とした、かかりつけ薬剤師・薬局の評価やいわゆる門前薬局の評価の見直し等が行われた。

こうした改定の内容を踏まえ、かかりつけ医とかかりつけ薬剤師・薬局の連携推進方策も含め、医薬品の適正使用や患者本位の医薬分業のさらなる推進を図るため、残薬や多剤・重複投薬の実態調査と薬局における調剤報酬改定の影響及び実施状況について調査を行い、診療報酬改定の効果・影響等を検証することを目的としている。

<主なねらい>

- ・ 残薬、重複・多剤処方の実態とこれらの削減に向けた保険医療機関や保険薬局の取組と効果の把握
- ・ 湿布薬の処方状況の把握
- ・ かかりつけ薬剤師指導料の算定状況とその効果の把握
- ・ かかりつけ薬剤師・薬局に関する患者の意識の把握
- ・ お薬手帳の活用も含む薬剤服用歴管理指導料の算定状況とその効果の把握 / 等

## 2. 調査対象

本調査では、「保険薬局調査」、「診療所調査」、「病院調査」、「患者調査」の4つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

### ①保険薬局調査

- ・ 1) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っている保険薬局の中から無作為抽出した 1,000 施設、2) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っていない保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局 1,000 施設、1) 2) 合わせて 2,000 施設を対象とする。

### ②診療所調査

- ・ 1) 地域包括診療料の届出施設（悉皆）、2) 地域包括診療加算の届出施設の中から無作為抽出した診療所、3) 小児かかりつけ診療料の届出施設の中から無作為抽出した診療所、1) ～3) 合わせて 1,000 施設。

### ③病院調査

- ・ 1) 地域包括診療料の届出施設（悉皆）、2) 1) を除く病院の中から無作為抽出した施設、1) 2) 合わせて1,000 施設。

### ④患者調査

- ・ 上記①の対象施設に調査期間中に来局した患者 2 名。
- ・ 患者の抽出方法は、1) かかりつけ薬剤師指導料に同意している患者がいる場合、優先的に 2 名、2) 1) の該当患者がいない場合、来局順に患者 2 名を調査対象とする。

## 3. 調査方法

- ・ 施設調査（上記①②③）は、自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・ 「①保険薬局調査」については「保険薬局票」を配布した。
- ・ 「②診療所調査」については「診療所票」を配布した。
- ・ 「③病院調査」については「病院票」を配布した。
- ・ 「④患者調査」については、保険薬局を通じて対象患者に「患者票」を配布した。
- ・ 患者調査の回収は、各患者から、事務局宛の返信用専用封筒にて直接回収した。
- ・ 調査実施時期は、平成 29 年 7 月 20 日～平成 29 年 9 月 15 日である。

## 4. 調査項目

調査項目は以下のとおりである。

区分	主な調査項目
(1)保険薬局調査	<p>○薬局の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 開設者、同一法人等による薬局店舗数、開設年、チェーン薬局、処方せんの応需状況、売上高に占める保険調剤売上の割合、調剤用医薬品の備蓄医薬品目数、後発医薬品調剤体制加算、後発医薬品調剤数量割合</li><li>・ 調剤基本料の種類、全処方せんの受付回数、主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合、特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無、同一グループにおける処方せんの受付回数の合計が 1 か月間に 4 万回を超えるグループに属する保険薬局かどうか、基準調剤加算の算定状況</li><li>・ 医薬品医療機器情報配信サービスへの登録の有無、患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無</li></ul> <p>○薬局の体制等について（平成 29 年 6 月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 管理薬剤師について勤続年数、このうち当該店舗での勤続年数、保険薬剤師としての薬局勤務総年数、当該店舗における 1 週間の平均勤務時間</li><li>・ 職員数と平均勤務時間</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該店舗に勤務する薬剤師数、このうち保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数、6月以上在籍している薬剤師数、週32時間以上勤務している薬剤師数、薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数、「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数、「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数</li> <li>・ 土日の開設状況、平日（月～金）の5日間における開局時間、6月の土曜日の総開局時間、6月の日曜日の総開局時間、6月の1か月の開局日数等</li> <li>・ 24時間対応が可能な体制の整備方法、24時間対応が可能な体制を整えていない理由</li> <li>・ 地域薬剤師会等による当番制の実施の有無</li> </ul> <p>○調剤状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成29年6月1か月間の薬剤服用歴管理指導料、重複投与・相互作用等防止管理料、外来服薬支援料、ブラウンバッグ運動の取組によるもの、服薬情報等提供料、患者の服薬期間中に新たに知り得た安全性情報や服薬状況の確認及び必要な指導を患者に提供した場合、在宅患者訪問薬剤管理指導料、居宅療養管理指導費（介護予防を含む）の算定回数等</li> <li>・ 重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少した、またはなかった最大の理由</li> <li>・ 平成28年7月1日～平成29年6月30日の1年間の在宅患者訪問薬剤管理指導料及び居宅療養管理指導費の算定回数</li> <li>・ 平成29年6月1か月間に行った疑義照会の件数</li> <li>・ 平成28年4月以降、患者が受診している保険医療機関に対して、患者の服薬状況等について書面等により情報提供を行い「服薬情報提供料」を算定した経験の有無、情報提供を行った内容等</li> <li>・ 重複投薬や残薬を確認・削減するための取組</li> </ul> <p>○かかりつけ薬剤師に関する取組状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料の届出の有無</li> <li>・ 処方せんの受付回数、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済みの患者数、新規にかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得した患者数</li> <li>・ 平成29年6月1か月間におけるかかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数と算定回数、年齢別患者数</li> <li>・ かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数</li> </ul>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしているにもかかわらず届出をしていない薬剤師の有無、届出をしていない薬剤師がいる場合の理由</li> <li>・ かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等</li> <li>・ かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない施設における理由、今後の届出意向等</li> </ul> <p>○「かかりつけ薬剤師」としての機能を強化する上での課題等</p>
(2)診療所調査	<p>○施設の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開設者、標榜診療科、(有床診療所の場合)許可病床数、全職員数</li> <li>・ 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無</li> <li>・ 日本医師会の認知症に係る研修を受講した医師の有無</li> <li>・ 慢性疾患に係る適切な研修を修了した医師の有無</li> <li>・ 在宅療養支援診療所の届出状況</li> <li>・ 各種施設基準の届出状況</li> <li>・ 時間外対応加算の種類</li> <li>・ 現在の夜間救急対応の可否</li> <li>・ 在宅医療の実施状況</li> <li>・ 診療報酬 1,000 点以上の手術の有無</li> </ul> <p>○医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 29 年 6 月 1 か月間における外来患者数のうち、初診患者数及び再診延べ患者数等</li> <li>・ 外来の院内・院外処方の割合</li> <li>・ いわゆる門前薬局の有無</li> <li>・ 地域における 24 時間対応の薬局の有無、また連携している 24 時間対応の薬局の有無</li> <li>・ 診療時間外の外来患者に対する処方についての対応</li> <li>・ 平成 29 年 6 月 1 か月間における、地域包括診療料、地域包括診療加算、認知症地域包括診療料、認知症地域包括診療加算、小児かかりつけ診療料、薬剤総合評価調整加算、薬剤総合評価調整管理料、連携管理加算、在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定患者数と算定回数</li> <li>・ 院外処方せんにおける残薬確認にチェックをした処方せんの発行の有無、その枚数、処方日数調整を行った処方せん枚数</li> <li>・ 院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行した経験の有無、発行枚数、分割指示を行った処方せんの有無、分割調剤を行ってよかったこと、問題の有無、問題発生の内容等</li> <li>・ 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響の有無</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤の適正使用を進めるにあたり、連携を図りたい薬剤師</li> <li>・ 平成 28 年 4 月診療報酬改定の影響・効果等の状況</li> </ul>
(3)病院調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関名、所在地、開設者、標榜診療科、許可病床数、全職員数</li> <li>・ 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無</li> <li>・ 日本医師会の認知症に係る研修を受講した医師の有無</li> <li>・ 慢性疾患に係る適切な研修を修了した医師の有無</li> <li>・ 承認等の状況</li> <li>・ 在宅療養支援病院の届出状況</li> <li>・ 地域包括診療料の施設基準の届出状況</li> <li>・ 救急医療体制</li> </ul> </li> <li>○医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 29 年 6 月 1 か月間における外来患者数のうち、初診患者数及び再診延べ患者数等</li> <li>・ 外来の院内・院外処方の割合</li> <li>・ いわゆる門前薬局の有無</li> <li>・ 地域における 24 時間対応の薬局の有無</li> <li>・ 連携している 24 時間対応の薬局の有無</li> <li>・ 診療時間外の外来患者に対する処方についての対応</li> <li>・ 平成 29 年 6 月 1 か月間における、地域包括診療料、認知症地域包括診療料、薬剤総合評価調整加算、薬剤総合評価調整管理料、連携管理加算、在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定患者数と算定回数</li> <li>・ 院外処方せんにおける残薬確認にチェックをした処方せんの発行の有無、その枚数、処方日数調整を行った処方せん枚数</li> <li>・ 院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行した経験の有無、発行枚数、分割指示を行った処方せんの有無、分割調剤を行ってよかったこと、問題の有無、問題発生の内容等</li> <li>・ 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響の有無</li> <li>・ 薬剤の適正使用を進めるにあたり、連携を図りたい薬剤師</li> <li>・ 平成 28 年 4 月診療報酬改定の影響・効果等の状況</li> </ul> </li> </ul>
(4)患者調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記入者の属性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記入者と患者との関係</li> </ul> </li> <li>○属性等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性別、年齢、居住地（都道府県）</li> <li>・ 加入している公的医療保険の種類、医療費の自己負担額の有無</li> </ul> </li> <li>○医療機関や保険薬局の利用状況等</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に受診している医療機関の数</li> <li>・ かかりつけ医の有無</li> <li>・ お薬手帳の有無、保有しているお薬手帳の数、医療機関または薬局におけるそれぞれのお薬手帳の活用状況</li> <li>・ 電子お薬手帳の利用意向等</li> <li>・ 定期的に処方してもらっている薬の有無とその種類</li> <li>・ 処方せんを持っていく薬局の決定方法</li> </ul> <p>○調査日に利用した薬局について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査日に利用した薬局の利用年数</li> <li>・ 平成29年4月以降に処方せんを持って行った薬局の有無とその数</li> <li>・ 薬局を選んだ理由（薬局のサービス、薬剤師、立地等）</li> <li>・ 1年くらいの中に、投与されている薬の重複や飲み合わせが悪いこと等が薬局でわかり、医師に薬の変更を願い出た経験の有無</li> <li>・ 残っている薬を薬局に持っていき相談した経験の有無、その時の薬剤師の対応と結果</li> </ul> <p>○かかりつけ薬剤師についての考え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ薬剤師の有無</li> <li>・ かかりつけ薬剤師がいることでよかったと思った経験等</li> <li>・ かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況</li> <li>・ かかりつけ薬剤師について重視していること</li> <li>・ かかりつけ薬剤師を持つことの意向</li> <li>・ かかりつけ薬剤師・薬局についての意見等</li> </ul>
--	---

## 5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

川上 純一	国立大学法人浜松医科大学 教授 医学部附属病院 薬剤部長
坂巻 弘之	東京理科大学経営学部 教授
○ 関 ふ佐子	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授
中井 眞由美	株式会社メディカルマネッジ・ケン 統括業務部長
羽鳥 裕	公益社団法人日本医師会 常任理事
松原 由美	早稲田大学人間科学学術院 准教授
森 昌平	公益社団法人日本薬剤師会 副会長

## Ⅱ. 調査の結果

### 1. 回収結果

保険薬局調査の有効回答数（施設数）は1,149件、有効回答率は57.4%であった。

診療所調査の有効回答数（施設数）は467件、有効回答率は46.7%で、病院調査の有効回答数（施設数）は449件、有効回答率は44.9%であった。

患者調査の有効回答数は1,424件であった。

図表 1 回収の状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
①保険薬局調査	2,000	1,149	57.4%
②診療所調査	1,000	467	46.7%
③病院調査	1,000	449	44.9%
④患者調査	—	1,424	—

## 2. 保険薬局調査の結果

### 【調査対象等】

調査対象：1) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っている保険薬局の中から無作為抽出した 1,000 施設、2) かかりつけ薬剤師指導料の届出を行っていない保険薬局の中から無作為抽出した保険薬局 1,000 施設、1) 2) 合わせて 2,000 施設

回答数：1,149 施設

回答者：開設者・管理者

### (1) 薬局の属性（平成 29 年 6 月末現在）

#### ① かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況

本調査では、調査対象に記載したとおり、全国の保険薬局のうち、かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料（以下、「かかりつけ薬剤師指導料等」とする）の届出施設の中から無作為に抽出した 1,000 施設、届出をしていない施設の中から無作為に抽出した 1,000 施設を対象施設とした。

本調査では、平成 29 年 6 月末時点のかかりつけ薬剤師指導料等の届出状況を尋ねているが、その結果は以下のとおりである。

本報告書では、平成 29 年 6 月末時点でかかりつけ薬剤師指導料等の届出をしている施設を「届出施設」（650 施設、56.6%）、届出をしていない施設を「未届出施設」（499 施設、43.4%）として分析を行った。

図表 2 本調査の回答薬局数と構成割合（かかりつけ薬剤師指導料等の届出状況別）

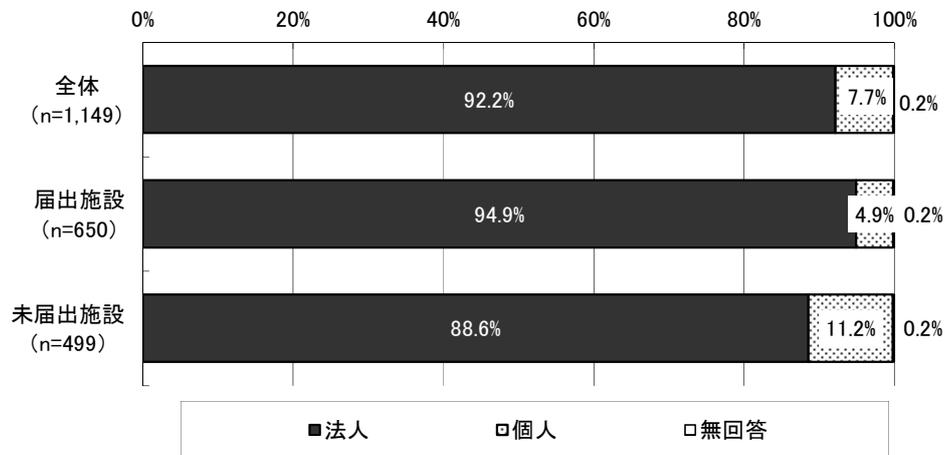
	施設数(件)	構成割合(%)
届出施設	650	56.6
未届出施設	499	43.4
全体	1,149	100.0

(参考)届出施設におけるかかりつけ薬剤師指導料等の算定状況(平成 29 年 6 月 1 か月間)

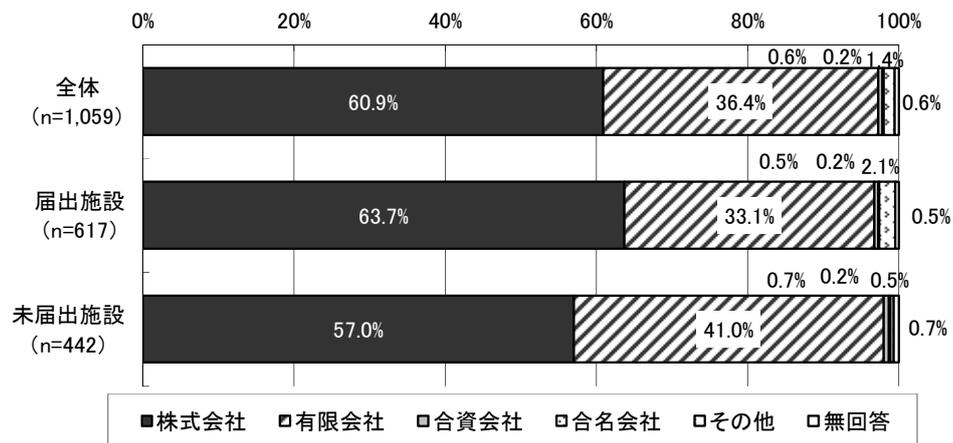
	施設数(件)	構成割合(%)
算定回数が 1 回以上の施設	473	72.8
算定回数が 0 回の施設	162	24.9
算定回数が無回答の施設	15	2.3
全体	650	100.0

②組織形態

図表 3 組織形態



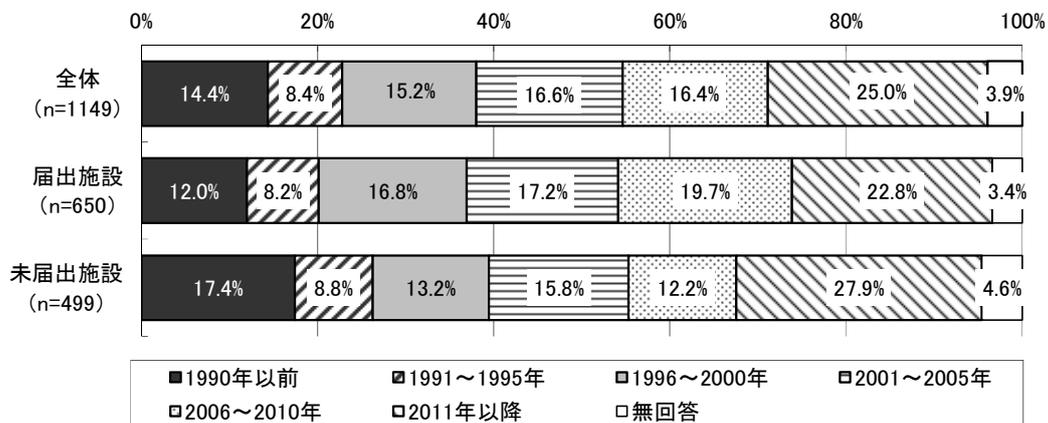
図表 4 法人立薬局の内訳（「法人」と回答した薬局）



(注)「その他」の内容として、「一般社団法人」が挙げられた。

③開設年

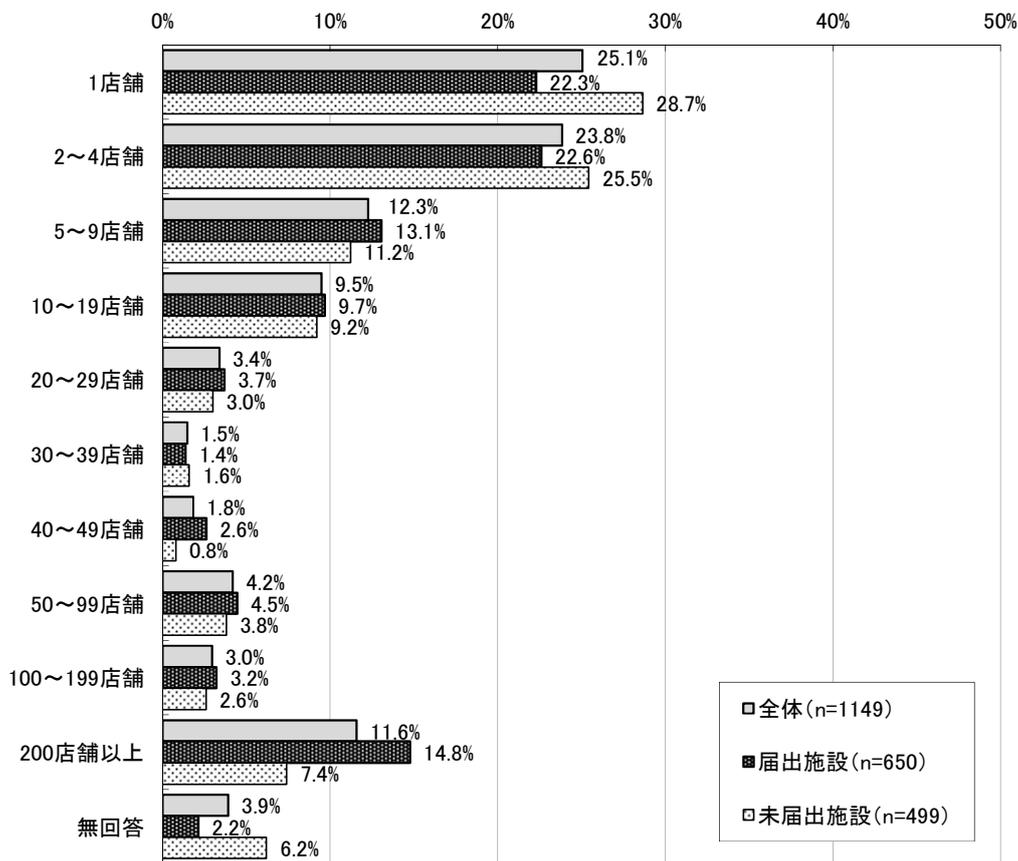
図表 5 開設年



#### ④同一法人等による薬局店舗数

同一法人等による薬局店舗数をみると、届出施設では平均 98.3 店舗（中央値 6.0）、未届出施設では平均 64.7 店舗（中央値 3.0）であった。

図表 6 同一法人等による店舗数別の薬局分布（単数回答）



図表 7 同一法人等による店舗数

(単位：店舗)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,104	84.0	208.1	4.0
届出施設	636	98.3	212.1	6.0
未届出施設	468	64.7	201.1	3.0

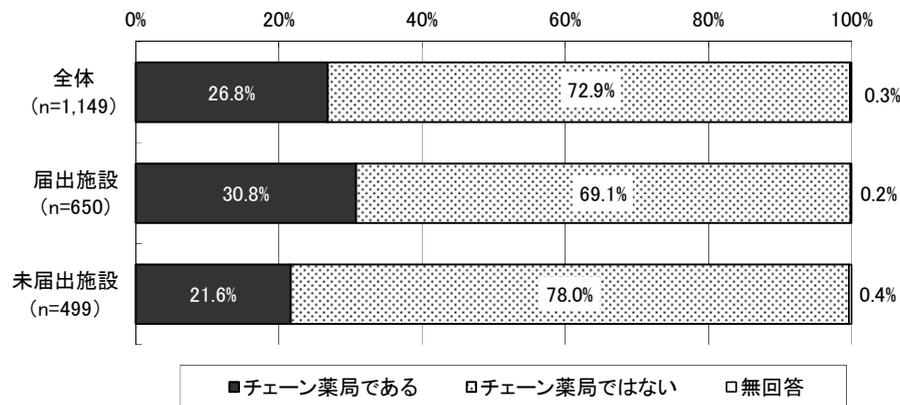
(注)・自店舗を含む薬局の店舗数。

・同一法人等による薬局店舗数について回答のあった 1,104 施設を集計対象とした。

### ⑤チェーン薬局の状況

チェーン薬局の状況を見ると、「チェーン薬局である」の割合は、届出施設が30.8%、未届出施設が21.6%であった。

図表 8 チェーン薬局の状況

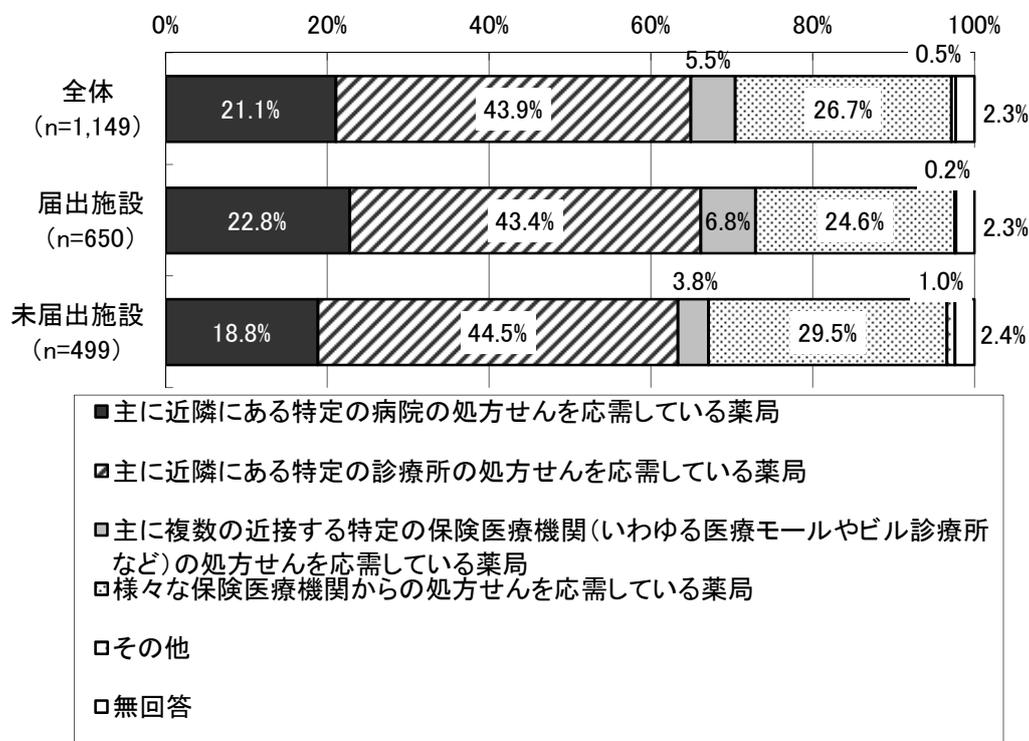


(注) 本調査では20店舗以上を所有する薬局を「チェーン薬局」と定義している。

### ⑥処方せんの応需状況

処方せんの応需状況は次のとおりである。

図表 9 処方せんの応需状況

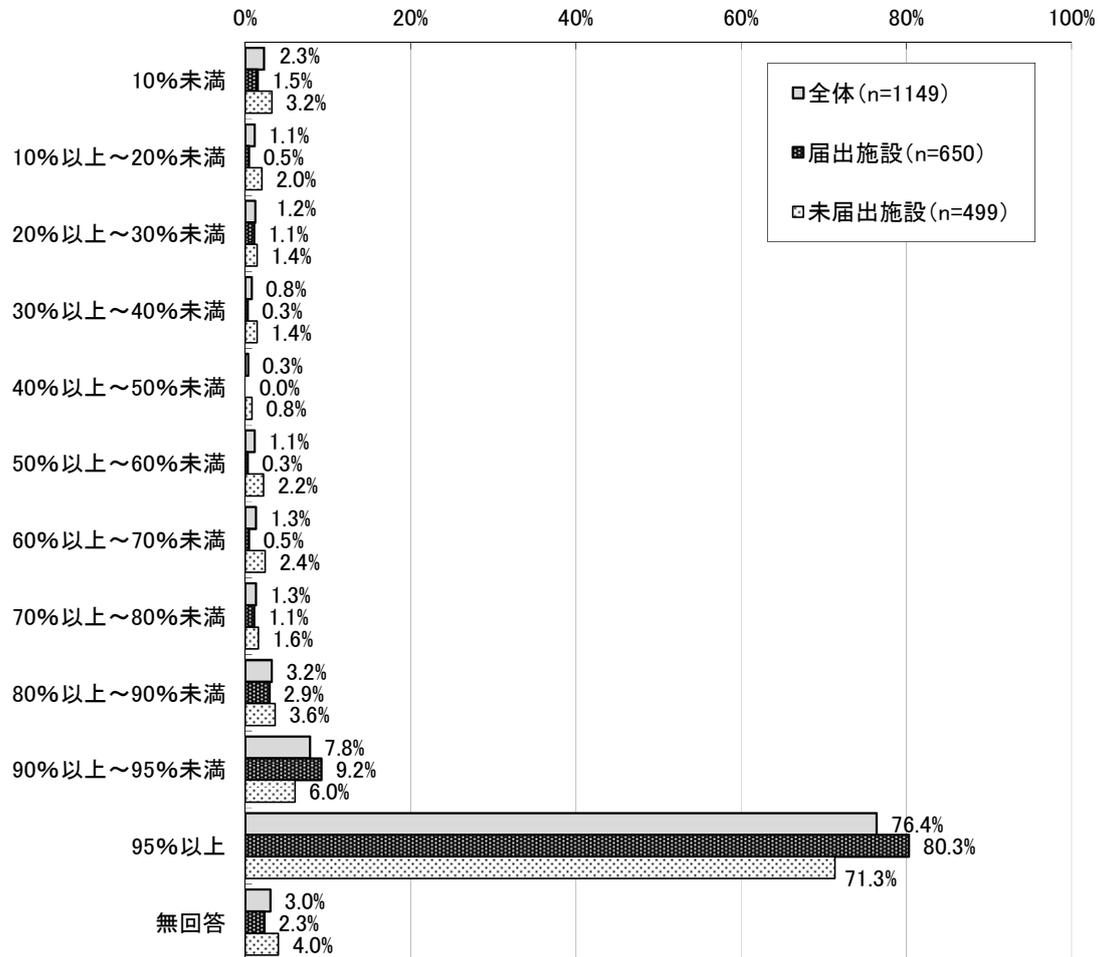


(注) 「その他」の内容として、「主に近隣にある2つ診療所の処方せんに応需」、「特定の病院(透析)2施設と近所の歯科診療所の処方せんに応需」、「処方せんの受付は月10枚程度と少ない」等が挙げられた。

⑦売上高に占める保険調剤売上の割合

売上高に占める保険調剤売上の割合は次のとおりである。

図表 10 売上高に占める保険調剤売上の割合の薬局分布（単数回答）



図表 11 売上高に占める保険調剤売上の割合

(単位：%)

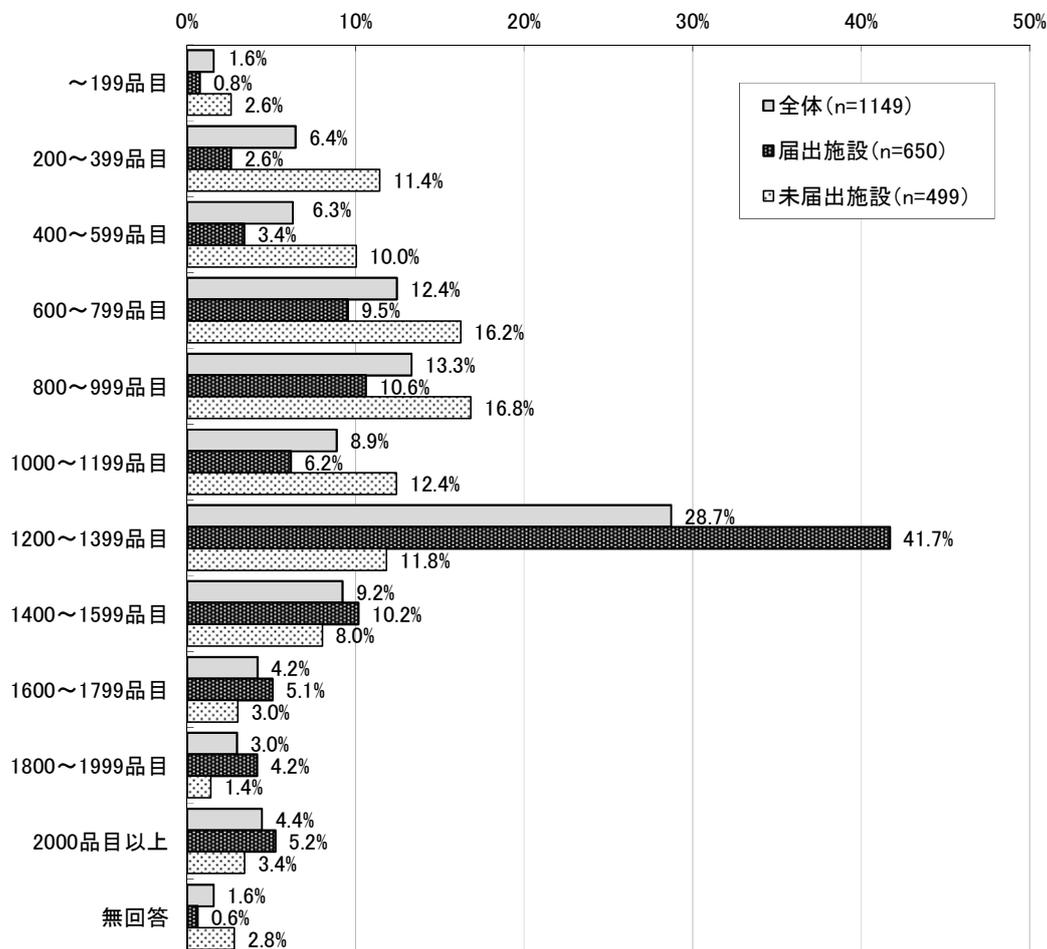
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,114	91.1	20.7	99.0
届出施設	635	93.6	16.4	99.0
未届出施設	479	87.7	24.9	99.0

(注) 売上高に占める保険調剤売上の割合について回答のあった 1,114 施設を集計対象とした。

⑧調剤用医薬品の備蓄医薬品目数

調剤用医薬品の備蓄医薬品目数は次のとおりである。

図表 12 調剤用医薬品の備蓄医薬品目数別の薬局分布



図表 13 調剤用医薬品の備蓄医薬品目数

(単位：品目)

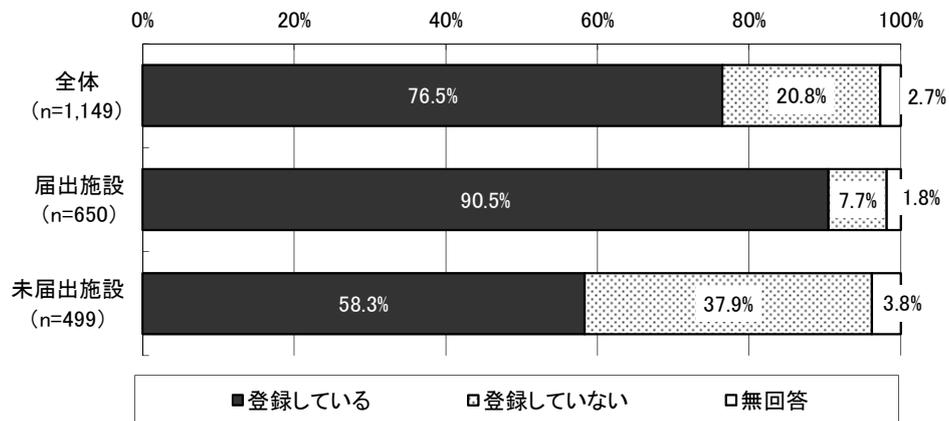
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,131	1,096.1	487.6	1,200.0
届出施設	646	1,224.5	453.2	1,238.5
未届出施設	485	925.0	479.6	880.0

(注) 調剤用医薬品の備蓄医薬品目数について回答のあった1,131施設を集計対象とした。

⑨医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況

医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況を見ると、「登録している」の割合は届出施設が 90.5%、未届出施設が 58.3%であった。

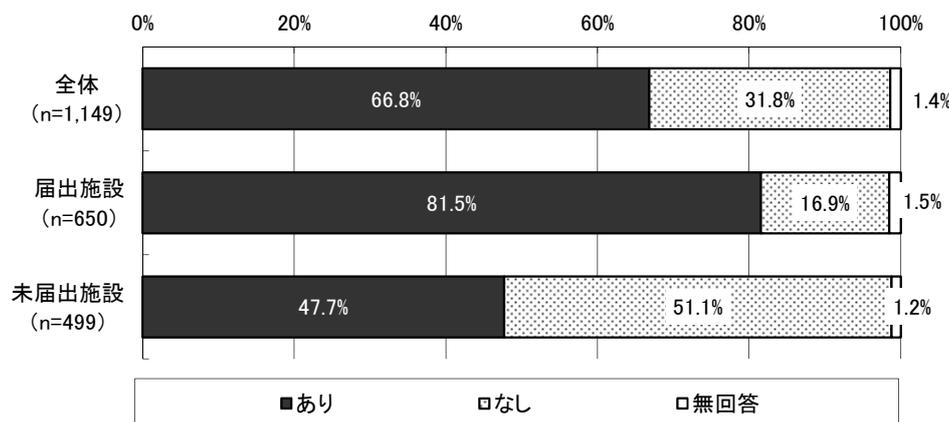
図表 14 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）への登録状況



⑩患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無

患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無を見ると、「あり」の割合は届出施設が 81.5%、未届出施設が 47.7%であった。

図表 15 患者の相談等についてプライバシーに配慮した構造の有無

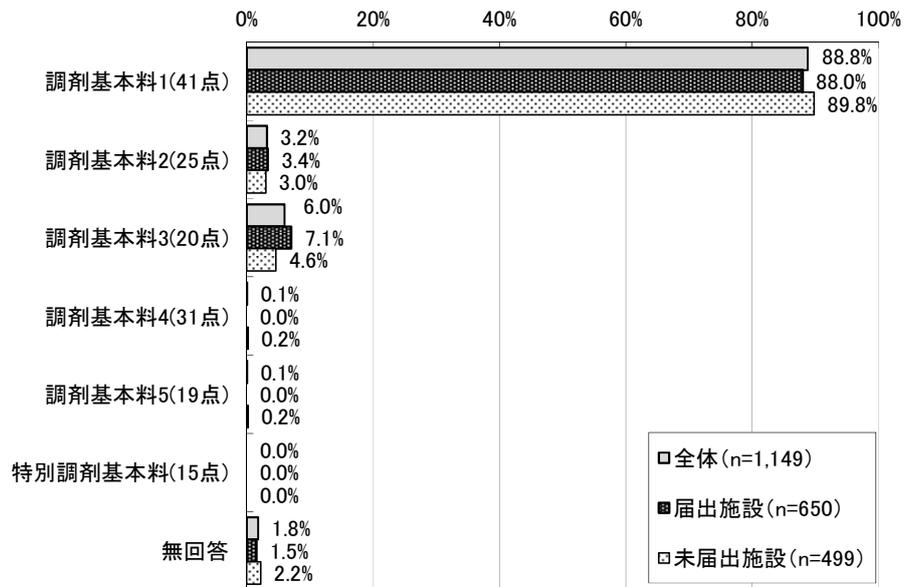


(2) 調剤の状況等 (平成 29 年 6 月末現在)

① 調剤基本料

調剤基本料は次のとおりである。

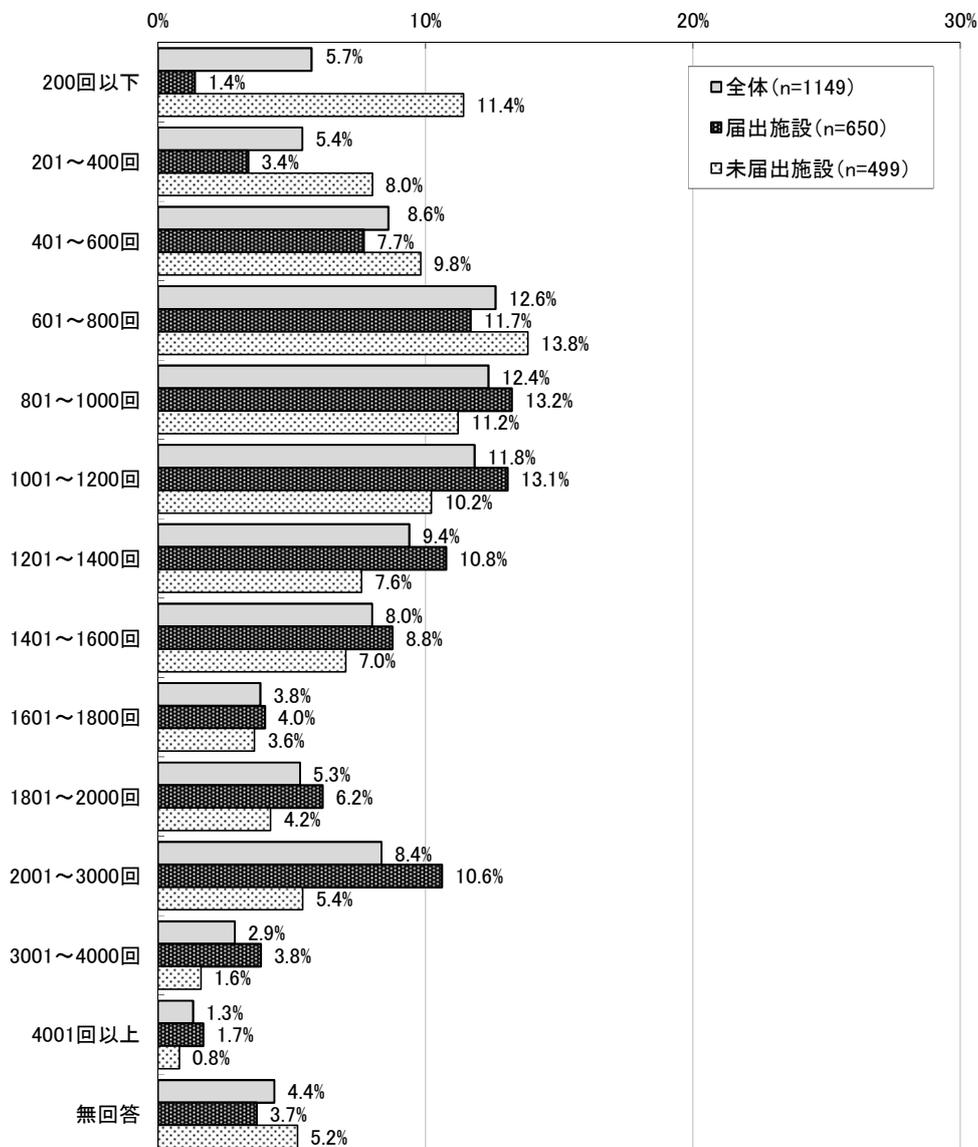
図表 16 調剤基本料 (単数回答)



## ②処方せんの受付回数

調剤基本料の根拠となる、1か月あたりの処方せんの受付回数は次のとおりである。

図表 17 処方せんの受付回数（1か月あたり）



(注) 調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数（回／月）」

図表 18 処方せんの受付回数（1か月あたり）

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,099	1,214.0	850.8	1,044.0
届出施設	626	1,368.6	873.7	1,176.0
未届出施設	473	1,009.4	774.4	864.0

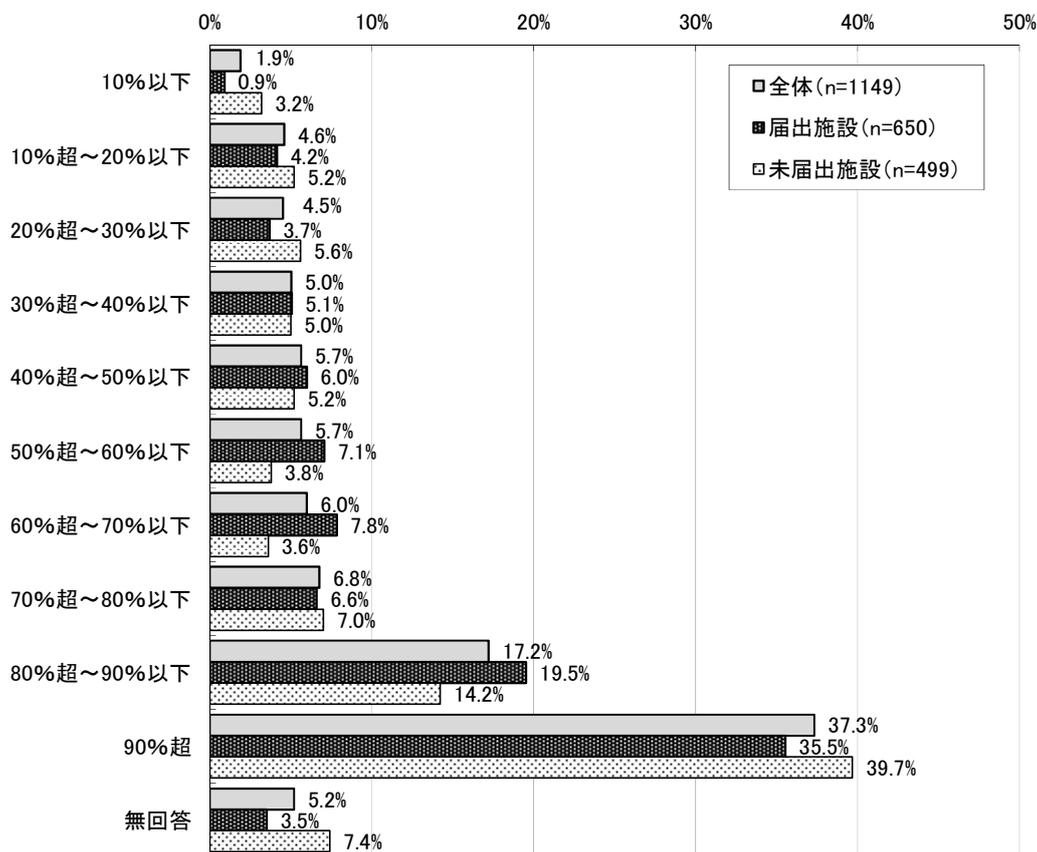
(注) ・調剤基本料の根拠となる「全処方せんの受付回数（回／月）」

・処方せんの受付回数について回答のあった1,099施設を集計対象とした。

### ③主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合

調剤基本料の根拠となる、主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数は次のとおりである。

図表 19 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数割合別の薬局分布（単数回答）



(注) 調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合 (%)」

図表 20 主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合

(単位：%)

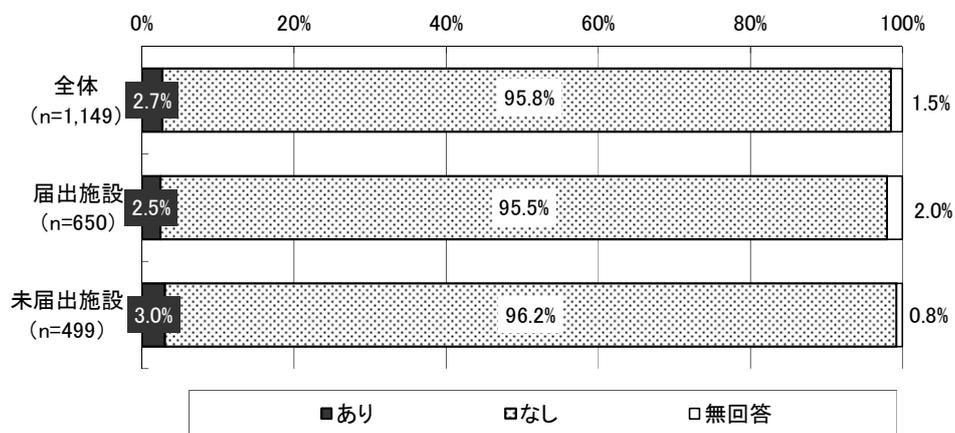
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,089	72.8	27.2	85.0
届出施設	627	73.4	25.3	84.5
未届出施設	462	72.0	29.5	86.5

(注) ・調剤基本料の根拠となる「主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合 (%)」  
 ・主たる保険医療機関に係る処方せんの受付回数の割合について回答のあった 1,089 施設を集計対象とした。

#### ④特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無

特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無は次のとおりである。

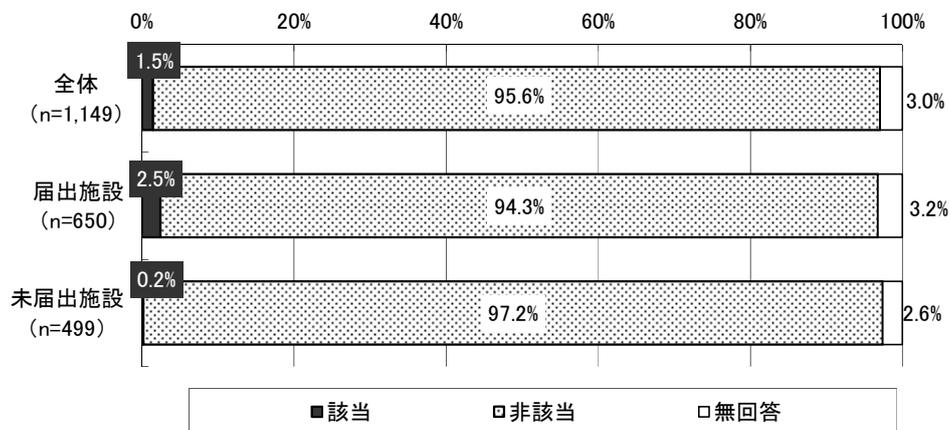
図表 21 特定の保険医療機関との不動産の賃貸借関係の有無



#### ⑤調剤基本料の注1ただし書きの該当状況

調剤基本料の注1ただし書きの該当状況は次のとおりである。

図表 22 調剤基本料の注1ただし書きの該当状況

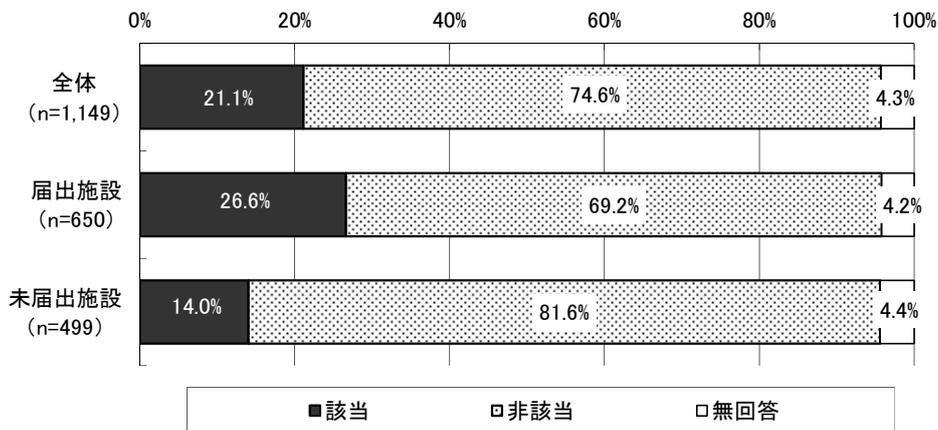


(注)「調剤基本料の注1ただし書き」とは、当該保険薬局に勤務している薬剤師の5割以上がかかりつけ薬剤師指導料等の施設基準に適合し、かつ、かかりつけ薬剤師指導料等にかかる業務について薬剤師1人あたり月100件以上算定していること。

⑥1 か月間に4万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況

1 か月間に4万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況は次のとおりである。

図表 23 1 か月間に4万回を超えるグループに属する保険薬局の該当状況

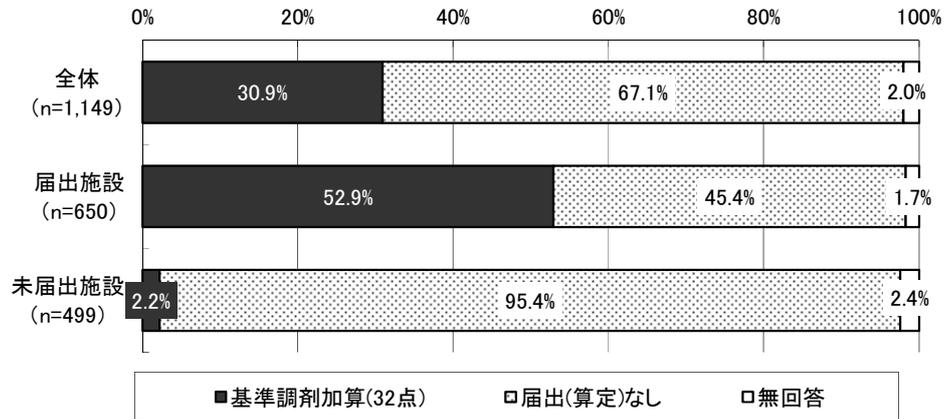


(注) 調剤基本料における、同一グループの保険薬局における処方せんの受付回数の合計が1 か月間に4万回を超えるグループに属する保険薬局に該当するか否かを尋ねたもの。

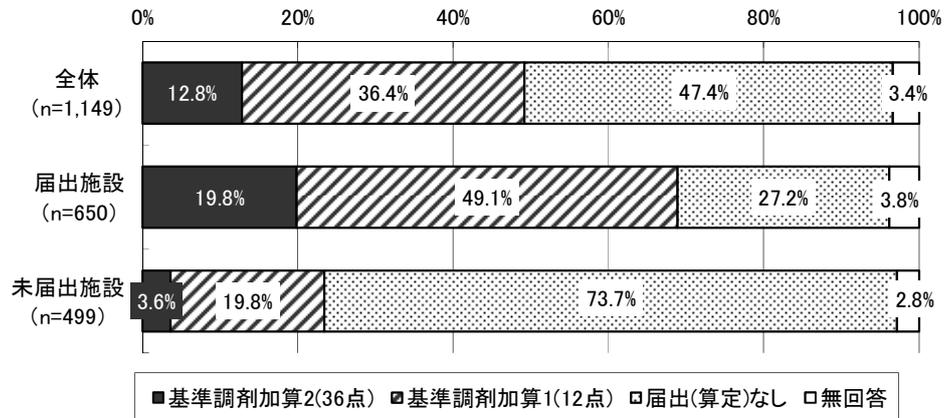
⑦基準調剤加算

平成29年6月末時点の基準調剤加算の算定状況をみると、「基準調剤加算（32点）」を算定している薬局の割合は、届出施設が52.9%、未届出施設が2.2%であった。

図表 24 基準調剤加算の算定状況（平成29年6月末時点）



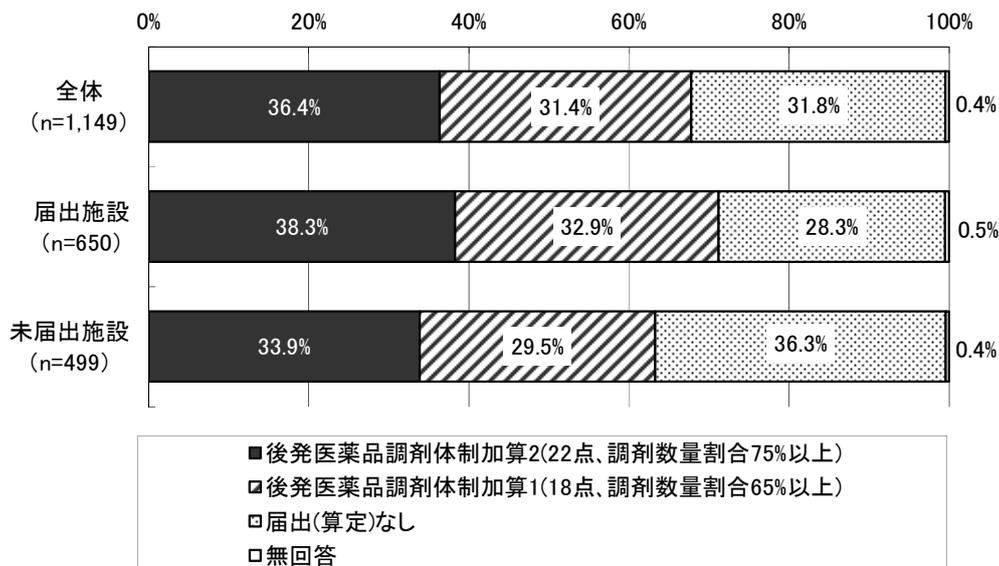
図表 25 基準調剤加算の算定状況（平成28年3月末時点）【改定前】



⑧後発医薬品調剤体制加算の算定状況

平成 29 年 6 月末時点の後発医薬品調剤体制加算の算定状況をみると、「後発医薬品調剤体制加算 2」は届出施設が 38.3%、未届出施設が 33.9%であり、「後発医薬品調剤体制加算 1」は届出施設が 32.9%、未届出施設が 29.5%であった。

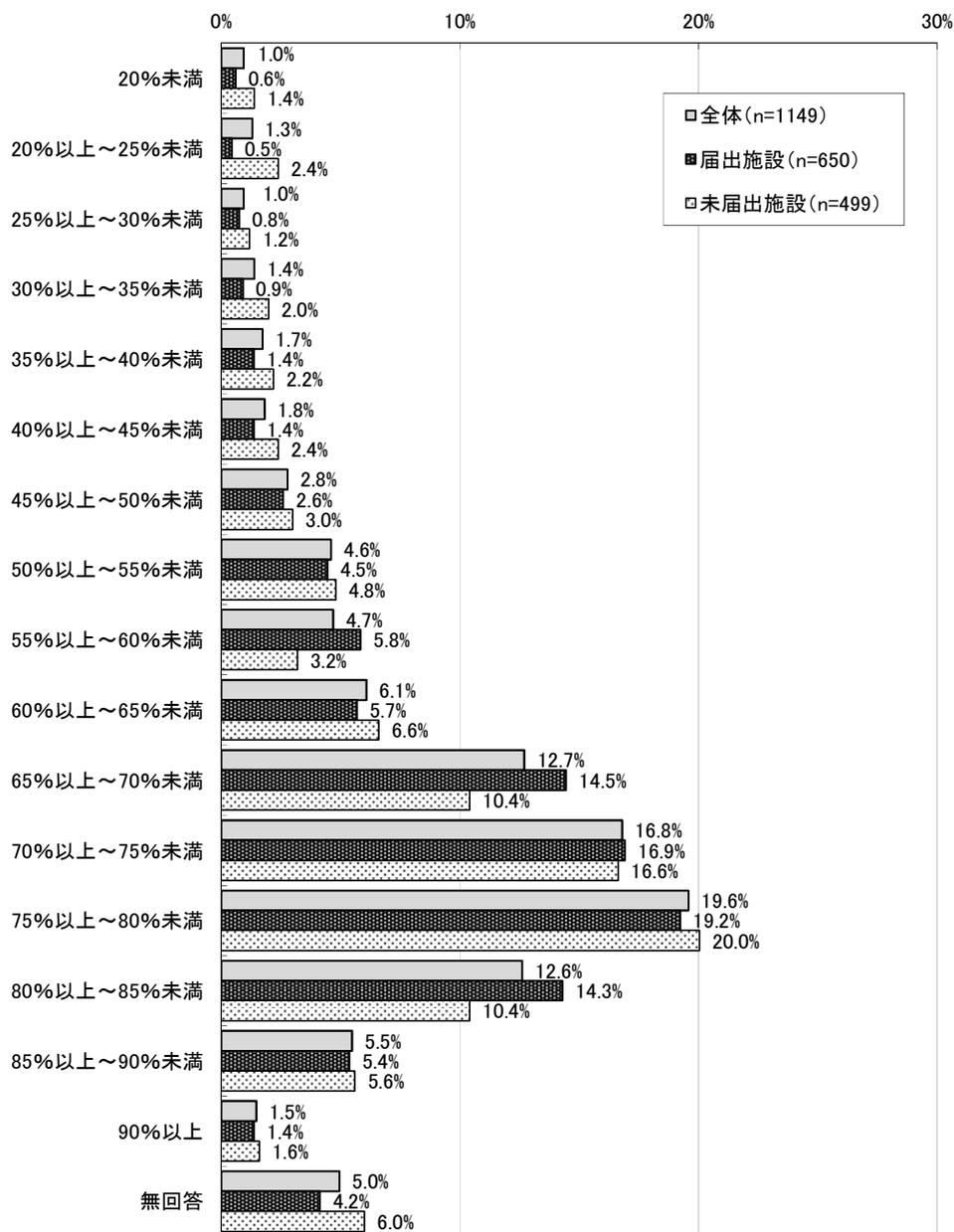
図表 26 後発医薬品調剤体制加算の算定状況（平成 29 年 6 月末時点）



⑨後発医薬品調剤数量割合

平成29年6月末時点の後発医薬品調剤数量割合は、届出施設が平均69.8%（中央値72.3）、未届出施設が平均66.9%（中央値71.8）であった。

図表 27 後発医薬品調剤数量割合別薬局の分布（単数回答）



図表 28 後発医薬品調剤数量割合

(単位：%)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,092	68.6	15.5	72.2
届出施設	623	69.8	13.7	72.3
未届出施設	469	66.9	17.4	71.8

(注) 後発医薬品調剤数量割合について回答のあった1,092施設を集計対象とした。

### (3) 薬局の体制等（平成 29 年 6 月末現在）

#### ①管理薬剤師の状況

##### 1) 当該店舗における勤務年数

管理薬剤師の、当該店舗における勤務年数をみると、全体では平均 10.2 年（中央値 6.8）、届出施設では平均 9.9 年（中央値 7.0）、未届出施設では平均 10.6 年（中央値 6.3）であった。

図表 29 当該店舗における勤務年数

（単位：年）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,139	10.2	10.3	6.8
届出施設	643	9.9	9.2	7.0
未届出施設	496	10.6	11.5	6.3

（注）当該店舗における勤務年数について回答のあった 1,139 施設を集計対象とした。

##### 2) 当該店舗における管理薬剤師としての在籍年数

管理薬剤師の、当該店舗における管理薬剤師としての在籍年数をみると、全体では平均 8.4 年（中央値 4.7）、届出施設では平均 8.2 年（中央値 5.0）、未届出施設では平均 8.7 年（中央値 4.2）であった。

図表 30 当該店舗での管理薬剤師としての在籍年数

（単位：年）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,135	8.4	9.7	4.7
届出施設	641	8.2	9.0	5.0
未届出施設	494	8.7	10.5	4.2

（注）当該店舗での管理薬剤師としての在籍年数について回答のあった 1,135 施設を集計対象とした。

##### 3) 保険薬剤師としての薬局勤務総年数

管理薬剤師の、保険薬剤師としての薬局勤務総年数をみると、全体では平均 18.0 年（中央値 17.0）、届出施設では平均 17.7 年（中央値 16.5）、未届出施設では平均 18.4 年（中央値 17.5）であった。

図表 31 保険薬剤師としての薬局勤務総年数

（単位：年）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,127	18.0	10.4	17.0
届出施設	640	17.7	9.6	16.5
未届出施設	487	18.4	11.4	17.5

（注）保険薬剤師としての薬局勤務総年数について回答のあった 1,127 施設を集計対象とした。

#### 4) 当該店舗における 1 週間の平均勤務時間

管理薬剤師の、当該店舗における 1 週間の平均勤務時間をみると、全体では平均 43.1 時間（中央値 40.0）、届出施設では平均 43.2 時間（中央値 40.0）、未届出施設では平均 42.8 時間（中央値 40.0）であった。

図表 32 当該店舗における 1 週間の平均勤務時間

（単位：時間）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,071	43.1	7.5	40.0
届出施設	614	43.2	7.4	40.0
未届出施設	457	42.8	7.6	40.0

（注）当該店舗における 1 週間の平均勤務時間について回答のあった 1,071 施設を集計対象とした。

## ②職員数

### 1) 薬剤師の人数

1 施設あたりの薬剤師数（実人数）は次のとおりである。

図表 33 1 施設あたりの薬剤師数（実人数）

（単位：人）

		全体 (n=1,143)	届出施設 (n=647)	未届出施設 (n=496)
常 勤	平均値	2.2	2.4	1.9
	標準偏差	1.6	1.7	1.6
	中央値	2.0	2.0	1.0
非常勤	平均値	1.7	1.9	1.4
	標準偏差	2.3	2.5	1.8
	中央値	1.0	1.0	1.0

（注）薬剤師、その他の職員についてすべて回答のあった 1,143 施設を集計対象とした。

## 2) 薬剤師以外の職員の人数

1 施設あたりの薬剤師以外の職員（事務職員等）の人数（実人数）は次のとおりである。

図表 34 1 施設あたりの薬剤師以外の職員（事務職員等）の人数（実人数）

（単位：人）

		全体 (n=1,143)	届出施設 (n=647)	未届出施設 (n=496)
常 勤	平均値	1.7	1.8	1.4
	標準偏差	1.3	1.3	1.3
	中央値	1.0	2.0	1.0
非常勤	平均値	0.9	1.0	0.9
	標準偏差	1.4	1.6	1.2
	中央値	0.0	0.0	0.0

（注）薬剤師、その他の職員についてすべて回答のあった 1,143 施設を集計対象とした。

## 3) 1 施設あたりの職員数

図表 35 1 施設あたりの職員数（全体、n=1, 143）

（単位：人）

	常 勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.2	1.6	2.0	1.7	2.3	1.0
その他の職員(事務職員等)	1.7	1.3	1.0	0.9	1.4	0.0

（注）薬剤師、その他の職員についてすべて回答のあった 1,143 施設を集計対象とした。

図表 36 1 施設あたりの職員数（届出施設、n=647）

（単位：人）

	常 勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.4	1.7	2.0	1.9	2.5	1.0
その他の職員(事務職員等)	1.8	1.3	2.0	1.0	1.6	0.0

（注）薬剤師、その他の職員についてすべて回答のあった 647 施設を集計対象とした。

図表 37 1 施設あたりの職員数（未届出施設、n=496）

（単位：人）

	常 勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	1.9	1.6	1.0	1.4	1.8	1.0
その他の職員(事務職員等)	1.4	1.3	1.0	0.9	1.2	0.0

（注）薬剤師、その他の職員についてすべて回答のあった 496 施設を集計対象とした。

#### 4) 非常勤職員 1 人あたりの週平均勤務時間

図表 38 非常勤職員における 1 人あたりの週平均勤務時間【薬剤師】

(単位：時間)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	672	14.5	10.5	12.0
届出施設	408	15.0	10.8	12.0
未届出施設	264	13.7	10.0	10.2

- (注)・非常勤の薬剤師のいる施設で、週平均勤務時間について回答のあった 672 施設を集計対象とした。  
 ・非常勤職員の 1 週間の合計勤務時間÷非常勤職員数により算出。

図表 39 非常勤職員における 1 人あたりの週平均勤務時間【その他の職員（事務職員等）】

(単位：時間)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	471	18.2	10.9	19.0
届出施設	277	18.8	11.0	18.0
未届出施設	194	17.4	10.7	19.0

- (注)・非常勤の薬剤師以外の職員（事務職員等）のいる施設で、週平均勤務時間について回答のあった 471 施設を集計対象とした。  
 ・非常勤職員の 1 週間の合計勤務時間÷非常勤職員数により算出。

### ③かかりつけ薬剤師の人数等

1 施設あたりの薬剤師数の内訳は次のとおりである。

図表 40 1 施設あたりの薬剤師数の内訳（実人数）（全体、n=1,118）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 当該店舗に勤務する薬剤師数(休職中の者も含む)	2.2	1.7	2.0	1.7	2.3	1.0
2) 保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数	1.9	1.3	2.0	1.5	2.0	1.0
3) 当該店舗に6月以上在籍している薬剤師数	1.9	1.4	2.0	1.4	2.0	1.0
4) 当該店舗に週 32 時間以上勤務している薬剤師数	2.0	1.5	2.0	0.2	0.6	0.0
5) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	1.2	1.1	1.0	0.4	1.2	0.0
6) 「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数	1.0	1.0	1.0	0.1	0.7	0.0
7) 上記6)のうち「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数	0.8	1.0	1.0	0.1	0.7	0.0

(注)・すべての該当者数について回答のあった 1,118 施設を集計対象とした。

・「かかりつけ薬剤師」とは、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準に該当する「かかりつけ薬剤師」を指す。

図表 41 1 施設あたりの薬剤師数の内訳（実人数）（届出施設、n=638）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 当該店舗に勤務する薬剤師数(休職中の者も含む)	2.4	1.7	2.0	1.9	2.6	1.0
2) 保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数	2.1	1.3	2.0	1.7	2.2	1.0
3) 当該店舗に6月以上在籍している薬剤師数	2.1	1.4	2.0	1.6	2.3	1.0
4) 当該店舗に週 32 時間以上勤務している薬剤師数	2.2	1.6	2.0	0.3	0.7	0.0
5) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	1.7	1.0	1.0	0.6	1.4	0.0
6) 「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数	1.5	0.9	1.0	0.2	0.9	0.0
7) 上記6)のうち「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数	1.4	0.9	1.0	0.1	0.9	0.0

(注)・すべての該当者数について回答のあった 638 施設を集計対象とした。

・「かかりつけ薬剤師」とは、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準に該当する「かかりつけ薬剤師」を指す。

図表 42 1 施設あたりの薬剤師数の内訳（実人数）（未届出施設、n=480）

（単位：人）

	常勤			非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 当該店舗に勤務する薬剤師数（休職中の者も含む）	1.9	1.6	1.0	1.4	1.8	1.0
2) 保険薬剤師として3年以上の薬局勤務経験がある薬剤師数	1.7	1.2	1.0	1.3	1.6	1.0
3) 当該店舗に6月以上在籍している薬剤師数	1.6	1.4	1.0	1.2	1.6	1.0
4) 当該店舗に週 32 時間以上勤務している薬剤師数	1.7	1.3	1.0	0.2	0.6	0.0
5) 薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	0.6	0.8	0.0	0.3	0.7	0.0
6) 「かかりつけ薬剤師」の要件を満たしている薬剤師数	0.3	0.6	0.0	0.0	0.3	0.0
7) 上記 6) のうち「かかりつけ薬剤師」として届出している薬剤師数	0.0	-	0.0	0.0	-	0.0

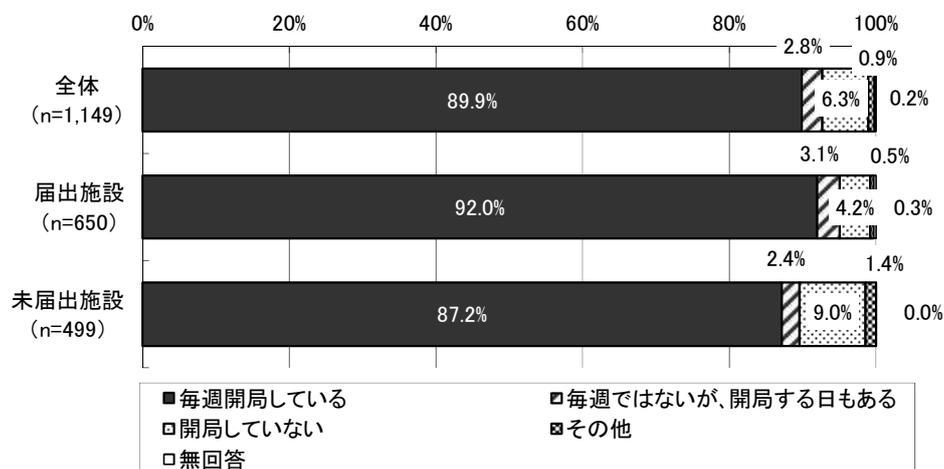
（注）・すべての該当者数について回答のあった 480 施設を集計対象とした。

・「かかりつけ薬剤師」とは、かかりつけ薬剤師指導料、かかりつけ薬剤師包括管理料の施設基準に該当する「かかりつけ薬剤師」を指す。

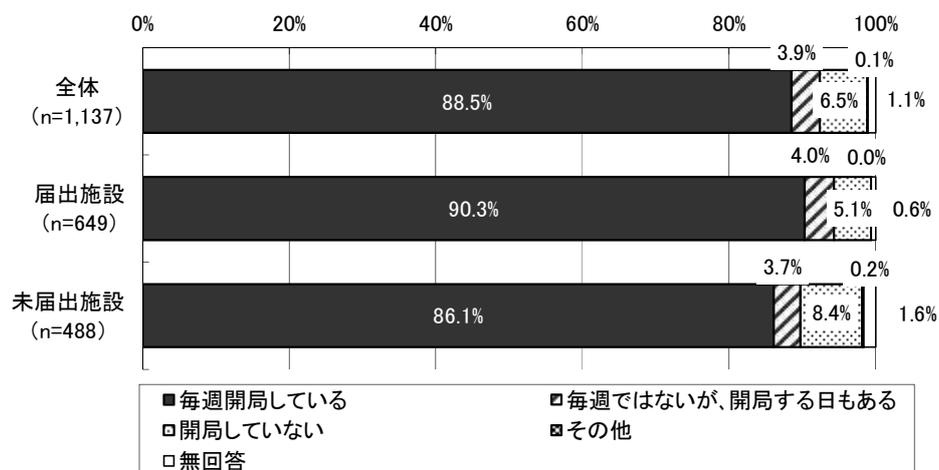
④土日の開局状況

1) 土曜日の開局状況

図表 43 土曜日の開局状況（平成 29 年 6 月）【今年度】



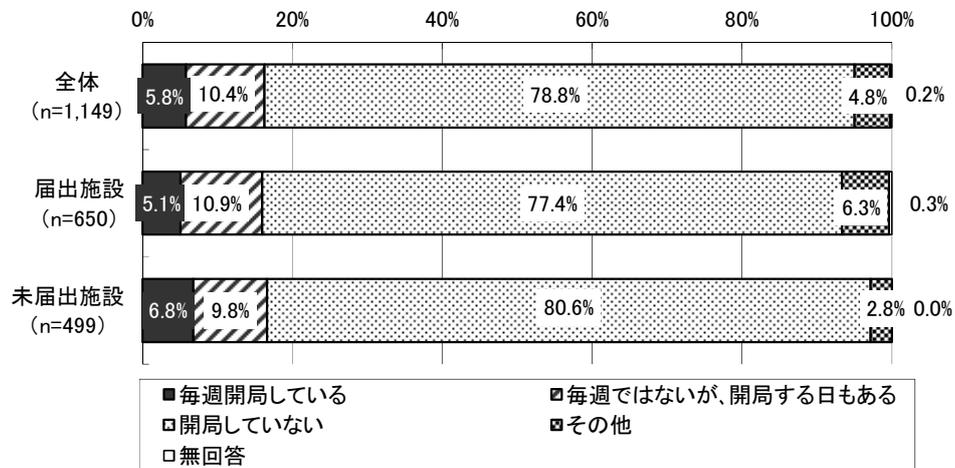
図表 44 土曜日の開局状況（平成 28 年 6 月）【昨年度】



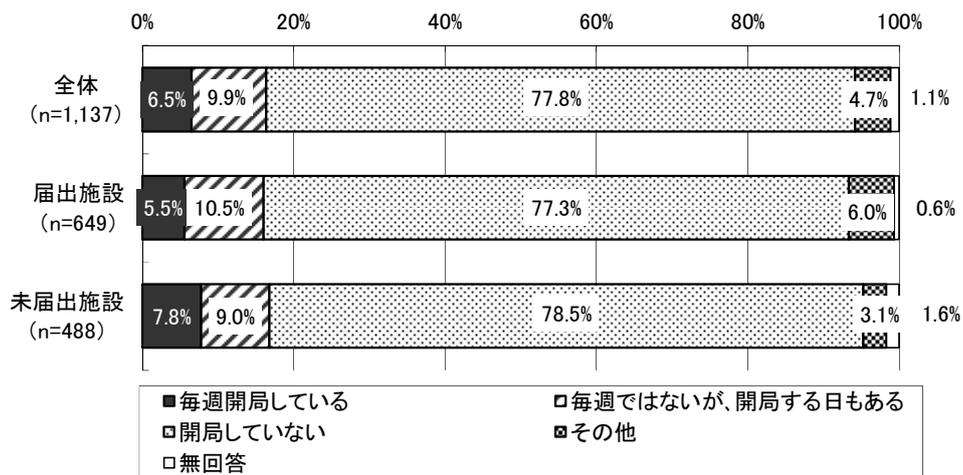
(注) 平成 28 年 6 月時点では開局前であった 12 施設を除外して集計対象とした。

2) 日曜日の開局状況

図表 45 日曜日の開局状況（平成 29 年 6 月）【今年度】



図表 46 日曜日の開局状況（平成 28 年 6 月）【昨年度】



(注) 平成 28 年 6 月時点では開局前であった 12 施設を除外して集計対象とした。

⑤開局時間

1) 平日 5 日間の開局時間

図表 47 平日 5 日間の開局時間

(単位：時間)

	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	45.7	8.0	45.0	45.8	7.9	45.0
届出施設	492	46.5	6.9	45.0	46.8	6.7	46.8
未届出施設	359	44.6	9.2	45.0	44.5	9.1	45.0

(注)・平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数のすべてについて回答のあった施設を集計対象とした。  
・平日 5 日間とは、月曜日～金曜日を指す。

2) 1 か月間の土曜日の総開局時間

図表 48 1 か月間の土曜日の総開局時間

(単位：時間)

	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	22.3	11.8	18.5	22.2	11.4	18.0
届出施設	492	22.1	11.1	18.0	22.2	10.7	18.0
未届出施設	359	22.5	12.6	20.0	22.3	12.3	20.0

(注)平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数のすべてについて回答のあった施設を集計対象とした。

図表 49 1 か月間の土曜日の総開局時間（「0」除く）

(単位：時間)

	平成 28 年 6 月				平成 29 年 6 月			
	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	796	23.8	10.5	20.0	802	23.6	10.3	20.0
届出施設	467	23.3	10.2	20.0	473	23.1	9.9	18.0
未届出施設	329	24.6	11.0	20.0	329	24.4	10.8	20.0

(注)平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数のすべてについて回答のあった施設のうち、土曜日の総開局時間が「0」であった施設を除外して集計対象とした。

### 3) 1 か月間の日曜日の総開局時間

図表 50 1 か月間の日曜日の総開局時間

(単位：時間)

	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	2.9	9.3	0.0	2.9	9.3	0.0
届出施設	492	2.4	8.0	0.0	2.4	8.0	0.0
未届出施設	359	3.8	10.9	0.0	3.8	10.9	0.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数のすべてについて回答のあった施設を集計対象とした。

図表 51 1 か月間の日曜日の総開局時間（「0」除く）

(単位：時間)

	平成 28 年 6 月				平成 29 年 6 月			
	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値	施設数 (件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	123	22.4	16.4	16.0	118	21.3	15.5	15.0
届出施設	62	20.2	15.7	14.0	62	18.7	14.3	11.5
未届出施設	61	24.6	17.0	20.0	56	24.1	16.4	16.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数のすべてについて回答のあった施設のうち、日曜日の総開局時間が「0」であった施設を除外して集計対象とした。

### 4) 1 か月間の開局日数

図表 52 1 か月間の開局日数

(単位：日)

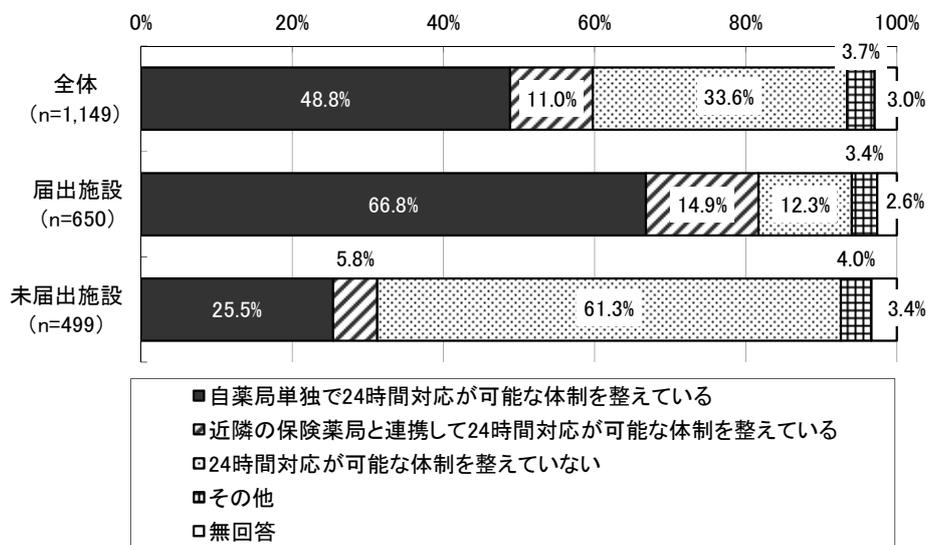
	施設数 (件)	平成 28 年 6 月			平成 29 年 6 月		
		平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体	851	23.8	2.6	24.0	23.9	2.5	24.0
届出施設	492	24.0	2.4	24.0	24.2	2.2	24.0
未届出施設	359	23.6	2.9	24.0	23.5	2.8	24.0

(注) 平成 28 年 6 月、平成 29 年 6 月の平日 5 日間の開局時間、土曜日の総開局時間、日曜日の総開局時間、開局日数のすべてについて回答のあった施設を集計対象とした。

### ⑥24 時間対応が可能な体制の整備方法

24 時間対応が可能な体制の整備方法をみると、届出施設では「自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている」が 66.8%で最も多く、「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」(14.9%)と合わせると、およそ 8 割の薬局が 24 時間対応が可能な体制を整えている。一方、未届出施設では「24 時間対応が可能な体制を整えていない」が 61.3%で最も多く、「自薬局単独で 24 時間対応が可能な体制を整えている」(25.5%)、「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」(5.8%)を合わせた割合はおよそ 3 割であった。

図表 53 24 時間対応が可能な体制の整備方法



(注)「その他」の内容として、「グループ内の近隣薬局で連携」、「時間外でも連絡のとれる連絡先を患者に伝えている」、「他店での電話対応のみ」、「地域薬剤師会の協力に参加」等が挙げられた。

図表 54 24 時間対応のために連携している薬局数

(「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」と回答した薬局)

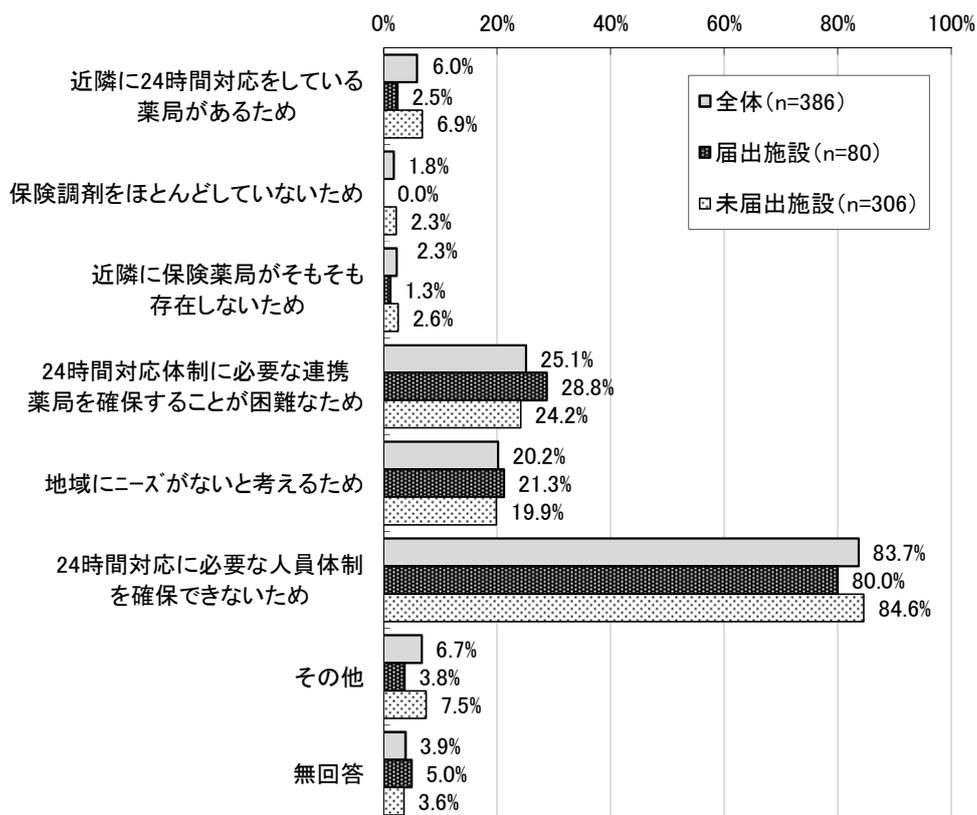
(単位：薬局)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	103	2.5	2.7	2.0
届出施設	82	2.2	1.2	2.0
未届出施設	21	3.8	5.4	2.0

(注)「近隣の保険薬局と連携して 24 時間対応が可能な体制を整えている」と回答した施設のうち、連携している薬局数について回答のあった施設を集計対象とした。

「24 時間対応が可能な体制を整えていない」と回答した薬局に対してその理由を尋ねたところ、「24 時間対応に必要な人員体制を確保できないため」が全体、届出施設、未届出施設のいずれも 8 割以上となった。次いで「24 時間対応体制に必要な連携薬局を確保することが困難なため」、「地域にニーズがないと考えるため」が続いた。

図表 55 24 時間対応が可能な体制を整えていない理由  
 (「24 時間対応が可能な体制を整えていない」と回答した薬局、複数回答)

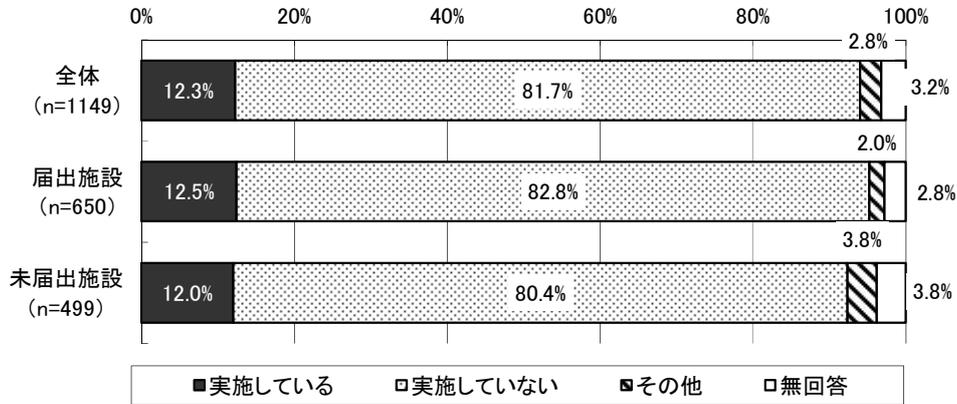


(注) 「その他」の内容として、「電話対応はしている」、「本部が決定している」、「夜間診療所が対応」、「コストに見合わない」、「高齢のため」、「1 人薬剤師で、職場と住宅が遠いため」、「24 時間対応するには法が不整備と感じる」、「協力していた保険薬局 2 軒が閉店したため」、「近隣に大病院が多数あり、夜間対応が充分」等が挙げられた。

⑦地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況

地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況は次のとおりである。

図表 56 地域薬剤師会等による 24 時間対応のための当番制の実施状況



(注) 「その他」の内容として、「23 時までの輪番制」、「医師会の休日診療日に会営薬局で対応」、「お薬休日夜間電話相談で対応」、「薬剤師会未加入のためわからない」等が挙げられた。

(4) 薬学管理の取組状況等

①薬剤服用歴管理指導料等の算定回数（平成29年6月1か月間）

1) 薬剤服用歴管理指導料の算定回数

平成29年6月1か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定回数は次のとおりである。

図表 57 薬剤服用歴管理指導料の算定回数（全体、n=1,019）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	600.8	483.6	539.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	137.1	211.9	70.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	384.8	611.5	206.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	15.5	78.2	0.0

(注)平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 58 薬剤服用歴管理指導料の算定回数（届出施設、n=590）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	672.8	517.8	593.5
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	142.1	237.0	71.5
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	417.8	607.0	237.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	19.8	92.4	0.0

(注)平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった590施設を集計対象とした。

図表 59 薬剤服用歴管理指導料の算定回数（未届出施設、n=429）

（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤服用歴管理指導料(38点)(6か月以内に再来局した患者に行った場合)	501.7	412.7	473.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(6か月以内に再来局した患者でない場合)	130.2	171.7	68.0
薬剤服用歴管理指導料(50点)(上記以外の場合)	339.3	615.5	166.0
薬剤服用歴管理指導料(38点)(特別養護老人ホーム入所者に行った場合)	9.7	52.2	0.0

(注)平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった429施設を集計対象とした。

## 2) 重複投薬・相互作用等防止加算等の算定回数

平成29年6月1か月間の重複投薬・相互作用等防止加算の算定回数は次のとおりである。

図表 60 重複投薬・相互作用等防止加算の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	7.3	14.5	3.0
届出施設	590	9.5	17.6	4.0
未届出施設	429	4.2	7.9	1.0

(注) 平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

図表 61 在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料の算定回数

(単位：回)

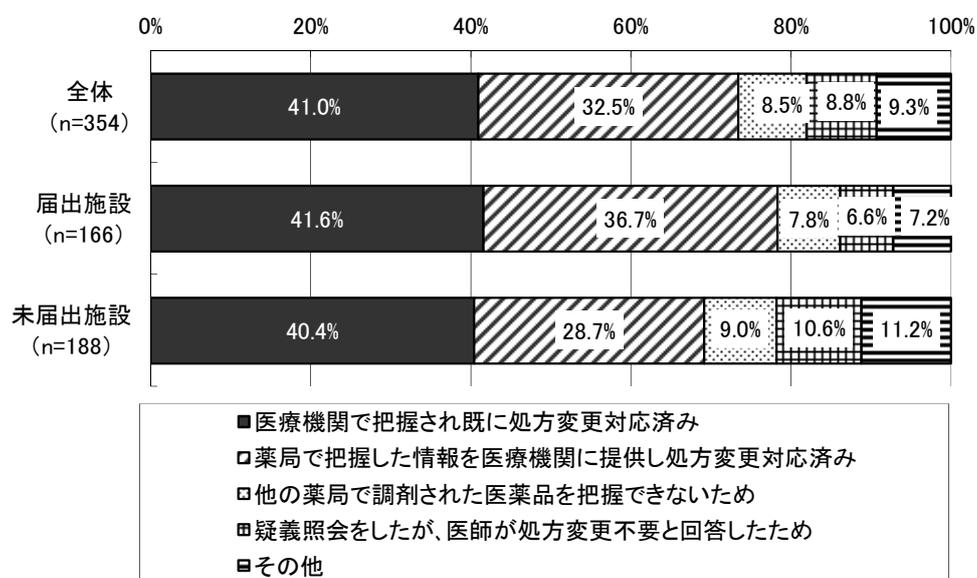
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.2	1.3	0.0
届出施設	590	0.3	1.4	0.0
未届出施設	429	0.1	1.0	0.0

(注) 平成29年6月1か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった1,019施設を集計対象とした。

### 3) 重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少・なかった最大の理由

重複投薬・相互作用等防止加算、在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料の算定回数の実績が減少した、または、なかった薬局に対して、その最大の理由を尋ねたところ、届出施設、未届出施設のいずれも「医療機関で把握され既に処方変更対応済み」が4割を占めており、最も多かった。次いで「薬局で把握した情報を医療機関に提供し処方変更対応済み」であった。

図表 62 重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少・なかった最大の理由  
(重複投薬・相互作用等防止加算等の実績が減少・なかった薬局)



(注)・上記の設問に回答のあった354施設を集計対象とした。

- ・「その他」の内容として、「該当者がいなかった」、「たまたまなかった」、「訂正した処方せんと差し替えになり証拠となる処方せんがないので算定できないと考えた」、「疑義照会をして処方変更された際、病院が処方せんを訂正して再発行するため」、「算定忘れが多い」、「医師のミスなのに患者の負担増になるため」、「薬剤服用歴管理指導料を算定しているため」等が挙げられた。

#### 4) 外来服薬支援料等の算定回数

図表 63 外来服薬支援料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.1	0.7	0.0
届出施設	590	0.1	0.7	0.0
未届出施設	429	0.1	0.6	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

図表 64 ブラウンバッグ運動の取組による外来服薬支援料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.0	0.1	0.0
届出施設	590	0.0	0.1	0.0
未届出施設	429	0.0	0.1	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

#### 5) 服薬情報等提供料等の算定回数

図表 65 服薬情報等提供料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	1.2	21.3	0.0
届出施設	590	2.0	27.9	0.0
未届出施設	429	0.1	1.6	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

図表 66 患者の服薬期間中に新たに知り得た安全性情報や服薬状況の確認及び必要な指導を患者に提供した場合の、服薬情報等提供料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.4	6.4	0.0
届出施設	590	0.6	8.4	0.0
未届出施設	429	0.1	0.5	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

6) 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数

図表 67 在宅患者訪問薬剤管理指導料の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	0.9	6.5	0.0
届出施設	590	1.4	8.5	0.0
未届出施設	429	0.2	1.0	0.0

(注) 平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

7) 居宅療養管理指導費の算定回数

図表 68 居宅療養管理指導費の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,019	9.8	40.8	0.0
届出施設	590	14.4	50.7	1.0
未届出施設	429	3.5	18.6	0.0

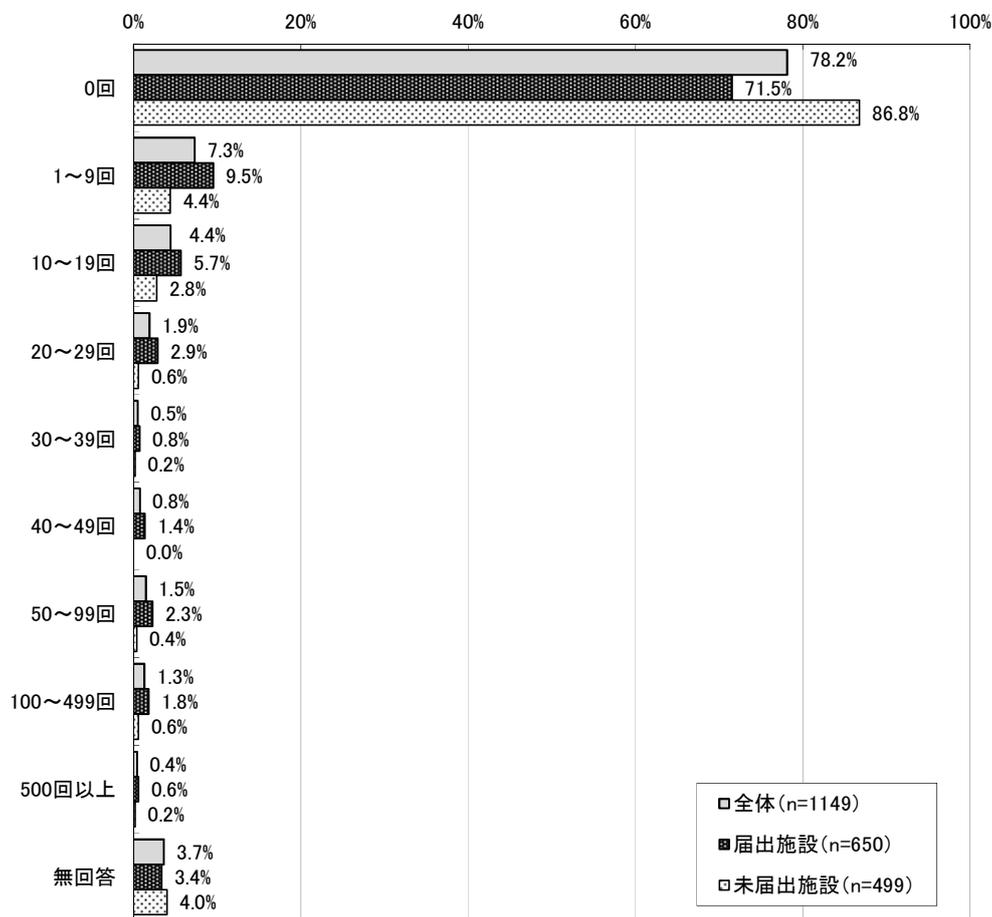
(注)・平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目の算定回数についてすべて回答のあった 1,019 施設を集計対象とした。

・介護保険。介護予防を含む。

②在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数

在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数は次のとおりである。

図表 69 在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数別薬局分布



図表 70 在宅患者訪問薬剤管理指導料の1年間の算定回数

(単位：回)

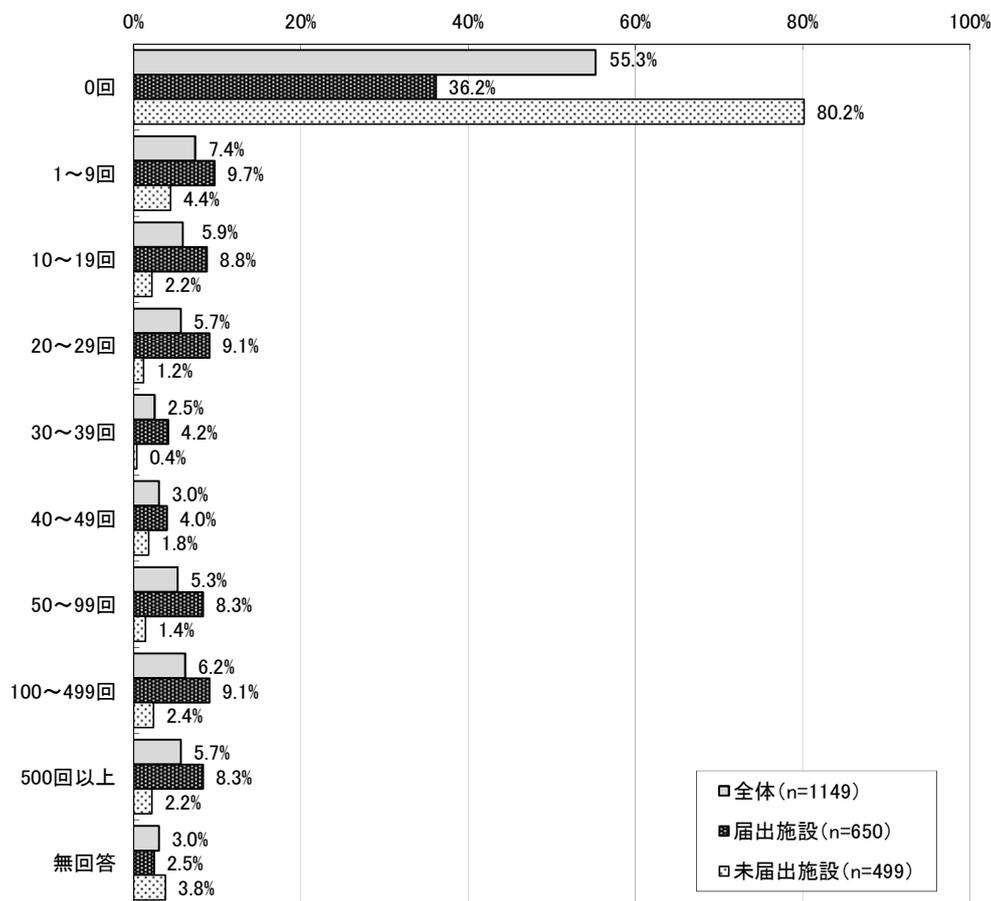
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,107	25.3	435.9	0.0
届出施設	628	38.7	569.7	0.0
未届出施設	479	7.9	116.1	0.0

(注) 平成28年7月1日～平成29年6月30日の1年間の算定回数について回答のあった1,107施設を集計対象とした。

### ③居宅療養管理指導費の1年間の算定回数

居宅療養管理指導費の1年間の算定回数は次のとおりである。

図表 71 居宅療養管理指導費の1年間の算定回数別薬局分布



図表 72 居宅療養管理指導費の1年間の算定回数

(単位：回)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,114	100.8	418.2	0.0
届出施設	634	152.3	527.2	12.0
未届出施設	480	32.9	175.9	0.0

(注) 平成28年7月1日～平成29年6月30日の1年間の算定回数について回答のあった1,114施設を集計対象とした。

④疑義照会の状況

1) かかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者における疑義照会の内訳

平成 29 年 6 月 1 か月間にかかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者における疑義照会の内訳は次のとおりである。

図表 73 かかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者における疑義照会の内訳  
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (届出施設、n=388)

(単位：件)

	平均値		標準偏差	中央値
	件数 (件)	構成割合 (%)		
かかりつけ薬剤師指導料等の算定件数	40.9	100.0	90.2	9.5
1) 疑義照会を行った件数	3.8	9.2	12.3	0.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	2.2	5.3	6.7	0.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	0.9	2.2	4.3	0.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	1.3	3.1	4.5	0.0
5) 重複投薬に関する件数	0.3	0.6	0.9	0.0
6) 相互作用に関する件数	0.1	0.2	0.4	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	1.0	2.4	4.3	0.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	0.1	0.3	0.4	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	0.4	1.0	1.5	0.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	1.6	3.9	9.3	0.0

(注)・かかりつけ薬剤師指導料等の届出施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間のかかりつけ薬剤師指導料等の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 388 施設を集計対象とした。  
・構成割合は「かかりつけ薬剤師指導料等の算定件数」に対する各項目の割合。

2) 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳

平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳は次のとおりである。

図表 74 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳  
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (全体、n=715)

(単位：件)

	平均値		標準偏差	中央値
	件数 (件)	構成割合 (%)		
薬剤服用歴管理指導料の算定件数	1,136.9	100.0	799.5	979.0
1) 疑義照会を行った件数	33.6	3.0	49.5	18.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	18.2	1.6	28.7	9.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	6.7	0.6	14.3	2.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	11.5	1.0	22.6	4.0
5) 重複投薬に関する件数	2.4	0.2	6.2	1.0
6) 相互作用に関する件数	0.9	0.1	3.6	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	5.3	0.5	10.4	2.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	1.1	0.1	3.0	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	8.4	0.7	18.0	2.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	15.4	1.4	35.2	4.0

(注)・平成 29 年 6 月 1 か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 715 施設を集計対象とした。  
・構成割合は「薬剤服用歴管理指導料の算定件数」に対する各項目の割合。

図表 75 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳  
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (届出施設、n=416)

(単位：件)

	平均値		標準偏差	中央値
	件数 (件)	構成割合 (%)		
薬剤服用歴管理指導料の算定件数	1,231.8	100.0	806.9	1,033.0
1) 疑義照会を行った件数	39.7	3.2	54.8	20.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	21.7	1.8	32.3	12.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	8.8	0.7	17.3	3.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	12.9	1.0	24.9	5.0
5) 重複投薬に関する件数	3.0	0.2	7.5	1.0
6) 相互作用に関する件数	1.2	0.1	4.4	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	6.4	0.5	11.7	3.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	1.4	0.1	3.2	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	9.7	0.8	19.5	3.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	17.9	1.5	40.0	5.0

(注)・平成 29 年 6 月 1 か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 416 施設を集計対象とした。  
・構成割合は「薬剤服用歴管理指導料の算定件数」に対する各項目の割合。

図表 76 薬剤服用歴管理指導料を算定した患者における疑義照会の内訳  
(平成 29 年 6 月 1 か月間) (未届出施設、n=299)

(単位：件)

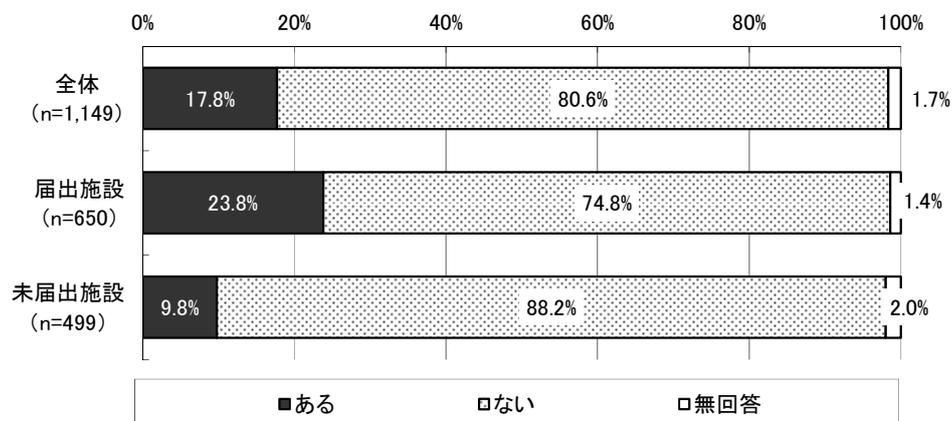
	平均値		標準偏差	中央値
	件数 (件)	構成割合 (%)		
薬剤服用歴管理指導料の算定件数	1,005.0	100.0	771.2	830.0
1) 疑義照会を行った件数	25.2	2.5	39.6	11.0
2) 薬学的な観点から必要と認められる事項での疑義照会	13.3	1.3	21.8	6.0
3) 重複投薬等防止加算を算定した件数	3.6	0.4	7.7	1.0
4) 重複投薬等防止加算を算定しなかった件数	9.6	1.0	18.9	3.0
5) 重複投薬に関する件数	1.6	0.2	3.4	0.0
6) 相互作用に関する件数	0.5	0.1	2.1	0.0
7) 残薬の処方日数調整に関する件数	3.8	0.4	8.0	1.0
8) 薬学的観点からの減薬に関する件数	0.8	0.1	2.6	0.0
9) その他、薬学的観点から必要と認められる事項の件数	6.6	0.7	15.6	1.0
10) 薬学的な観点から必要と認められる事項以外(形式的なもの等)での疑義照会	11.9	1.2	26.9	3.0

(注)・平成 29 年 6 月 1 か月間の薬剤服用歴管理指導料の算定実績があり、平成 29 年 6 月 1 か月間の各項目に該当する疑義照会件数についてすべて記入のあった 299 施設を集計対象とした。  
・構成割合は「薬剤服用歴管理指導料の算定件数」に対する各項目の割合。

#### ⑤平成 28 年 4 月以降の服薬情報等提供料の算定実績の有無

平成 28 年 4 月以降、患者が受診している保険医療機関に対して、患者の服薬状況等について書面等により情報提供を行い、「服薬情報等提供料」を算定したことがあるかを尋ねたところ、「ある」という回答割合は、届出施設では 23.8%、未届出施設では 9.8%であった。

図表 77 平成 28 年 4 月以降の服薬情報等提供料の算定実績の有無

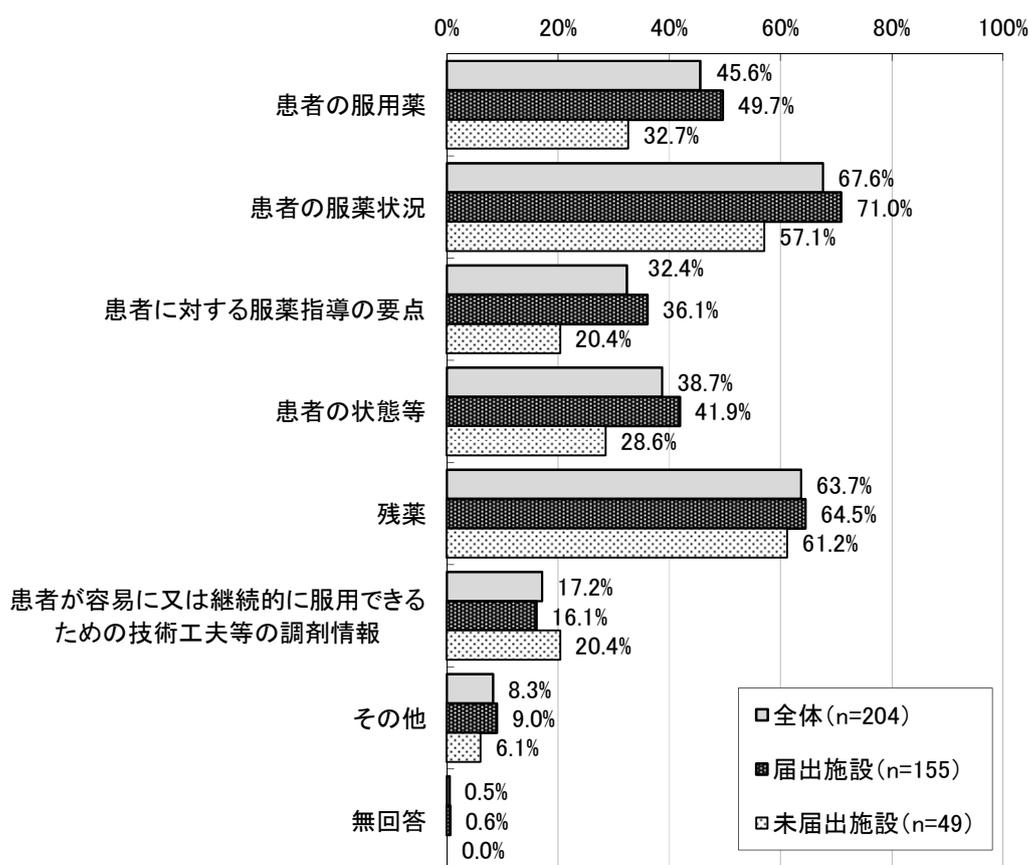


(注) 平成 28 年 4 月以降、患者が受診している保険医療機関に対して、患者の服薬状況等について書面等により情報提供を行い「服薬情報等提供料」を算定した実績の有無。

平成 28 年 4 月以降、服薬情報等提供料の算定実績が「ある」と回答した薬局に対して、保険医療機関に対して情報提供した内容を尋ねた結果は次のとおりである。

届出施設では「患者の服薬状況」が 71.0%で最も高く、次いで「残薬」(64.5%)であった。未届出施設では「残薬」が 61.2%で最も高く、次いで「患者の服薬状況」(57.1%)であった。

図表 78 保険医療機関に対して情報提供した内容  
(服薬情報等提供料の算定実績が「ある」と回答した薬局、複数回答)



(注)・「患者が容易に又は継続的に服用できるための技術工夫等の調剤情報」の具体的な内容として、「一包化の希望」、「2 か所の医療機関の薬を一包化」、「一包化しお薬カレンダーへセット」、「曜日指定で服用が必要な薬剤についても分包に曜日を記入し、一包化」、「粉薬から錠剤への変更」、「イラスト入りの服用法の説明表の作成」、「胃ろう患者に対する OD 錠の提案」、「チューブの詰まり回避のため粉碎の提案」、「認知症貼付薬による肌あれ情報と保湿薬提案」、「高齢者のためにカプセルから OD 錠に変更提案」等が挙げられた。

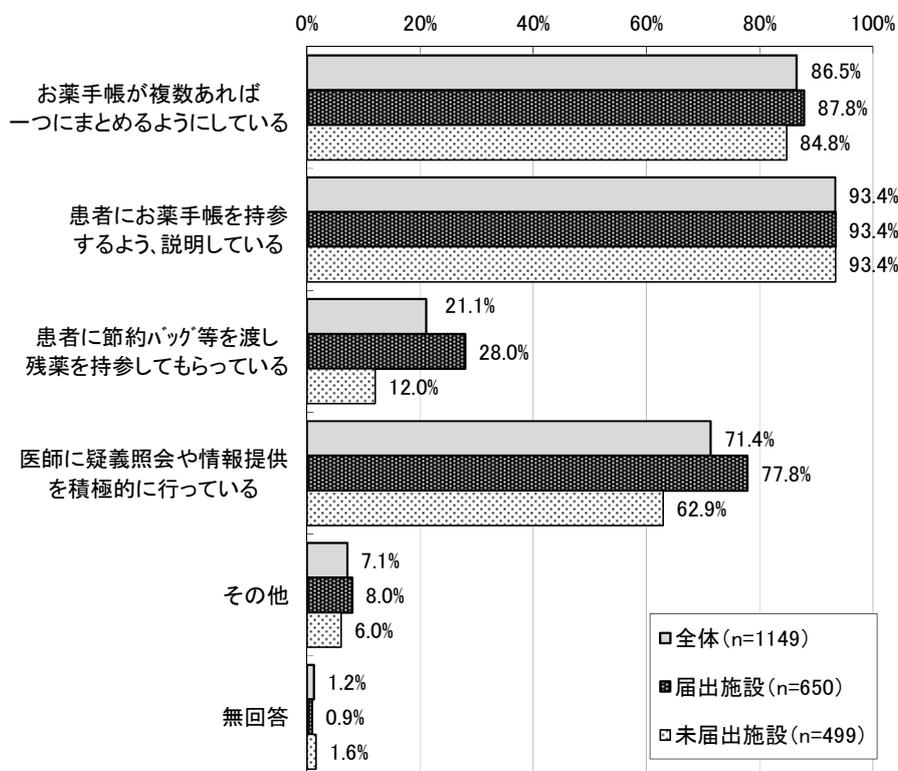
・「その他」の内容として、「吸入指導を報告」、「処方された吸入薬がうまく吸えない高齢者についてその患者に適した吸入デバイスの紹介」、「エピペンの使用期限が間近のためその報告」、「患者に現れた副作用」、「腎臓の数値の上昇で減量した方がよい薬の提案」、「生活環境や食事摂取、運動状況やその変化など」、「患者が頻繁に受診できないため処方日数の変更が必要なこと」等が挙げられた。

### ⑥重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組

重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組についてみると、全体、届出施設、未届出施設のいずれでも「患者にお薬手帳を持参するよう、説明している」が9割を超え最も多かった。次いで「お薬手帳が複数あれば一つにまとめるようにしている」が8割強～9割近くで多かった。

「医師に疑義照会や情報提供を積極的に行っている」と回答した施設の割合は、届出施設が77.8%、未届出施設が62.9%であった。また、「患者に節約バッグ等を渡し残薬を持参してもらっている」と回答した施設の割合は、届出施設では28.0%、未届出施設では12.0%であった。

図表 79 重複投薬や残薬を確認・削減するために行っている取組（複数回答）



(注) 「その他」の内容として、「患者に残薬がある場合、申し出るように指導している」、「積極的に患者から医師に（残薬があることを）伝えるよう話している」、「一包化した包みに日付を入れ来歴に記入。残っていれば持ってきてもらう」、「残薬確認シートを作成し次回受診時に患者に持参してもらう」、「在宅訪問時に残薬を確認している」、「院内処方などでお薬手帳に貼付がないこともあるので（患者に）聞き取りを必ずするようにしている」、「残薬数量をお薬手帳に記入するように指導している」、「受診前に残薬の確認をするように患者に伝えている」、「付添いのヘルパー、ケアマネジャーにも声をかける」、「待合室に残薬関係のポスターを貼っている」等が挙げられた。

(5) かかりつけ薬剤師に関する取組状況等

①かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等

平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 5 月までに、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数及び平成 29 年 6 月に新規に同意を取得した患者数は次のとおりである。

図表 80 かかりつけ薬剤師指導料等の同意患者数等（届出施設、n=606）

	平均値	標準偏差	中央値
1)平成 29 年 6 月 1 か月間の処方せん受付回数(回)	1,169.7	929.0	1,035.0
2)平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 5 月までに、かかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数(人)	28.2	73.2	4.0
3)平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 6 月に新規にかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得した患者数(人)	3.0	16.1	0.0

(注) 届出施設のうち、すべての項目について回答のあった 606 施設を集計対象とした。

図表 81 平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 5 月までにかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得済の患者数（届出施設、「0」除く、n=474）

(単位：人)

平均値	標準偏差	中央値
36.1	81.0	8.0

(注) 回答のあった 606 施設のうち、同意取得済の患者が 0 人であった施設を除外して集計対象とした。

図表 82 平成 29 年 6 月に処方せんを持参した患者のうち、平成 29 年 6 月に新規にかかりつけ薬剤師指導料等の同意を取得した患者数（届出施設、「0」除く、n=163）

(単位：人)

平均値	標準偏差	中央値
11.3	29.5	3.0

(注) 回答のあった 606 施設のうち、新規に同意を取得した患者が 0 人であった施設を除外して集計対象とした。

## ②かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数等

平成 29 年 6 月 1 か月間にかかりつけ薬剤師指導料を算定した患者数（実人数）及び算定回数は次のとおりである。

図表 83 かかりつけ薬剤師指導料の算定患者数と算定回数（届出施設、n=630）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	23.8	68.2	3.0
算定回数(回)	33.9	92.4	5.0

(注) 届出施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の算定患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 630 施設を集計対象とした。

図表 84 かかりつけ薬剤師指導料の算定患者数と算定回数（届出施設、「0」除く、n=468）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	32.0	77.5	6.0
算定回数(回)	45.7	104.7	11.0

(注) 回答のあった 630 施設のうち、算定患者数・算定回数が 0 であった施設を除外して集計対象とした。

図表 85 かかりつけ薬剤師包括管理料の算定患者数と算定回数（届出施設、n=642）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	642	0.0	0.1	0.0
算定回数(回)	642	0.0	0.6	0.0

(注) 届出施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の算定患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 642 施設を集計対象とした。

図表 86 かかりつけ薬剤師包括管理料の算定患者数と算定回数（届出施設、「0」除く、n=2）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	2.5	0.7	2.5
算定回数(回)	10.5	4.9	10.5

(注) 回答のあった 642 施設のうち、算定患者数・算定回数が 0 であった施設を除外して集計対象とした。

### ③かかりつけ薬剤師指導料等の算定患者数と年齢構成割合

平成 29 年 6 月 1 か月間にかかりつけ薬剤師指導料等を算定した患者数と年齢構成割合は次のとおりである。

図表 87 かかりつけ薬剤師指導料の算定患者数と年齢構成割合（届出施設、n=601）

（単位：人）

	平均値		標準偏差	中央値
	患者数(人)	構成割合(%)		
0～14 歳	2.4	12.2	15.6	0.0
15～64 歳	4.0	19.9	14.7	0.0
65～74 歳	4.4	22.2	15.3	0.0
75 歳以上	8.7	43.4	23.2	1.0
年齢不明	0.4	2.2	7.7	0.0
合計	20.0	100.0	51.7	3.0

（注）届出施設のうち、算定患者の年齢構成別人数について回答のあった 601 施設を集計対象とした。

図表 88 かかりつけ薬剤師包括管理料の算定患者数（届出施設、n=642）

（単位：人）

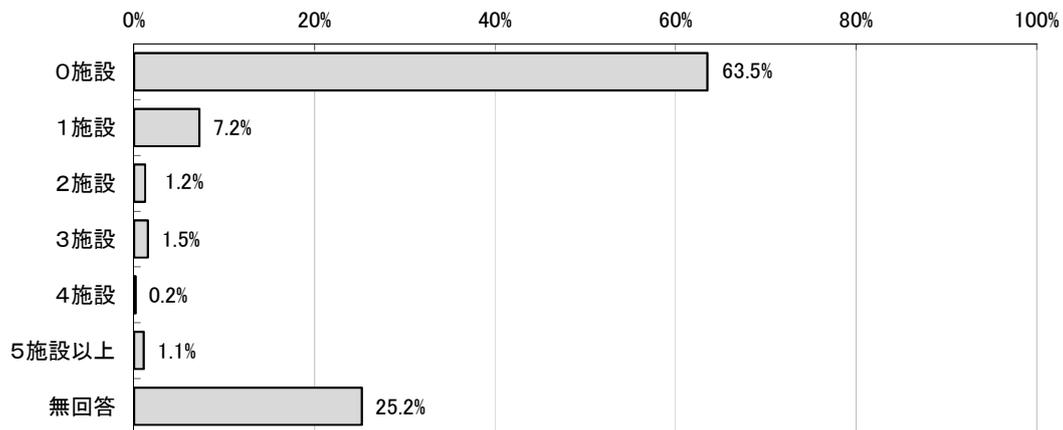
	平均値	標準偏差	中央値
0～14 歳	0.0	-	0.0
15～64 歳	0.0	-	0.0
65～74 歳	0.0	0.0	0.0
75 歳以上	0.0	0.1	0.0
年齢不明	0.0	-	0.0
合計	0.0	0.1	0.0

（注）届出施設のうち、算定患者の年齢構成別人数について回答のあった 642 施設を集計対象とした。

④かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数

かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数は次のとおりである。

図表 89 かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数  
(届出施設、単数回答、n=650)



図表 90 かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数  
(届出施設、n=486)

(単位：施設)

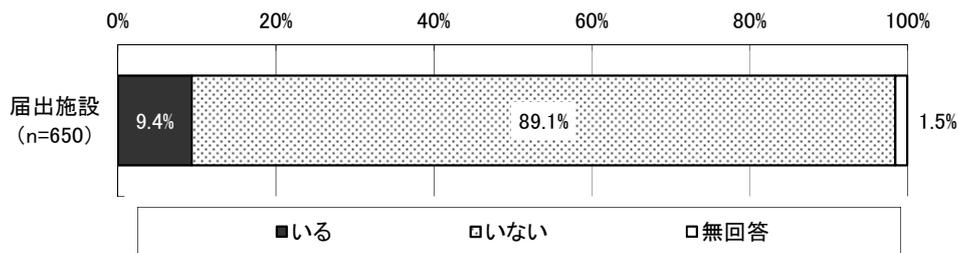
施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
486	0.3	1.0	0.0

(注) 届出施設のうち、かかりつけ薬剤師包括管理料を算定する上で連携している医療機関数（地域包括診療加算・地域包括診療料の届出医療機関）について回答のあった 486 施設を集計対象とした。

⑤ かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師の有無とその理由

かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師がいるか尋ねたところ、「いる」が9.4%、「いない」が89.1%であった。

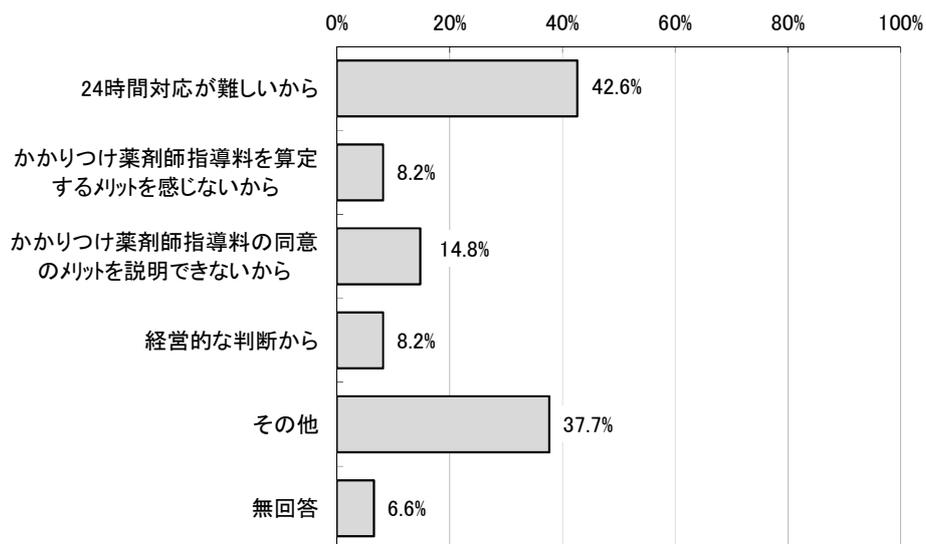
図表 91 かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師の有無（届出施設）



届出施設において、かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準の要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない薬剤師がいる場合、その理由を尋ねると、「24時間対応が難しいから」が42.6%で最も多かった。

図表 92 かかりつけ薬剤師指導料等の施設基準要件をすべて満たしているが、かかりつけ薬剤師としての届出をしていない理由

（届出施設、該当の薬剤師が「いる」と回答した薬局、複数回答、n=61）



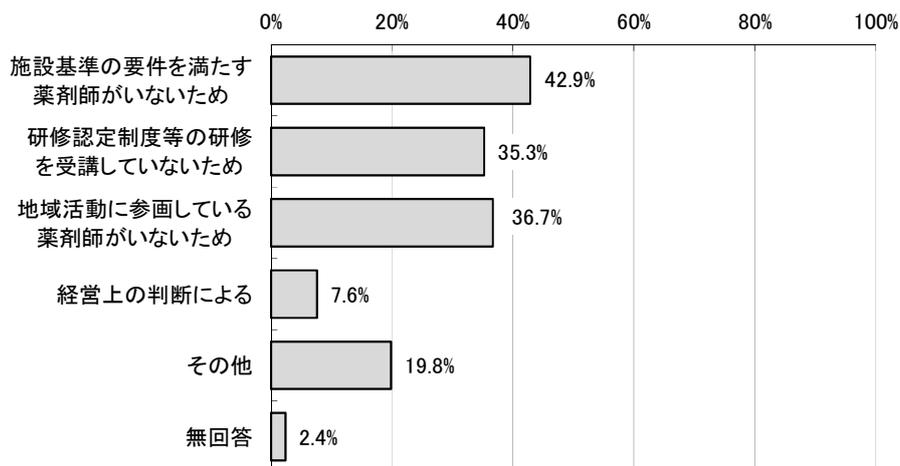
（注）「その他」の内容として、「届出が手間」、「届出をしたが不受理になった（地域活動）」、「認定薬剤師申請中」、「まもなく異動する予定」等が挙げられた。

### ⑥かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由

未届出施設における、かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由をみると、「施設基準の要件を満たす薬剤師がいないため」が 42.9%で最も多く、次いで「地域活動に参加している薬剤師がいないため」(36.7%)、「研修認定制度等の研修を受講していないため」(35.3%)であった。

図表 93 かかりつけ薬剤師指導料等の届出をしていない理由

(未届出施設、複数回答、n=499)



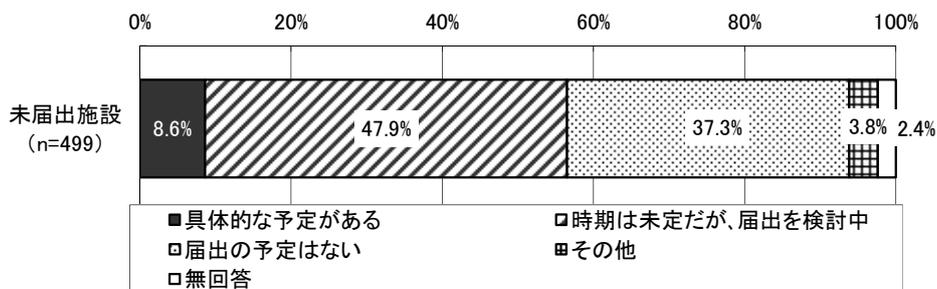
(注)・「経営上の判断による」の具体的な内容として、「昔から行っている無料の業務と同じため」、「患者負担が増える」、「OTC 専門店に移行を予定」、「人件費を確保できず、経営できなくなる」等が挙げられた。

- ・「その他」の内容として、「研修認定申請中」、「研修受講中」、「届出予定」、「24 時間対応が困難」、「患者から負担をもらうことに抵抗がある」、「患者の負担金が増える」、「開局時間の条件を満たせない」、「勤務表等の配布に抵抗がある（管理薬剤師以外すべて女性薬剤師）」、「1 人薬剤師のため」、「意義がわからない。複数の薬剤師の目を見た方が良い場合もある」、「服薬指導、相談は当たり前のこと」、「人員不足」、「来局者すべてに同じ対応をしているのに負担金が変わる」、「地域活動の取組の内容が不明」、「現在でも特定患者からの電話回数が多く、これ以上多くなると困る」、「高齢のため」、「基準を満たす薬剤師 1 人に患者が集中し、効率が悪い」等が挙げられた。

### ⑦かかりつけ薬剤師指導料等の届出に関する今後の予定・意向

未届出施設における、かかりつけ薬剤師指導料等に関する今後の予定・意向をみると、届出について「具体的な予定がある」と回答した施設が 8.6%、「時期は未定だが、届出を検討中」が 47.9%で両者を合わせると 6 割近くを占めた。

図表 94 かかりつけ薬剤師指導料等の届出に関する今後の予定・意向（未届出施設）



(注) 「その他」の内容として、「本部の指示があれば届出を予定」、「要件を満たす薬剤師の準備ができてから」、「要件が緩和されれば」等が挙げられた。

図表 95 かかりつけ薬剤師指導料等の届出予定時期

(かかりつけ薬剤師指導料等の届出について「具体的な予定がある」と回答した施設、n=43)

	施設数(件)	構成割合(%)
平成 29 年 7 月	8	18.6
平成 29 年 8 月	7	16.3
平成 29 年 9 月	10	23.3
平成 29 年 10 月	3	7.0
平成 29 年 11 月	4	9.3
平成 29 年 12 月	4	9.3
平成 30 年 1 月以降	6	14.0
無回答	1	2.3
合計	43	100.0

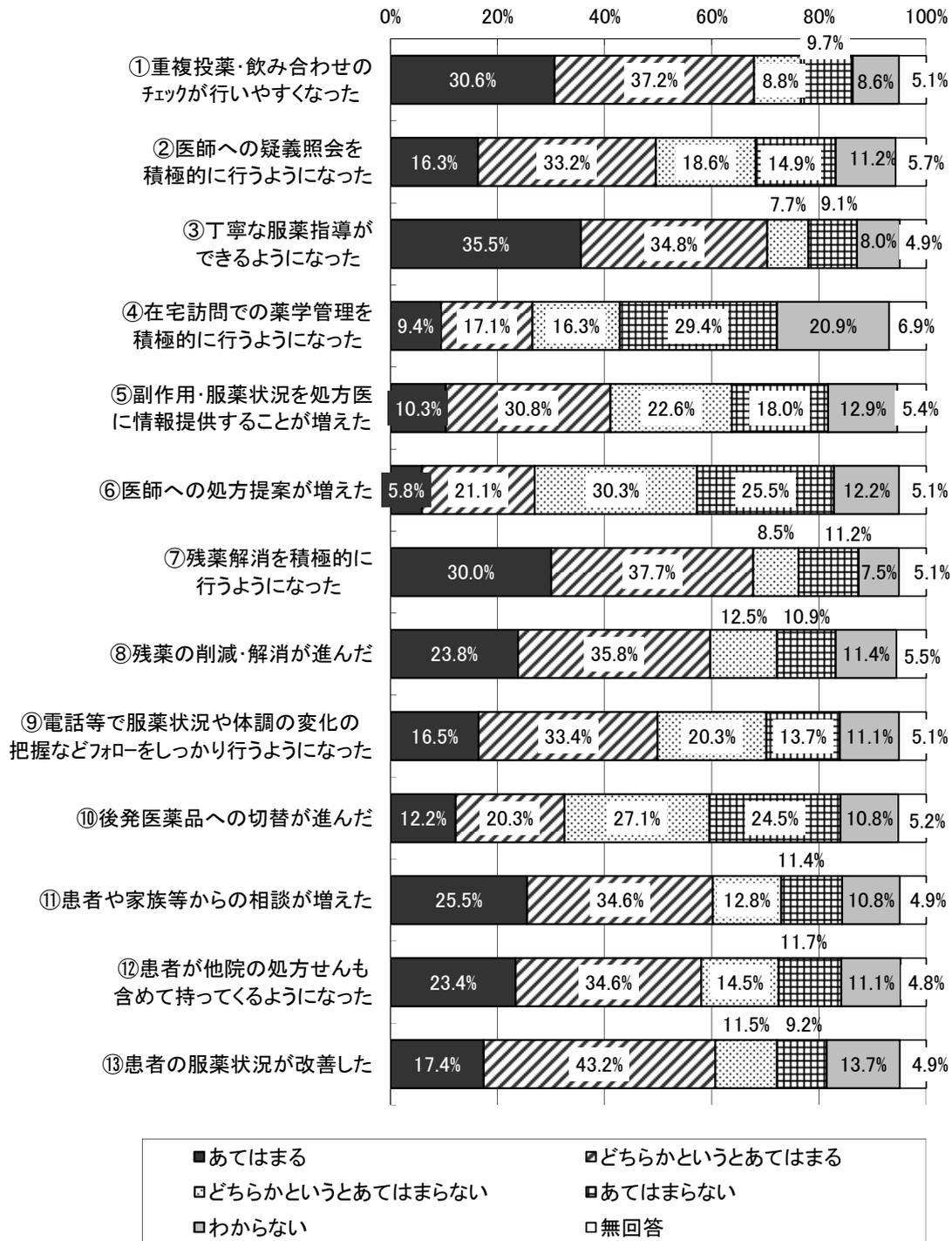
### ⑧かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等

届出施設を対象にかかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等を尋ねた結果が、次の図表である。

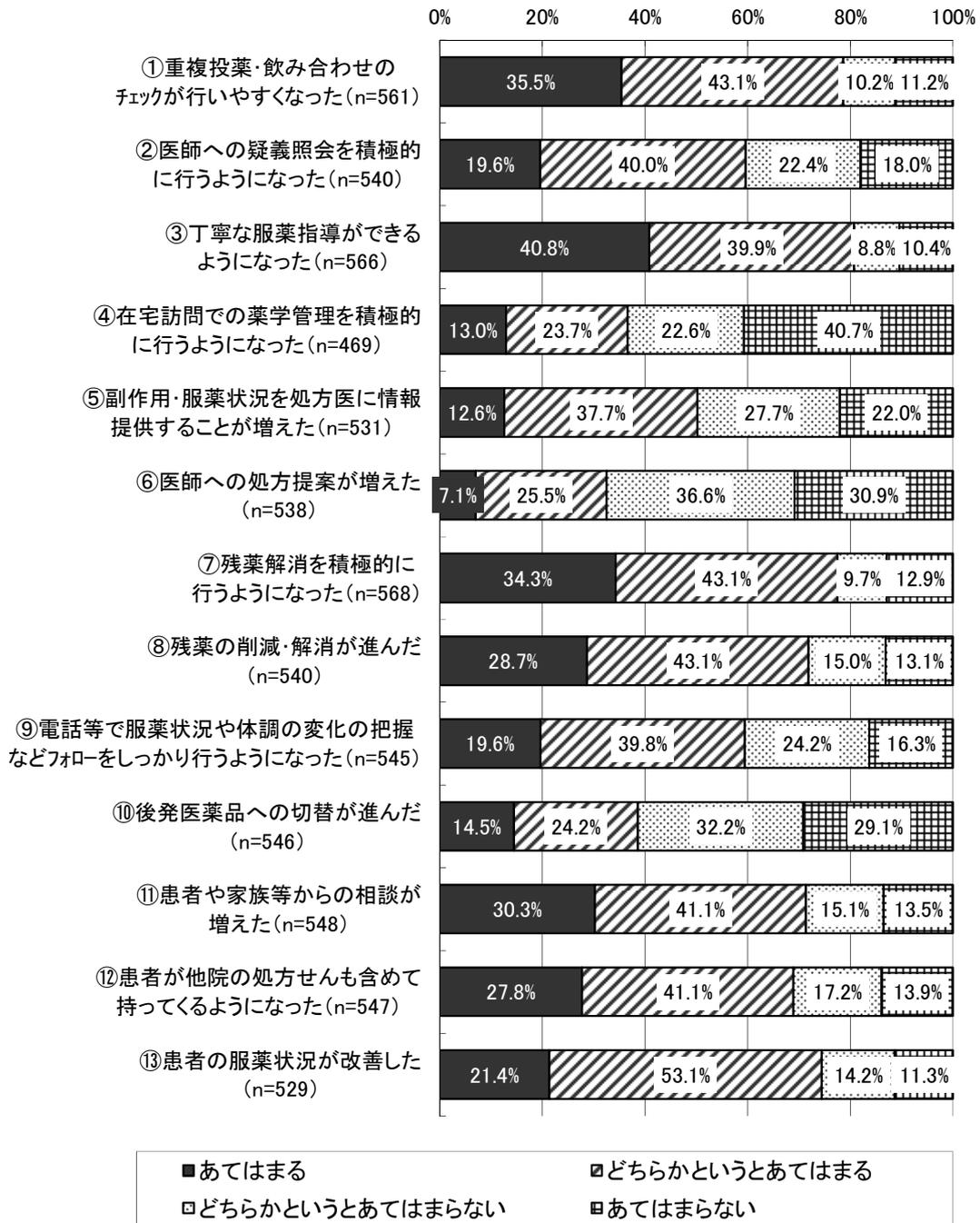
「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「③丁寧な服薬指導ができるようになった」(70.3%)、「①重複投薬・飲み合わせのチェックが行いやすくなった」(67.8%)、「⑦残薬解消を積極的に行うようになった」(67.7%)、「⑬患者の服薬状況が改善した」(60.6%)、「⑩患者や家族等からの相談が増えた」(60.1%) という順であり、いずれも 6 割以上となった。

他に「⑧残薬の削減・解消が進んだ」(59.6%)、「⑫患者が他院の処方せんも含めて持ってくるようになった」(58.0%) が 6 割近くとなった。

図表 96 かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等（届出施設、n=650）



図表 97 かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等  
(届出施設、無回答等を除いたもの)



(注) 上記の図表は、本質問に対する選択肢で「わからない」という回答、または無回答であったものを各項目について除外して集計した結果である。

上記以外に診療報酬改定の影響・効果等があった場合にその内容を自由記述式で記載していただいた。以下は、主な内容を取りまとめたものである。

図表 98 かかりつけ薬剤師に対する評価の影響・効果等（届出施設、自由記述式）

- ・患者から話しかけられることが増えた。
- ・患者側からいろいろと質問してくるようになった。
- ・患者との関係がより親密になった。
- ・患者の家庭の状況や食事内容、生活状況等について細かく訊きやすくなった。
- ・問い合わせ、相談等の電話が増えた。
- ・コミュニケーションがとりやすくなり服薬指導がしやすくなった。待ち時間や対応についてのクレームが減った。
- ・患者における残薬の削減意識が向上した。
- ・専属の薬剤師を持てたこと、及び24時間対応で、患者の安心感は増大した。多くのことを相談してくれるようになった。
- ・「安心して薬が飲める」と言われたり、「具体的にどういう効果・作用かがわかり、治そうと思えた」と言ってもらえた。
- ・毎回、同じ薬剤師が対応することで患者が安心感、信頼感を持ってくれるようになった。
- ・「かかりつけ薬剤師」はもとより「かかりつけ薬局」への認識が高まっていると感じる。
- ・夜間・休日の問合せが増えた。23時～朝5時の深夜帯に17回電話があった。心身休まる時間が持てない。休暇中も電話が入る。 /等

### 3. 診療所・病院調査の結果

#### 【調査対象等】

##### ○診療所調査

調査対象：1) 地域包括診療料の届出診療所（悉皆）、2) 地域包括診療加算の届出施設の中から無作為抽出した診療所、3) 小児かかりつけ診療料の届出施設の中から無作為抽出した診療所、1)～3) 合わせて1,000 施設

回答数：467 施設

回答者：開設者・管理者

##### ○病院調査

調査対象：1) 地域包括診療料の届出病院（悉皆）、2) 1) を除く病院の中から無作為抽出した病院、1) 2) 合わせて1,000 施設

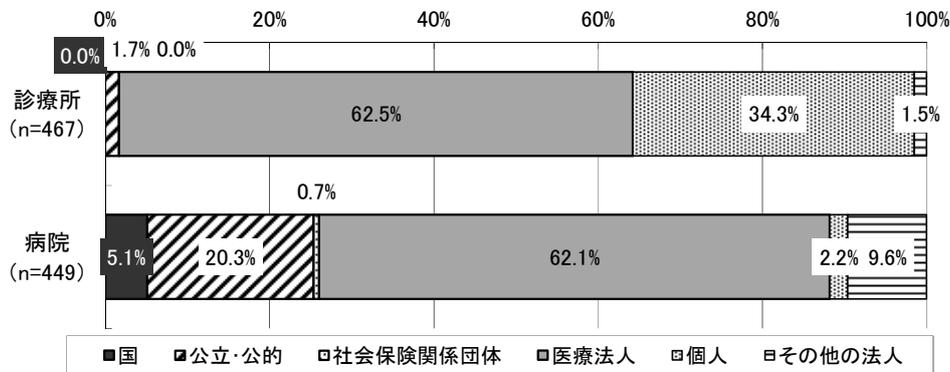
回答数：449 施設

回答者：開設者・管理者

#### (1) 施設の概要等

##### ①開設者

図表 99 開設者



(注) 開設者は以下のとおり。

国 立：国、独立行政法人国立病院機構、独立行政法人労働者健康安全機構、独立行政法人地域医療機能推進機構、国立大学法人、国立研究開発法人

公 立：都道府県、市町村、地方独立行政法人

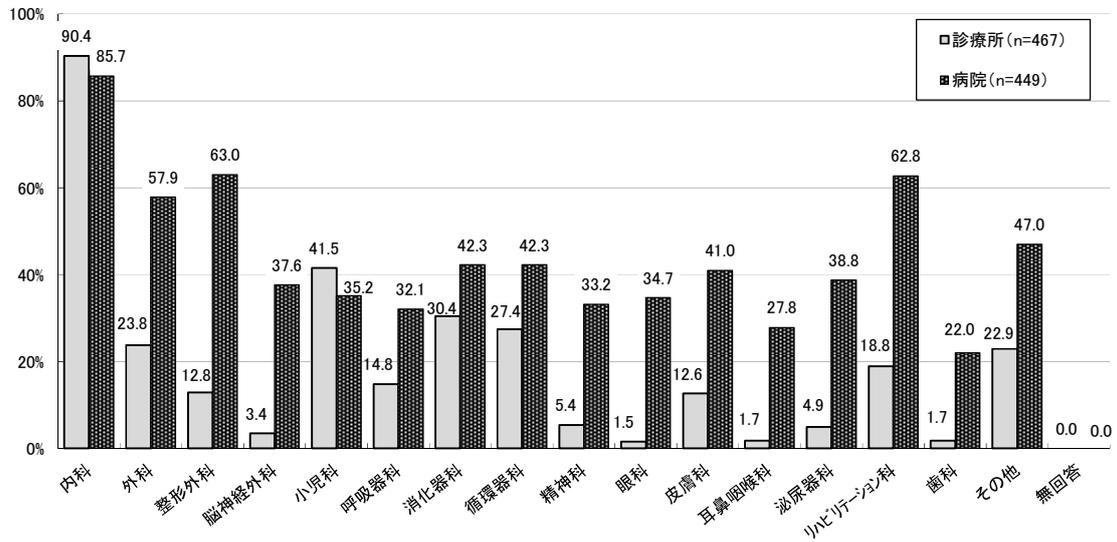
公 的：日本赤十字社、済生会、北海道社会事業協会、全国厚生農業協同組合連合会、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体：健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

その他の法人：公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

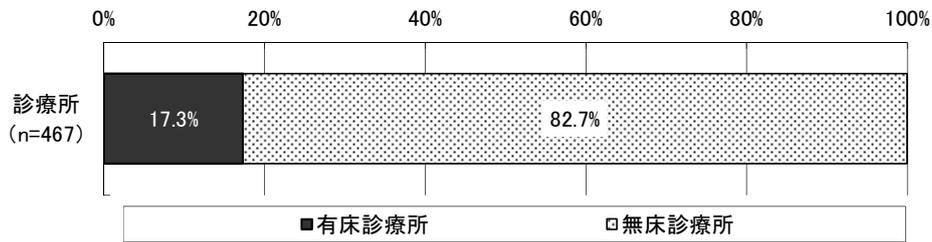
② 標榜診療科

図表 100 標榜診療科（複数回答）



③ 診療所の種別

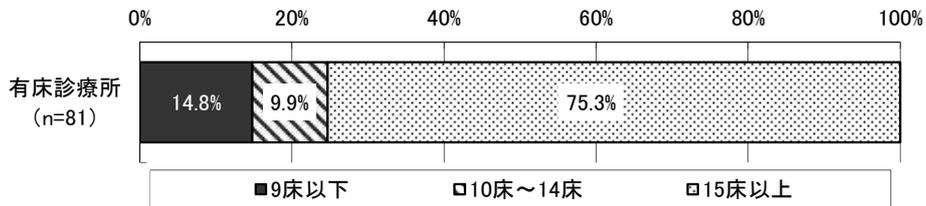
図表 101 診療所の種別



④ 許可病床数

1) 診療所

図表 102 有床診療所の病床規模別施設割合



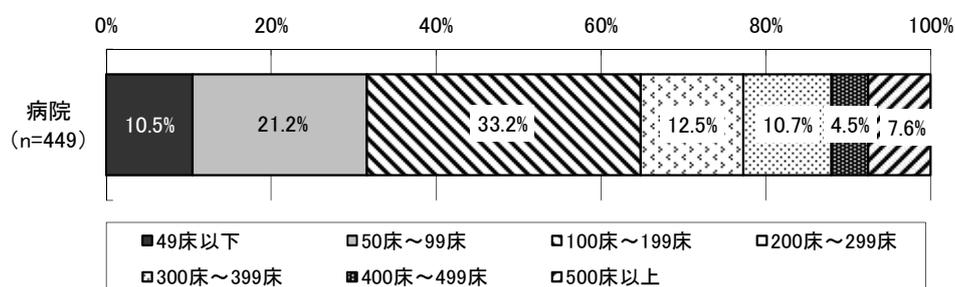
図表 103 有床診療所の許可病床数 (n=81)

(単位：床)

	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	12.4	7.0	15.0
療養病床	3.4	6.0	0.0
(うち)介護療養病床	1.1	3.1	0.0
全体	15.9	5.3	19.0

2) 病院

図表 104 病院の許可病床規模別施設割合



図表 105 病院の許可病床数 (n=449)

(単位：床)

	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	135.8	192.3	58.0
療養病床	37.8	54.3	0.0
(うち)介護療養病床	4.4	17.0	0.0
精神病床	32.7	87.4	0.0
感染症病床	0.3	1.3	0.0
結核病床	1.0	6.4	0.0
全体	207.6	191.1	145.0

⑤職員数

1) 診療所

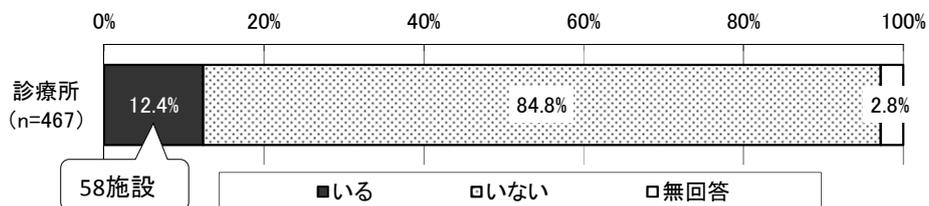
図表 106 診療所の職員数（常勤換算、n=454）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.8	2.0	1.0
歯科医師	0.1	0.8	0.0
保健師・助産師・看護師	2.5	3.9	1.3
准看護師	1.8	2.3	1.0
薬剤師	0.2	1.3	0.0
リハビリ職	0.5	2.1	0.0
管理栄養士	0.1	0.5	0.0
その他の医療職	1.0	6.4	0.0
社会福祉士	0.1	0.3	0.0
その他の職員	4.8	11.2	2.7
合計	12.8	25.2	7.0

（注）職員数について回答のあった454施設を集計対象とした。

図表 107 診療所における薬剤師の有無



2) 病院

図表 108 病院の職員数（常勤換算、n=438）

（単位：人）

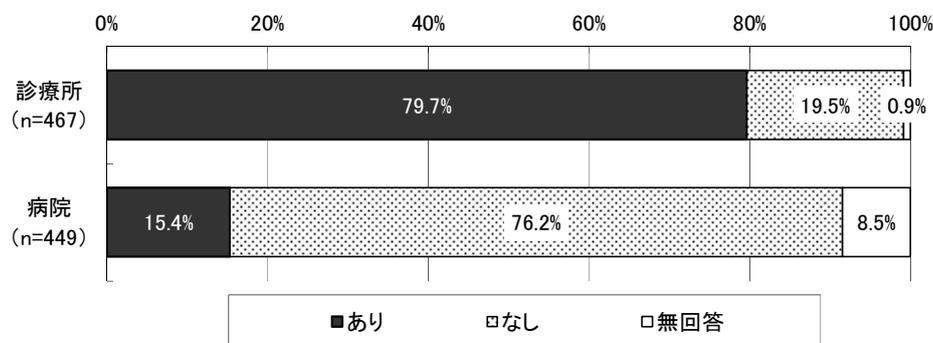
	平均値	標準偏差	中央値
医師	36.7	90.7	10.0
歯科医師	1.7	11.7	0.0
保健師・助産師・看護師	130.3	192.5	54.3
准看護師	13.3	13.5	10.0
薬剤師	7.7	12.3	3.2
リハビリ職	20.0	26.5	10.0
管理栄養士	3.1	3.3	2.0
その他の医療職	34.8	43.0	21.9
社会福祉士	2.5	3.4	1.9
その他の職員	59.7	91.1	32.1
合計	309.8	417.0	176.5

（注）職員数について回答のあった438施設を集計対象とした。

## ⑥研修の受講状況

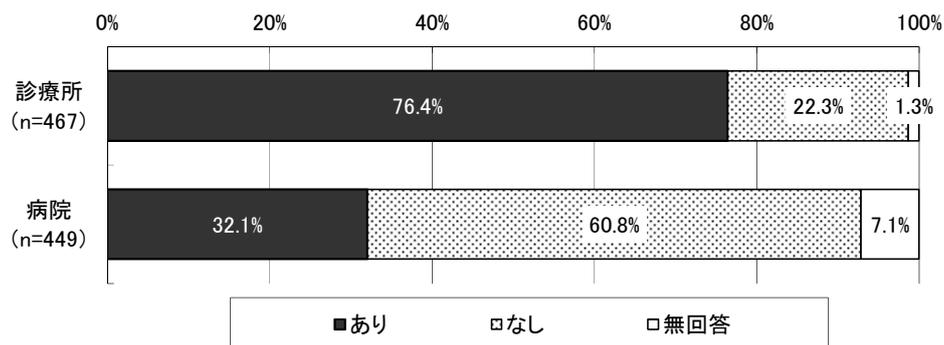
### 1) 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」の受講状況

図表 109 日本医師会の「かかりつけ医機能研修」を受講した医師の有無



### 2) 日本医師会の認知症に係る研修の受講状況

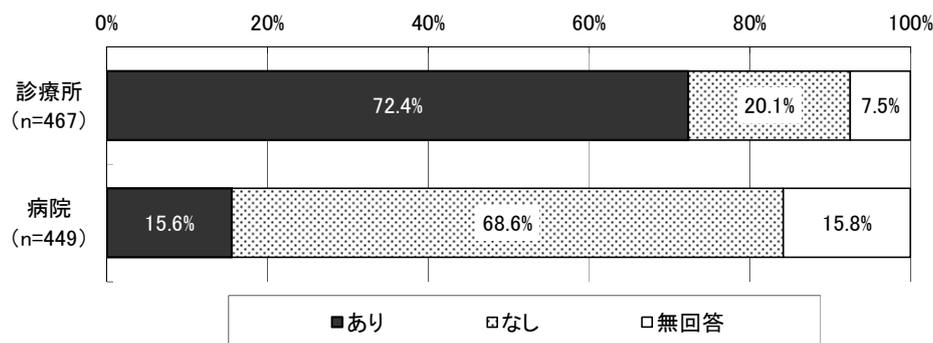
図表 110 日本医師会の認知症に係る研修を受講した医師の有無



(注) 都道府県及び指定都市が認知症地域医療支援事業として実施する研修事業で「認知症サポート医養成研修事業」と「かかりつけ医認知症対応力向上研修事業」がある。

### 3) 慢性疾患に係る適切な研修の受講状況

図表 111 慢性疾患に係る適切な研修を受講した医師の有無



図表 112 慢性疾患に係る適切な研修を受講した医師数（研修を受講した医師がいる施設）

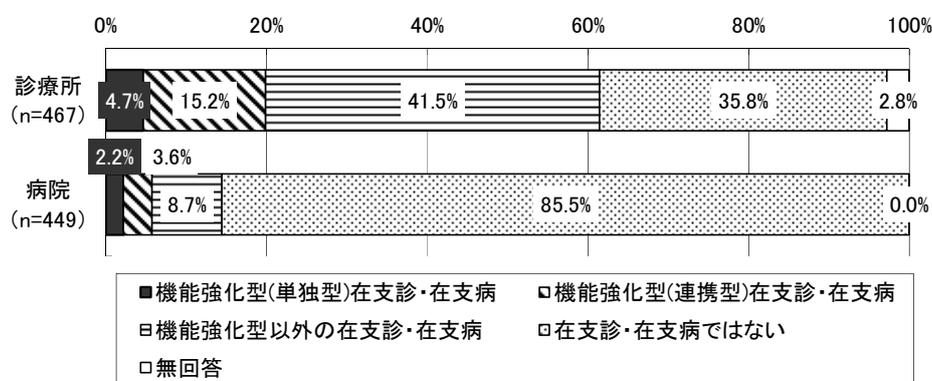
（単位：人）

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	310	1.3	0.8	1.0
病院	61	2.6	2.6	1.0

（注）慢性疾患に係る適切な研修を受講した医師がいる施設で、受講した医師の人数について回答のあった施設を集計対象とした。

⑦在宅療養支援診療所・病院の状況

図表 113 在宅療養支援診療所・病院の状況



⑧地域包括診療料等の施設基準の届出状況

1) 診療所

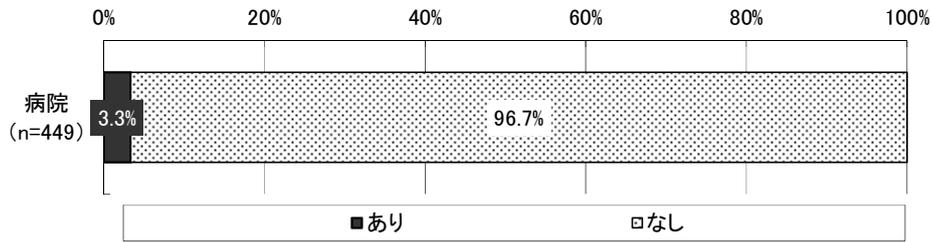
対象施設を抽出した際には、地域包括診療料、地域包括診療加算、小児かかりつけ診療料のいずれかの届出をしている診療所の中から抽出したが、各施設基準の届出施設は次のようになった。

図表 114 診療所における地域包括診療料等の施設基準の届出状況（複数回答、n=467）



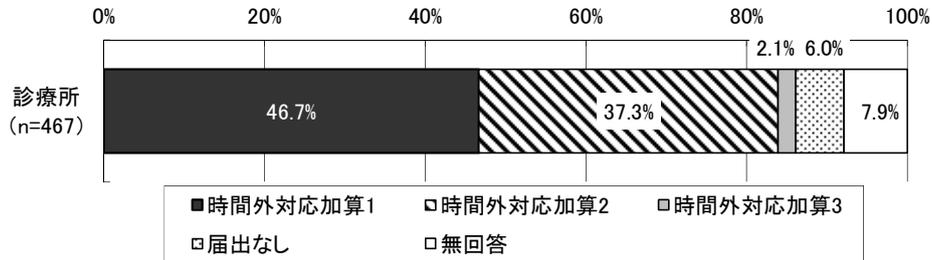
2) 病院

図表 115 病院における地域包括診療料の施設基準の届出状況



⑨診療所における時間外対応加算の種類

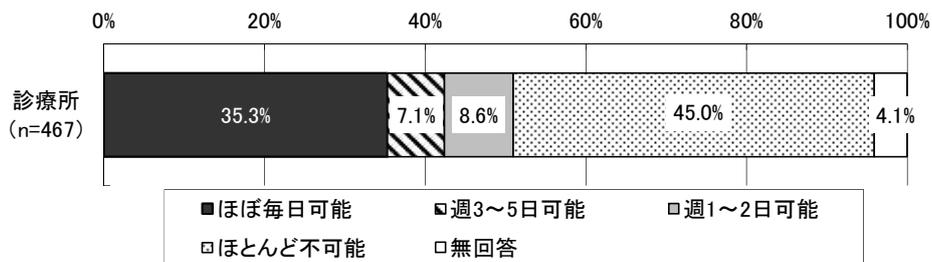
図表 116 診療所における時間外対応加算の種類



⑩救急医療体制等

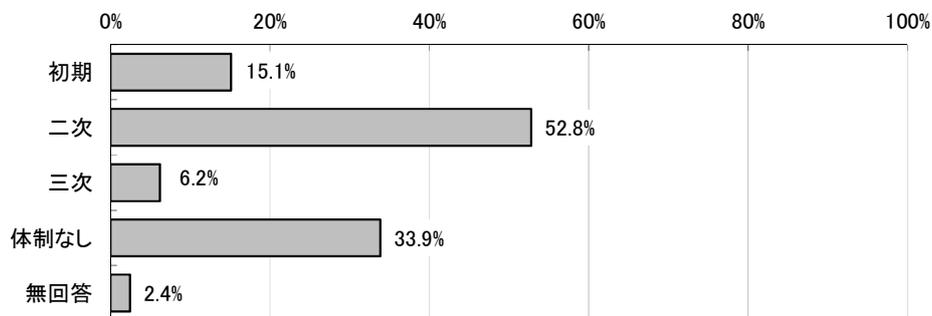
1) 診療所における現在の夜間救急対応の可否

図表 117 診療所における現在の夜間救急対応の可否



## 2) 病院における救急医療体制

図表 118 病院における救急医療体制（複数回答、n=449）

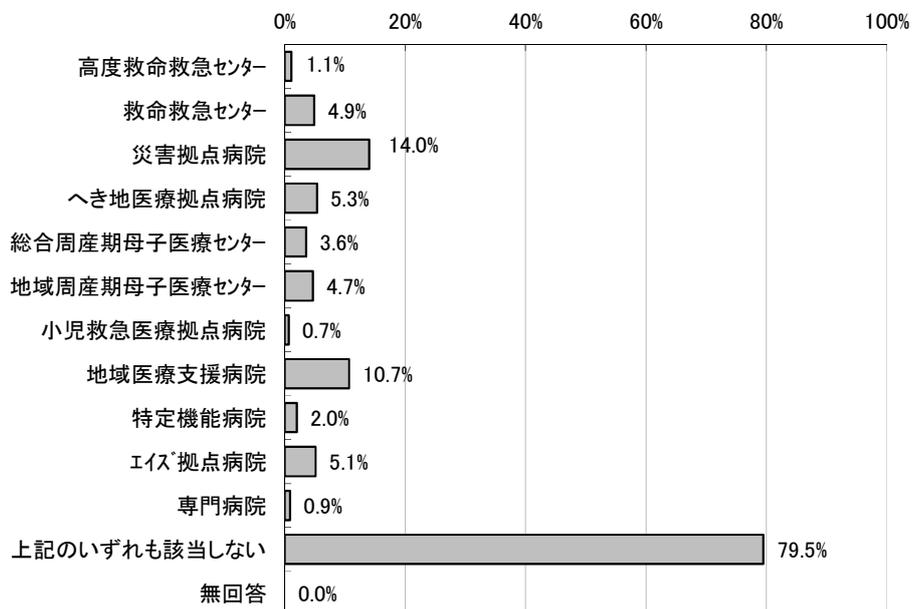


(注) 定義は以下のとおり。

- ・ 初期：軽度の救急患者への夜間・休日における診療を行う医療施設
- ・ 二次：入院を要する救急医療施設
- ・ 三次：救命救急医療センター

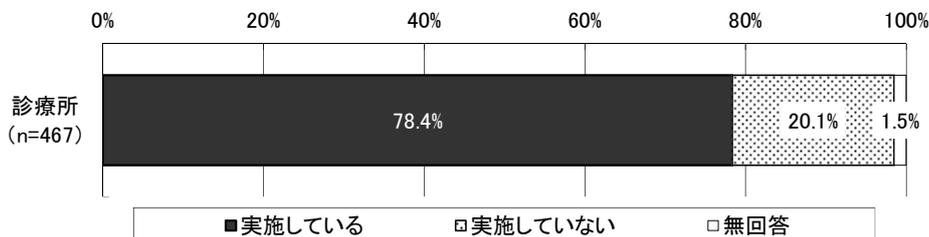
### ⑪病院における承認等の状況

図表 119 病院における承認等の状況（複数回答、n=449）

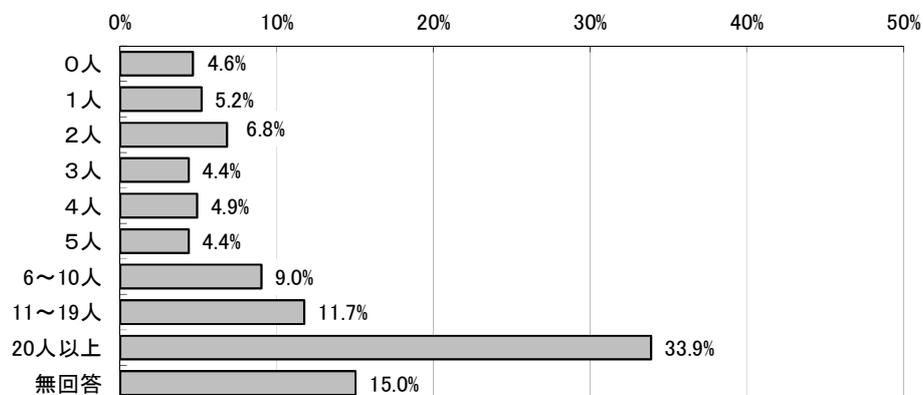


⑫診療所における在宅医療の実施状況

図表 120 診療所における在宅医療の実施状況



図表 121 平成 29 年 6 月 1 か月間の在宅医療患者数（実人数）  
（在宅医療を「実施している」と回答した診療所、単数回答、n=366）



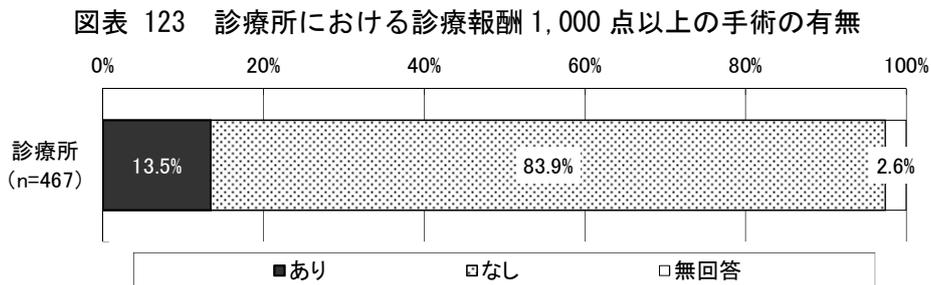
図表 122 平成 29 年 6 月 1 か月間の在宅医療患者数（実人数、n=311）

（単位：人）

平均値	標準偏差	中央値
43.6	88.7	12.0

（注）在宅医療を実施していると回答した 366 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の在宅医療患者数（実人数）について回答のあった 311 施設を集計対象とした。

⑬診療所における診療報酬 1,000 点以上の手術の有無



図表 124 平成 29 年 6 月 1 か月間の 1,000 点以上の手術件数  
(1,000 点以上の手術件数が「有」と回答した施設、n=58)

(単位：件)

平均値	標準偏差	中央値
14.4	42.2	5.0

(注) 診療報酬 1,000 点以上の手術が「あり」と回答した 63 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間の 1,000 点以上の手術件数について回答のあった 58 施設を集計対象とした。

## (2) 外来診療の状況

### ①外来患者数

#### 1) 診療所

図表 125 平成 29 年 6 月 1 か月間の外来患者数（診療所）

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	439	152.2	327.2	73.0
再診延べ患者数	441	1,131.1	2,705.4	821.0

(注) 初診患者数、再診延べ患者数についてそれぞれ回答のあった施設を集計対象とした。

#### 2) 病院

図表 126 平成 29 年 6 月 1 か月間の外来患者数（病院）

(単位：人)

	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	435	594.0	854.5	255.0
再診延べ患者数	435	5,685.2	8,618.6	2,677.0

(注) 初診患者数、再診延べ患者数についてそれぞれ回答のあった施設を集計対象とした。

### ②各診療報酬の算定患者数と算定回数

#### 1) 地域包括診療料

図表 127 平成 29 年 6 月 1 か月間における地域包括診療料の算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=73）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	34.5	77.2	2.0
算定回数(回)	34.5	77.2	2.0

(注) 地域包括診療料の届出施設 75 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に地域包括診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 73 施設を集計対象とした。

図表 128 平成 29 年 6 月 1 か月間における地域包括診療料の算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=14）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	12.6	32.2	0.0
算定回数(回)	12.6	32.2	0.0

(注) 地域包括診療料の届出施設 15 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に地域包括診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 14 施設を集計対象とした。

## 2) 地域包括診療加算

図表 129 平成 29 年 6 月 1 か月間における地域包括診療加算の  
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=299）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	156.7	183.8	115.0
算定回数(回)	235.3	269.8	169.0

(注) 地域包括診療加算の届出施設（診療所 322 施設）のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に地域包括診療加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

## 3) 認知症地域包括診療料

図表 130 平成 29 年 6 月 1 か月間における認知症地域包括診療料の  
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=73）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	9.9	53.7	0.0
算定回数(回)	9.9	53.7	0.0

(注) 地域包括診療料の届出施設 75 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に認知症地域包括診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった 73 施設を集計対象とした。

図表 131 平成 29 年 6 月 1 か月間における認知症地域包括診療料の  
算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=15）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	1.3	2.9	0.0
算定回数(回)	1.3	2.9	0.0

(注) 地域包括診療料の届出施設 15 施設を集計対象とした。

## 4) 認知症地域包括診療加算

図表 132 平成 29 年 6 月 1 か月間における認知症地域包括診療加算の  
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=287）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	5.5	14.4	0.0
算定回数(回)	7.8	18.1	0.0

(注) 地域包括診療加算の届出施設（診療所 322 施設）のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に認知症地域包括診療加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

5) 小児かかりつけ診療料

図表 133 平成 29 年 6 月 1 か月間における小児かかりつけ診療料の  
算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=54）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	71.3	130.8	3.5
算定回数(回)	131.5	263.6	7.5

(注) 小児かかりつけ診療料の届出施設（診療所 63 施設）のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に小児かかりつけ診療料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

6) 薬剤総合評価調整加算

図表 134 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整加算（250 点、入院）の  
算定患者数（実人数）と算定回数（有床診療所、n=65）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.0	0.4	0.0
算定回数(回)	0.0	0.4	0.0

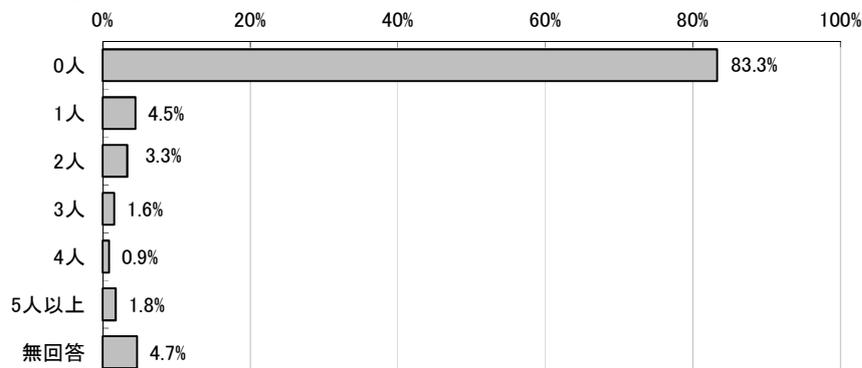
(注) 有床診療所 81 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 135 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整加算（250 点、入院）の  
算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=428）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.4	1.3	0.0
算定回数(回)	0.4	1.3	0.0

(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整加算を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 136 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整加算（250 点、入院）の  
算定患者数（実人数）別 施設分布（病院、n=449）



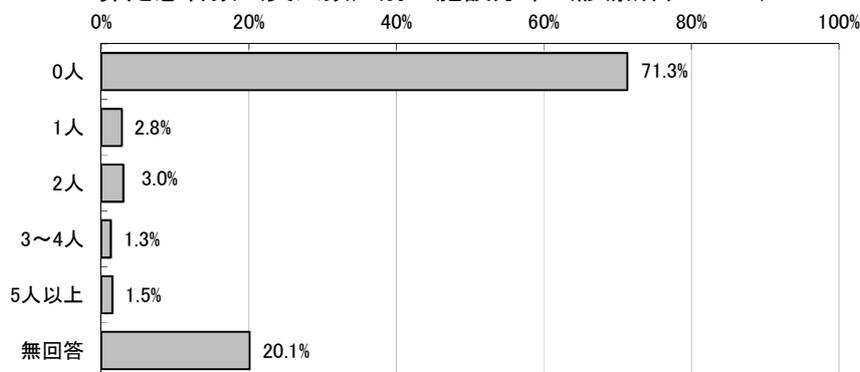
7) 薬剤総合評価調整管理料

図表 137 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）と算定回数（診療所、n=373）

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.3	1.0	0.0
算定回数(回)	0.3	1.0	0.0

(注) 診療所 467 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整管理料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 138 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）別 施設分布（診療所、n=467）

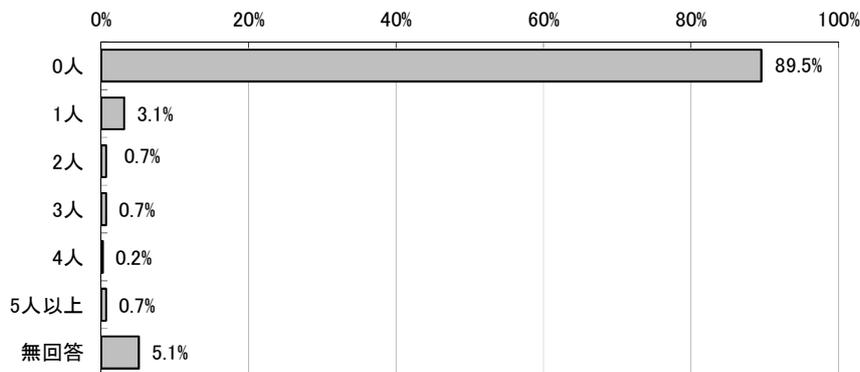


図表 139 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）と算定回数（病院、n=426）

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.1	0.6	0.0
算定回数(回)	0.1	0.6	0.0

(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に薬剤総合評価調整管理料を算定した患者数（実人数）と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 140 平成 29 年 6 月 1 か月間における薬剤総合評価調整管理料（250 点、入院以外）の算定患者数（実人数）別 施設分布（病院、n=449）



8) 連携管理加算

図表 141 平成 29 年 6 月 1 か月間における連携管理加算 (50 点)の  
算定患者数 (実人数) と算定回数 (診療所、n=369)

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.1	0.5	0.0
算定回数(回)	0.1	0.5	0.0

(注) 診療所 467 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に連携管理加算を算定した患者数 (実人数) と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 142 平成 29 年 6 月 1 か月間における連携管理加算 (50 点)の  
算定患者数 (実人数) と算定回数 (病院、n=420)

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.0	0.0	0.0
算定回数(回)	0.0	0.0	0.0

(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に連携管理加算を算定した患者数 (実人数) と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。病院における実績はなかった。

9) 在宅患者訪問薬剤管理指導料

図表 143 平成 29 年 6 月 1 か月間における在宅患者訪問薬剤管理指導料の  
算定患者数 (実人数) と算定回数 (診療所、n=368)

	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	1.0	18.3	0.0
算定回数(回)	1.4	26.1	0.0

(注) 診療所 467 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定した患者数 (実人数) と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

図表 144 平成 29 年 6 月 1 か月間における在宅患者訪問薬剤管理指導料の  
算定患者数 (実人数) と算定回数 (病院、n=422)

施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
算定患者数(人)	0.0	0.3	0.0
算定回数(回)	0.0	0.5	0.0

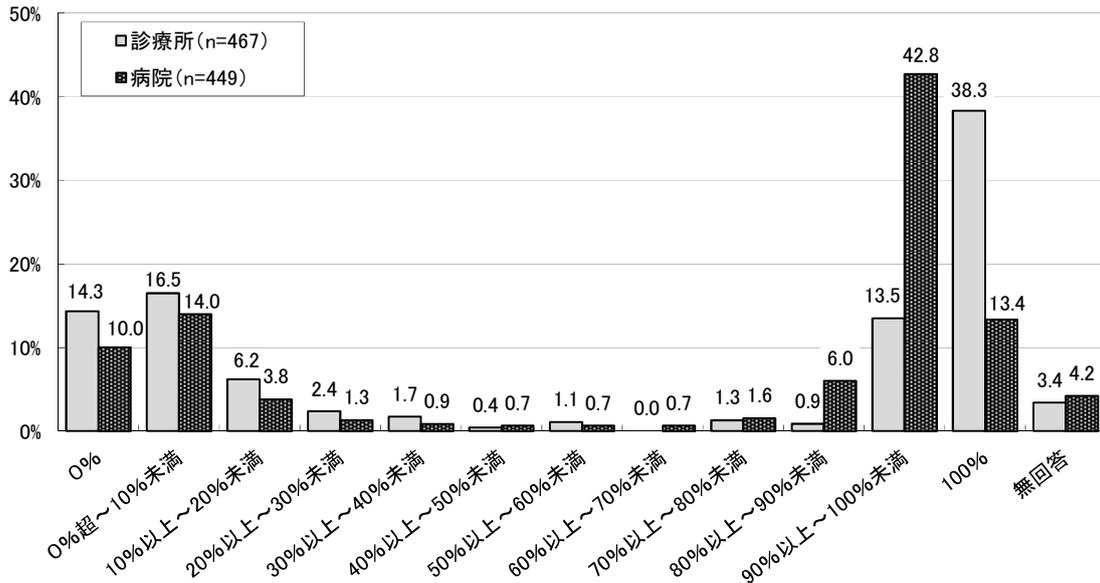
(注) 病院 449 施設のうち、平成 29 年 6 月 1 か月間に在宅患者訪問薬剤管理指導料を算定した患者数 (実人数) と算定回数のいずれも回答のあった施設を集計対象とした。

### (3) 医薬品の処方状況や保険薬局との連携状況等

#### ①外来における院外処方率

外来における院外処方率をみると、院外処方率が「100%」の施設は診療所では 38.3%、病院では 13.4%であった。これに「90%以上～100%未満」を合わせた割合（院外処方率が90%以上の施設）は、診療所では 51.8%、病院では 56.2%と 5 割以上となった。

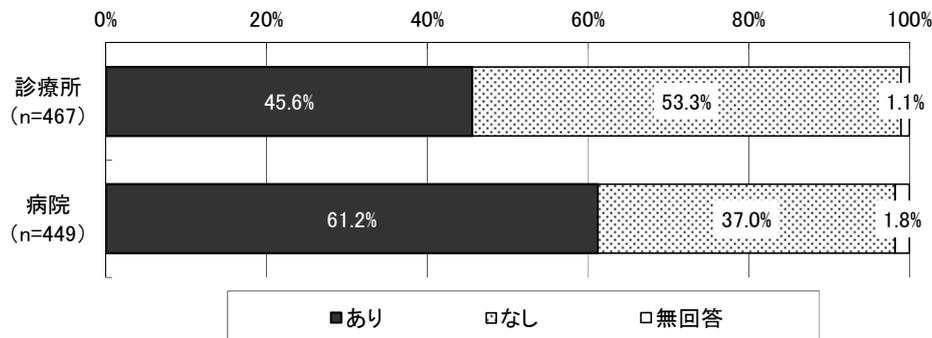
図表 145 外来における院外処方率



#### ②いわゆる門前薬局の有無

いわゆる門前薬局の有無についてみると、「あり」の割合は診療所では 45.6%、病院では 61.2%であった。

図表 146 いわゆる門前薬局の有無

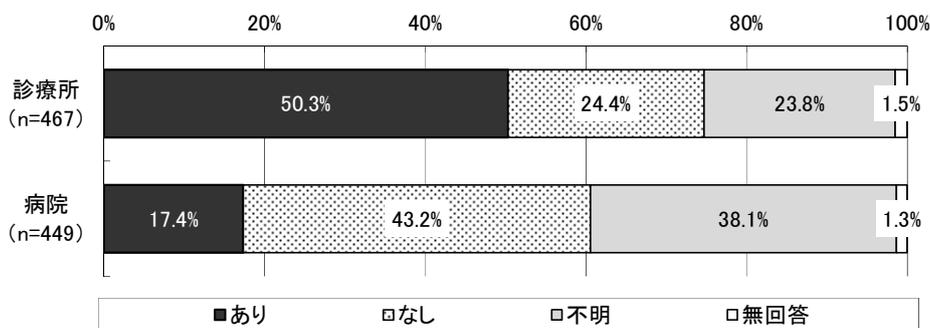


(注) いわゆる門前薬局には同一敷地内にある薬局も含む。

### ③地域における 24 時間対応の薬局の有無

地域における 24 時間対応の薬局の有無についてみると、「あり」の割合は診療所では 50.3%、病院では 17.4%であった。「不明」という回答も診療所では 23.8%、病院では 38.1%あった。

図表 147 地域における 24 時間対応の薬局の有無

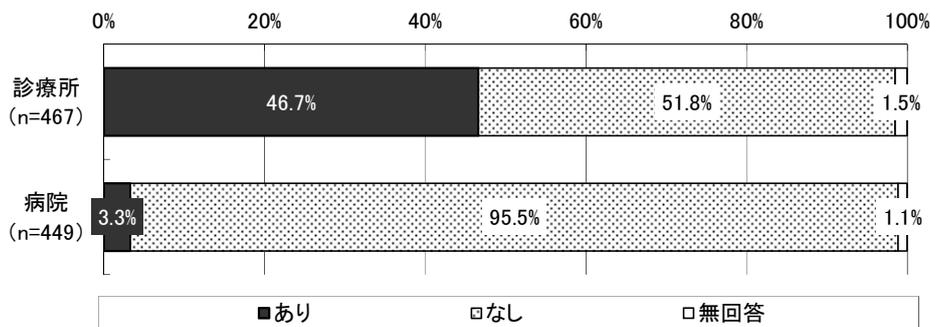


### ④連携している 24 時間対応の薬局の状況

連携している 24 時間対応の薬局の有無についてみると、「あり」の割合は、診療所では 46.7%、病院では 3.3%であった。

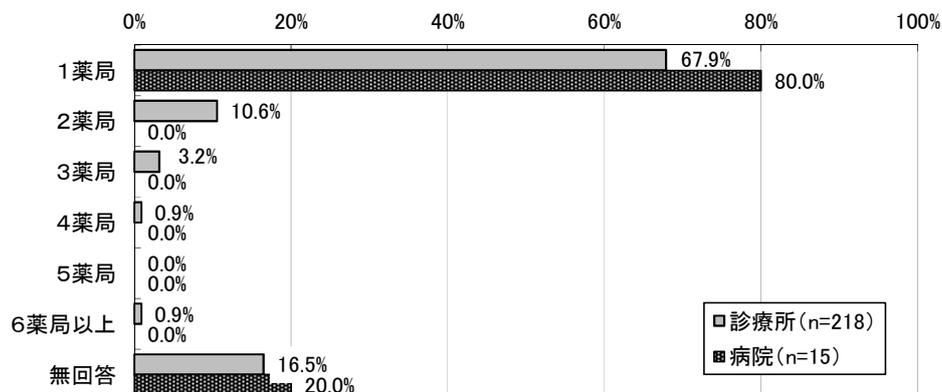
連携している薬局数をみると、「1 薬局」が診療所では 67.9%、病院では 80.0%で最も多かった。

図表 148 連携している 24 時間対応の薬局の有無



(注) ここでの「連携している薬局」とは、地域包括診療料等の算定に当たって連携している薬局を指す。

図表 149 連携している 24 時間対応の薬局数別施設分布  
 (連携している 24 時間対応の薬局が「あり」と回答した施設)



図表 150 連携している 24 時間対応の薬局数  
 (連携している 24 時間対応の薬局が「あり」と回答した施設)

(単位：薬局)

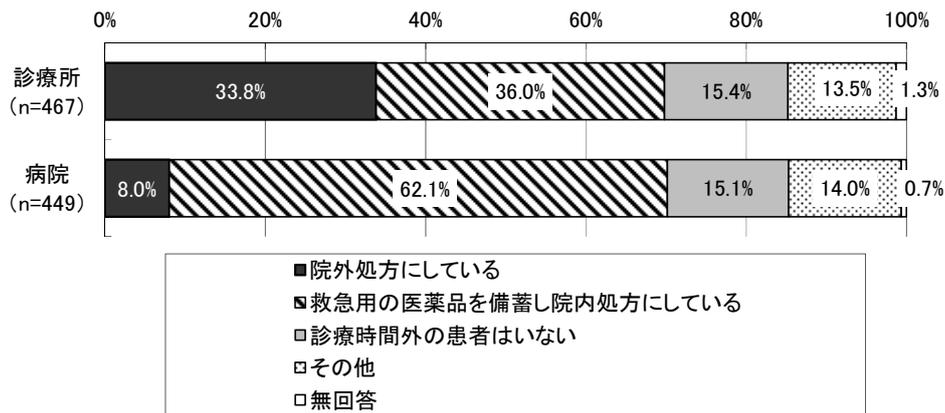
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	182	1.3	0.9	1.0
病院	12	1.0	0.0	1.0

(注) 連携している 24 時間対応の薬局があると回答した施設のうち、連携している 24 時間対応の薬局数について回答のあった施設を集計対象とした。

### ⑤診療時間外の外来患者に対する処方状況

診療時間外の外来患者に対する処方状況についてみると、診療所、病院ともに「救急用の医薬品を備蓄し院内処方している」の割合が高かった。特に病院では 62.1%と診療所（36.0%）と比較しても高かった。一方、診療所では「院外処方している」の割合が 33.8%と病院（8.0%）と比べて高くなっている。

図表 151 診療時間外の外来患者に対する処方状況



(注) 「その他」の内容は以下のとおり。

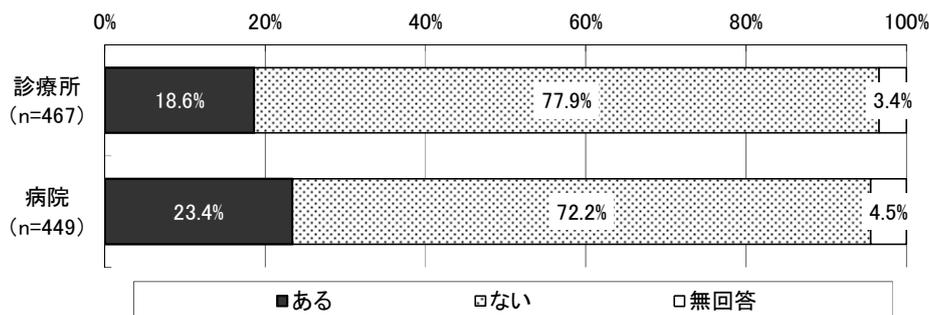
診療所：「院外処方し、開いている薬局を紹介している」、「症状・時間に合わせて院外にしたり、院内にしたりしている」等が挙げられた。

病 院：「22時まで院外、22時～翌日8時30分まで院内」、「準夜帯は院外、深夜は院内」、「外来患者に処方を行っていない」等が挙げられた。

### ⑥院外処方せんにおける残薬確認のチェック状況

平成 29 年 4 月以降の、院外処方せんにおいて残薬確認をした場合の対応欄に「レ」又は「×」を記した処方せんを発行した経験の有無についてみると、「ある」の割合は、診療所では 18.6%、病院では 23.4%であった。

図表 152 院外処方せんにおける残薬確認をした場合の対応欄にチェックをした経験の有無（平成 29 年 4 月以降）



(注) 平成 29 年 4 月以降、院外処方せんにおいて残薬確認をした場合の対応欄に「レ」または「×」を記した処方せんを発行した経験の有無を尋ねた質問。

図表 153 院外処方せんにおける残薬確認をした場合の対応欄にチェックをした処方せんの枚数（平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間、診療所、n=74）

	平均値	標準偏差	中央値
①チェックした処方せんの発行枚数(枚)	1,042.3	1,524.7	80.0
②残薬確認の結果、処方日数調整を行った処方せんの発行枚数(枚)	30.6	78.2	9.0
③②/①	2.9%	-	11.3%

(注) 平成 29 年 4 月以降、チェックした院外処方せんを発行した 87 施設のうち、該当の処方せん枚数のいずれにも回答のあった 74 施設を集計対象とした。

図表 154 院外処方せんにおける残薬確認をした場合の対応欄にチェックをした処方せんの枚数（平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間、病院、n=66）

	平均値	標準偏差	中央値
①チェックした処方せんの発行枚数(枚)	2,429.9	5,866.1	51.5
②残薬確認の結果、処方日数調整を行った処方せんの発行枚数(枚)	44.5	84.6	7.5
③②/①	1.8%	-	14.6%

(注) 平成 29 年 4 月以降、チェックした院外処方せんを発行した施設のうち、該当の処方せん枚数のいずれにも回答のあった 66 施設を集計対象とした。

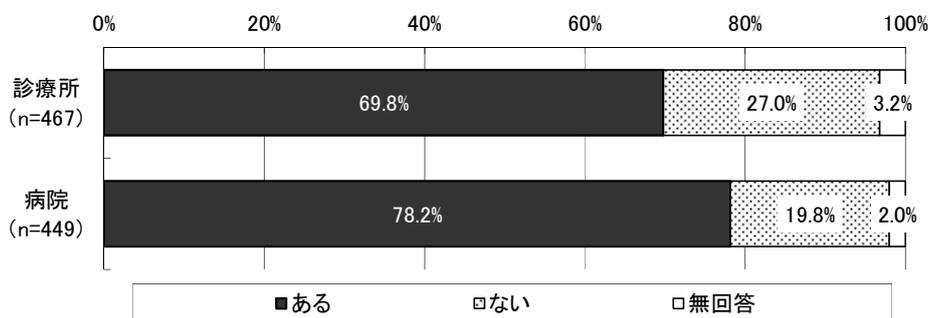
⑦院外処方せんにおける長期投薬の処方せんの発行状況等

1) 院外処方せんにおける長期投薬の処方せんの発行状況

平成 29 年 4 月以降の、院外処方せんにおいて 30 日を超える長期投薬の処方せんを発行した経験の有無についてみると、「ある」の割合は診療所では 69.8%、病院では 78.2%であった。

平成 29 年 4 月～6 月までの 3 か月間における、30 日を超える長期投薬の処方せんの発行枚数の中央値は、診療所では 43.5 枚、病院では 700.0 枚であった。

図表 155 院外処方せんにおける 30 日を超える長期投薬の処方せんの発行経験の有無  
(平成 29 年 4 月以降)



図表 156 院外処方せんにおける 30 日を超える長期投薬の処方せん発行枚数  
(平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間)

(単位：枚)

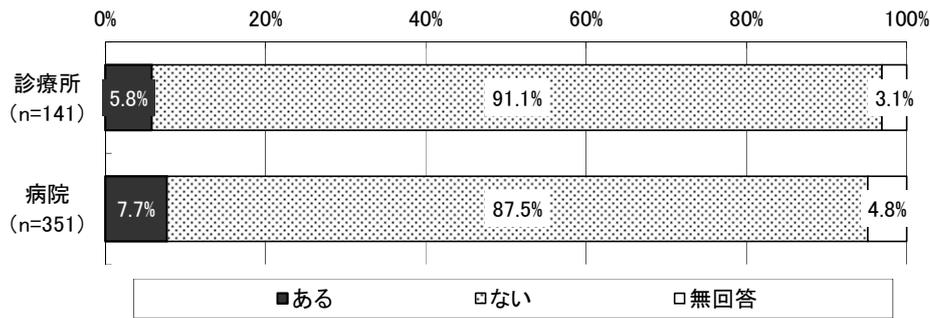
	施設数(件)	平均値	標準偏差	中央値
診療所	286	345.6	727.6	43.5
病院	257	2,461.7	4,006.9	700.0

(注) 平成 29 年 4 月以降、長期投薬の処方せんを発行した経験があると回答した施設のうち、該当処方せん枚数について回答のあった施設を集計対象とした。

## 2) 院外処方せんにおける分割指示を行った処方せんの発行状況

平成 29 年 4 月～6 月の 3 か月間に発行した 30 日を超える長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行った処方せんがあるか否かを尋ねたところ、「ある」という回答が診療所では 5.8%、病院では 7.7%であった。

図表 157 長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行った処方せんの有無  
(平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月の 3 か月間、長期投薬を行った処方せんのある施設)

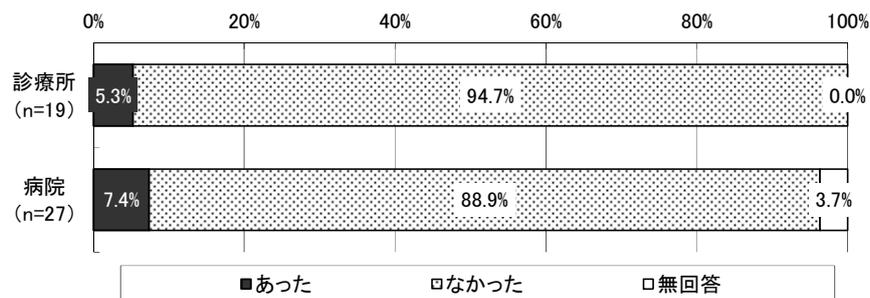


図表 158 長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行ってよかったこと  
(分割指示を行った処方せんのある施設、自由記述式)

<b>【診療所】</b>
・ 飲み間違いが減った。
・ 保管するのに間違いにくかった (施設入所者)。
・ 内服が確実となり、残薬が減っている。 / 等
<b>【病院】</b>
・ 飲み間違いが減った。
・ 薬の紛失が減った。 / 等

分割指示を行った施設における、分割指示を行ったことによる問題の有無をみると、「あった」という回答が診療所では 5.3%、病院では 7.4%であった。これらの施設に問題点を尋ねたが、具体的な記述はなかった。

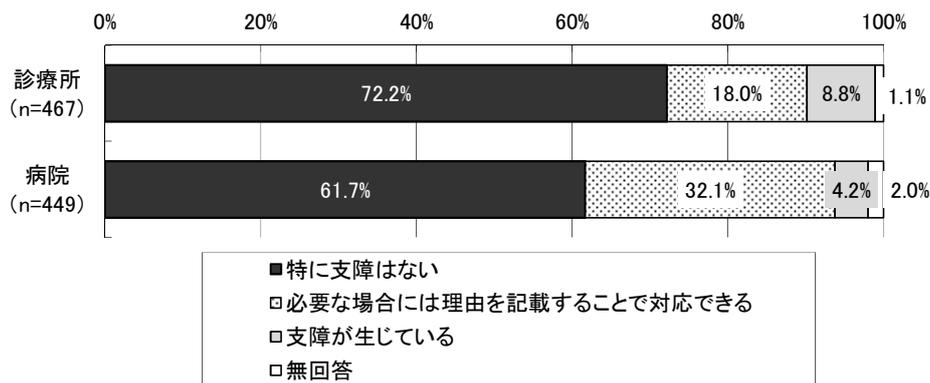
図表 159 長期投薬の処方せんのうち、分割指示を行ったことによる問題の有無  
(分割指示を行った処方せんのある施設)



### ⑧湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響

湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響についてみると、「特に支障はない」が診療所では 72.2%、病院では 61.7%であり、最も多かった。次いで「必要な場合には理由を記載することで対応できる」が、診療所では 18.0%、病院では 32.1%であった。一方、「支障が生じている」が、診療所では 8.8%、病院では 4.2%であった。

図表 160 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる治療上の影響



図表 161 湿布薬の処方に関する規定が新設されたことによる支障の内容  
 (「支障が生じている」と回答した施設、自由記述式)

#### 【診療所】

- ・高齢者で使用枚数が多く再々の来院が困難な患者もいる。
- ・冬期間、高齢者等が受診することは困難。
- ・遠方の患者の交通費・時間等がかかる。
- ・不足分を購入していると（患者からの）不満。
- ・内服薬はあるのに湿布薬が足りなくなるとのクレームがあった。
- ・処方せんやレセプトに理由を記載しても 70 枚に査定される。 / 等

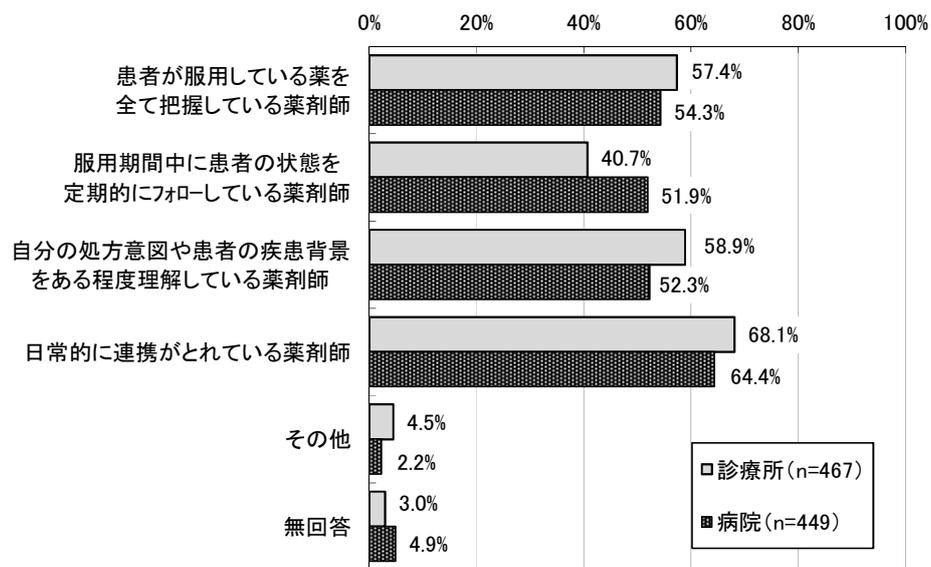
#### 【病院】

- ・毎回、処方枚数合計や使用部位、1 日の使用量を記載しなければならないので手間。
- ・通院困難な、特に高齢者への対応。
- ・足りない患者が多い。
- ・不足分を OTC 薬等で対応し、皮膚炎を広範囲に発症した患者がいた。
- ・長期処方を進めているが、湿布薬については必要枚数が出せない。
- ・湿布薬が足りないとの訴えあり。
- ・患者から不満が出ている。 / 等

### ⑨薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師

残薬、重複投薬・多剤投薬の改善など薬剤の適正使用を進めるにあたり、どのような薬局薬剤師であれば連携を図りたいと考えるかを尋ねたところ、診療所、病院ともに「日常的に連携がとれている薬剤師」（診療所 68.1%、病院 64.4%）が最も多かった。次いで、診療所では「自分の処方意図や患者の疾患背景をある程度理解している薬剤師」（58.9%）が、病院では「患者が服用している薬を全て把握している薬剤師」（54.3%）が多かった。病院では「その他」以外のいずれの項目も5割を超えている。

図表 162 薬剤の適正使用を進める上で連携を図りたいと考える薬局薬剤師（複数回答）



(注) 「その他」の内容として、以下の内容が挙げられた。

診療所：「生活指導や地域包括ケアシステムに詳しい薬剤師」、「認知症の患者等にきちんと内服するよう指導できる薬剤師」、「訪問してチェックしてくれる薬剤師」等。

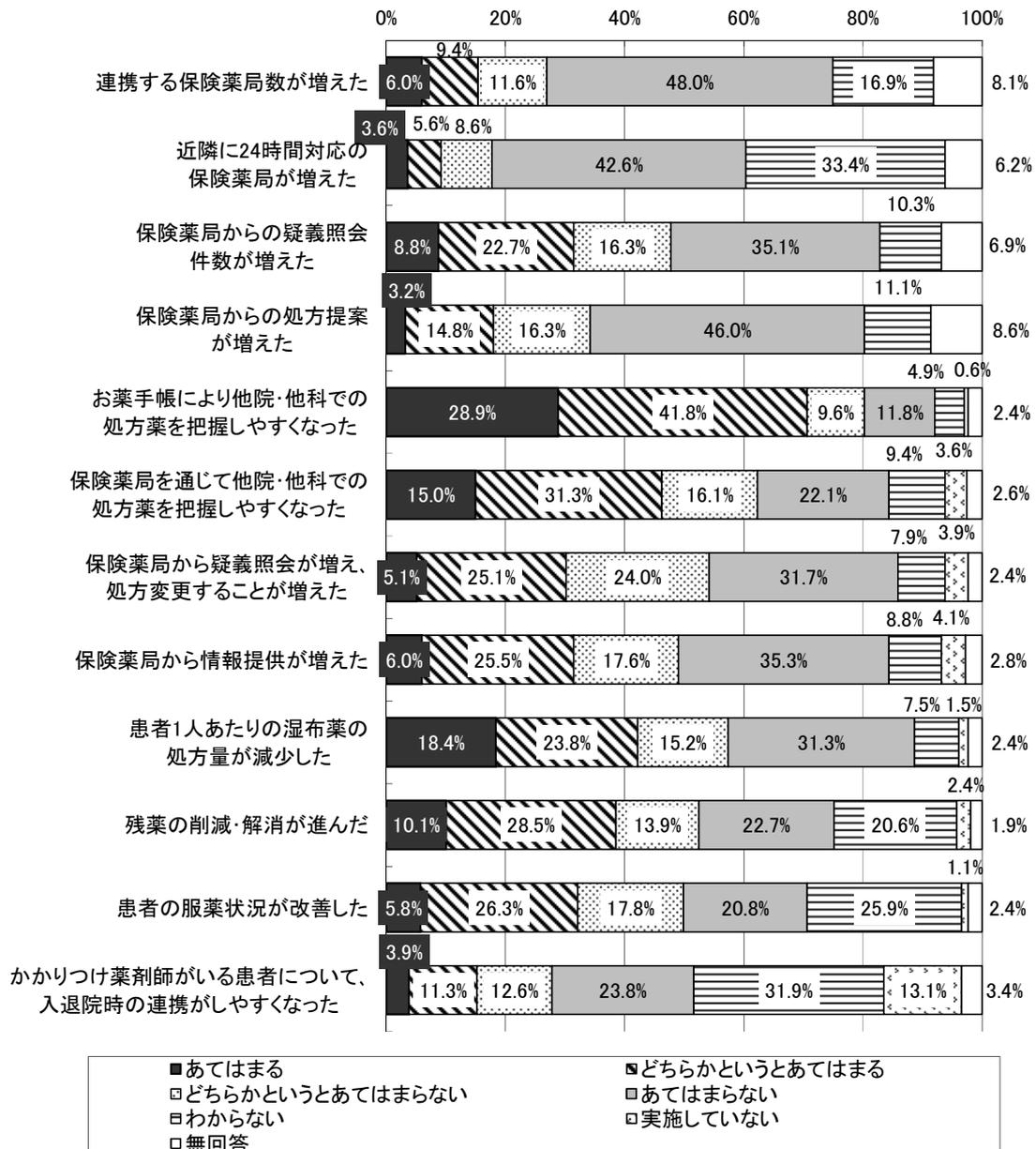
病院：「信頼関係が築けている薬剤師」、「精神疾患を有する患者、家族への理解が深い薬剤師」、「患者と信頼関係のある薬剤師」、「近い存在でコミュニケーションが十分にとれる薬剤師」、「連携システムが導入されている薬局の薬剤師」、「残薬調整をしっかりと行っている薬剤師」、「服薬アドヒアランスの把握ができていない薬剤師」、「患者にきっちりと指導できる薬剤師」等。

(4) 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等

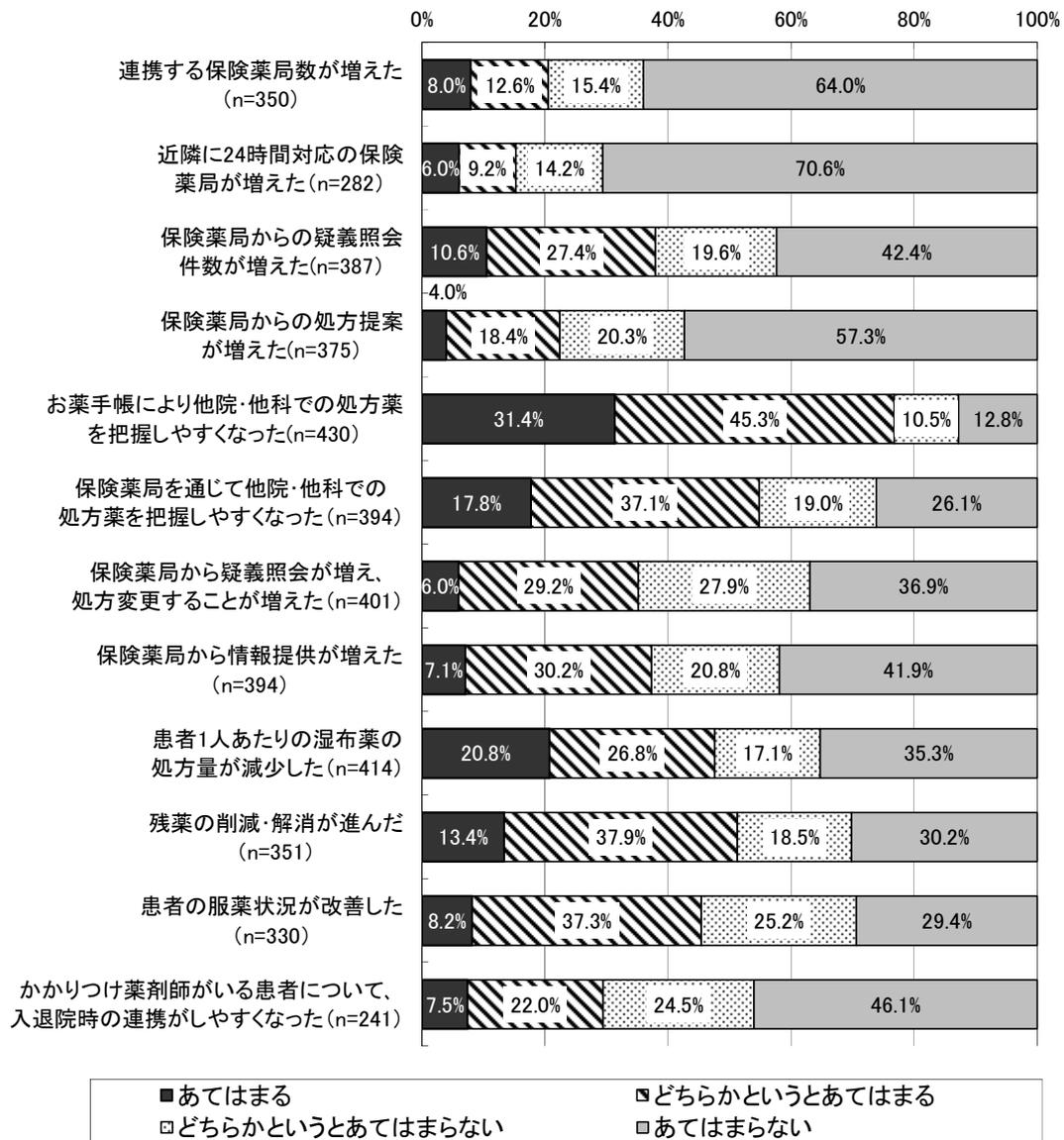
①診療所

診療所に対して、平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等を尋ねた結果が次の図表である。「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「お薬手帳により他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(70.7%)、「保険薬局を通じて他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(46.3%)、「患者 1 人あたりの湿布薬の処方量が減少した」(42.2%) であった。一方で、「あてはまらない」と「どちらかというにあてはまらない」の合計割合が高かったのは、「保険薬局からの処方提案が増えた」(62.3%)、「連携する保険薬局数が増えた」(59.6%) であった。

図表 163 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等 (診療所、n=467)



図表 164 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等（診療所、無回答等を除いたもの）

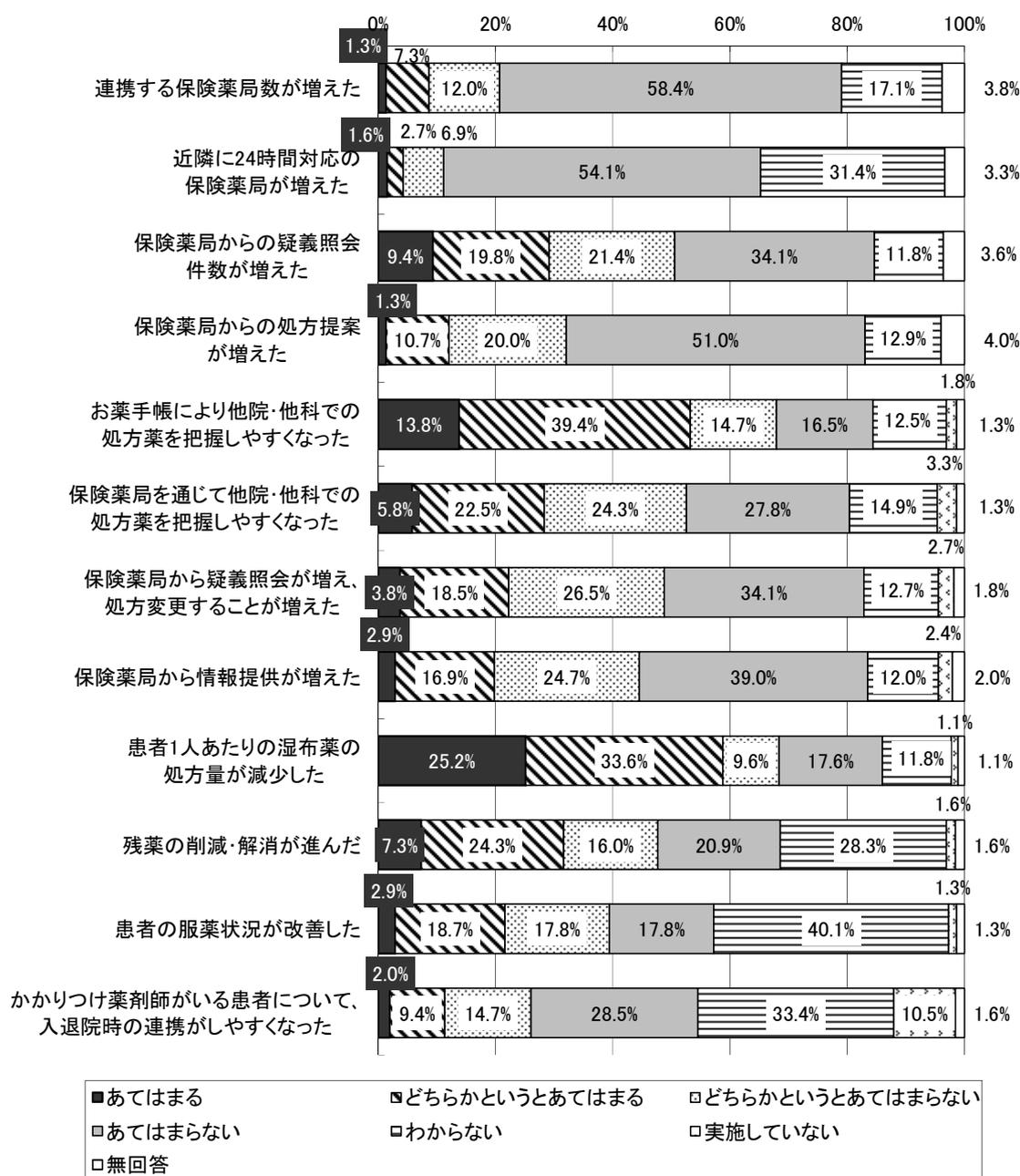


(注) 上記の図表は、本質問に対する選択肢で「わからない」、「実施していない」という回答、または無回答であったものを各項目について除外して集計した結果である。

## ②病院

同様に病院に対して、平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等を尋ねた結果をみると、「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合が高かったのは、「患者 1 人あたりの湿布薬の処方量が減少した」(58.8%)、「お薬手帳により他院・他科での処方薬を把握しやすくなった」(53.2%)であった。一方で、「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」の割合が高かったのは、「保険薬局からの処方提案が増えた」(71.0%)、「連携する保険薬局数が増えた」(70.4%)であった。診療所と比較して各項目で「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」の割合が高かった。

図表 165 平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等（病院、n=449）





## 4. 患者調査の結果

### 【調査対象等】

調査対象：「保険薬局調査」の対象施設に調査日に処方せんを持って来局した患者。1施設につき最大2名の患者を対象とした。なお、患者の抽出方法は、1) かかりつけ薬剤師指導料に同意している患者がいる場合、優先的に2名、2) 1) の該当患者がいない場合、来局順に患者2名を調査対象とした。

回答数：1,424人

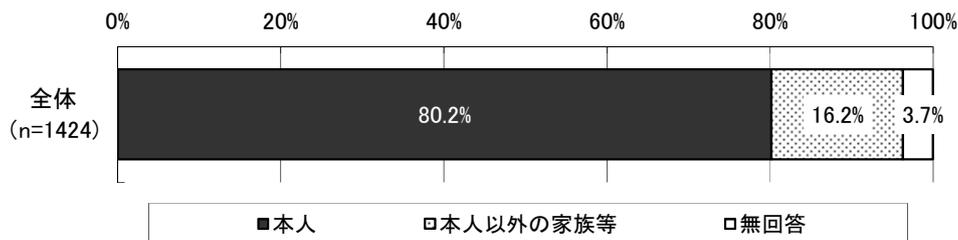
回答者：患者本人または家族

調査方法：調査対象薬局を通じて調査票を配布。回答した調査票の回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収。

### (0) 記入者の属性等

#### ① 記入者と患者の関係

図表 167 記入者と患者の関係

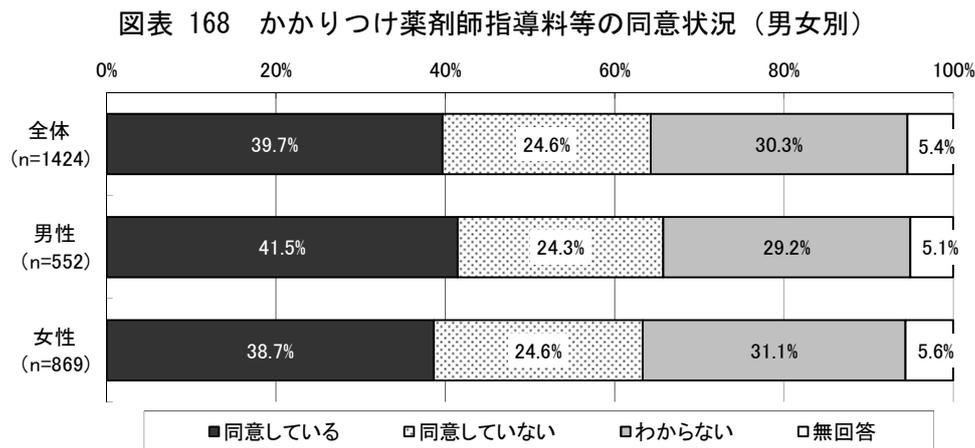


(注)「本人以外の家族」として、「母」、「妻」、「息子」、「娘」、「夫」、「孫」、「父」、「姪」、「保護者」等が挙げられた。

## (1) 回答者の属性等

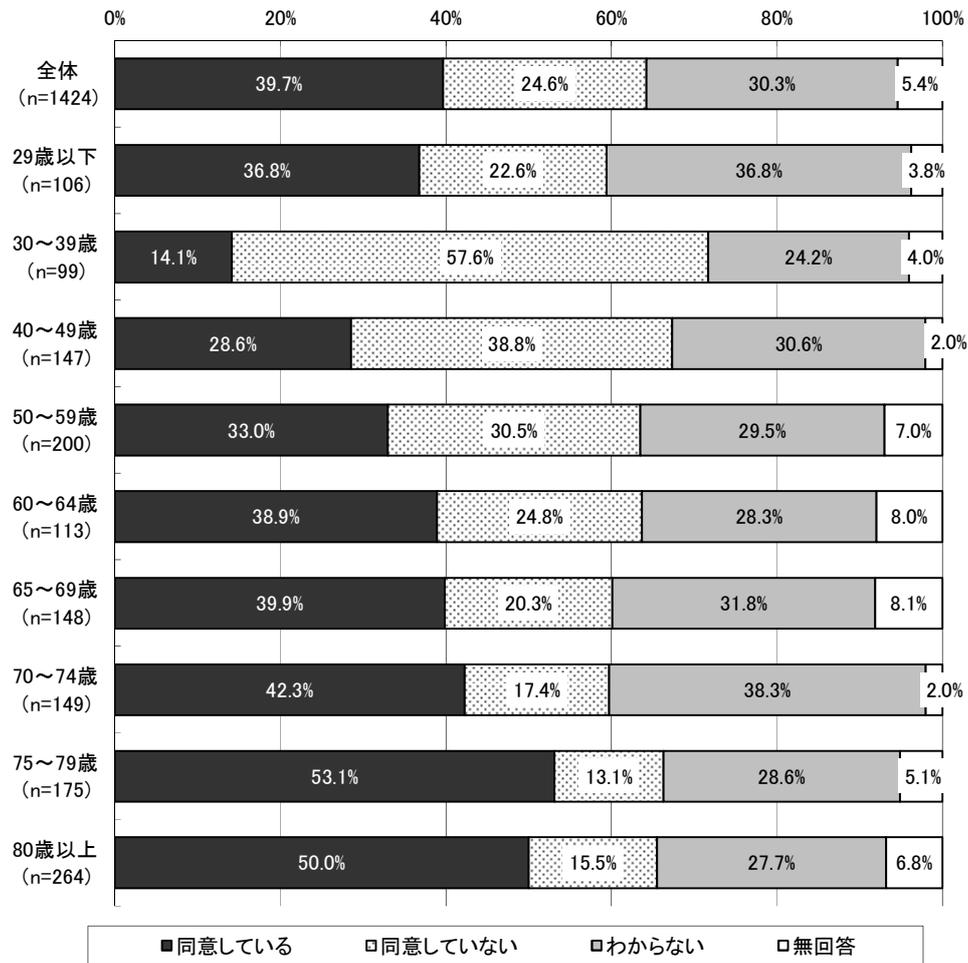
### ① かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況

かかりつけ薬剤師指導料等（かかりつけ薬剤師指導料及びかかりつけ薬剤師包括管理料）について「同意している」と回答した患者（以下、「同意している患者」）は39.7%、「同意していない」と回答した患者（以下、「同意していない患者」）は24.6%、「わからない」と回答した患者が30.3%であった。



(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

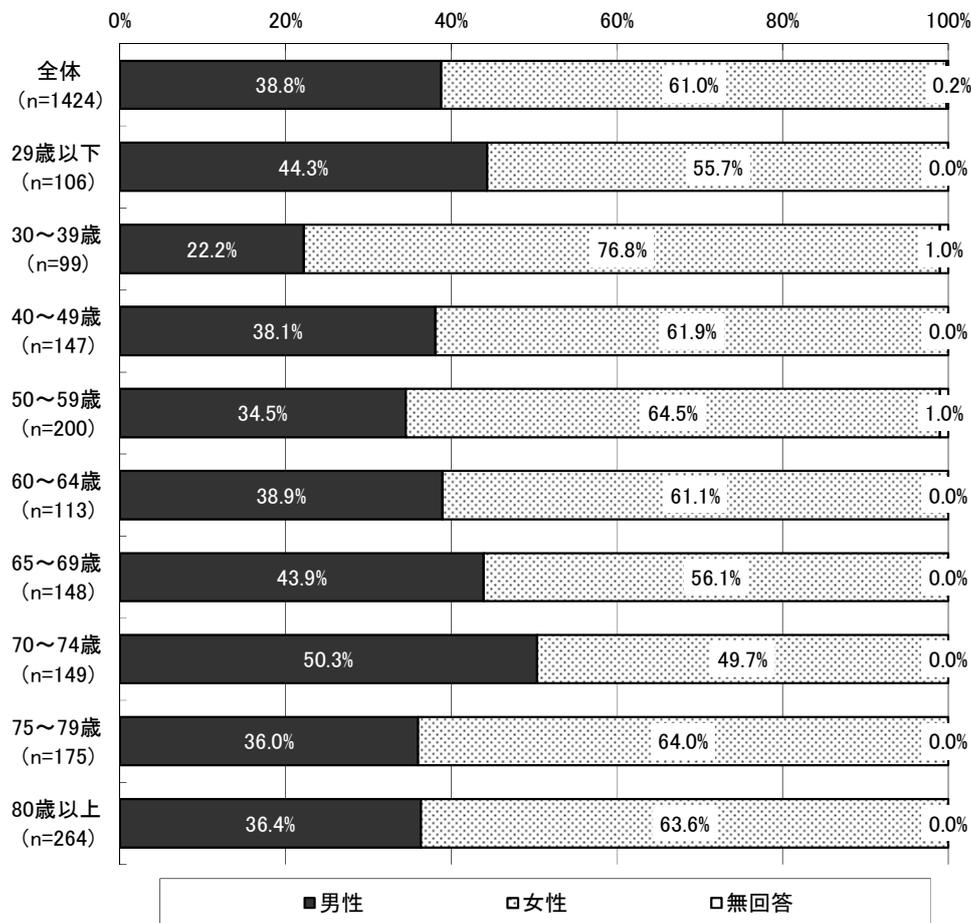
図表 169 かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

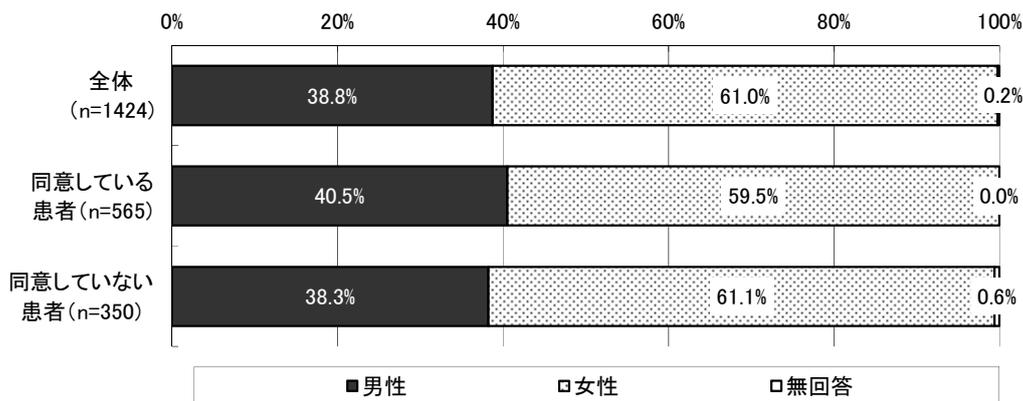
②性別

図表 170 性別



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

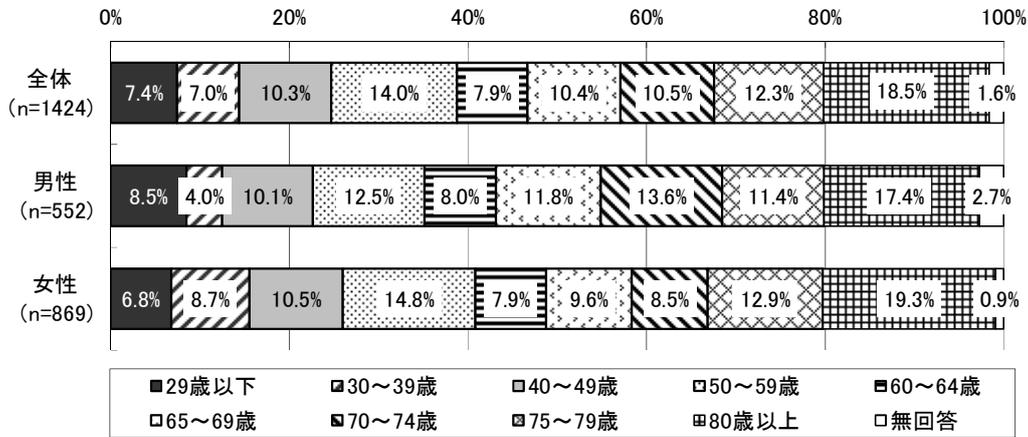
図表 171 性別（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

③年齢

図表 172 年齢分布（男女別）



(注) 「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

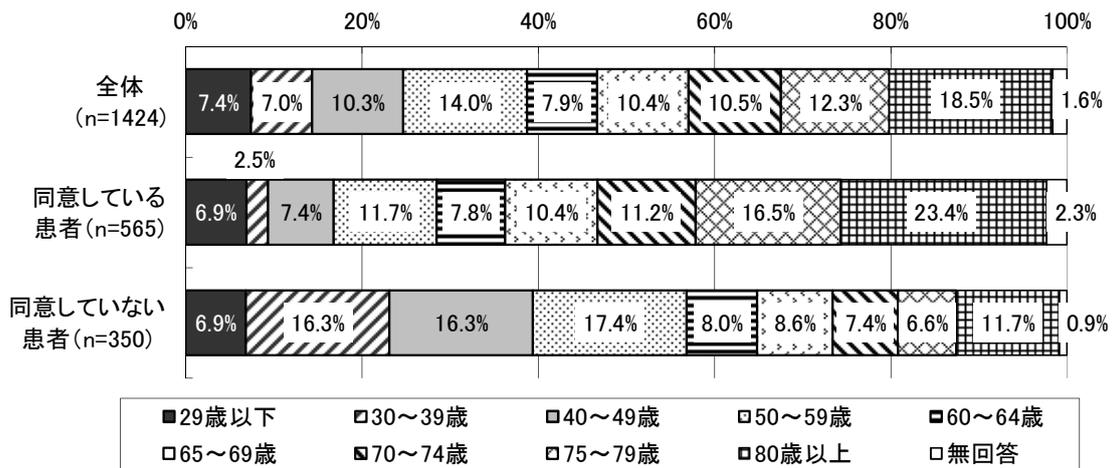
図表 173 平均年齢（男女別）

(単位：歳)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,401	61.4	20.1	66.0
男性	537	61.5	20.8	67.0
女性	861	61.4	19.7	65.0

(注) ・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。  
・年齢について記入のあったものを集計対象とした。

図表 174 年齢分布（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

図表 175 平均年齢（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

（単位：歳）

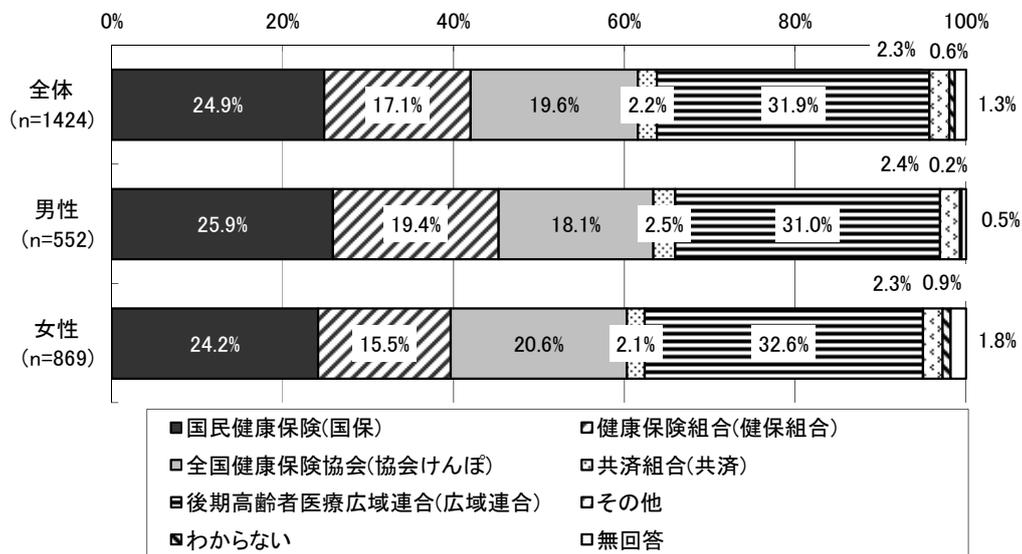
	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,401	61.4	20.1	66.0
同意している患者	552	65.2	19.8	70.0
同意していない患者	347	55.3	18.9	57.0

(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 502 人が含まれる。

・年齢について記入のあったものを集計対象とした。

#### ④ 公的医療保険の種類

図表 176 公的医療保険の種類（男女別）



(注)・「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

・「その他」の内容として、「生活保護」が挙げられた。

図表 177 公的医療保険の種類（年齢階級別）

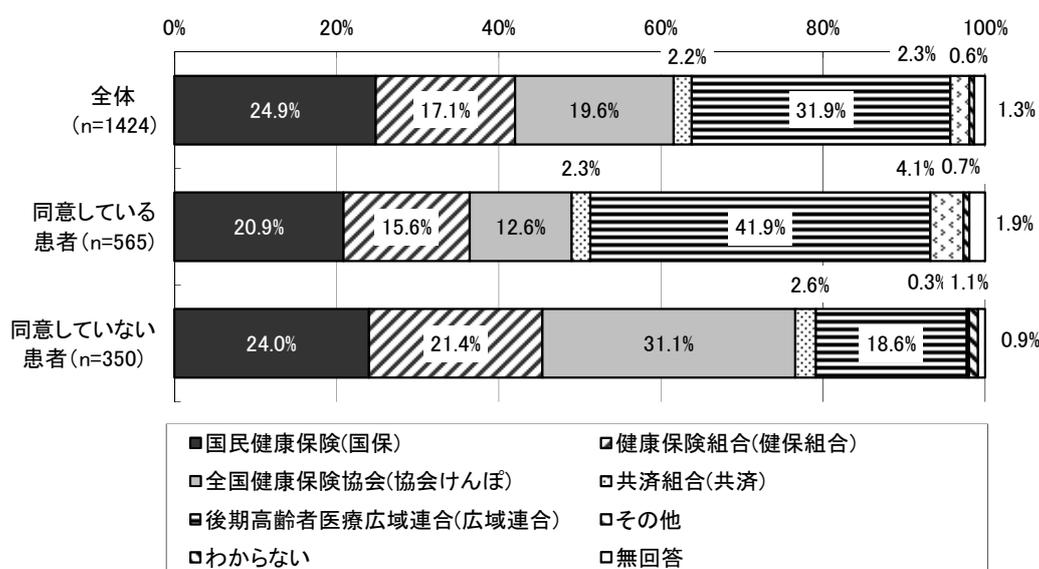
（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	国民健康 保険 (国保)	健康保険 組合 (健保 組合)	全国健康 保険協会 (協会け んぽ)	共済組合 (共済)	後期高齢 者医療広 域連合 (広域連 合)	その他	わか ら ない	無回 答
全体	1424 100.0	354 24.9	244 17.1	279 19.6	32 2.2	454 31.9	33 2.3	9 0.6	19 1.3
29歳以下	106 100.0	14 13.2	33 31.1	46 43.4	7 6.6	0 0.0	0 0.0	1 0.9	5 4.7
30～39歳	99 100.0	10 10.1	32 32.3	50 50.5	3 3.0	0 0.0	1 1.0	1 1.0	2 2.0
40～49歳	147 100.0	28 19.0	50 34.0	59 40.1	3 2.0	0 0.0	4 2.7	1 0.7	2 1.4
50～59歳	200 100.0	42 21.0	73 36.5	57 28.5	14 7.0	0 0.0	9 4.5	2 1.0	3 1.5
60～64歳	113 100.0	50 44.2	26 23.0	28 24.8	3 2.7	0 0.0	2 1.8	2 1.8	2 1.8
65～69歳	148 100.0	92 62.2	20 13.5	21 14.2	1 0.7	7 4.7	4 2.7	1 0.7	2 1.4
70～74歳	149 100.0	111 74.5	7 4.7	15 10.1	0 0.0	9 6.0	4 2.7	1 0.7	2 1.3
75～79歳	175 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	172 98.3	3 1.7	0 0.0	0 0.0
80歳以上	264 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	260 98.5	4 1.5	0 0.0	0 0.0

（注）・「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

・「その他」の内容として、「生活保護」が挙げられた。

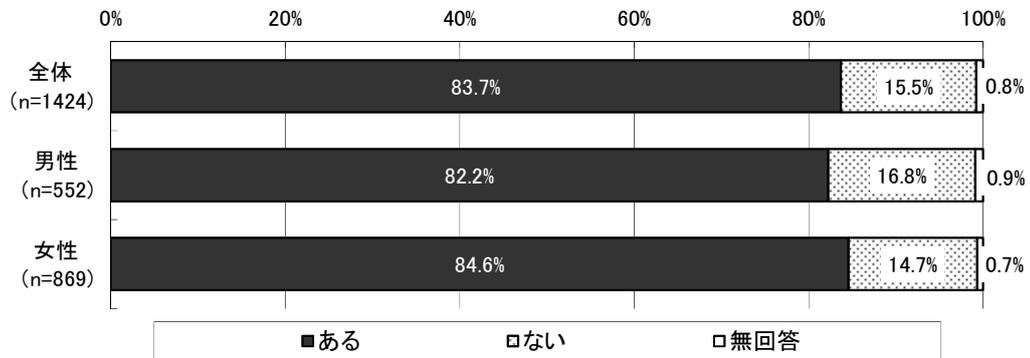
図表 178 公的医療保険の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



（注）「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

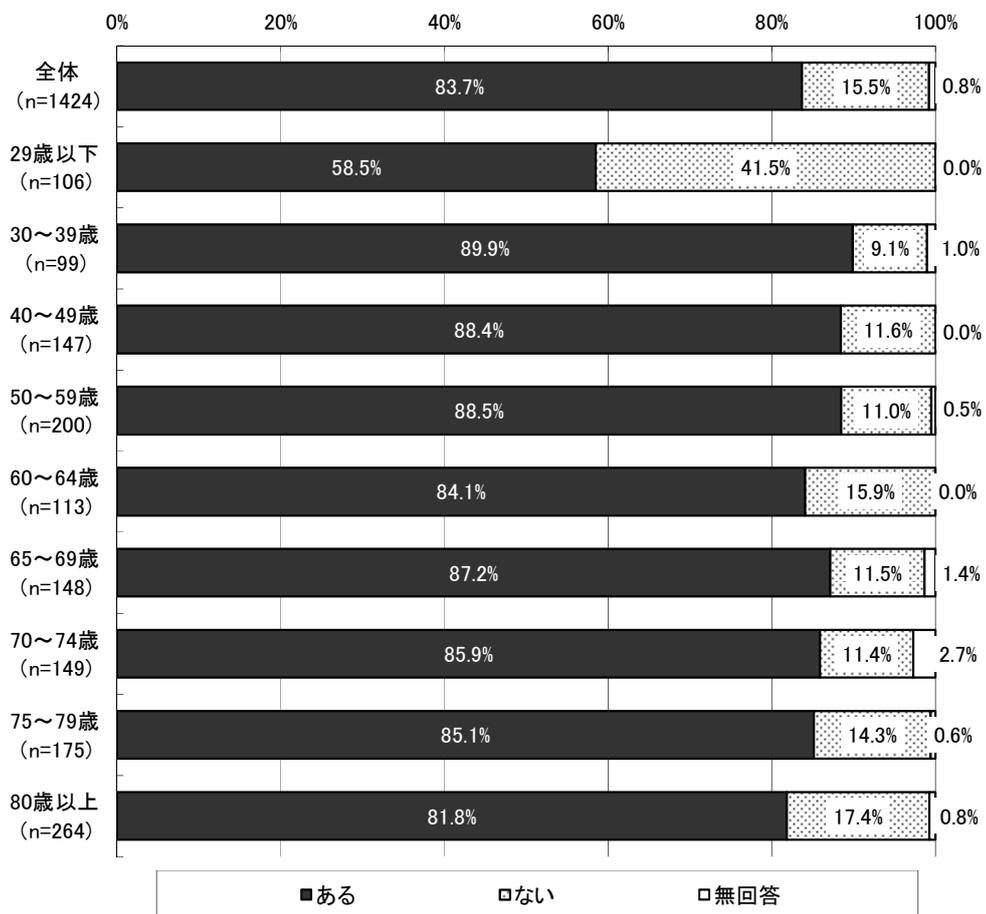
⑤自己負担額の有無

図表 179 自己負担額の有無（男女別）



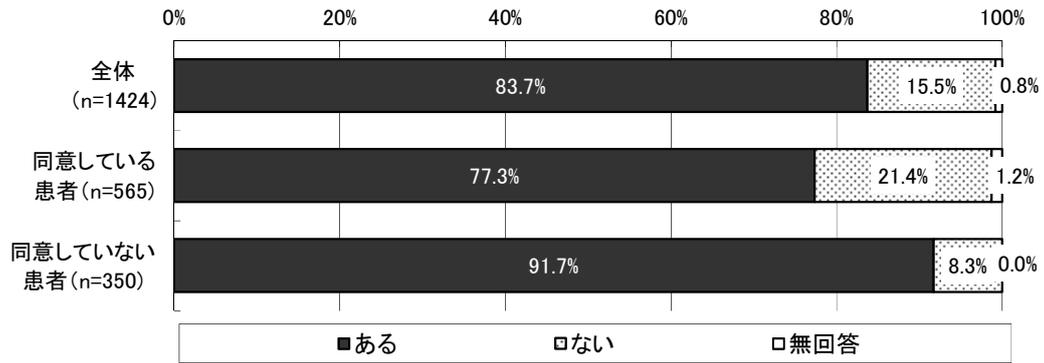
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 180 自己負担額の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 181 自己負担額の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



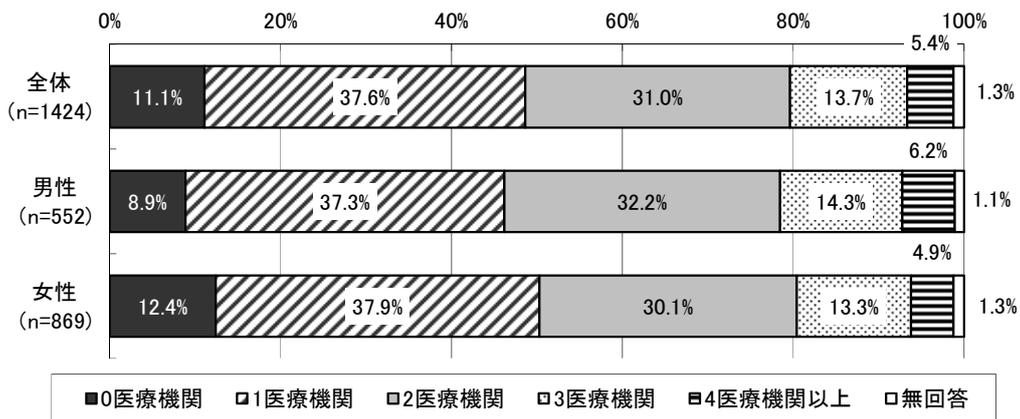
(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

(2) 医療機関や保険薬局の連携状況等

①定期的に受診している医療機関数

定期的に受診している医療機関をみると、「1 医療機関」が 37.6%で最も多く、次いで「2 医療機関」(31.0%)であった。

図表 182 定期的に受診している医療機関 (男女別)



(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 183 定期的に受診している医療機関数 (男女別)

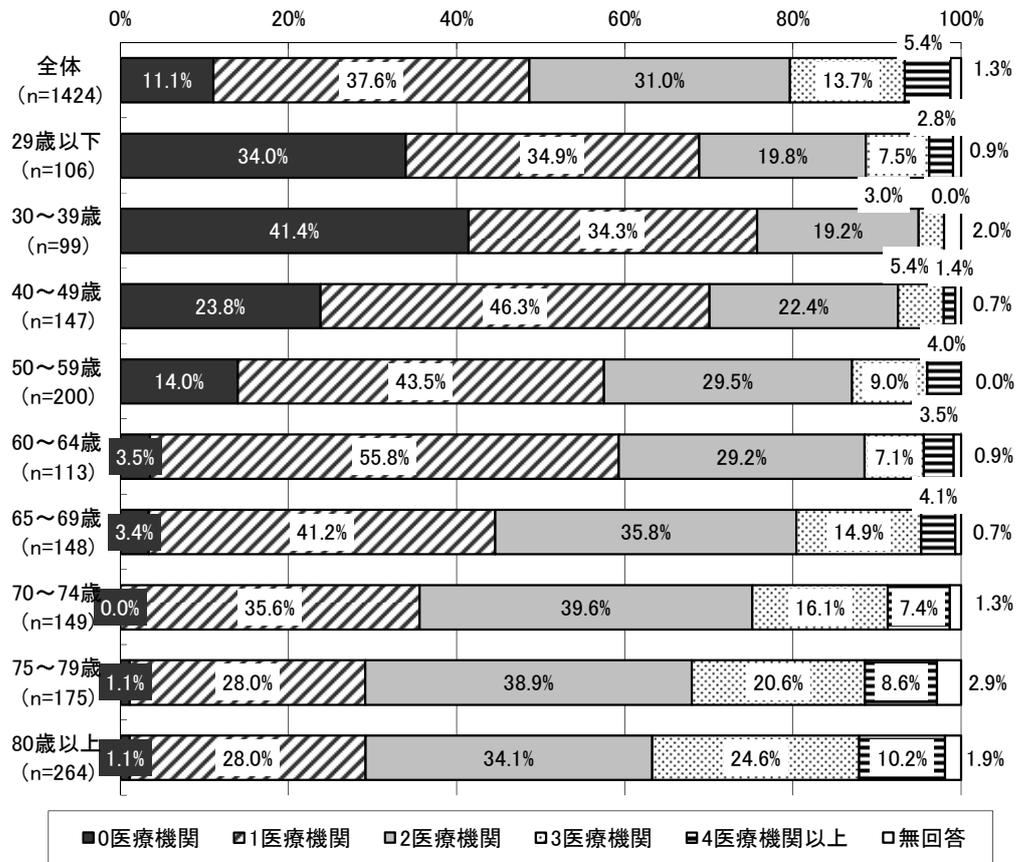
(単位：医療機関)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,406	1.7	1.1	2.0
男性	546	1.7	1.1	2.0
女性	858	1.6	1.1	1.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・定期的に受診している医療機関数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 184 定期的に受診している医療機関（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 185 定期的に受診している医療機関数（年齢階級別）

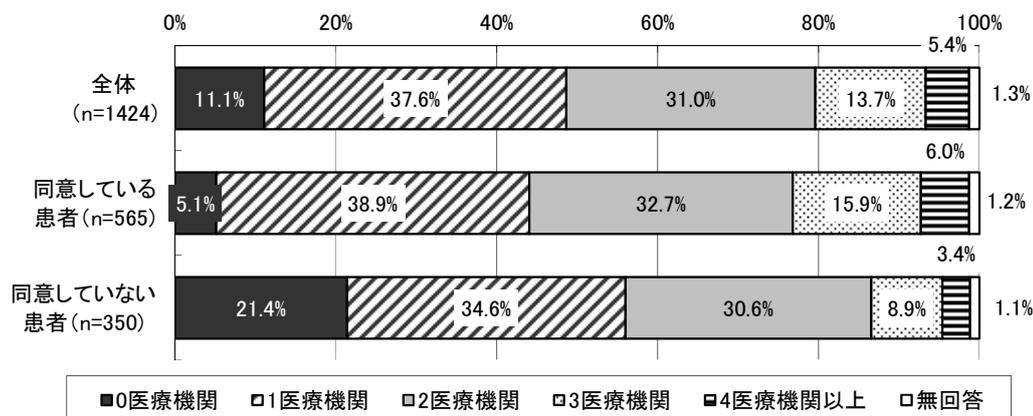
(単位：医療機関)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,406	1.7	1.1	2.0
29歳以下	105	1.1	1.1	1.0
30～39歳	97	0.8	0.9	1.0
40～49歳	146	1.1	0.9	1.0
50～59歳	200	1.5	1.0	1.0
60～64歳	112	1.5	0.9	1.0
65～69歳	147	1.8	1.0	2.0
70～74歳	147	2.0	0.9	2.0
75～79歳	170	2.1	1.0	2.0
80歳以上	259	2.2	1.1	2.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

・定期的に通診している医療機関数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 186 定期的に受診している医療機関（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

図表 187 定期的に受診している医療機関数（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

(単位：医療機関)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,406	1.7	1.1	2.0
同意している患者	558	1.8	1.0	2.0
同意していない患者	346	1.4	1.1	1.0

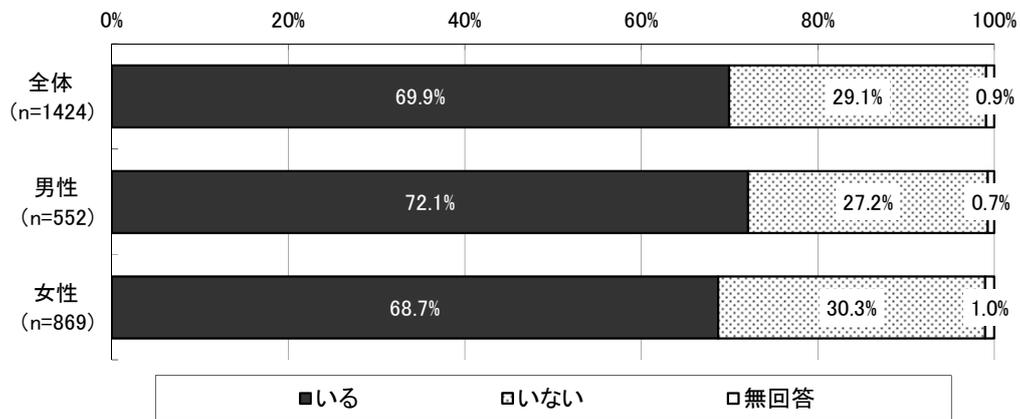
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 502 人が含まれる。

・定期的に受診している医療機関数について記入のあったものを集計対象とした。

## ②かかりつけ医の有無

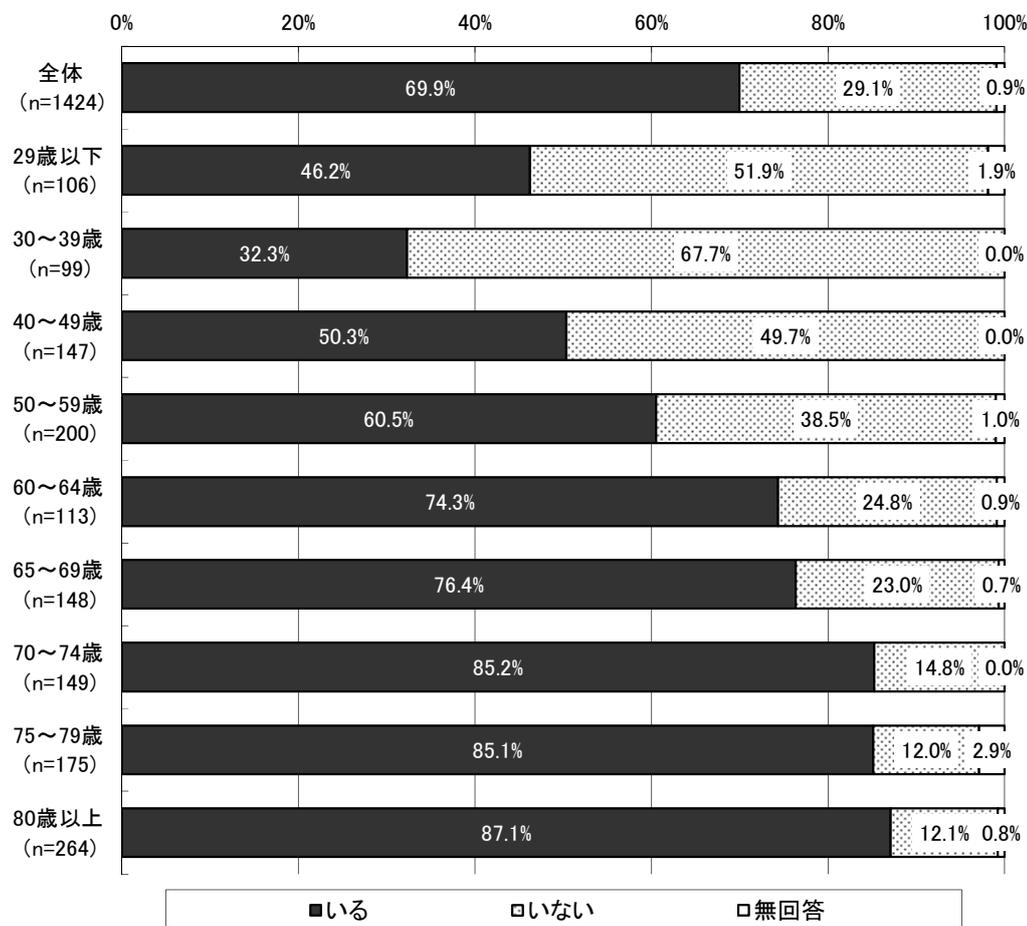
かかりつけ医の有無をみると、かかりつけ医が「いる」という回答が 69.9%、「いない」が 29.1%であった。

図表 188 かかりつけ医の有無（男女別）



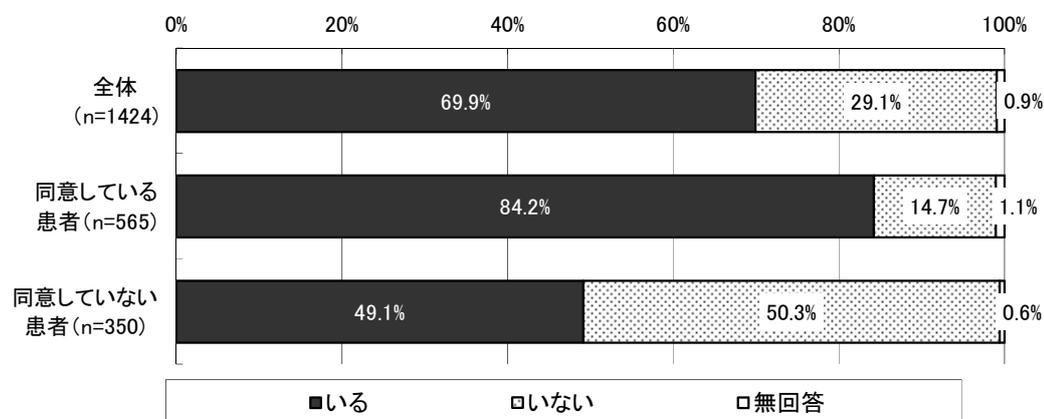
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 189 かかりつけ医の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 190 かかりつけ医の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

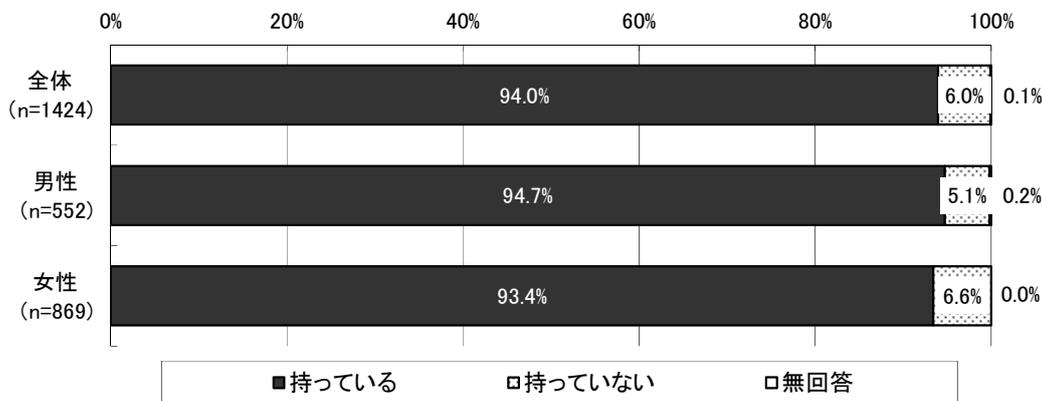


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

### ③お薬手帳の保有状況

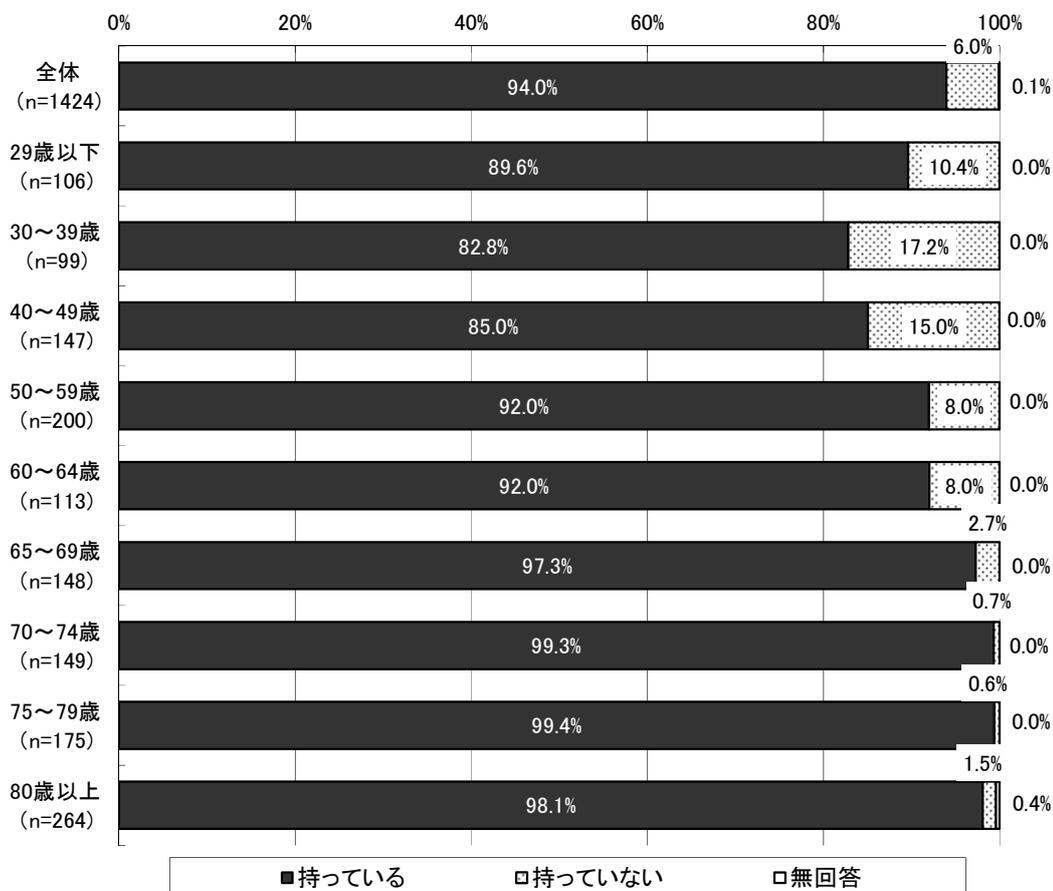
お薬手帳の保有状況をみると、お薬手帳を「持っている」という回答が94.0%、「持っていない」が6.0%であった。

図表 191 お薬手帳の保有状況（男女別）



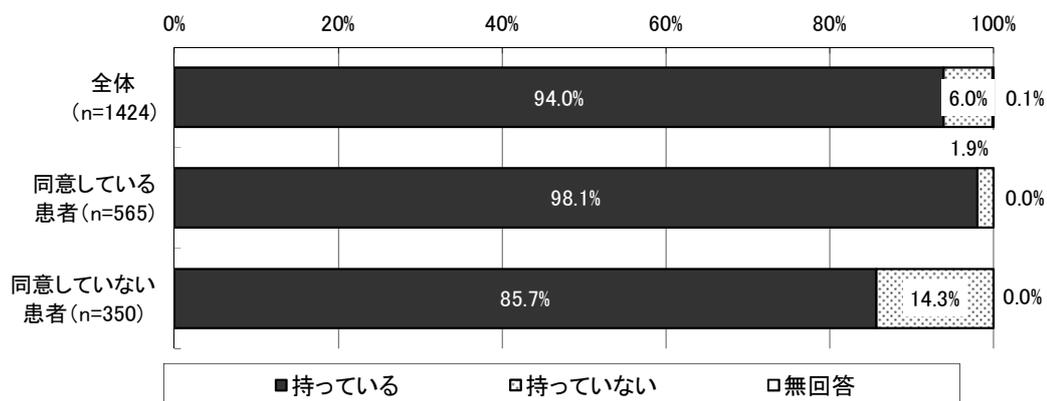
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 192 お薬手帳の保有状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 193 お薬手帳の保有状況（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

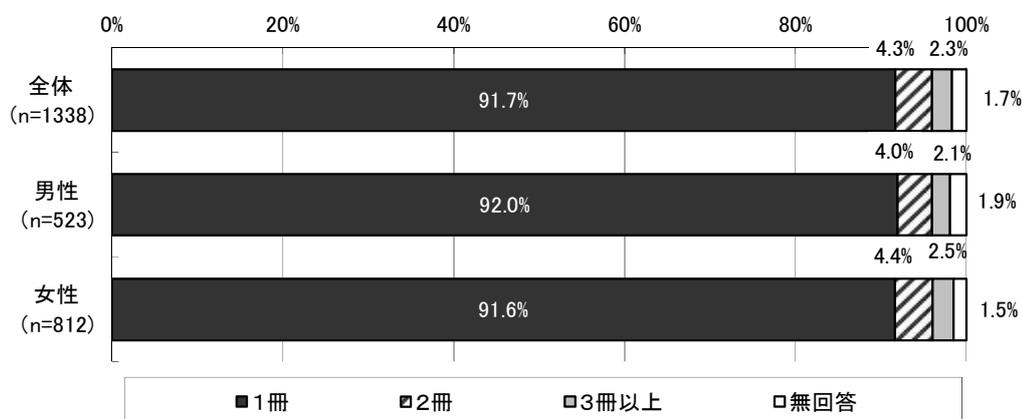


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

#### ④保有しているお薬手帳の数

保有しているお薬手帳の数をみると、「1冊」が91.7%、「2冊」が4.3%、「3冊以上」が2.3%であった

図表 194 保有しているお薬手帳の数（男女別、お薬手帳を保有している患者）



(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 195 保有しているお薬手帳の数（男女別、お薬手帳を保有している患者）

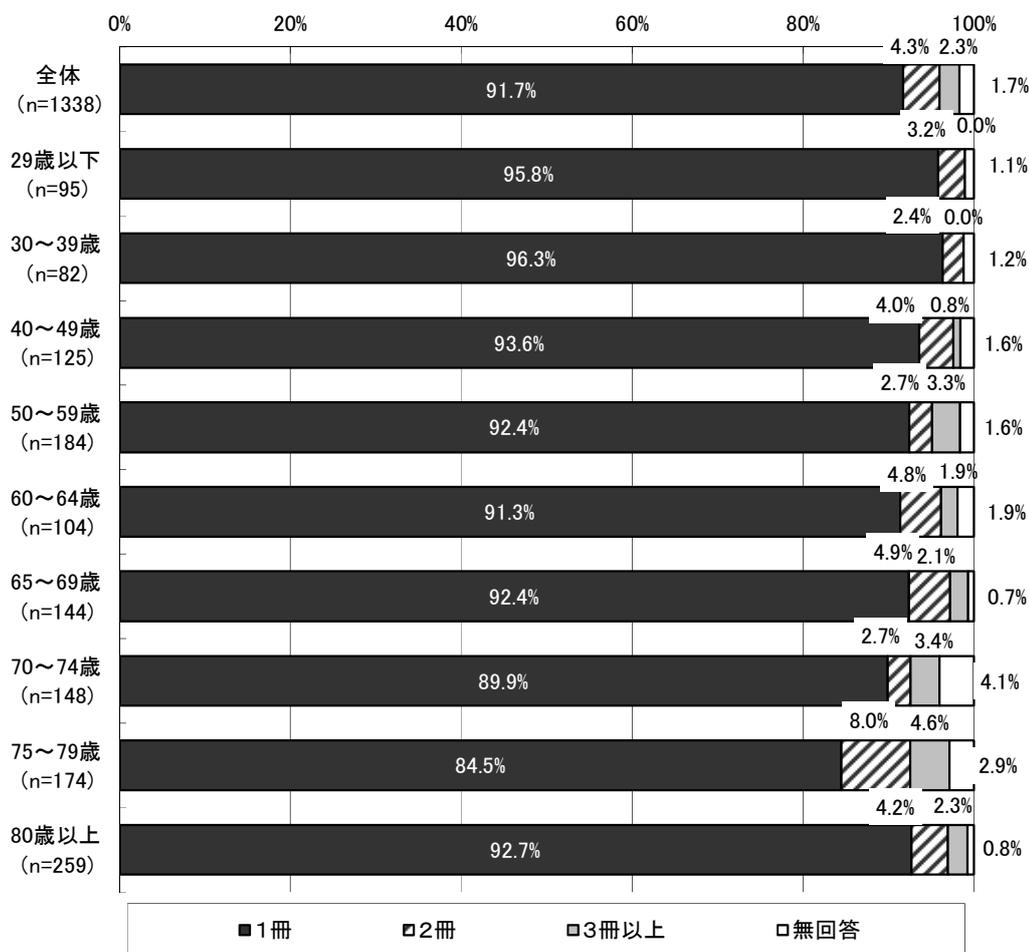
(単位：冊)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,315	1.1	0.7	1.0
男性	513	1.1	0.9	1.0
女性	800	1.1	0.5	1.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・保有しているお薬手帳の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 196 保有しているお薬手帳の数（年齢階級別、お薬手帳を保有している患者）



(注) 「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 197 保有しているお薬手帳の数（年齢階級別、お薬手帳を保有している患者）

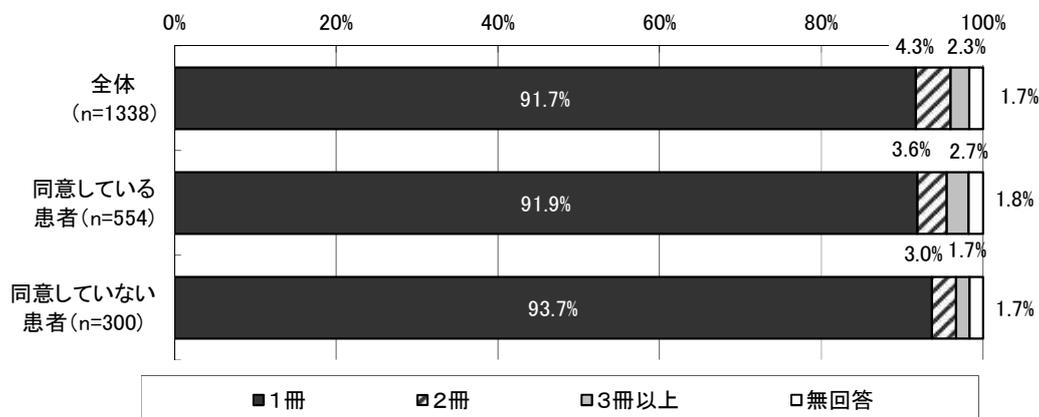
(単位：冊)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,315	1.1	0.7	1.0
29歳以下	94	1.0	0.2	1.0
30～39歳	81	1.0	0.2	1.0
40～49歳	123	1.1	0.3	1.0
50～59歳	181	1.1	0.5	1.0
60～64歳	102	1.1	0.3	1.0
65～69歳	143	1.2	0.9	1.0
70～74歳	142	1.1	0.7	1.0
75～79歳	169	1.3	1.3	1.0
80歳以上	257	1.1	0.5	1.0

(注) ・「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

・保有しているお薬手帳の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 198 保有しているお薬手帳の数  
 (かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者)



(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 484 人が含まれる。

図表 199 保有しているお薬手帳の数  
 (かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者)

(単位：冊)

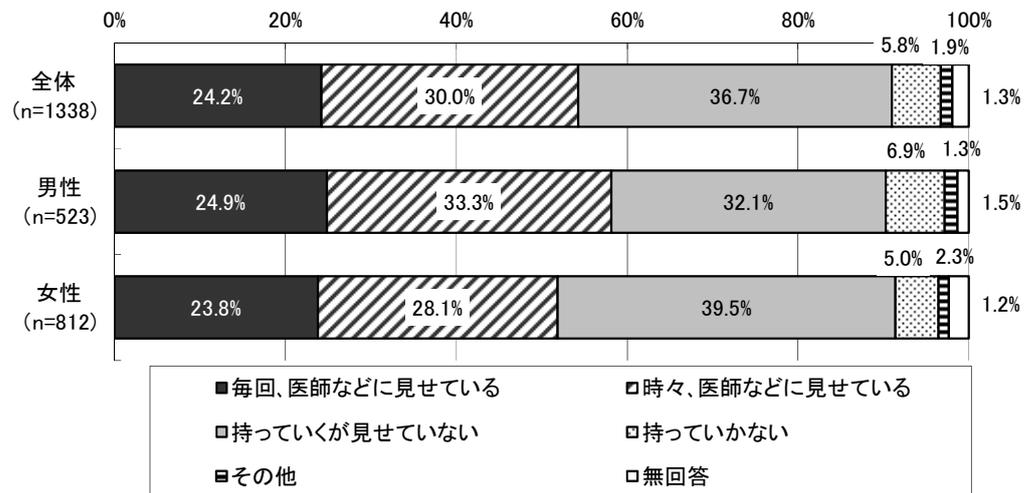
	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,315	1.1	0.7	1.0
同意している患者	544	1.1	0.6	1.0
同意していない患者	295	1.1	0.4	1.0

(注) ・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 476 人が含まれる。  
 ・保有しているお薬手帳の数について記入のあったものを集計対象とした。

### ⑤医療機関におけるお薬手帳の活用状況

医療機関におけるお薬手帳の活用状況をみると、「毎回、医師などに見せている」が24.2%、「時々、医師などに見せている」が30.0%で、「持っていきが見せていない」が36.7%で最も多かった。また、「持っていかない」が5.8%であった。

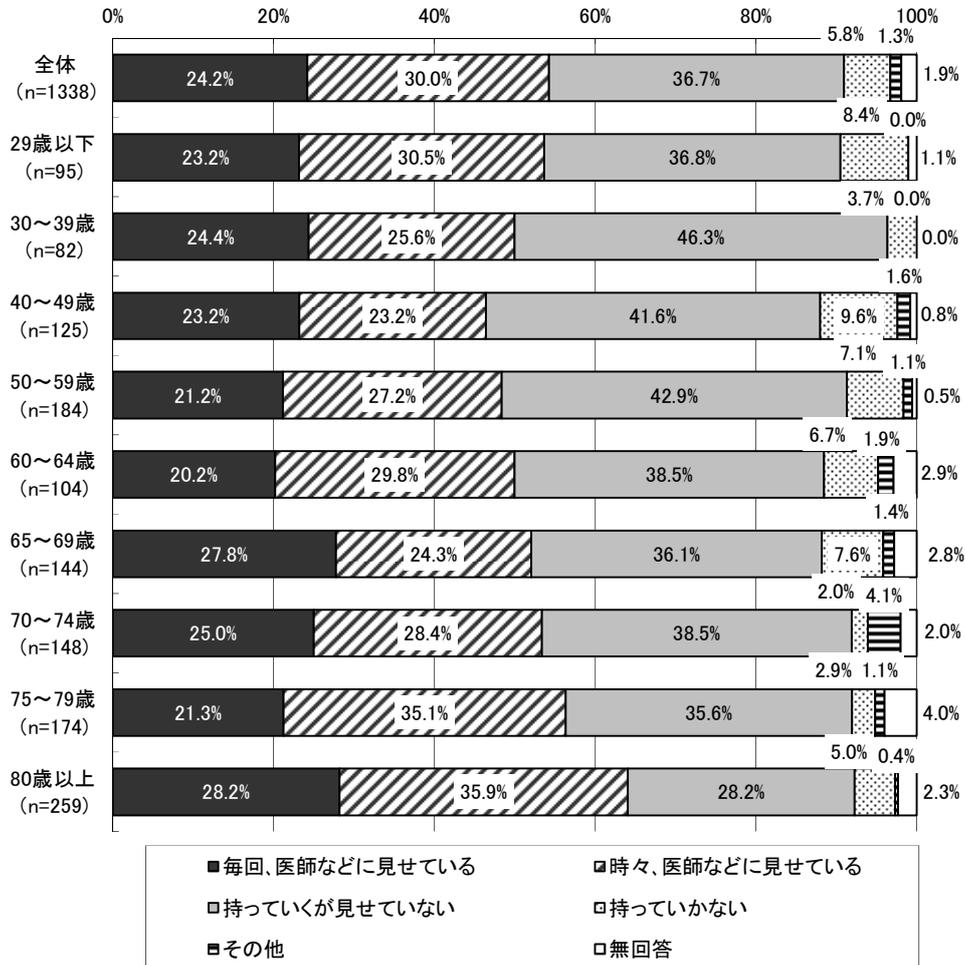
図表 200 医療機関におけるお薬手帳の活用状況（男女別、お薬手帳を保有している患者）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

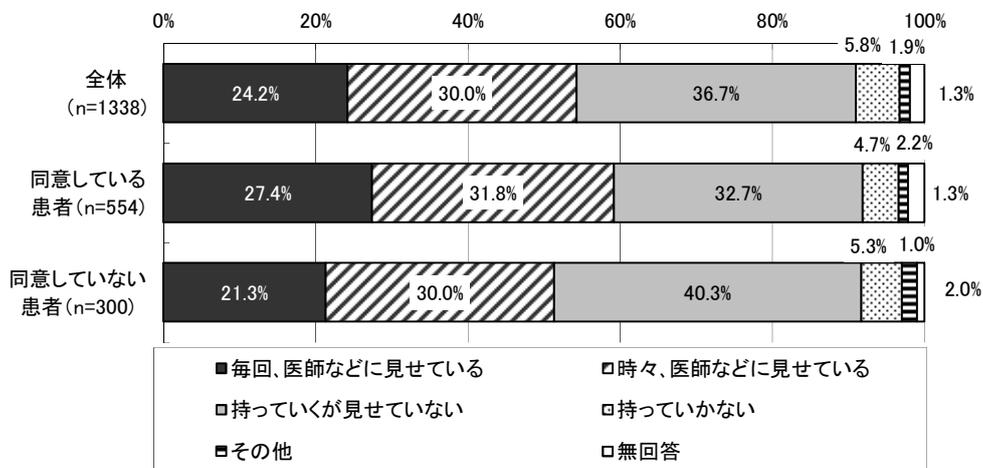
- ・「持っていかない理由」として、「忘れてしまうため」、「面倒だから」、「1 医療機関しか受診していないためすべてを把握している」、「提示を要求されたことがない」、「覚えている」、「いつも同じ薬だから」、「医師に手帳を見せるという認識はなく、直接口頭で伝えている」、「定期薬を服用していない」、「受診することがほとんどない」、「必要がない、聞かれない」、「日頃持ち歩いておらず、急にかかることが多い」、「併用薬は伝えている」、「1 種類しか飲んでいない」、「持っていく認識がない」等が挙げられた。
- ・「その他」の内容として、「薬局には持っていきが医師には見せていない」、「医師から提示を求められた時に見せている」、「新しい薬を指示又は要求した場合に提示」、「新規に受診する時は見せる」、「臨時に他の医療機関を利用した時だけ見せている」等が挙げられた。

図表 201 医療機関におけるお薬手帳の活用状況  
(年齢階級別、お薬手帳を保有している患者)



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 202 医療機関におけるお薬手帳の活用状況  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者)

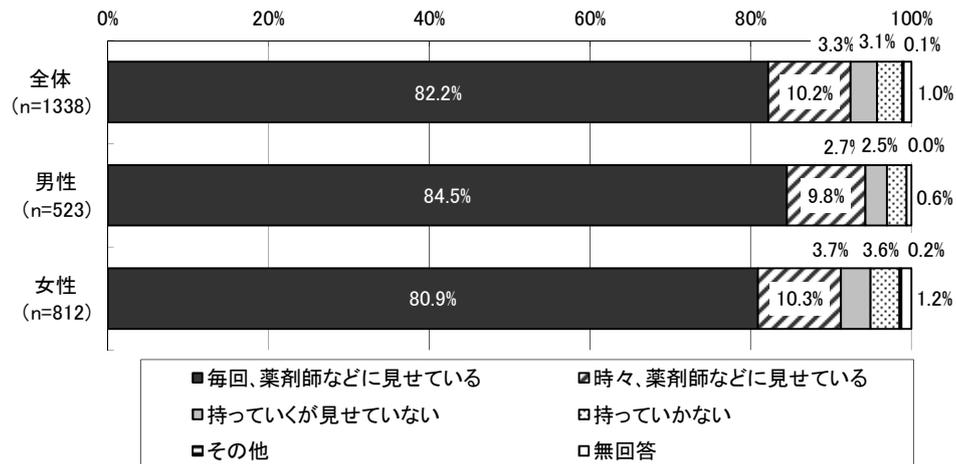


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者484人が含まれる。

## ⑥薬局におけるお薬手帳の活用状況

薬局におけるお薬手帳の活用状況をみると、「毎回、薬剤師などに見せている」が82.2%、「時々、薬剤師などに見せている」が10.2%で、「持っていくが見せていない」が3.3%、「持っていかない」が3.1%であった。

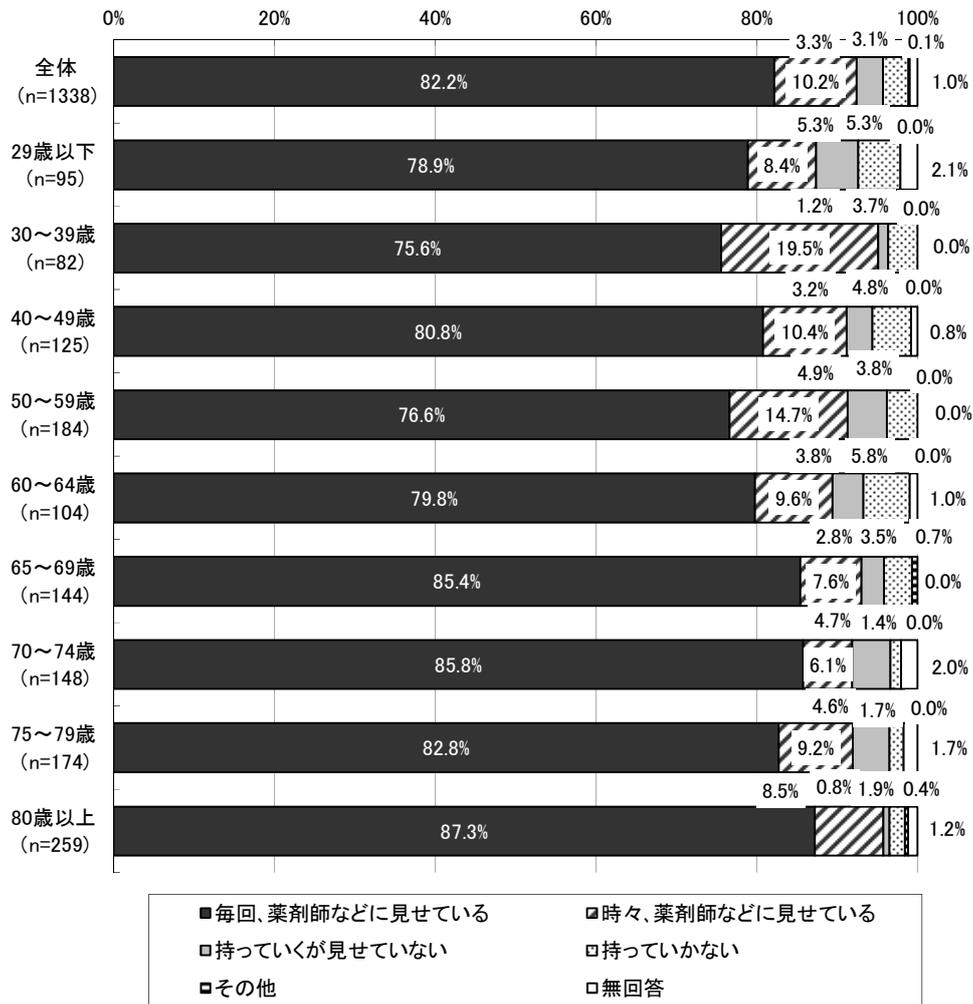
図表 203 薬局におけるお薬手帳の活用状況（男女別、お薬手帳を保有している患者）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

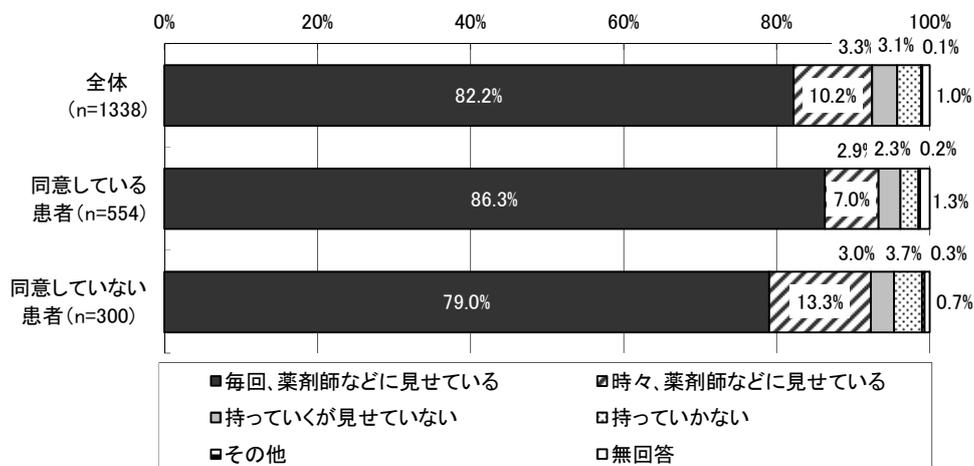
・「持っていかない理由」として、「忘れてしまうため」、「面倒」、「毎回同じ薬」、「薬はヘルパーが管理」、「定期的に使用している薬がない」、「自分で貼っている」、「電子お薬手帳のため」、「専属的に依頼しており情報は共有している」、「口頭で伝える」、「見せたくない」、「毎回出るわけではなく、出ても同じ薬」等が挙げられた。

図表 204 薬局におけるお薬手帳の活用状況（年齢階級別、お薬手帳を保有している患者）



(注) 「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 205 薬局におけるお薬手帳の活用状況  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、お薬手帳を保有している患者)

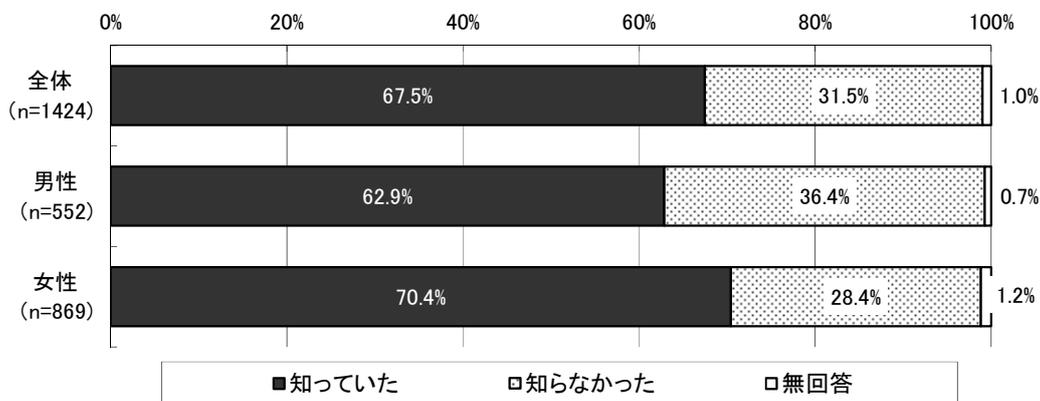


(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者484人が含まれる。

⑦お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況

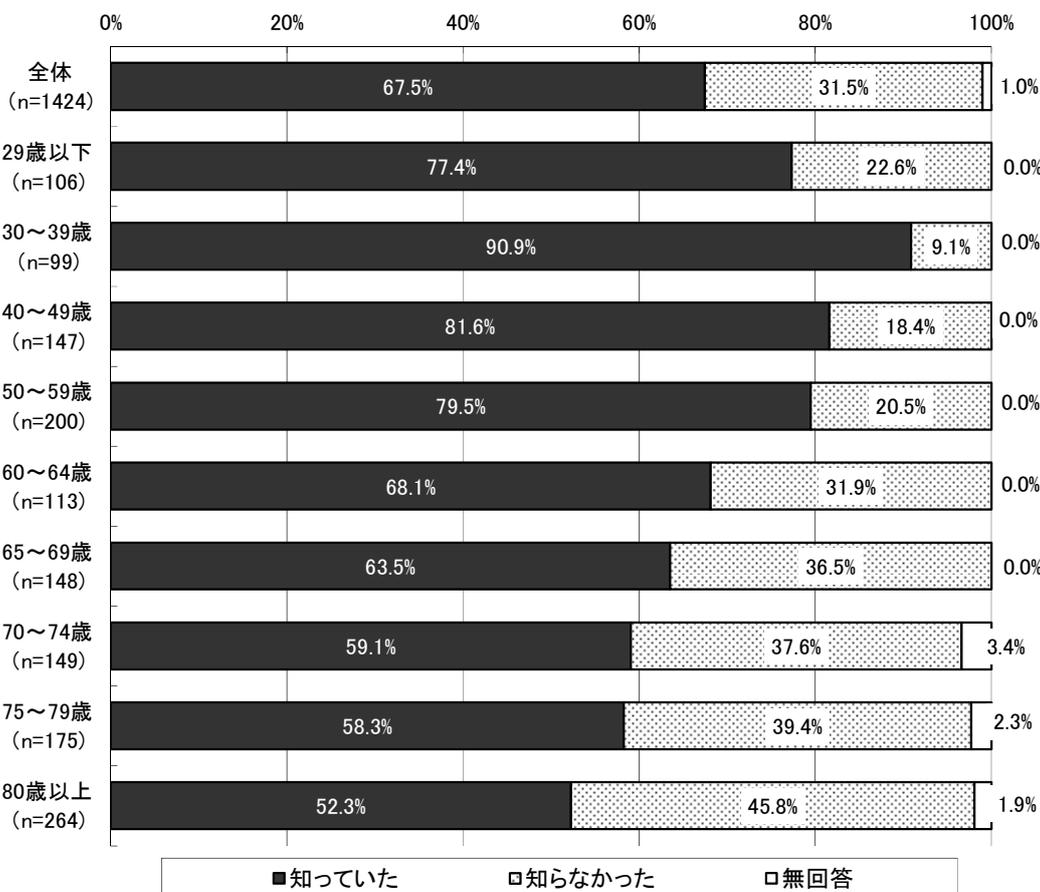
お薬手帳を保険薬局に持っていくと支払額が安くなることの認知状況をみると、「知っていた」が67.5%、「知らなかった」が31.5%であった。

図表 206 お薬手帳を持っていくと支払額が安くなることの認知状況（男女別）



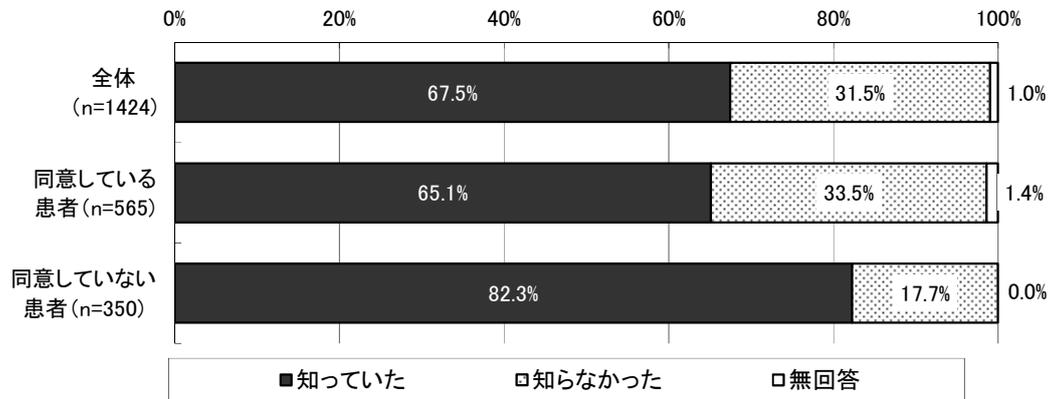
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 207 お薬手帳を持っていくと支払額が安くなることの認知状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 208 お薬手帳を持っていくと支払額が安くなることの認知状況  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)

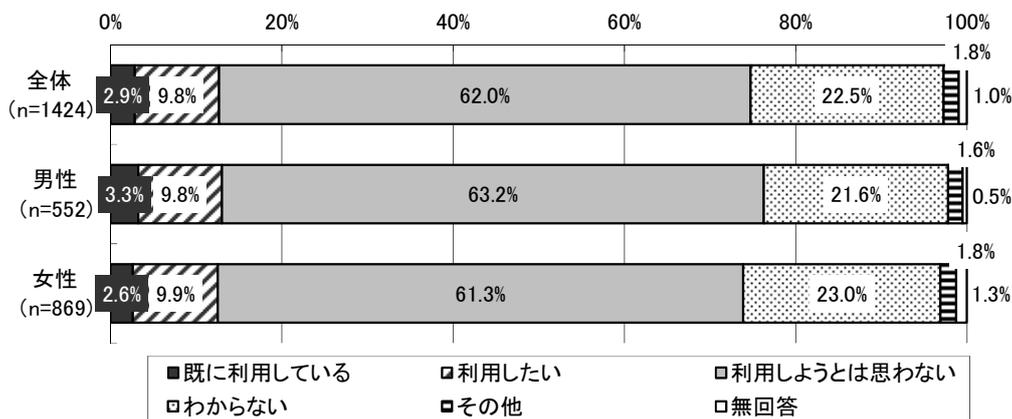


(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

### ⑧電子お薬手帳の利用意向

スマートフォンやタブレット端末を使った「電子お薬手帳」の利用意向についてみると、「既に利用している」が2.9%、「利用したい」が9.8%、「利用しようとは思わない」が62.0%、「わからない」が22.5%であった。

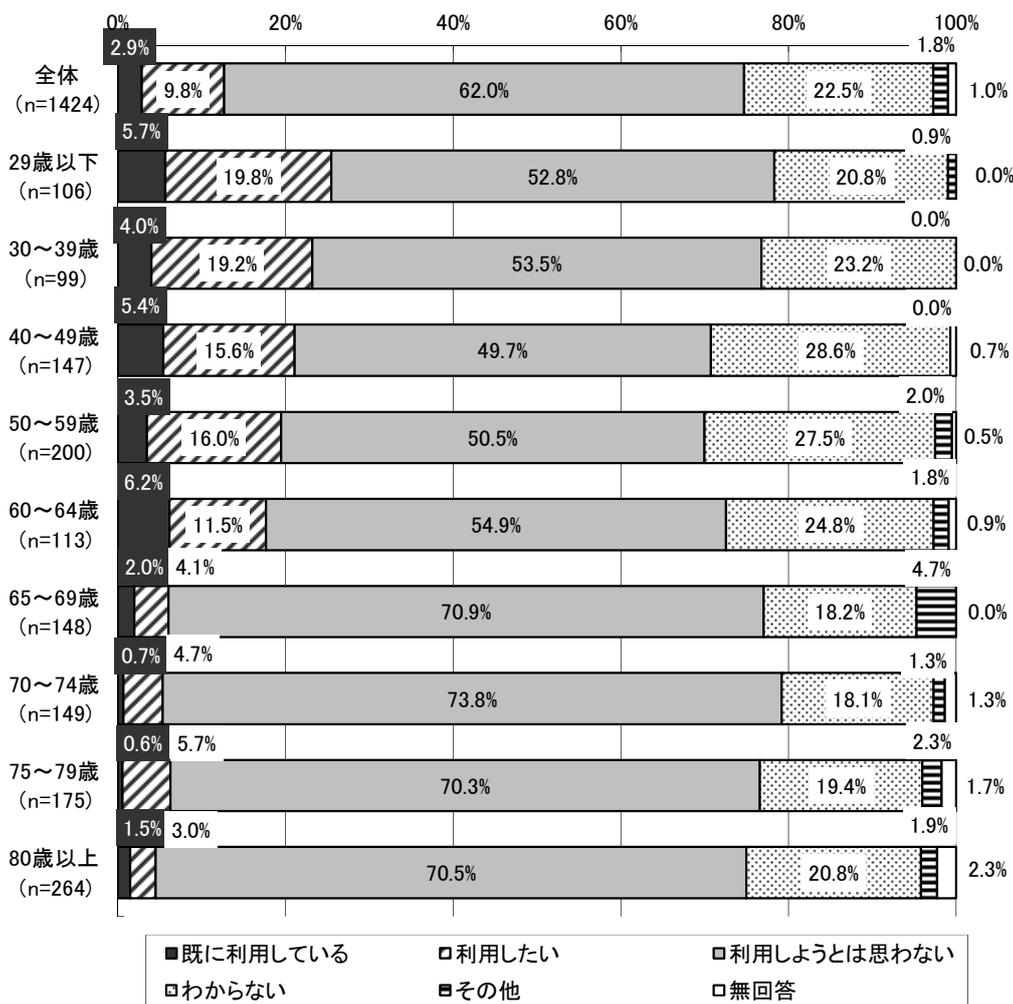
図表 209 電子お薬手帳の利用意向（男女別）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

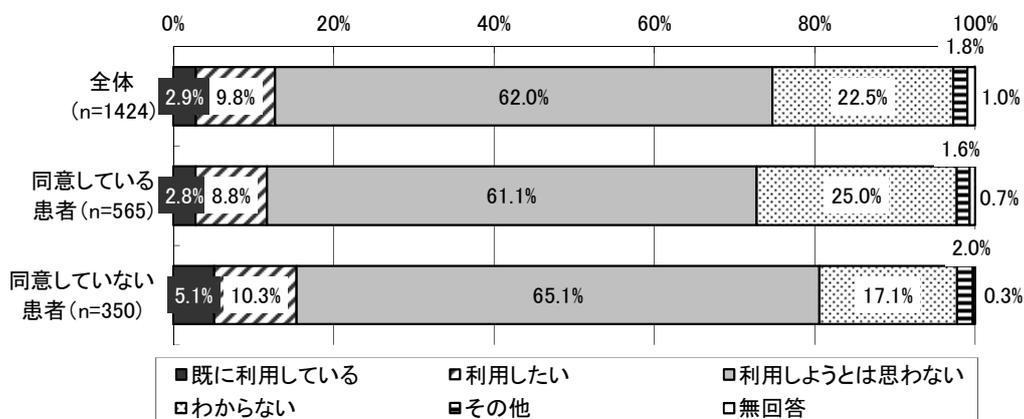
・「その他」の内容として、「スマートフォン・タブレットは持っていない」、「スマートフォンなどわからない」、「母本人は使いこなせない」、「災害時には紙の方が良いのでは」、「便利とは思いますが情報管理の面で心配」等が挙げられた。

図表 210 電子お薬手帳の利用意向（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 211 電子お薬手帳の利用意向（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

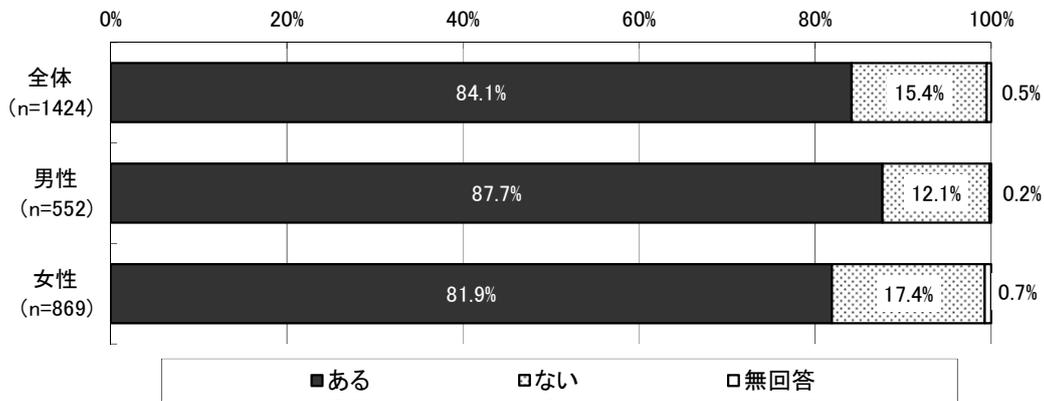


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

⑨定期的に、医療機関に行つて処方してもらっている薬の有無

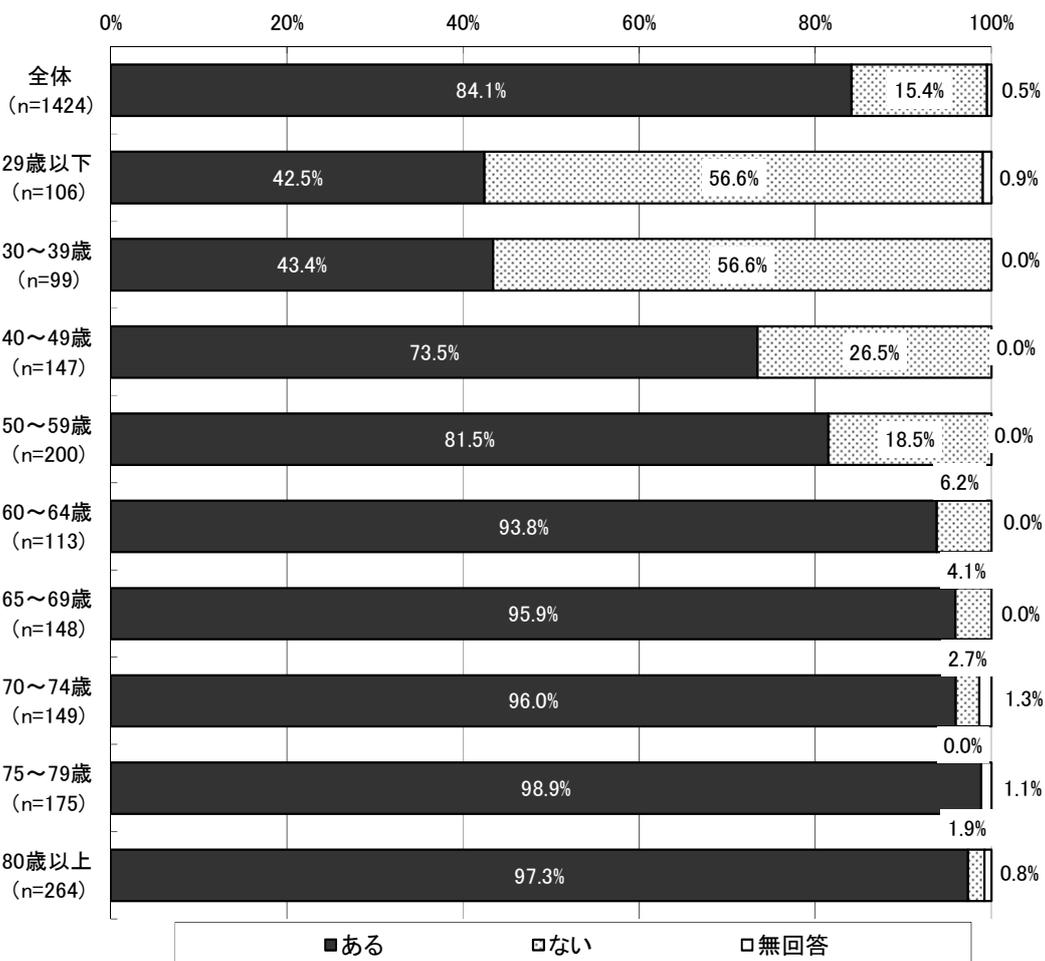
定期的に、医療機関に行つて処方してもらっている薬の有無についてみると、「ある」が84.1%、「ない」が15.4%であった。

図表 212 定期的に、医療機関に行つて処方してもらっている薬の有無（男女別）



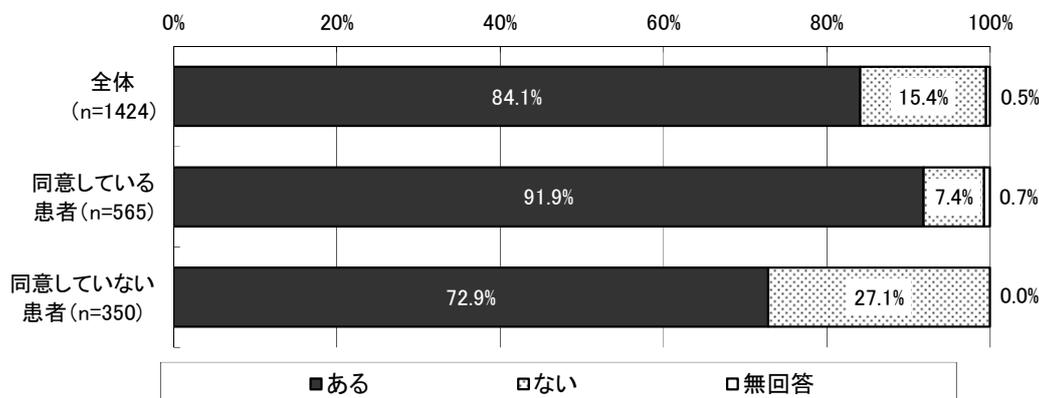
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 213 定期的に、医療機関に行つて処方してもらっている薬の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 214 定期的に、医療機関に行つて処方してもらっている薬の有無  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)



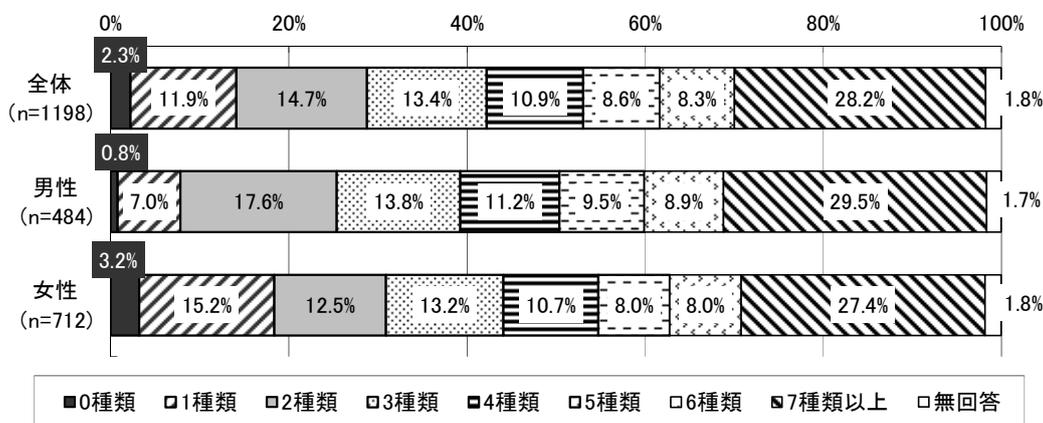
(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」だった患者 509 人が含まれる。

⑩現在、1日あたり使用している薬の種類

1) 飲み薬の種類

現在、1日あたり使用している飲み薬をみると、「7種類以上」が3割近くを占めた。平均は4.9種類(中央値4.0)であった。

図表 215 現在、1日あたり使用している飲み薬  
(男女別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

図表 216 現在、1日あたり使用している飲み薬の種類  
(男女別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者)

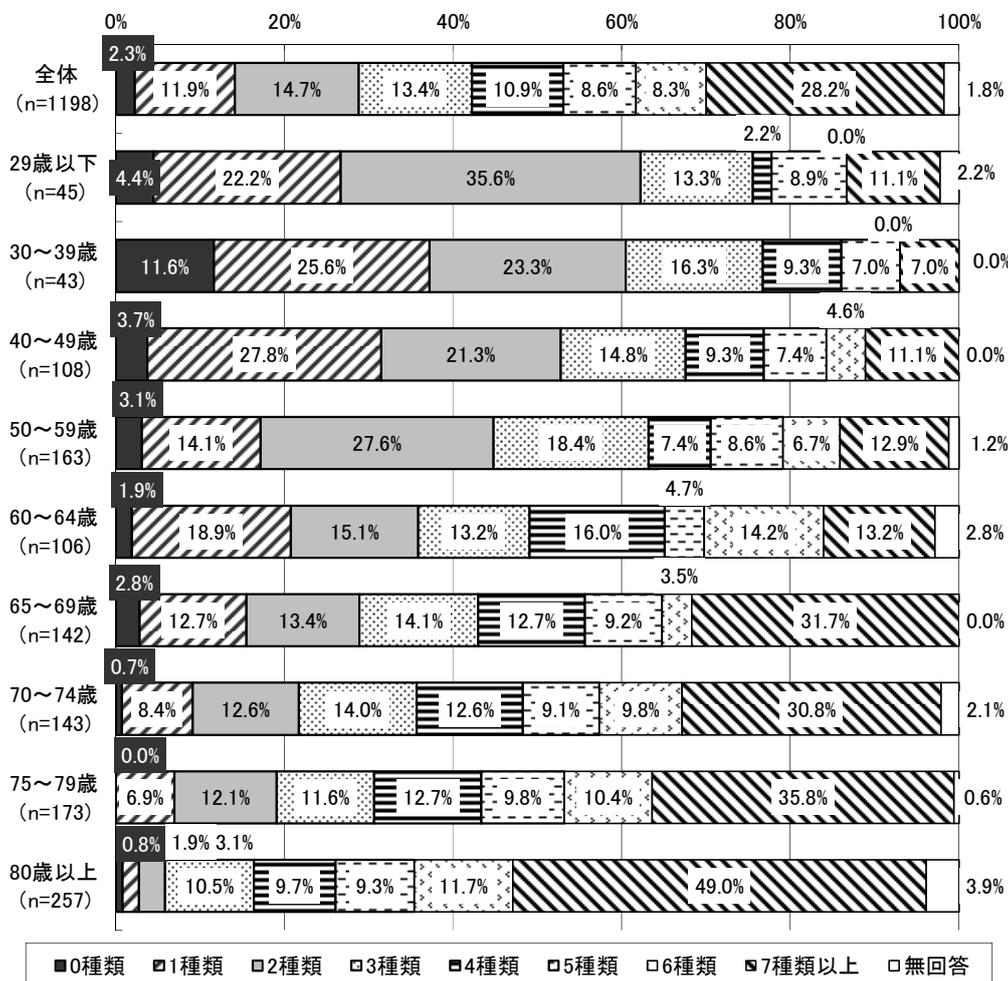
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	4.9	3.5	4.0
男性	476	5.2	3.4	4.0
女性	699	4.7	3.5	4.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 217 現在、1日あたり使用している飲み薬  
(年齢階級別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者)



(注)「全体」には、年齢について無回答の18人が含まれる。

図表 218 現在、1日あたり使用している飲み薬の種類  
(年齢階級別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者)

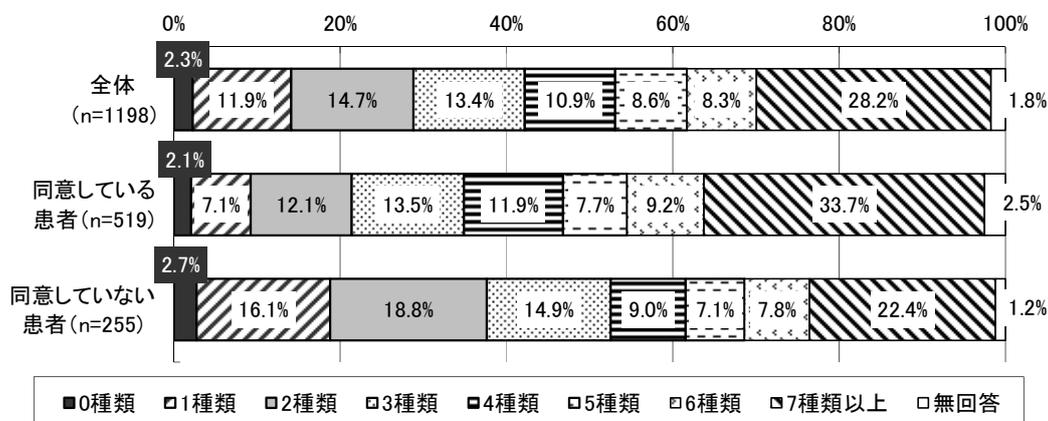
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	4.9	3.5	4.0
29歳以下	44	3.0	2.8	2.0
30～39歳	43	2.6	2.4	2.0
40～49歳	108	3.2	2.8	2.0
50～59歳	161	3.7	3.1	3.0
60～64歳	103	3.8	2.8	3.0
65～69歳	142	4.9	3.5	4.0
70～74歳	140	5.2	3.2	5.0
75～79歳	172	5.8	3.6	5.0
80歳以上	247	6.8	3.4	7.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の17人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 219 現在、1日あたり使用している飲み薬（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 424 人が含まれる。

図表 220 現在、1日あたり使用している飲み薬の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

(単位：種類)

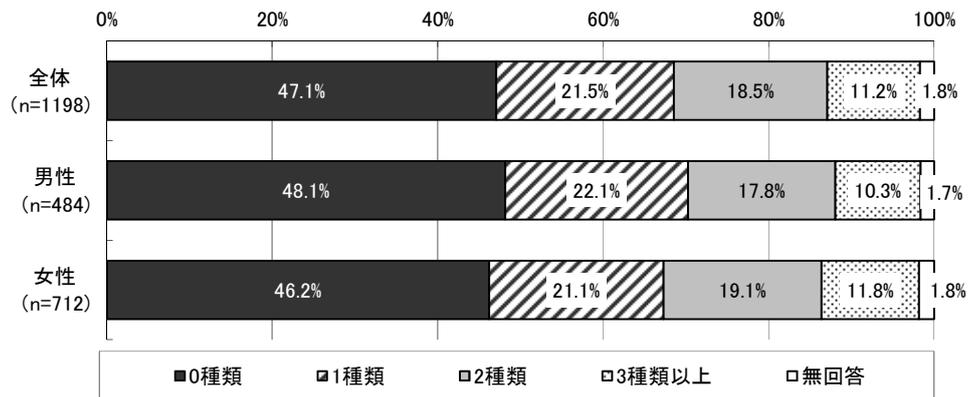
	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	4.9	3.5	4.0
同意している患者	506	5.5	3.7	5.0
同意していない患者	252	4.2	3.1	3.0

(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 419 人が含まれる。  
 ・現在、1日あたり使用している飲み薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

## 2) 飲み薬以外の薬の種類

現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（貼り薬・塗り薬・目薬・注射薬など）をみると、「0種類」が5割近くで最も多く、次いで「1種類」が21.5%、「2種類」が18.5%、「3種類以上」が11.2%であった。平均は1.0種類（中央値1.0）であった。

図表 221 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（男女別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・「飲み薬以外の薬」とは、貼り薬・塗り薬・目薬・注射薬などを指す（以下、同様）。

図表 222 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類（男女別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

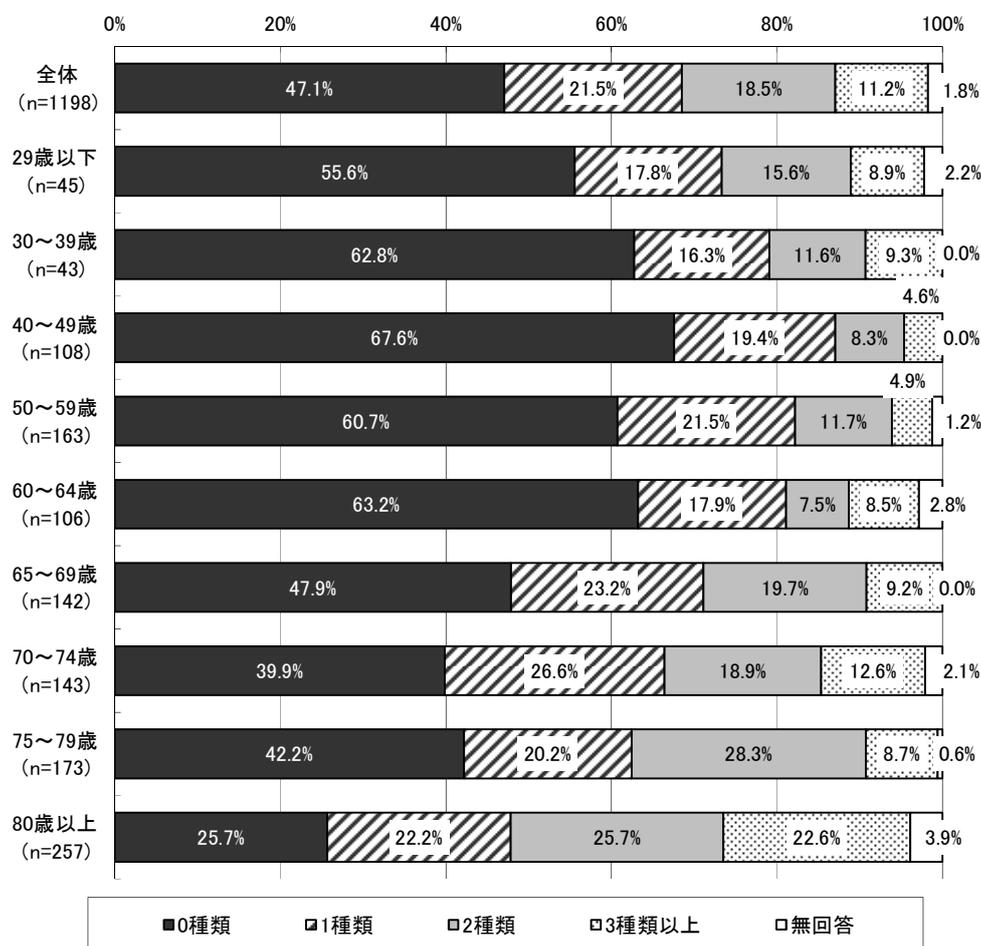
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	1.0	1.3	1.0
男性	476	1.0	1.3	1.0
女性	699	1.0	1.3	1.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 223 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（年齢階級別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、年齢について無回答の18人が含まれる。

図表 224 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類（年齢階級別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

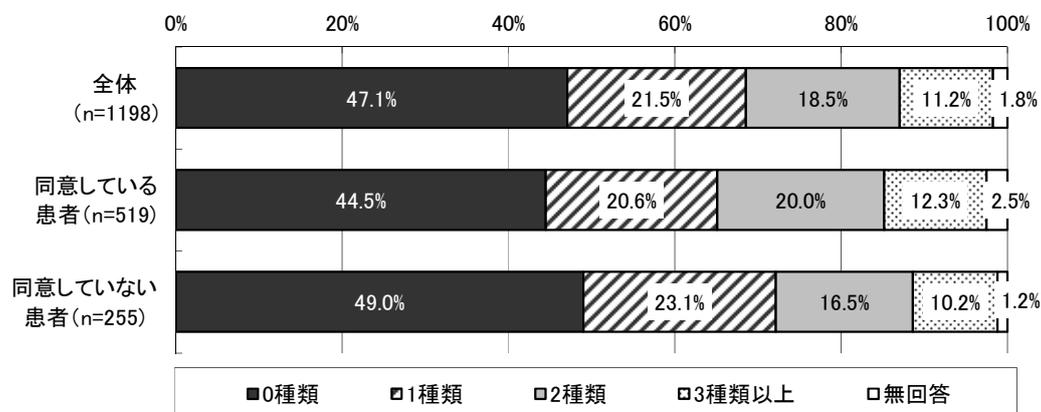
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	1.0	1.3	1.0
29歳以下	44	0.9	1.4	0.0
30～39歳	43	0.8	1.4	0.0
40～49歳	108	0.5	0.9	0.0
50～59歳	161	0.7	1.2	0.0
60～64歳	103	0.7	1.1	0.0
65～69歳	142	1.0	1.2	1.0
70～74歳	140	1.1	1.2	1.0
75～79歳	172	1.1	1.2	1.0
80歳以上	247	1.7	1.5	2.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の17人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 225 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者424人が含まれる。

図表 226 現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者）

(単位：種類)

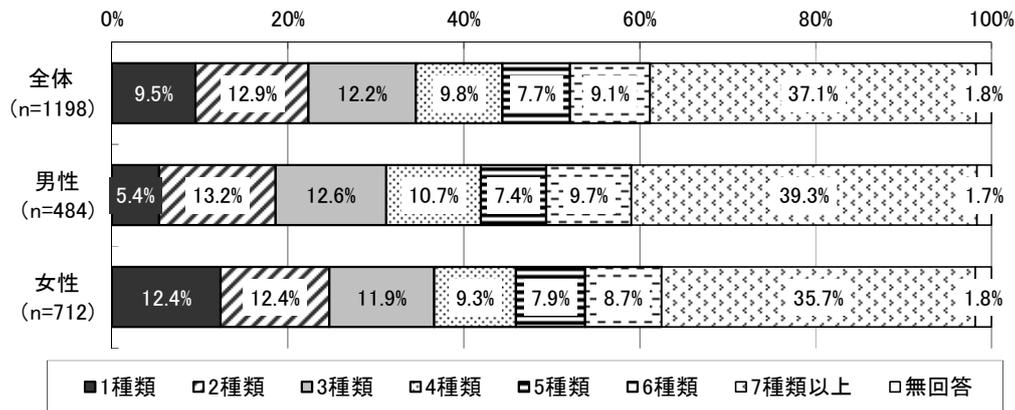
	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	1.0	1.3	1.0
同意している患者	506	1.1	1.3	1.0
同意していない患者	252	1.0	1.4	1.0

(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者419人が含まれる。  
 ・現在、1日あたり使用している飲み薬以外の薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

### 3) 1日あたり使用している薬（飲み薬及び飲み薬以外の薬）

現在、1日あたり使用している薬（飲み薬及び飲み薬以外の薬）の種類をみると、「7種類以上」が4割近くを占め、最も多かった。

図表 227 現在、1日あたり使用している薬（男女別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

図表 228 現在、1日あたり使用している薬の種類（男女別、定期的に医療機関に行つて処方してもらっている薬がある患者）

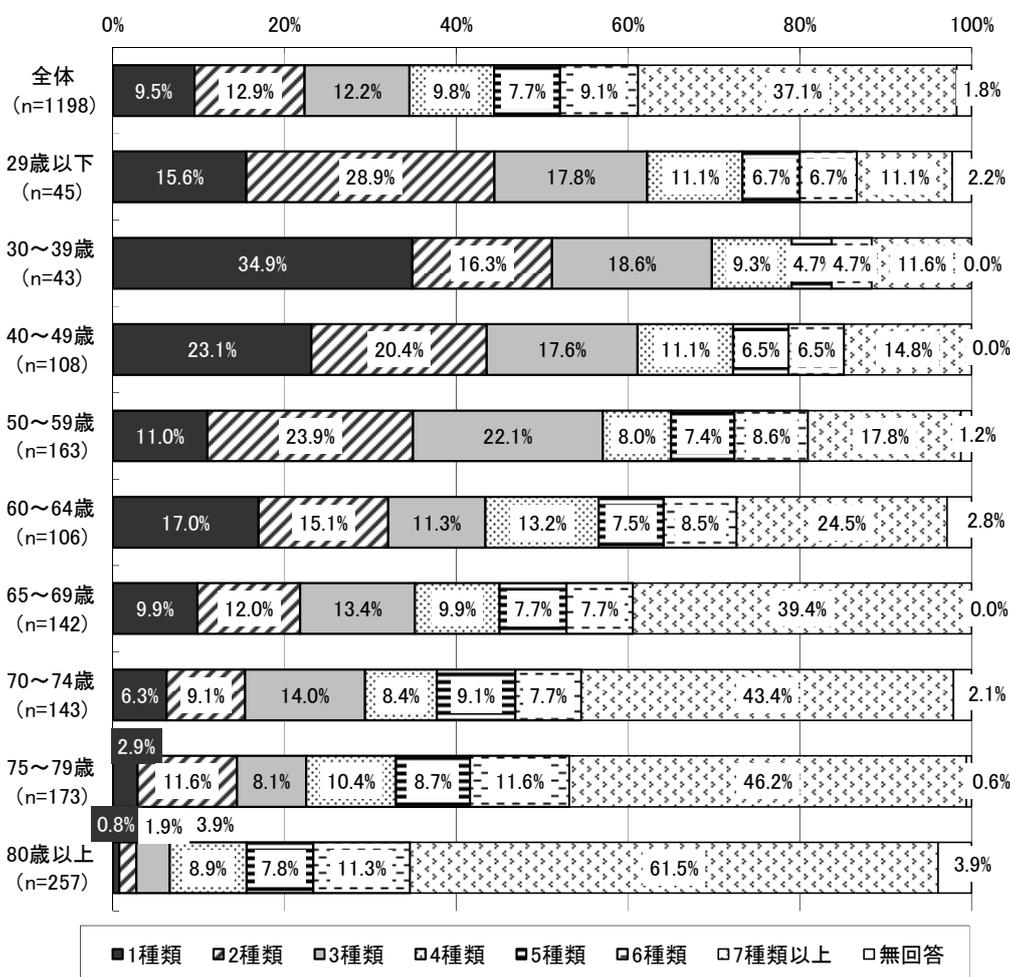
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	5.9	4.1	5.0
男性	476	6.2	4.0	5.0
女性	699	5.8	4.1	5.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の2人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 229 現在、1日あたり使用している薬（年齢階級別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、年齢について無回答の18人が含まれる。

図表 230 現在、1日あたり使用している薬の種類（年齢階級別、定期的に医療機関に行って処方してもらっている薬がある患者）

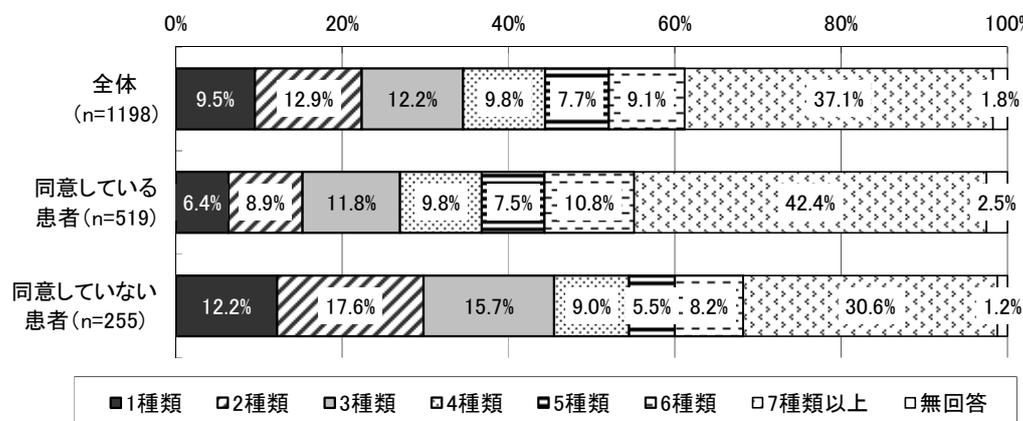
(単位：種類)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	5.9	4.1	5.0
29歳以下	44	3.9	3.5	3.0
30～39歳	43	3.4	3.3	2.0
40～49歳	108	3.7	3.0	3.0
50～59歳	161	4.4	3.6	3.0
60～64歳	103	4.5	3.2	4.0
65～69歳	142	5.9	3.9	5.0
70～74歳	140	6.3	3.9	6.0
75～79歳	172	6.8	4.0	6.0
80歳以上	247	8.5	4.1	8.0

(注)・「全体」には、年齢について無回答の17人が含まれる。

・現在、1日あたり使用している薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

図表 231 現在、1日あたり使用している薬（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 424 人が含まれる。

図表 232 現在、1日あたり使用している薬の種類（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、定期的に医療機関に行き処方してもらっている薬がある患者）

(単位：種類)

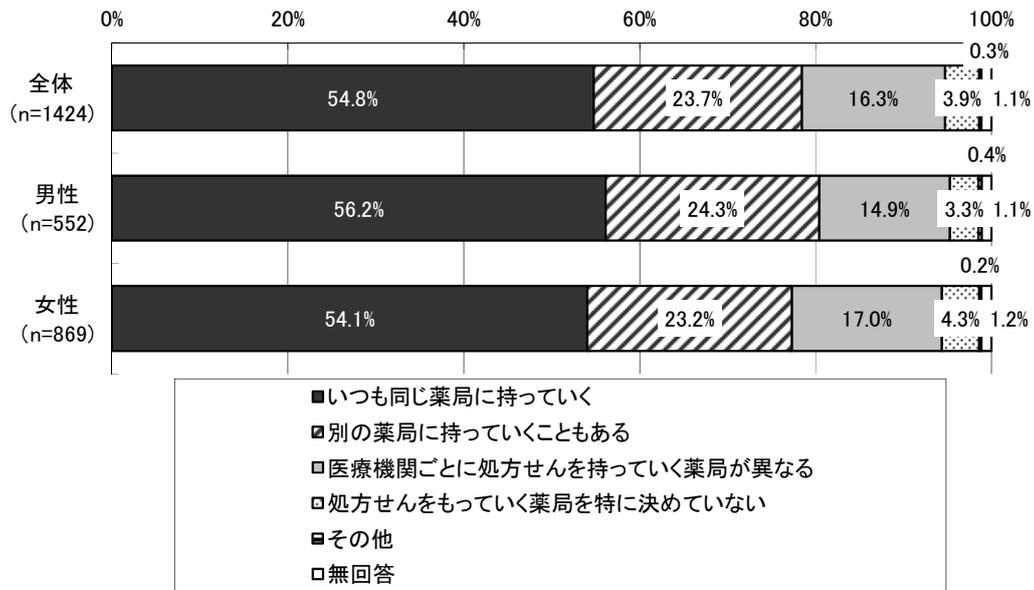
	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,177	5.9	4.1	5.0
同意している患者	506	6.6	4.3	6.0
同意していない患者	252	5.2	4.0	4.0

(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 419 人が含まれる。  
 ・現在、1日あたり使用している薬の種類について記入のあったものを集計対象とした。

### ⑪処方せんを持っていく薬局の決め方

処方せんを持っていく薬局の決め方についてみると、「いつも同じ薬局に持っていく」が54.8%で最も多く、次いで「別の薬局に持っていくこともある」が23.7%、「医療機関ごとに処方せんを持っていく薬局が異なる」が16.3%であった。

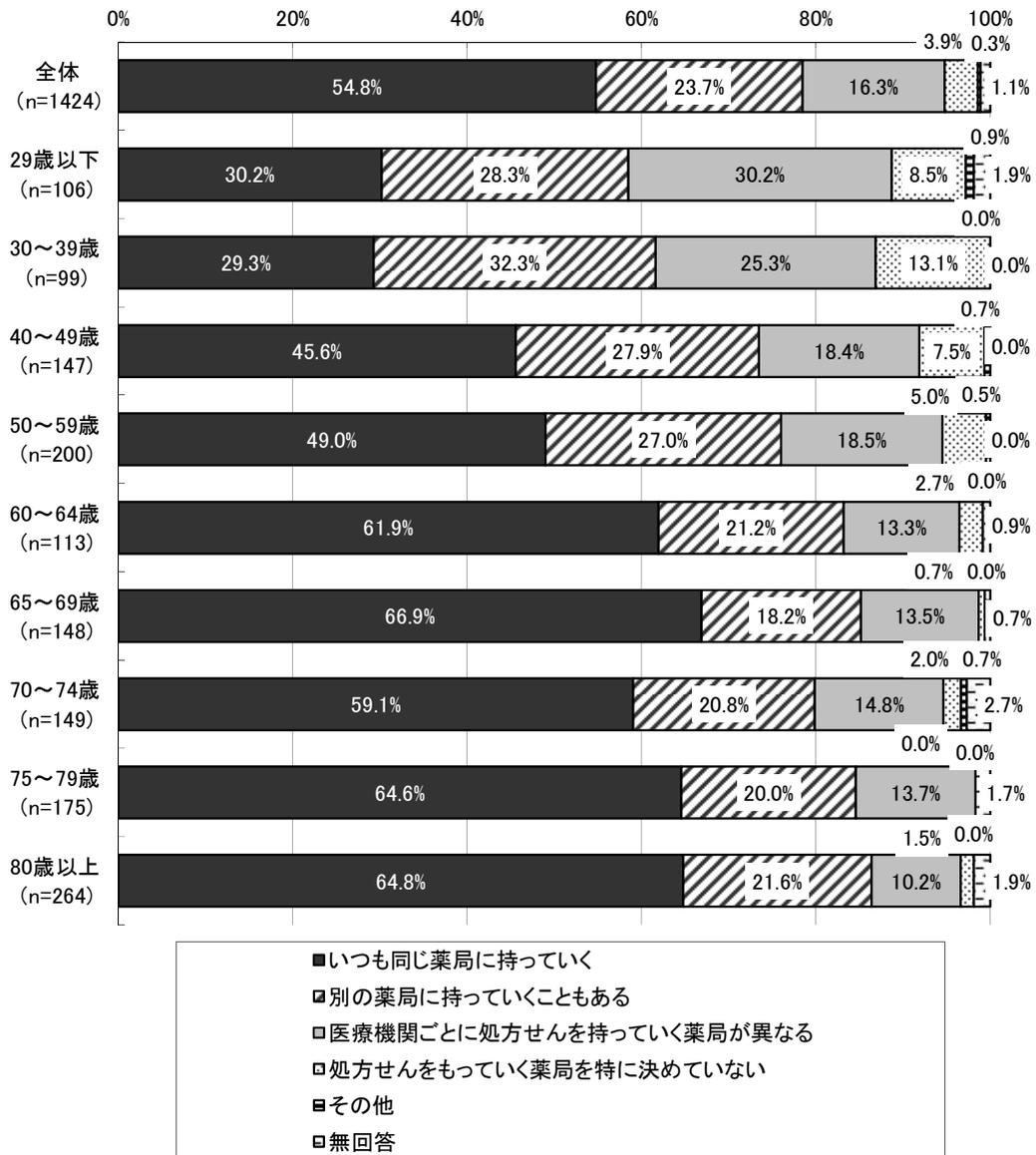
図表 233 処方せんを持っていく薬局の決め方（男女別）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

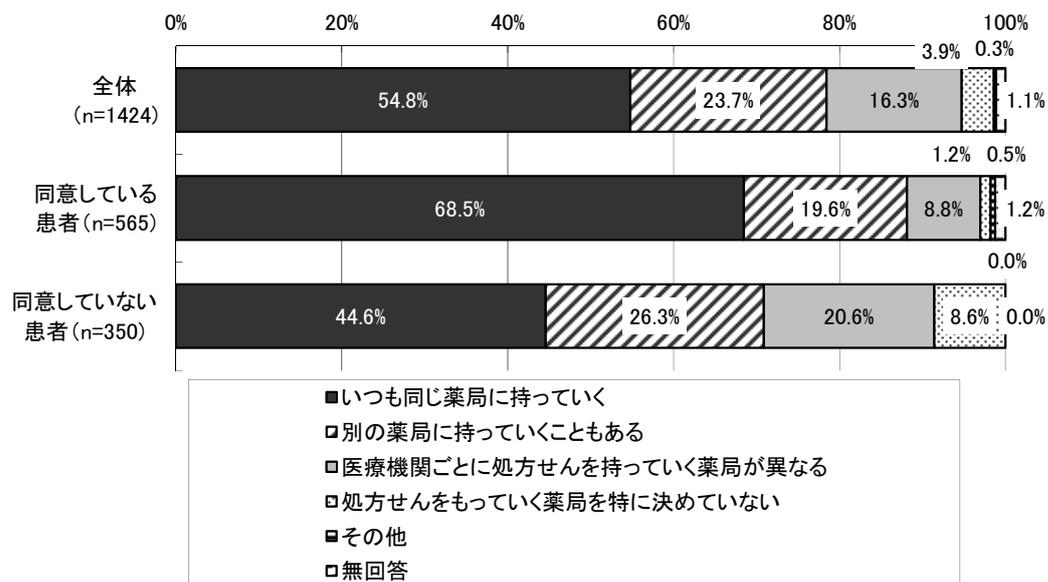
・「その他」の内容として、「助成制度の使える病院の隣の薬局」が挙げられた。

図表 234 処方せんを持っていく薬局の決め方（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 235 処方せんを持っていく薬局の決め方（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



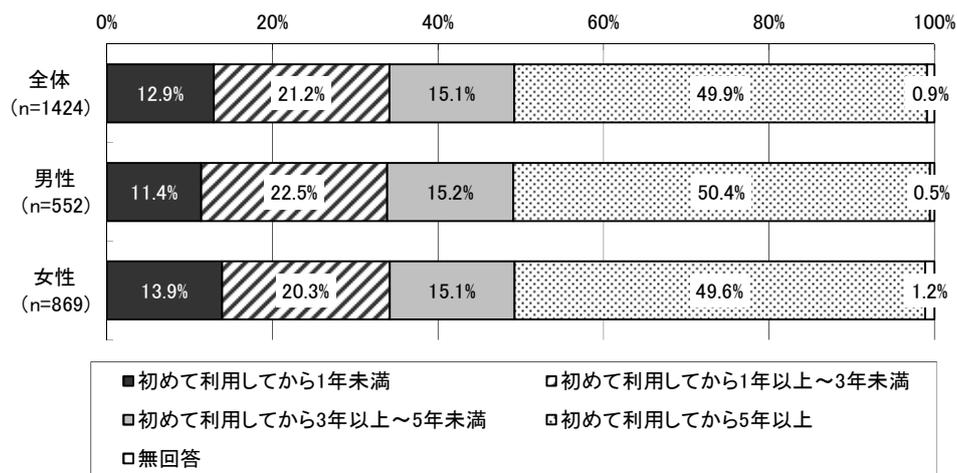
(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

### (3) 調査日に利用した薬局との関係等

#### ① 調査日に利用した薬局の利用期間

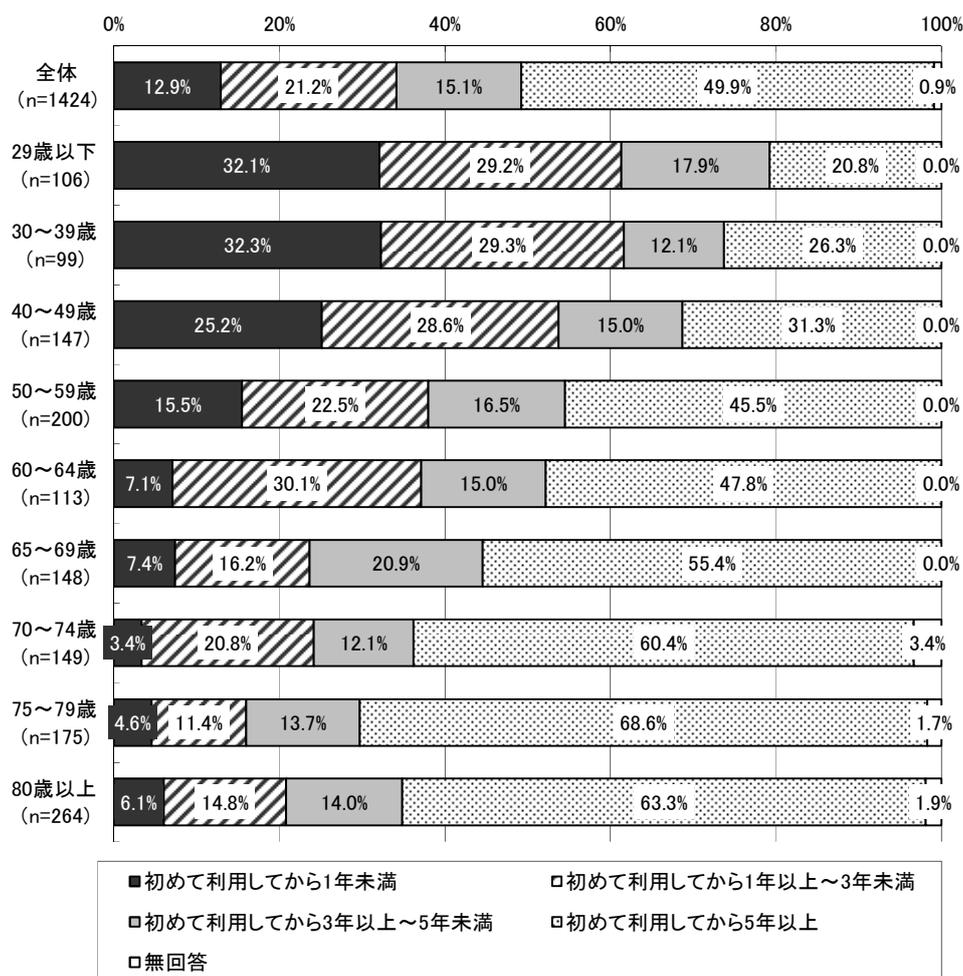
調査日に利用した薬局の利用期間についてみると、「初めて利用してから5年以上」が5割近くを占め、次いで「初めて利用してから1年以上～3年未満」が21.2%、「初めて利用してから3年以上～5年未満」が15.1%、「初めて利用してから1年未満」が12.9%であった。

図表 236 調査日に利用した薬局の利用期間（男女別）



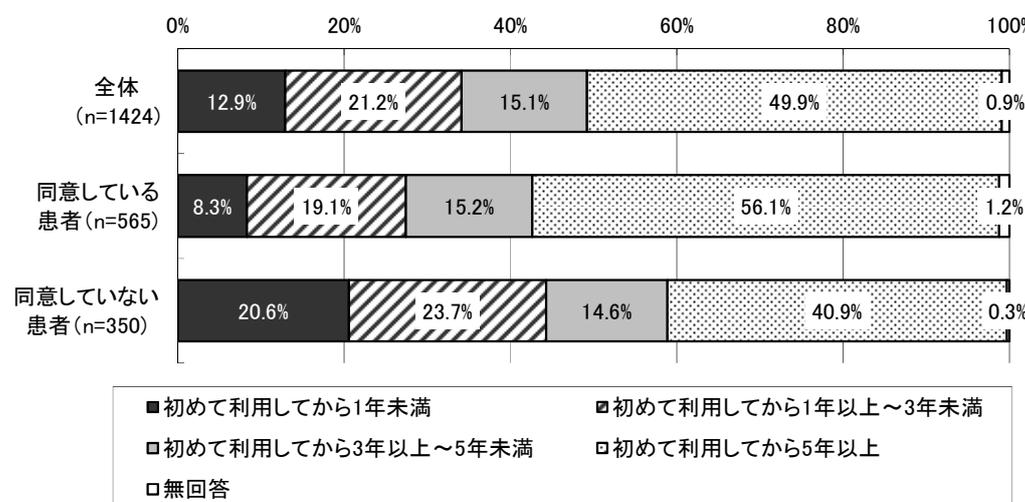
(注) 「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 237 調査日に利用した薬局の利用期間（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 238 調査日に利用した薬局の利用期間（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



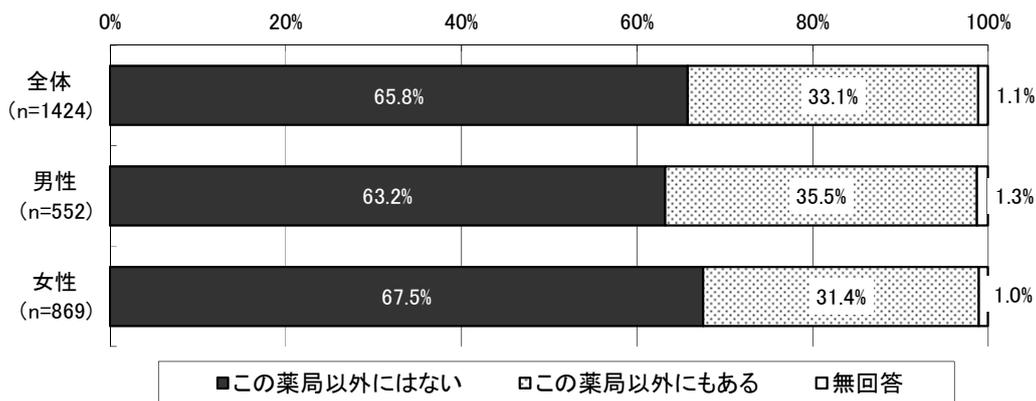
(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

②平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況

平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況についてみると、「この薬局以外にはない」が 65.8%、「この薬局以外にもある」が 33.1%であった。

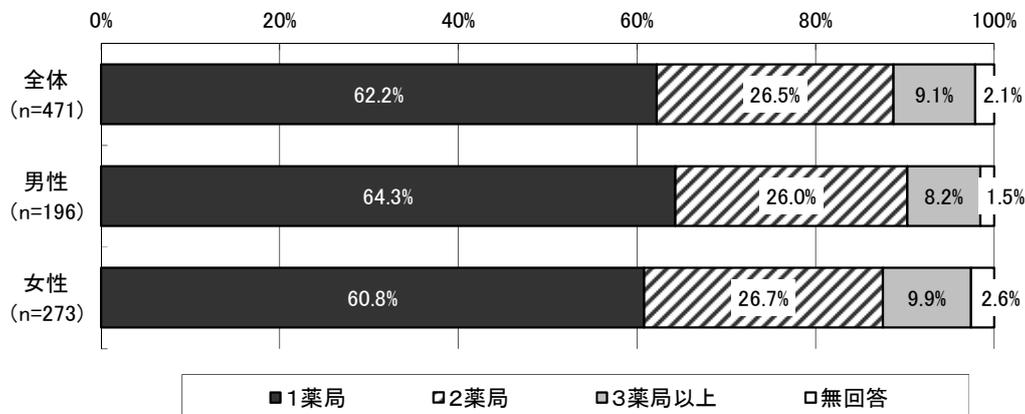
この薬局以外に処方せんを持っていた薬局の数は「1 薬局」が 62.2%で最も多く、平均は 1.5 薬局（中央値 1.0）であった。

図表 239 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況（男女別）



(注)「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 240 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数  
(男女別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の 2 人が含まれる。

図表 241 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数  
(男女別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)

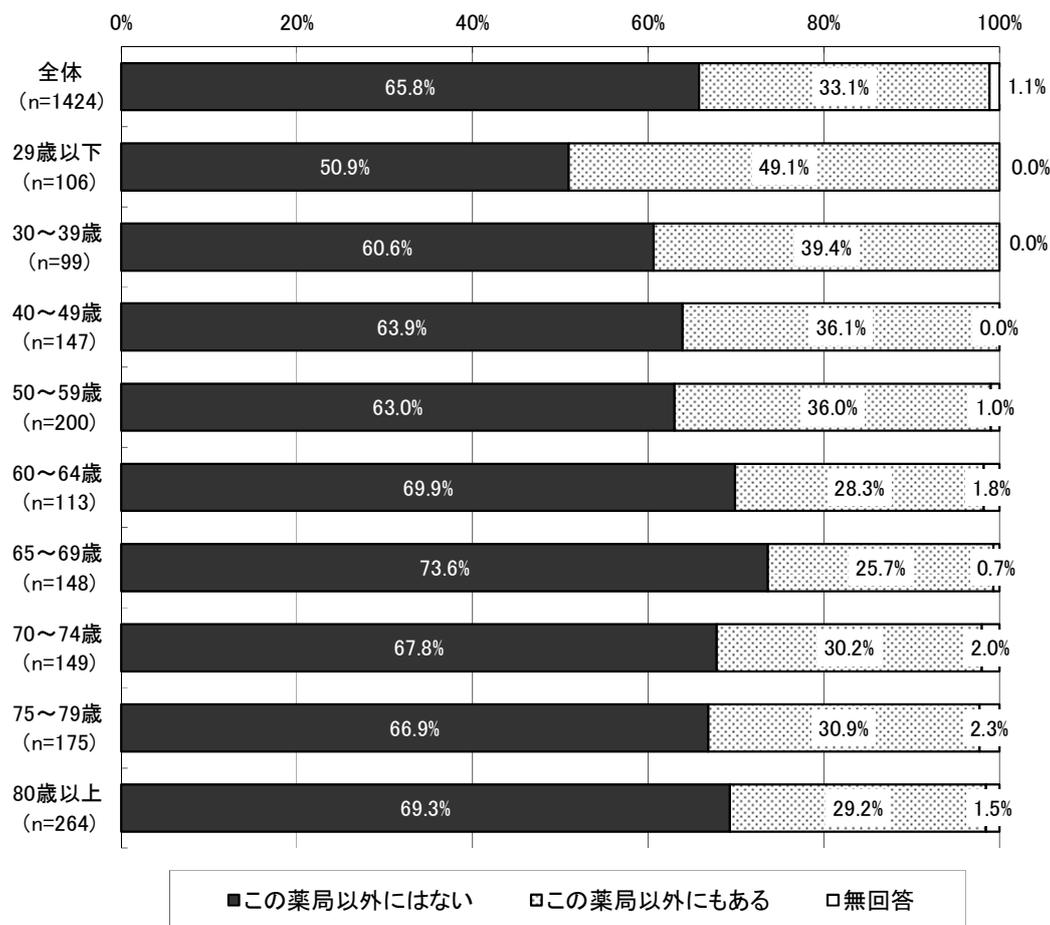
(単位：薬局)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	461	1.5	0.8	1.0
男性	193	1.5	0.8	1.0
女性	266	1.5	0.7	1.0

(注)・「全体」には、性別について無回答の 2 人が含まれる。

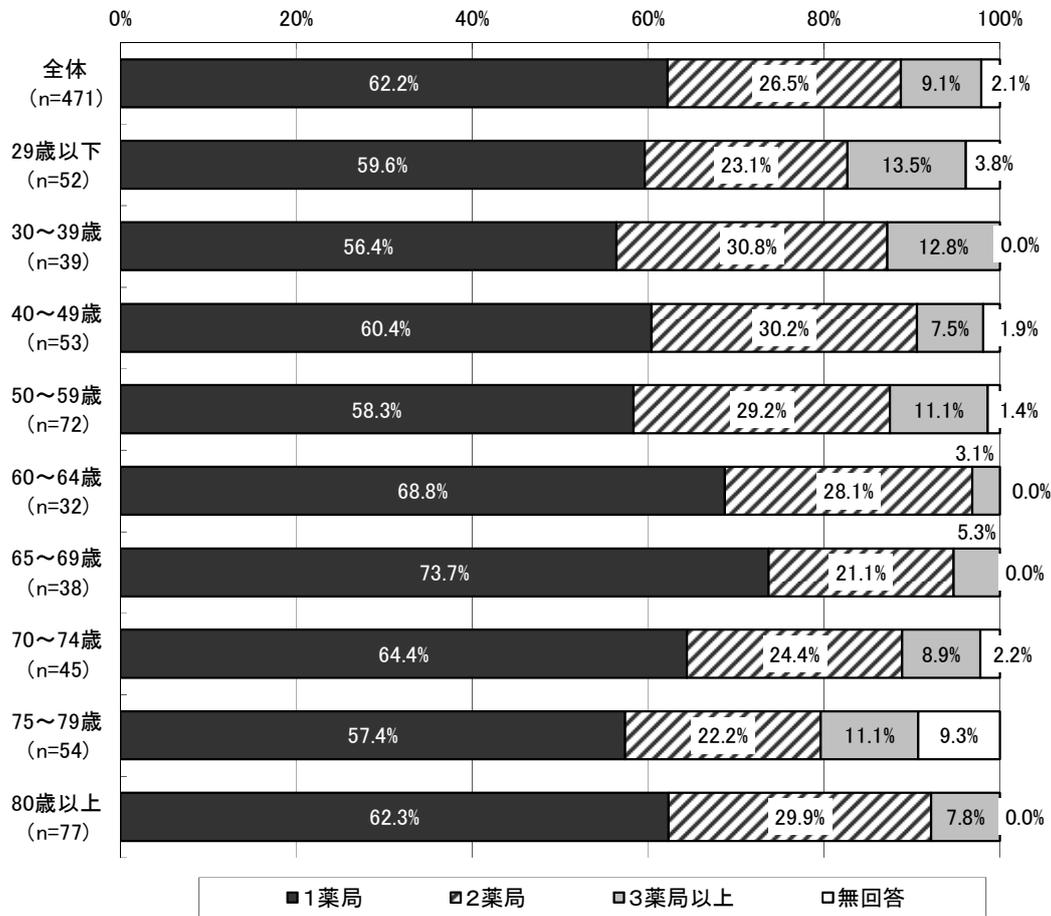
・平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 242 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の 23 人が含まれる。

図表 243 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数  
(年齢階級別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)



(注) 「全体」には、年齢について無回答の 9 人が含まれる。

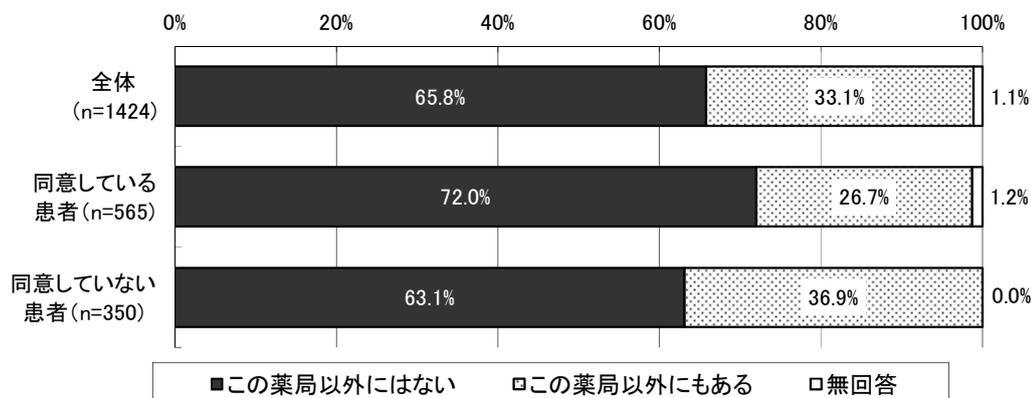
図表 244 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数  
(年齢階級別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)

(単位：薬局)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	461	1.5	0.8	1.0
29 歳以下	50	1.5	0.8	1.0
30~39 歳	39	1.6	0.8	1.0
40~49 歳	52	1.5	0.6	1.0
50~59 歳	71	1.5	0.8	1.0
60~64 歳	32	1.3	0.5	1.0
65~69 歳	38	1.4	1.1	1.0
70~74 歳	44	1.5	0.8	1.0
75~79 歳	49	1.5	0.7	1.0
80 歳以上	77	1.5	0.7	1.0

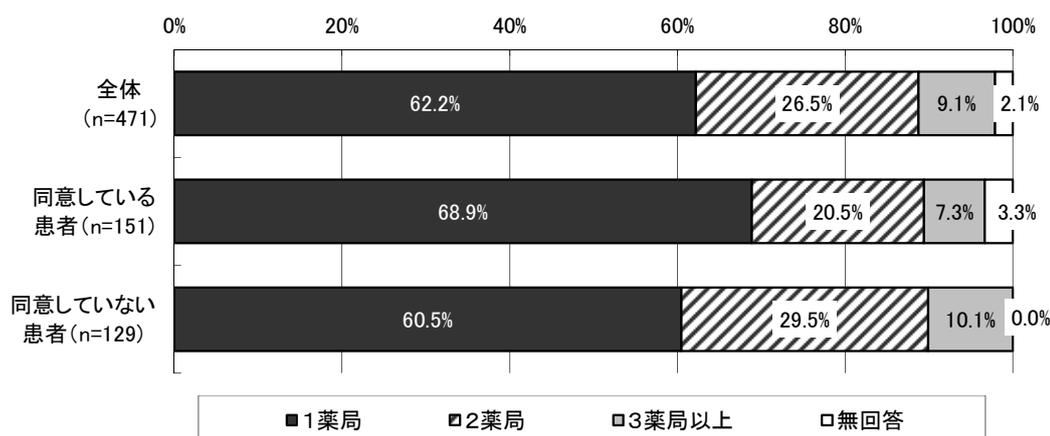
- (注) ・「全体」には、年齢について無回答の 9 人が含まれる。  
 ・平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の数について記入のあったものを集計対象とした。

図表 245 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の状況  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

図表 246 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 191 人が含まれる。

図表 247 平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった他の薬局の数  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、「この薬局以外にもある」と回答した患者)

(単位：薬局)

	人数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	461	1.5	0.8	1.0
同意している患者	146	1.4	0.7	1.0
同意していない患者	129	1.5	0.8	1.0

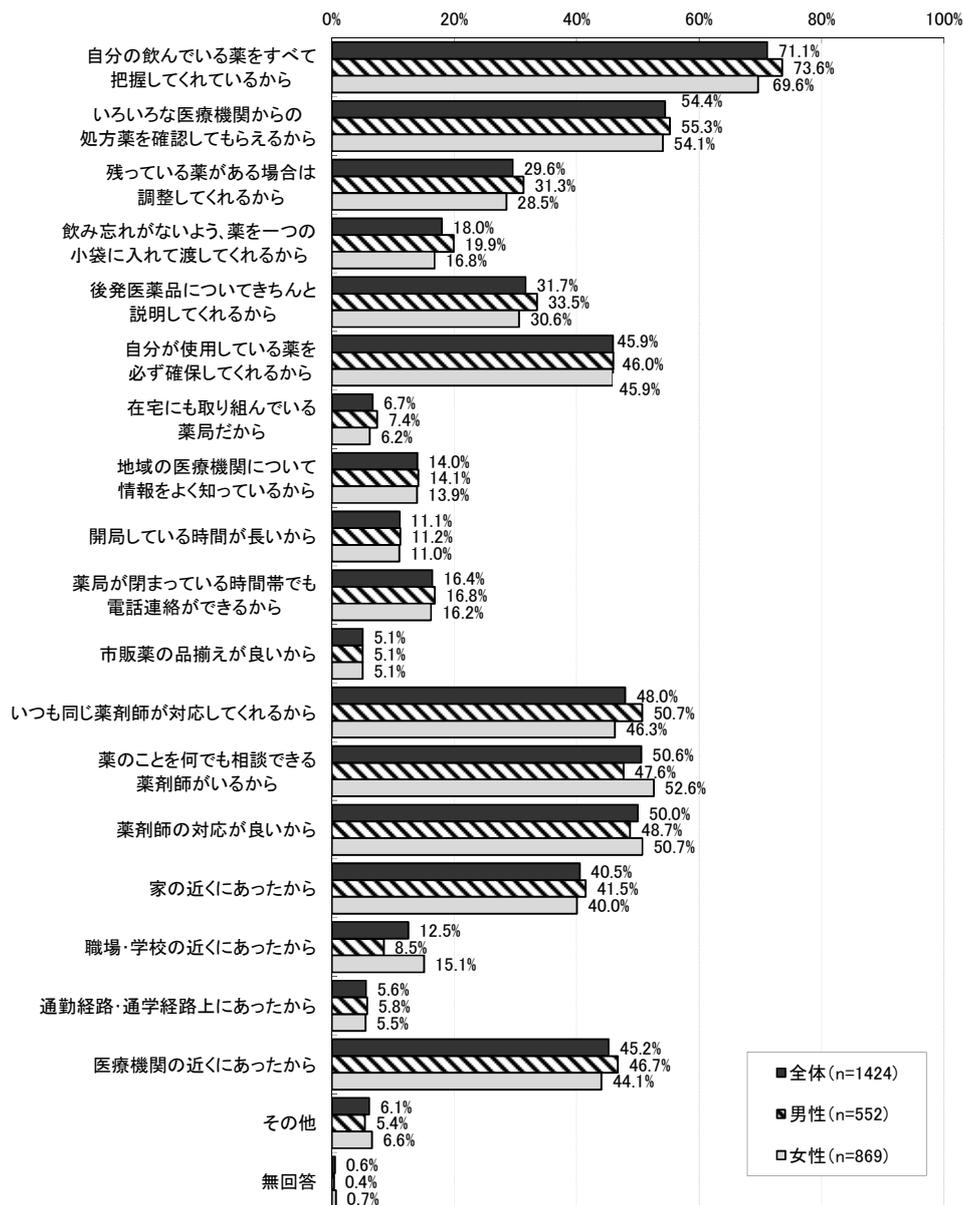
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 186 人が含まれる。

・平成 29 年 4 月以降、処方せんを持っていった薬局の数について記入のあったものを集計対象とした。

### ③本日利用した薬局を選んだ理由

本日利用した薬局を選んだ理由についてみると、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれているから」が71.1%で最も高く、次いで「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえるから」(54.4%)、「薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから」(50.6%)、「薬剤師の対応が良いから」(50.0%)、「いつも同じ薬剤師が対応してくれるから」(48.0%)であった。

図表 248 本日利用した薬局を選んだ理由（男女別、複数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・「その他」の内容として、「家族等が勤めているから」、「信頼できるから」、「相談しやすいから」、「医療機関と直接連絡をとってもらえるから」、「FAX送信して用意してもらえるから」、「いつも行く店のそばにあるから」、「助成を受けているため指定の薬局だから」、「駅の近くにあるから」、「カード払いができるから」、「患者の状態を良くつかんで薬の整理をしてくれるから」、「スタッフの対応が丁寧で安心できるから」、「待ち時間が短いから」、「薬についても詳しく教えてもらえ、薬局の対応が良いから」等が挙げられた。

図表 249 本日利用した薬局を選んだ理由（年齢階級別、複数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	自分の飲んでる薬をすべて把握してくれているから	いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえらるから	残っている薬がある場合は調整してくれるから	飲み忘れがないよう、薬を一つの小袋に入れて渡してくれるから	後発医薬品についてきちんと説明してくれるから	自分が使用している薬を必ず確保してくれるから	在宅にも取り組んでいる薬局だから	地域の医療機関について情報をよく知っているから	開局している時間が長いから	薬局が閉まっている時間帯でも電話連絡ができるから
全体	1424 100.0	1013 71.1	775 54.4	421 29.6	256 18.0	451 31.7	654 45.9	95 6.7	199 14.0	158 11.1	234 16.4
29歳以下	106 100.0	54 50.9	43 40.6	22 20.8	8 7.5	27 25.5	34 32.1	2 1.9	9 8.5	23 21.7	11 10.4
30～39歳	99 100.0	46 46.5	39 39.4	12 12.1	1 1.0	21 21.2	31 31.3	0 0.0	5 5.1	14 14.1	10 10.1
40～49歳	147 100.0	92 62.6	77 52.4	39 26.5	17 11.6	49 33.3	63 42.9	5 3.4	17 11.6	11 7.5	21 14.3
50～59歳	200 100.0	128 64.0	94 47.0	42 21.0	19 9.5	54 27.0	97 48.5	5 2.5	23 11.5	18 9.0	21 10.5
60～64歳	113 100.0	88 77.9	59 52.2	31 27.4	10 8.8	40 35.4	58 51.3	6 5.3	18 15.9	19 16.8	15 13.3
65～69歳	148 100.0	115 77.7	92 62.2	47 31.8	21 14.2	47 31.8	76 51.4	12 8.1	25 16.9	13 8.8	28 18.9
70～74歳	149 100.0	118 79.2	86 57.7	45 30.2	27 18.1	58 38.9	72 48.3	8 5.4	17 11.4	12 8.1	22 14.8
75～79歳	175 100.0	143 81.7	102 58.3	62 35.4	36 20.6	59 33.7	89 50.9	14 8.0	32 18.3	14 8.0	38 21.7
80歳以上	264 100.0	212 80.3	170 64.4	115 43.6	112 42.4	89 33.7	131 49.6	43 16.3	48 18.2	31 11.7	66 25.0

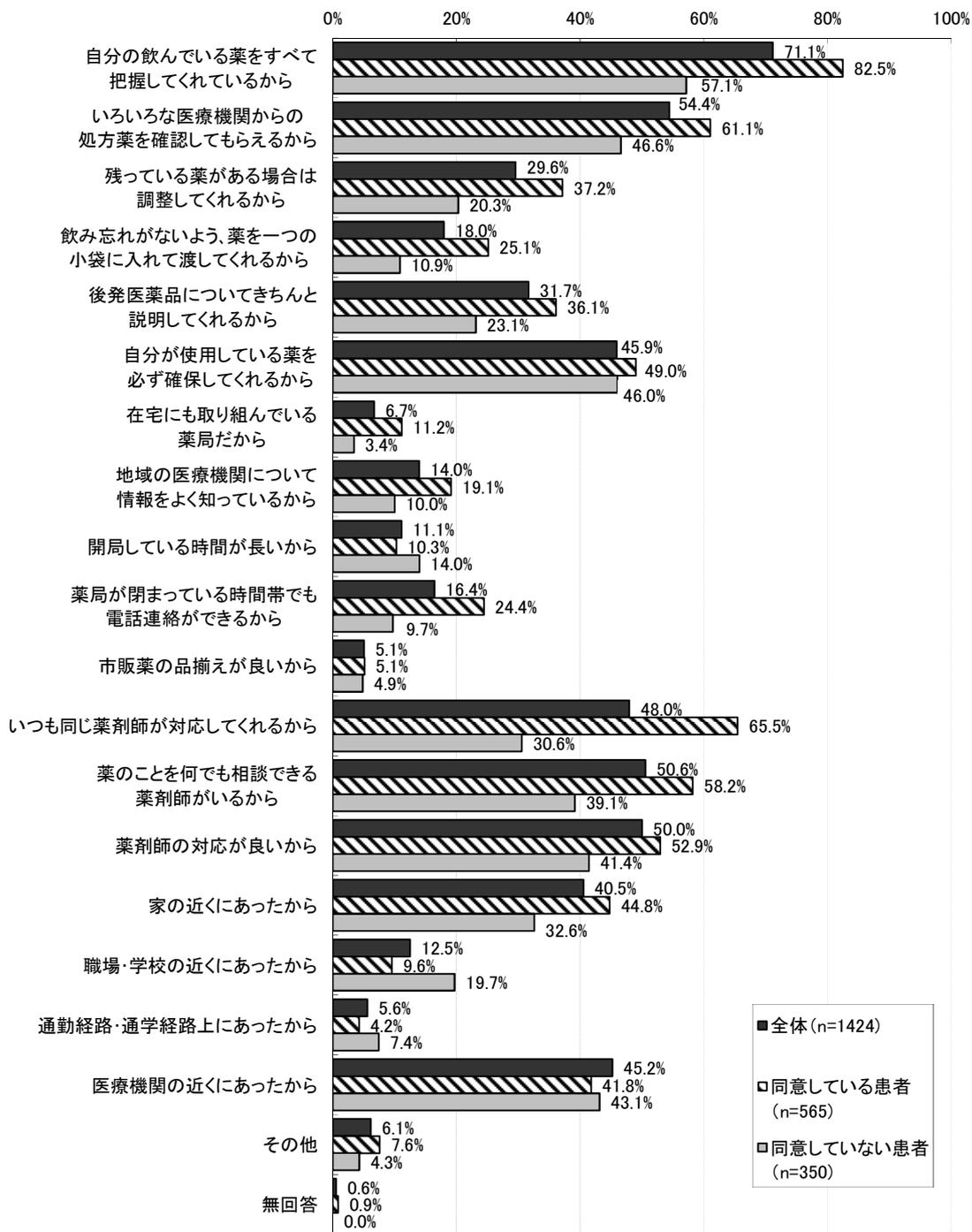
図表 250 本日利用した薬局を選んだ理由（年齢階級別、複数回答）②

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	市販薬の品揃えが良いから	いつも同じ薬剤師が対応してくれるから	薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから	薬剤師の対応が良いから	家の近くにあったから	職場・学校の近くにあったから	通勤経路・通学経路上にあったから	医療機関の近くにあったから	その他	無回答
全体	1424 100.0	72 5.1	683 48.0	720 50.6	712 50.0	577 40.5	178 12.5	80 5.6	644 45.2	87 6.1	8 0.6
29歳以下	106 100.0	2 1.9	33 31.1	50 47.2	57 53.8	24 22.6	22 20.8	14 13.2	60 56.6	5 4.7	0 0.0
30～39歳	99 100.0	3 3.0	26 26.3	33 33.3	47 47.5	24 24.2	28 28.3	11 11.1	56 56.6	3 3.0	0 0.0
40～49歳	147 100.0	6 4.1	50 34.0	61 41.5	70 47.6	55 37.4	33 22.4	13 8.8	65 44.2	2 1.4	0 0.0
50～59歳	200 100.0	6 3.0	86 43.0	92 46.0	87 43.5	53 26.5	43 21.5	13 6.5	105 52.5	7 3.5	1 0.5
60～64歳	113 100.0	8 7.1	57 50.4	53 46.9	64 56.6	51 45.1	20 17.7	10 8.8	37 32.7	5 4.4	0 0.0
65～69歳	148 100.0	12 8.1	83 56.1	78 52.7	71 48.0	62 41.9	6 4.1	4 2.7	68 45.9	18 12.2	0 0.0
70～74歳	149 100.0	4 2.7	81 54.4	76 51.0	73 49.0	68 45.6	10 6.7	6 4.0	62 41.6	11 7.4	3 2.0
75～79歳	175 100.0	9 5.1	97 55.4	103 58.9	86 49.1	97 55.4	8 4.6	3 1.7	71 40.6	8 4.6	2 1.1
80歳以上	264 100.0	20 7.6	157 59.5	162 61.4	145 54.9	134 50.8	6 2.3	4 1.5	108 40.9	28 10.6	2 0.8

（注）「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 251 本日利用した薬局を選んだ理由  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、複数回答)

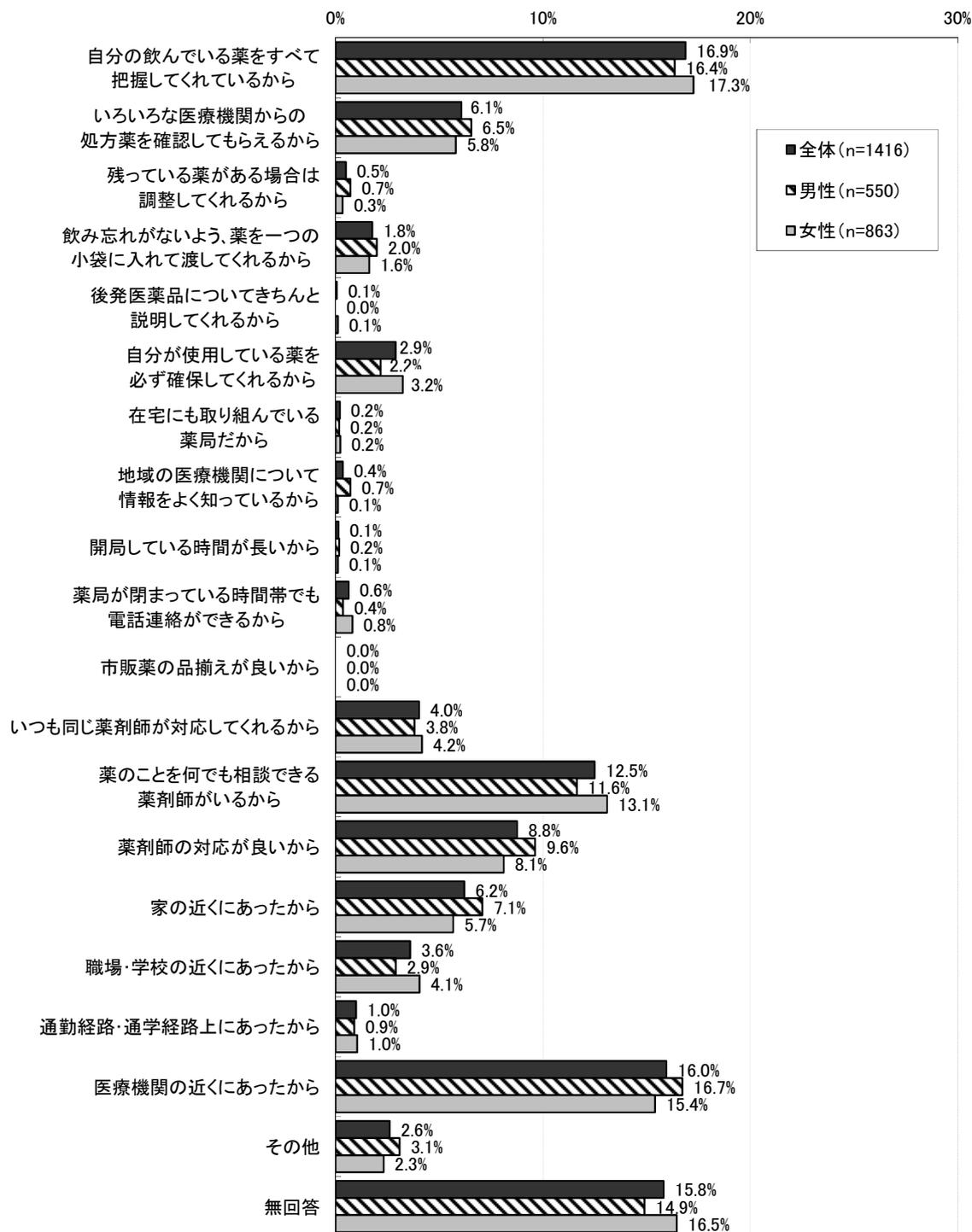


(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

#### ④本日利用した薬局を選んだ最大の理由

本日利用した薬局を選んだ最大の理由についてみると、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれているから」が16.9%で最も高く、次いで「医療機関の近くにあったから」(16.0%)、「薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから」(12.5%)であった。

図表 252 本日利用した薬局を選んだ最大の理由（男女別、単数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・本日利用した薬局を選んだ理由が無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 253 本日利用した薬局を選んだ最大の理由（年齢階級別、単数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	自分の飲んで いる薬を すべて把握 している から	自分の飲んで いる薬を すべて把握 している 薬を 確認して もらえる から	いろいろな 医療機関 からの 処方薬を 確認して もらえる から	残っている 薬がある 場合は 調整して くれる から	飲み忘れ がないよう 薬を一つ の小袋に 入れて 渡してく れるから	後発医薬 品につい てきちん と説明し てくれる から	自分が使 用してい る薬を必 ず確保し てくれる から	在宅にも 取り組ん でいる 薬局だ から	地域の医 療機関に ついて情 報をよく 知ってい るから	開局して いる時間 が長い から	薬局が閉 まっている 時間でも 電話連絡 ができる から
全体	1416 100.0	239 16.9	86 6.1	7 0.5	25 1.8	1 0.1	41 2.9	3 0.2	5 0.4	2 0.1	9 0.6	
29歳以下	106 100.0	10 9.4	6 5.7	0 0.0	1 0.9	0 0.0	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9	
30～39歳	99 100.0	11 11.1	1 1.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	2 2.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	
40～49歳	147 100.0	24 16.3	8 5.4	1 0.7	1 0.7	0 0.0	6 4.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.7	
50～59歳	199 100.0	24 12.1	15 7.5	2 1.0	3 1.5	0 0.0	12 6.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.5	
60～64歳	113 100.0	24 21.2	8 7.1	0 0.0	1 0.9	1 0.9	3 2.7	0 0.0	2 1.8	1 0.9	0 0.0	
65～69歳	148 100.0	32 21.6	10 6.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 5.4	0 0.0	2 1.4	0 0.0	0 0.0	
70～74歳	146 100.0	37 25.3	9 6.2	1 0.7	4 2.7	0 0.0	3 2.1	1 0.7	1 0.7	0 0.0	1 0.7	
75～79歳	173 100.0	23 13.3	11 6.4	0 0.0	1 0.6	0 0.0	3 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.6	
80歳以上	262 100.0	49 18.7	18 6.9	1 0.4	13 5.0	0 0.0	3 1.1	2 0.8	0 0.0	0 0.0	2 0.8	

図表 254 本日利用した薬局を選んだ最大の理由（年齢階級別、単数回答）②

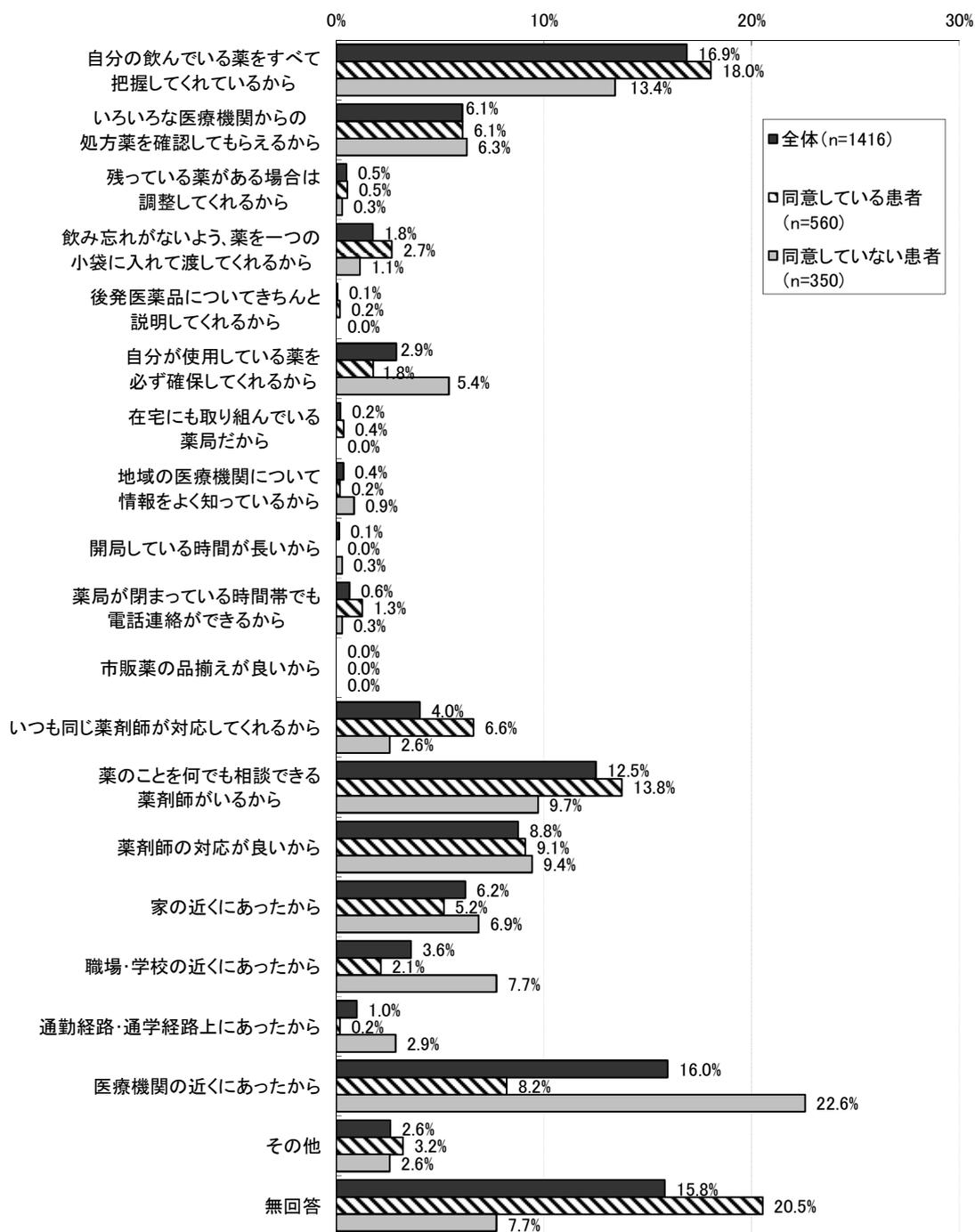
（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	市販薬の品揃えが良いから	いつも同じ薬剤師が対応してくれるから	薬のことを何でも相談できる薬剤師がいるから	薬剤師の対応が良いから	家の近くにあったから	職場・学校の近くにあったから	通勤経路・通学経路上にあったから	医療機関の近くにあったから	その他	無回答
全体	1416 100.0	0 0.0	57 4.0	177 12.5	124 8.8	88 6.2	51 3.6	14 1.0	226 16.0	37 2.6	224 15.8
29歳以下	106 100.0	0 0.0	4 3.8	13 12.3	16 15.1	5 4.7	5 4.7	3 2.8	29 27.4	4 3.8	8 7.5
30～39歳	99 100.0	0 0.0	1 1.0	4 4.0	16 16.2	3 3.0	10 10.1	3 3.0	37 37.4	1 1.0	8 8.1
40～49歳	147 100.0	0 0.0	5 3.4	13 8.8	19 12.9	15 10.2	8 5.4	2 1.4	23 15.6	0 0.0	21 14.3
50～59歳	199 100.0	0 0.0	7 3.5	21 10.6	16 8.0	11 5.5	16 8.0	3 1.5	45 22.6	2 1.0	19 9.5
60～64歳	113 100.0	0 0.0	7 6.2	14 12.4	9 8.0	6 5.3	5 4.4	1 0.9	11 9.7	3 2.7	17 15.0
65～69歳	148 100.0	0 0.0	1 0.7	19 12.8	11 7.4	12 8.1	1 0.7	1 0.7	17 11.5	9 6.1	25 16.9
70～74歳	146 100.0	0 0.0	4 2.7	20 13.7	8 5.5	7 4.8	2 1.4	1 0.7	16 11.0	5 3.4	26 17.8
75～79歳	173 100.0	0 0.0	15 8.7	24 13.9	12 6.9	13 7.5	2 1.2	0 0.0	22 12.7	2 1.2	44 25.4
80歳以上	262 100.0	0 0.0	11 4.2	44 16.8	16 6.1	16 6.1	2 0.8	0 0.0	21 8.0	11 4.2	53 20.2

（注）・「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

・本日利用した薬局を選んだ理由が無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 255 本日利用した薬局を選んだ最大の理由  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、単数回答)



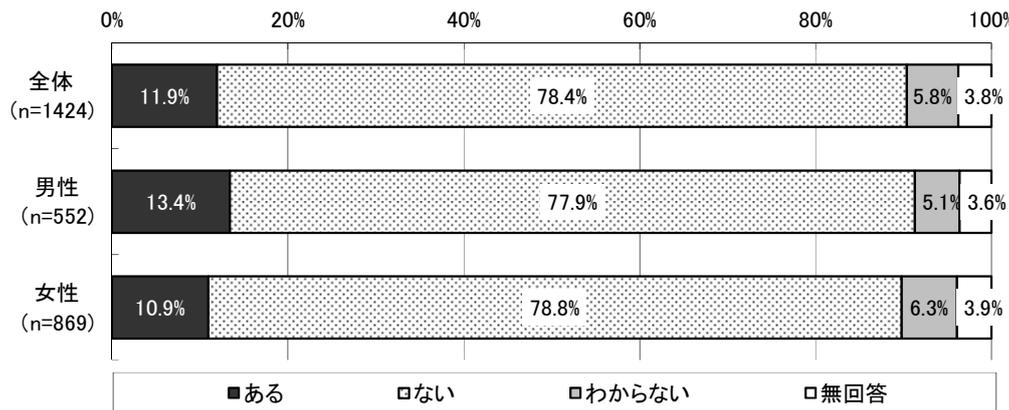
(注) ・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」だった患者 506 人が含まれる。

・本日利用した薬局を選んだ理由が無回答であったものを除いて集計対象とした。

⑤薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無

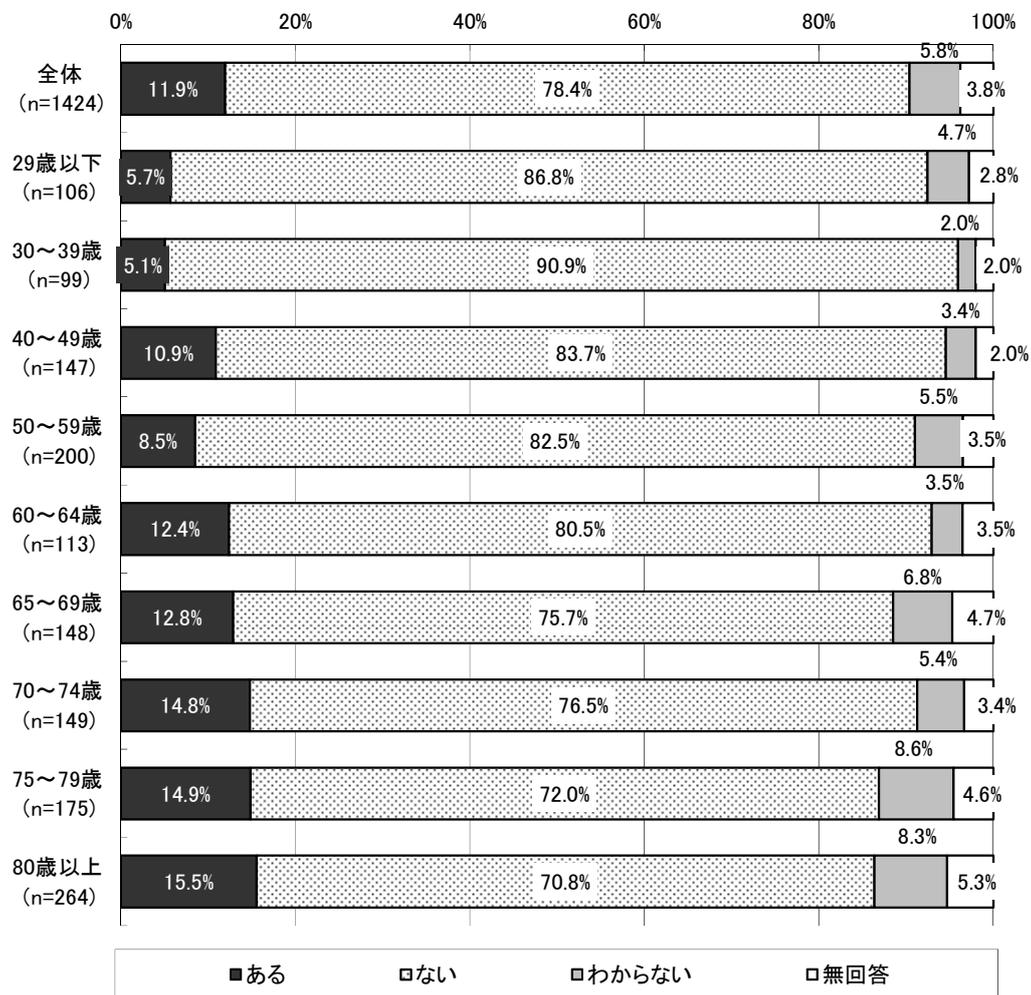
この1年くらいの中に、本日利用した薬局で、投与されている薬の重複や飲み合わせが悪いこと等がわかって、医師に薬を変更してもらったことがあるか尋ねたところ、「ある」という回答が11.9%、「ない」が78.4%、「わからない」が5.8%であった。

図表 256 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無  
(男女別)



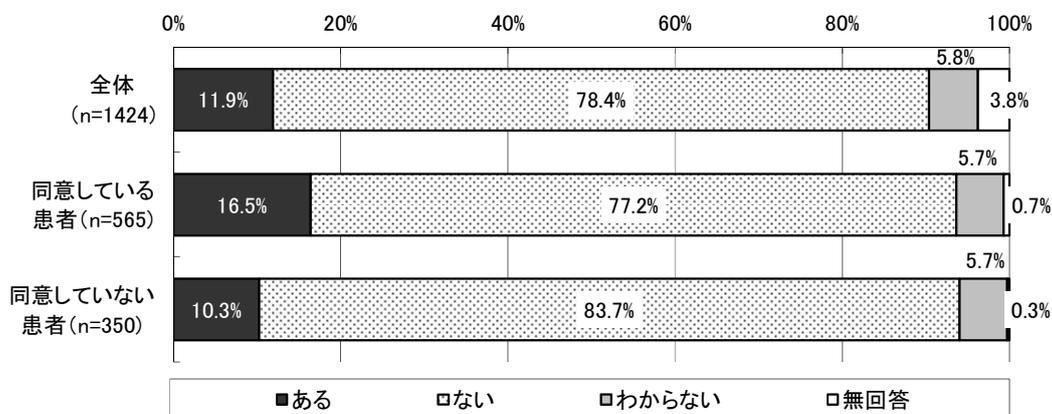
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 257 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無  
(年齢階級別)



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 258 薬局で薬の重複等がわかって、医師に薬を変更してもらった経験の有無  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別)

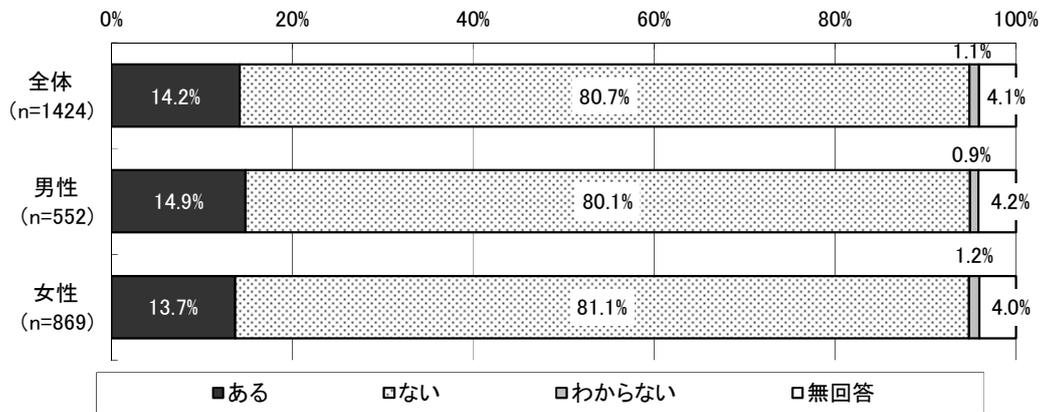


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

⑥残薬について薬局に相談した経験の有無

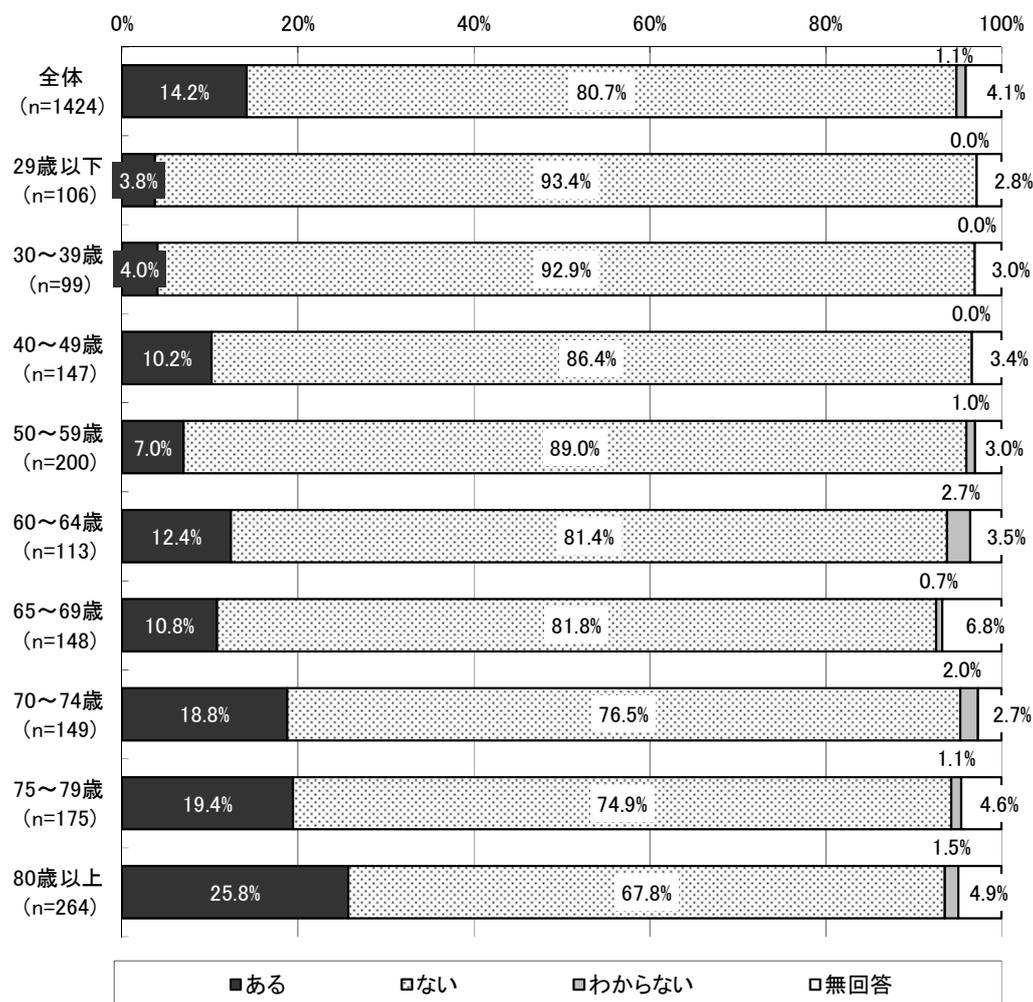
平成 29 年 4 月以降の、残薬について薬局に相談した経験の有無についてみると、「ある」が 14.2%、「ない」が 80.7%であった。

図表 259 残薬について薬局に相談した経験の有無（男女別）



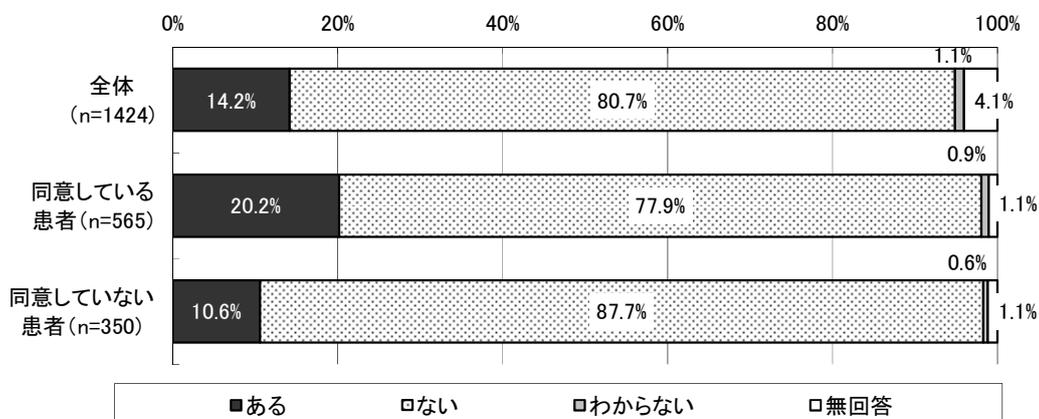
(注) 「全体」には、性別について無回答の 3 人が含まれる。

図表 260 残薬について薬局に相談した経験の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 261 残薬について薬局に相談した経験の有無  
（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

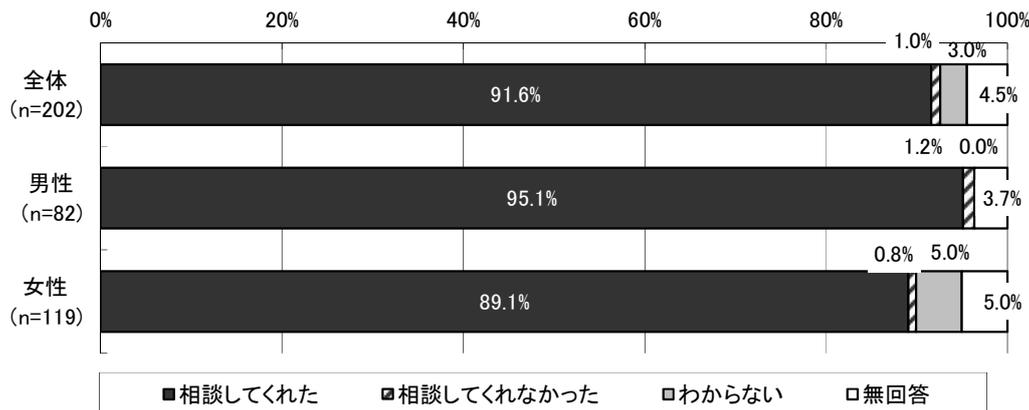


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

⑦残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか

残薬について薬局に相談したことが「ある」と回答した人に、残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたかを尋ねたところ、「相談してくれた」が91.6%、「相談してくれなかった」が1.0%、「わからない」が3.0%であった。

図表 262 残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか  
(男女別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の1人が含まれる。

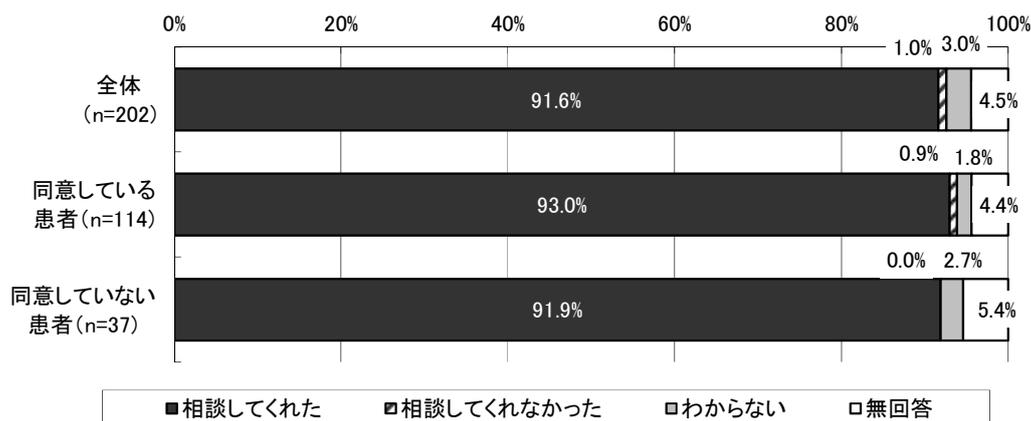
図表 263 残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか  
(年齢階級別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	相談して くれた	相談してくれ なかった	わからない	無回答
全体	202 100.0	185 91.6	2 1.0	6 3.0	9 4.5
29歳以下	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0
30～39歳	4 100.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0
40～49歳	15 100.0	15 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
50～59歳	14 100.0	11 78.6	0 0.0	2 14.3	1 7.1
60～64歳	14 100.0	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
65～69歳	16 100.0	14 87.5	0 0.0	1 6.3	1 6.3
70～74歳	28 100.0	26 92.9	1 3.6	1 3.6	0 0.0
75～79歳	34 100.0	34 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
80歳以上	68 100.0	63 92.6	0 0.0	0 0.0	5 7.4

(注)「全体」には、年齢について無回答の5人が含まれる。

図表 264 残薬について薬局に相談した結果、薬剤師が医師に相談してくれたか  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)

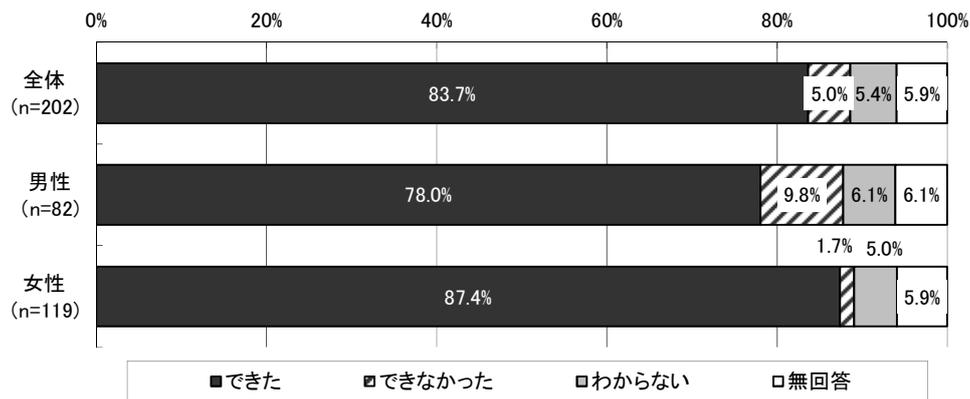


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者51人が含まれる。

⑧結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか

残薬について薬局に相談したことが「ある」と回答した人に、結果的に調剤してもらった薬を減らすことができたかを尋ねたところ、「できた」が83.7%、「できなかった」が5.0%、「わからない」が5.4%であった。

図表 265 結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか  
(男女別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)



(注)「全体」には、性別について無回答の1人が含まれる。

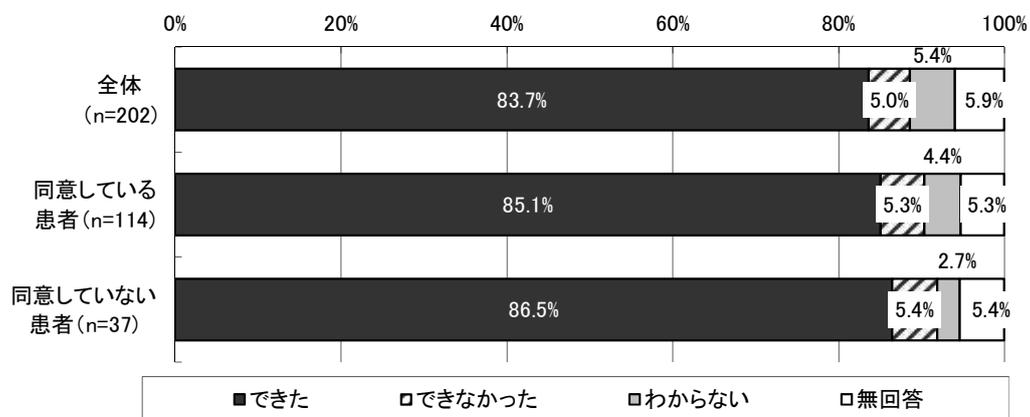
図表 266 結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか  
(年齢階級別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	できた	できなかった	わからない	無回答
全体	202 100.0	169 83.7	10 5.0	11 5.4	12 5.9
29歳以下	4 100.0	3 75.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
30～39歳	4 100.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
40～49歳	15 100.0	12 80.0	2 13.3	0 0.0	1 6.7
50～59歳	14 100.0	11 78.6	1 7.1	1 7.1	1 7.1
60～64歳	14 100.0	13 92.9	1 7.1	0 0.0	0 0.0
65～69歳	16 100.0	13 81.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3
70～74歳	28 100.0	22 78.6	2 7.1	2 7.1	2 7.1
75～79歳	34 100.0	30 88.2	0 0.0	2 5.9	2 5.9
80歳以上	68 100.0	59 86.8	1 1.5	4 5.9	4 5.9

(注)「全体」には、年齢について無回答の5人が含まれる。

図表 267 結果的に、調剤してもらった薬を減らすことができたか  
 (かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、残薬について薬局に相談した経験がある患者)



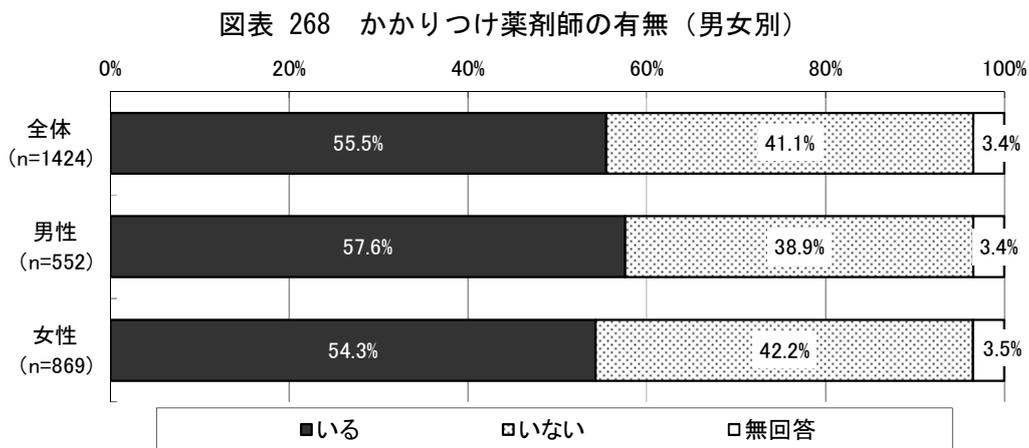
(注) 「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 51 人が含まれる。

#### (4) かかりつけ薬剤師についてのお考え等

##### ①かかりつけ薬剤師の有無

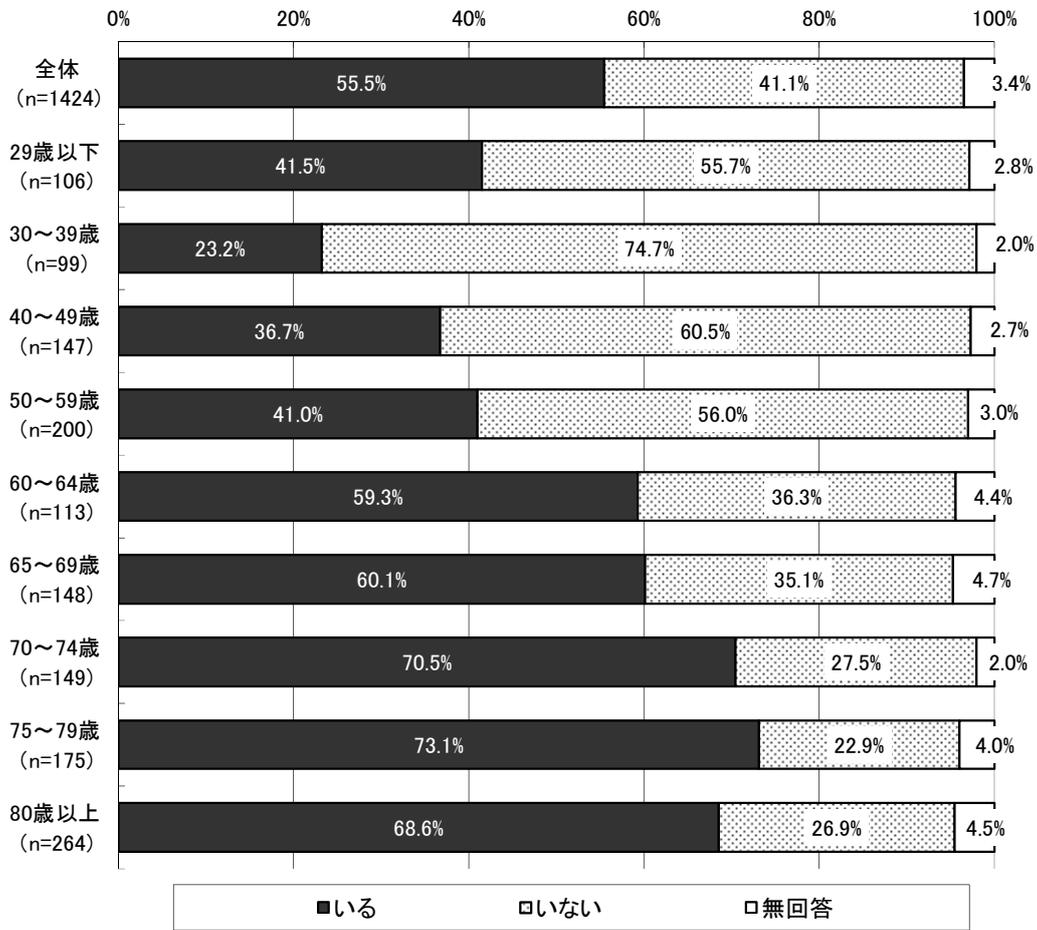
ここでは「かかりつけ薬剤師」について、「患者が服用している薬をすべて知っていて、薬の飲み忘れがないか、複数の医療機関からの薬で重複しているものがないかなどをチェックしてくれる、薬のことをなんでも相談できる薬剤師」と定義した上で、かかりつけ薬剤師がいるかを尋ねた。

この結果、かかりつけ薬剤師が「いる」という回答は55.5%、「いない」が41.1%であった。



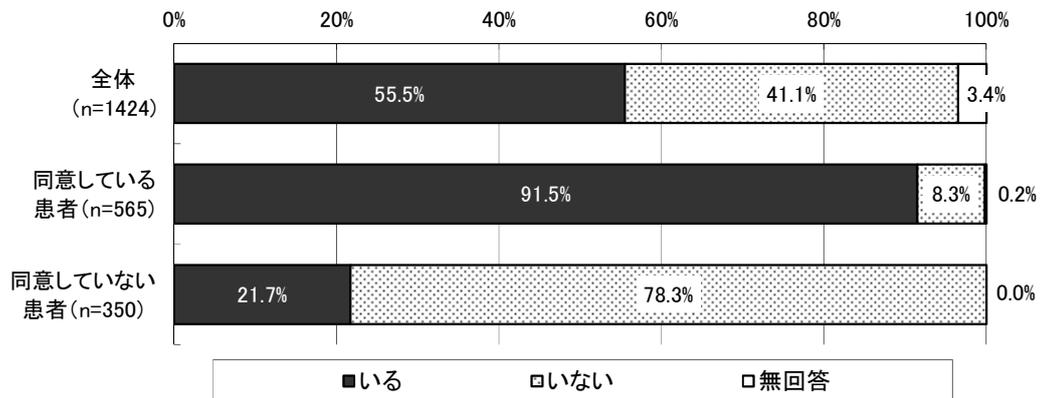
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 269 かかりつけ薬剤師の有無（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 270 かかりつけ薬剤師の有無（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）

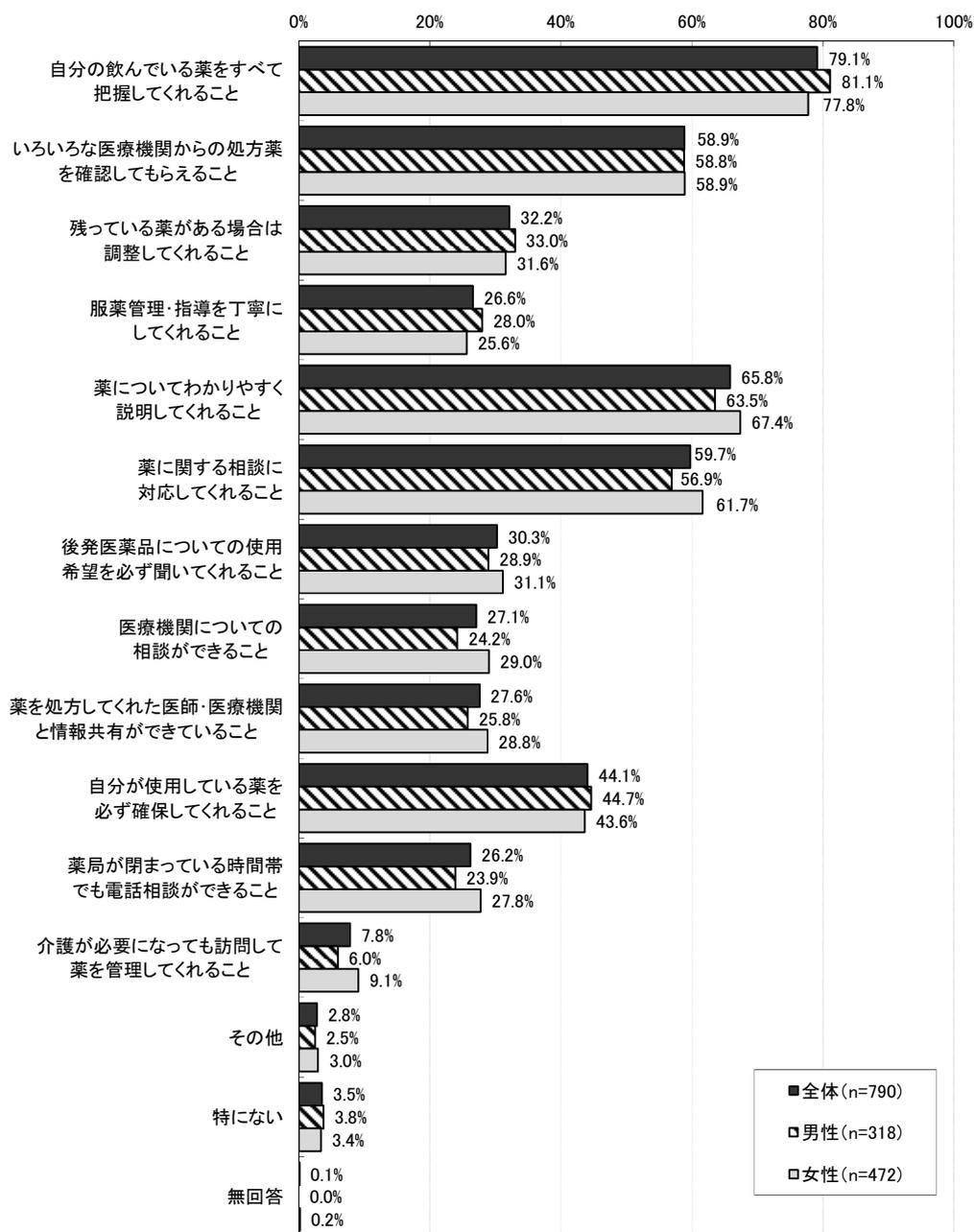


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

## ②かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験

ここでは「かかりつけ薬剤師」が「いる」と回答した人に対して、かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験について尋ねたところ、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること」が79.1%で最も高く、次いで「薬についてわかりやすく説明してくれること」(65.8%)、「薬に関する相談に対応してくれること」(59.7%)、「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること」(58.9%)であった。

図表 271 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験  
(男女別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答)



(注) 「その他」の内容として、「自宅まで来て対応してくれる」、「相談にのってもらえる」、「漢方の相談もできる」、「OTC薬についてもアドバイスをしてくれる」、「副作用が出た時に相談にのってもらい、同じ系統の薬を教えてくれる」、「医師の出した薬の量を確認してくれる」等が挙げられた。

図表 272 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験  
 (年齢階級別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答) ① (次表に続く)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること	いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること	残っている薬がある場合は調整してくれること	服薬管理・指導を丁寧にしてくれること	薬についてわかりやすく説明してくれること	薬に関する相談に対応してくれること	後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること	医療機関についての相談ができること
全体	790 100.0	625 79.1	465 58.9	254 32.2	210 26.6	520 65.8	472 59.7	239 30.3	214 27.1
29歳以下	44 100.0	31 70.5	28 63.6	14 31.8	8 18.2	28 63.6	30 68.2	12 27.3	8 18.2
30～39歳	23 100.0	14 60.9	11 47.8	3 13.0	0 0.0	11 47.8	15 65.2	5 21.7	5 21.7
40～49歳	54 100.0	46 85.2	32 59.3	16 29.6	11 20.4	38 70.4	33 61.1	22 40.7	18 33.3
50～59歳	82 100.0	60 73.2	43 52.4	15 18.3	14 17.1	57 69.5	44 53.7	18 22.0	20 24.4
60～64歳	67 100.0	54 80.6	39 58.2	19 28.4	8 11.9	40 59.7	43 64.2	25 37.3	16 23.9
65～69歳	89 100.0	70 78.7	49 55.1	30 33.7	19 21.3	62 69.7	52 58.4	32 36.0	25 28.1
70～74歳	105 100.0	84 80.0	61 58.1	33 31.4	23 21.9	69 65.7	60 57.1	30 28.6	28 26.7
75～79歳	128 100.0	102 79.7	77 60.2	48 37.5	30 23.4	81 63.3	79 61.7	34 26.6	41 32.0
80歳以上	181 100.0	154 85.1	118 65.2	71 39.2	93 51.4	124 68.5	109 60.2	57 31.5	50 27.6

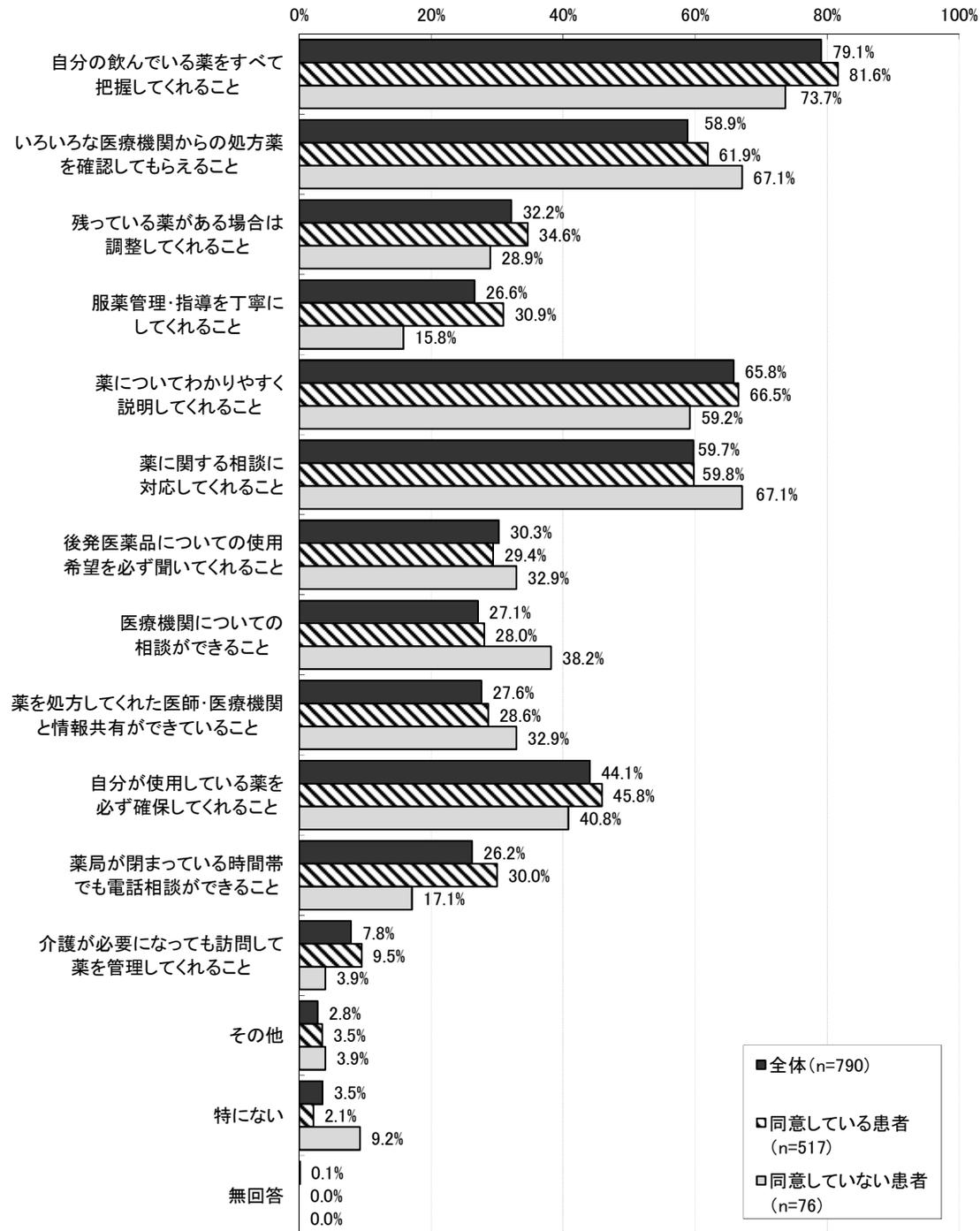
図表 273 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験  
 (年齢階級別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答) ②

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	薬を処方してくれた医師・医療機関と情報共有ができていること	自分が使用している薬を必ず確保してくれること	薬局が閉まっている時間帯でも電話相談ができること	介護が必要になっても訪問して薬を管理してくれること	その他	特にない	無回答
全体	790 100.0	218 27.6	348 44.1	207 26.2	62 7.8	22 2.8	28 3.5	1 0.1
29歳以下	44 100.0	10 22.7	17 38.6	13 29.5	1 2.3	1 2.3	1 2.3	0 0.0
30～39歳	23 100.0	4 17.4	9 39.1	3 13.0	0 0.0	0 0.0	2 8.7	0 0.0
40～49歳	54 100.0	13 24.1	25 46.3	17 31.5	3 5.6	2 3.7	2 3.7	0 0.0
50～59歳	82 100.0	18 22.0	34 41.5	15 18.3	3 3.7	3 3.7	3 3.7	0 0.0
60～64歳	67 100.0	15 22.4	31 46.3	17 25.4	1 1.5	1 1.5	1 1.5	0 0.0
65～69歳	89 100.0	25 28.1	41 46.1	25 28.1	8 9.0	1 1.1	3 3.4	0 0.0
70～74歳	105 100.0	35 33.3	49 46.7	22 21.0	7 6.7	3 2.9	6 5.7	0 0.0
75～79歳	128 100.0	38 29.7	53 41.4	34 26.6	14 10.9	6 4.7	5 3.9	1 0.8
80歳以上	181 100.0	57 31.5	84 46.4	58 32.0	24 13.3	5 2.8	5 2.8	0 0.0

(注)「全体」には、年齢について無回答の17人が含まれる。

図表 274 かかりつけ薬剤師がいてよかったと実感した経験（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、かかりつけ薬剤師が「いる」と回答した患者、複数回答）

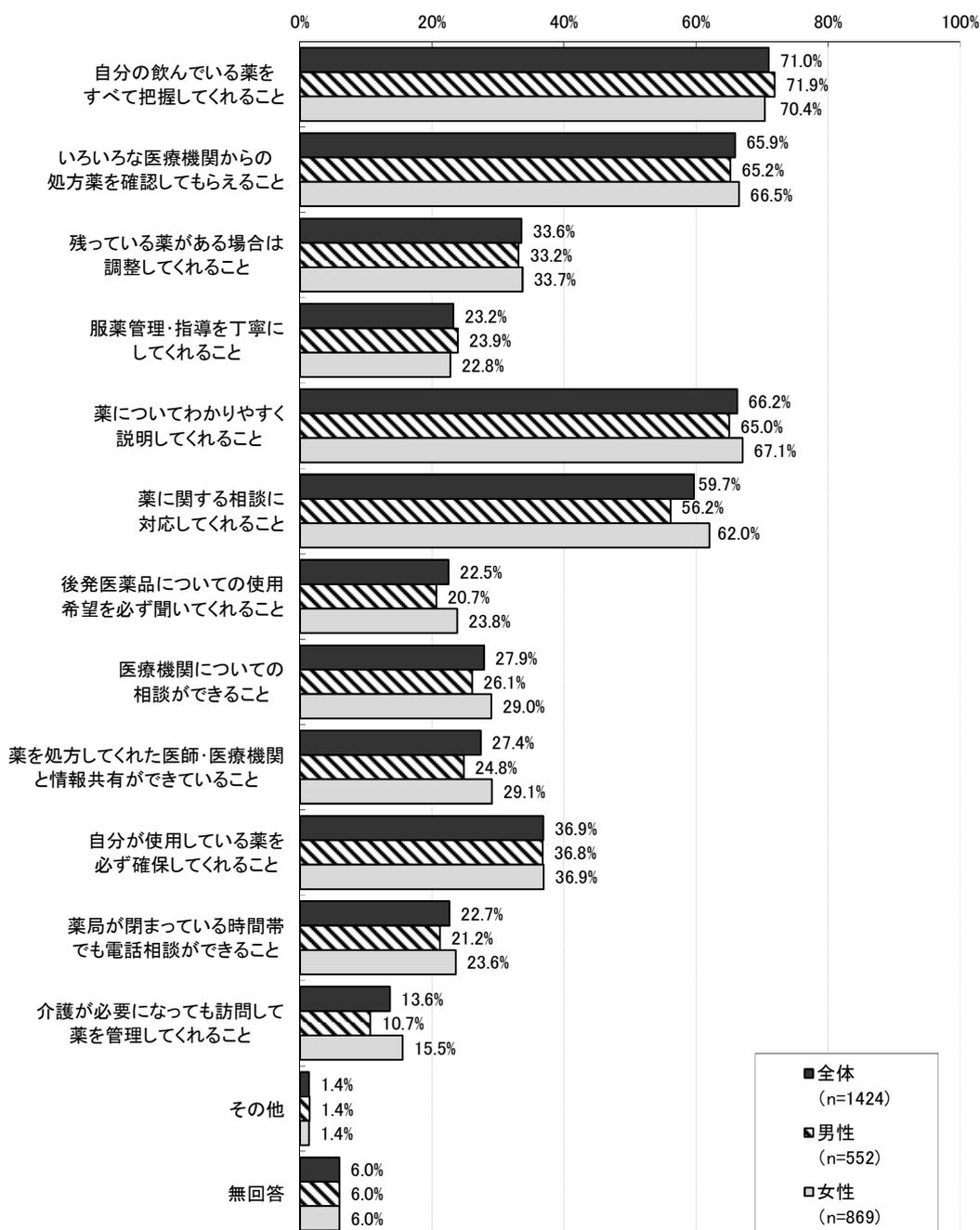


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 197 人が含まれる。

### ③かかりつけ薬剤師について重視すること

かかりつけ薬剤師について重視することを尋ねたところ、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること」が71.0%で最も高く、次いで「薬についてわかりやすく説明してくれること」(66.2%)、「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること」(65.9%)であった。

図表 275 かかりつけ薬剤師について重視すること（男女別、複数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・「その他」の内容として、「漢方の相談もできること」、「OTC薬についてもアドバイスをしてくれること」、「副作用が出た時に相談にのってもらい、同じ系統の薬を教えてくれること」、「医師の出した薬の量を確認してくれること」等が挙げられた。

図表 276 かかりつけ薬剤師について重視すること（年齢階級別、複数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること	いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること	残っている薬がある場合は調整してくれること	服薬管理・指導を丁寧にしてくれること	薬についてわかりやすく説明してくれること	薬に関する相談に対応してくれること	後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること
全体	1424 100.0	1011 71.0	939 65.9	478 33.6	331 23.2	943 66.2	850 59.7	321 22.5
29歳以下	106 100.0	74 69.8	71 67.0	33 31.1	19 17.9	69 65.1	71 67.0	26 24.5
30～39歳	99 100.0	54 54.5	62 62.6	28 28.3	5 5.1	67 67.7	65 65.7	19 19.2
40～49歳	147 100.0	98 66.7	101 68.7	49 33.3	30 20.4	100 68.0	92 62.6	39 26.5
50～59歳	200 100.0	123 61.5	130 65.0	54 27.0	30 15.0	126 63.0	115 57.5	33 16.5
60～64歳	113 100.0	92 81.4	78 69.0	33 29.2	19 16.8	80 70.8	74 65.5	25 22.1
65～69歳	148 100.0	106 71.6	93 62.8	48 32.4	29 19.6	92 62.2	77 52.0	43 29.1
70～74歳	149 100.0	121 81.2	99 66.4	45 30.2	38 25.5	104 69.8	90 60.4	37 24.8
75～79歳	175 100.0	133 76.0	114 65.1	66 37.7	47 26.9	116 66.3	107 61.1	38 21.7
80歳以上	264 100.0	195 73.9	176 66.7	114 43.2	109 41.3	172 65.2	149 56.4	59 22.3

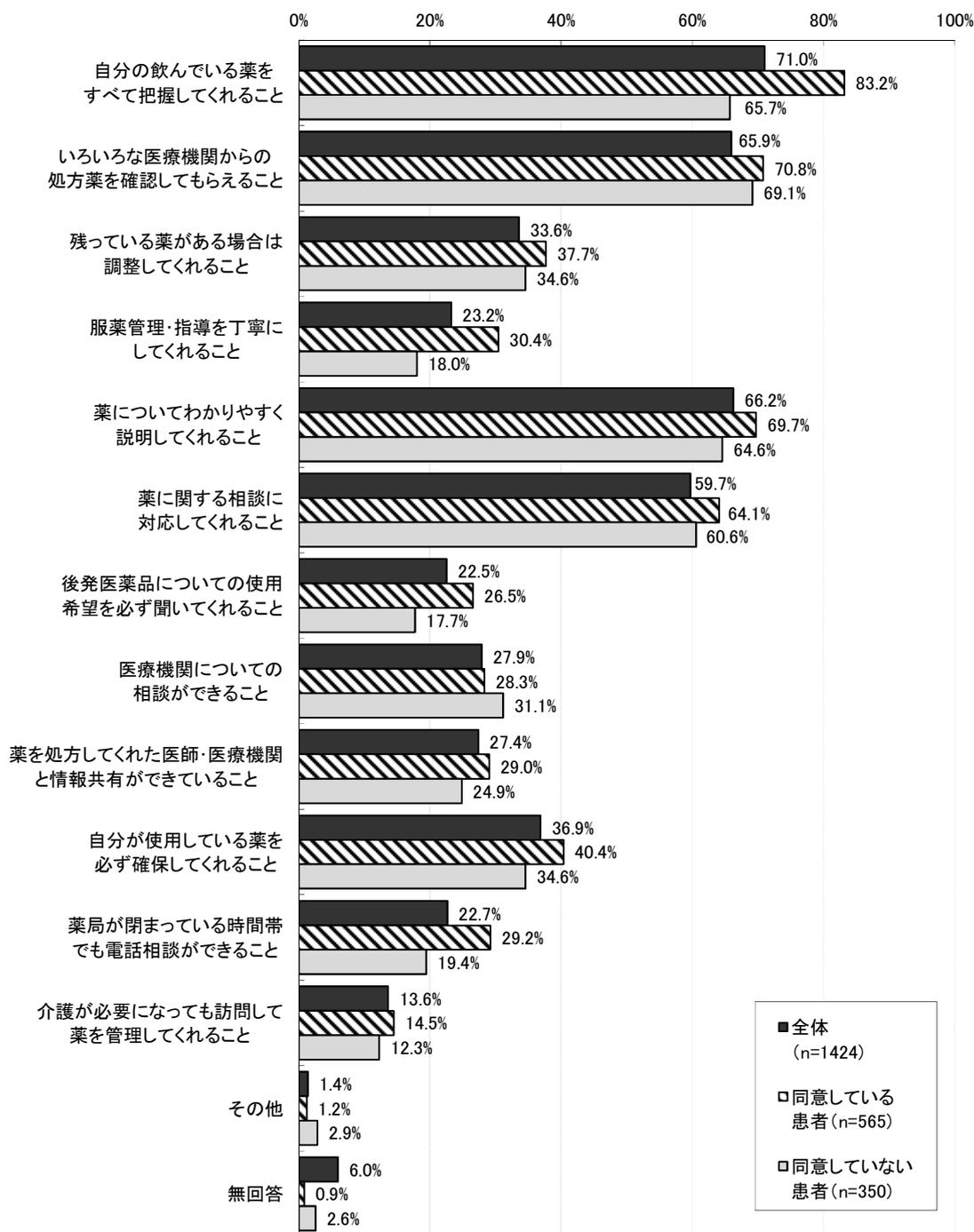
図表 277 かかりつけ薬剤師について重視すること（年齢階級別、複数回答）②

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	医療機関についての相談ができること	薬を処方してくれた医師・医療機関と情報共有ができていくこと	自分が使用している薬を必ず確保してくれること	薬局が閉まっている時間帯でも電話相談ができること	介護が必要になっても訪問して薬を管理してくれること	その他	無回答
全体	1424 100.0	397 27.9	390 27.4	525 36.9	323 22.7	194 13.6	20 1.4	85 6.0
29歳以下	106 100.0	29 27.4	28 26.4	34 32.1	27 25.5	10 9.4	1 0.9	5 4.7
30～39歳	99 100.0	24 24.2	16 16.2	28 28.3	21 21.2	6 6.1	2 2.0	4 4.0
40～49歳	147 100.0	50 34.0	40 27.2	60 40.8	34 23.1	18 12.2	0 0.0	7 4.8
50～59歳	200 100.0	55 27.5	49 24.5	60 30.0	23 11.5	16 8.0	4 2.0	14 7.0
60～64歳	113 100.0	34 30.1	38 33.6	46 40.7	25 22.1	14 12.4	1 0.9	5 4.4
65～69歳	148 100.0	39 26.4	38 25.7	60 40.5	36 24.3	24 16.2	3 2.0	16 10.8
70～74歳	149 100.0	38 25.5	45 30.2	64 43.0	37 24.8	21 14.1	3 2.0	4 2.7
75～79歳	175 100.0	47 26.9	60 34.3	66 37.7	43 24.6	34 19.4	3 1.7	10 5.7
80歳以上	264 100.0	77 29.2	72 27.3	102 38.6	71 26.9	50 18.9	3 1.1	20 7.6

（注）「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 278 かかりつけ薬剤師について重視すること  
(かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、複数回答)

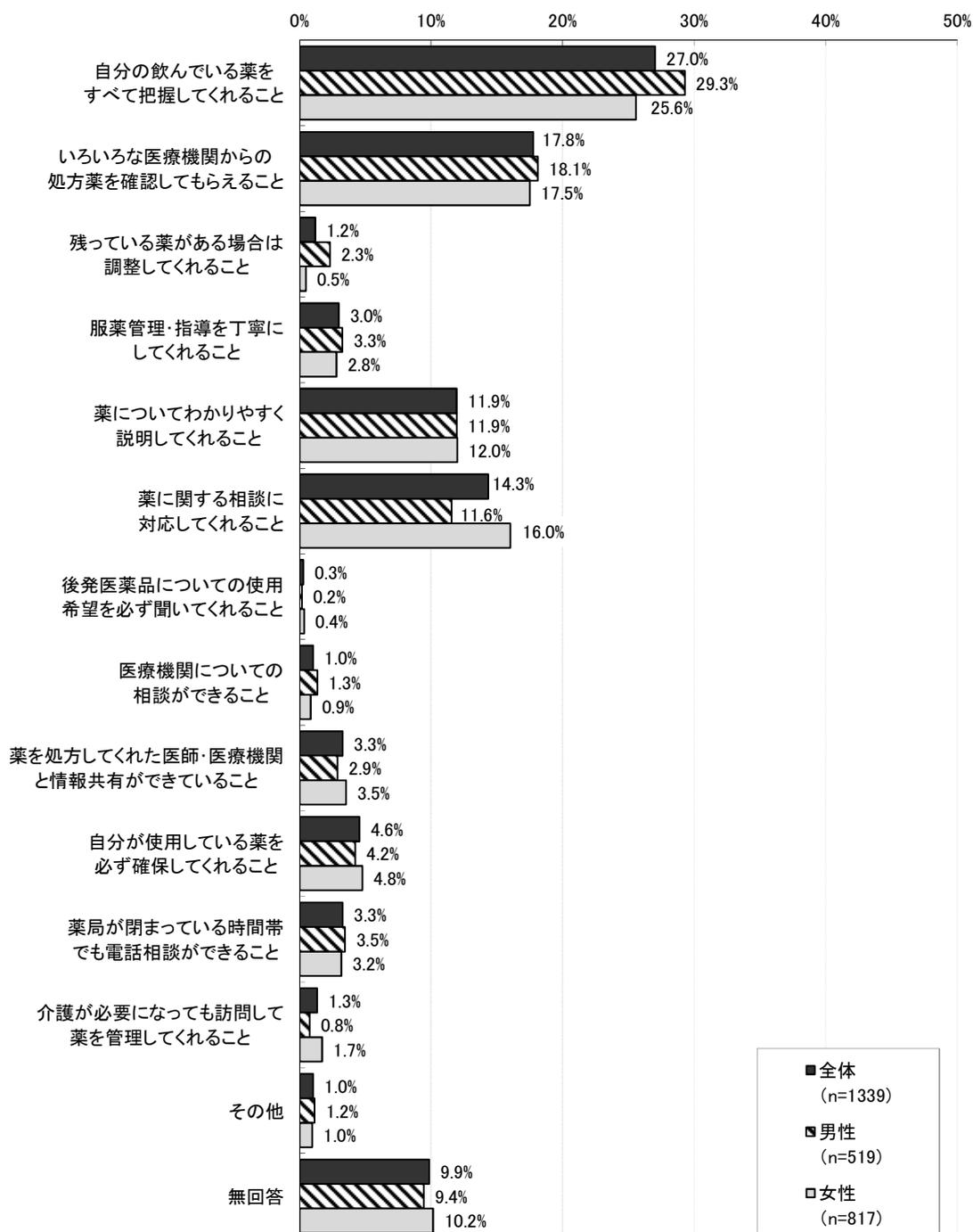


(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 509 人が含まれる。

#### ④かかりつけ薬剤師について最も重視すること

かかりつけ薬剤師について最も重視することを尋ねたところ、「自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること」が27.0%で最も高く、次いで「いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること」(17.8%)、「薬に関する相談に対応してくれること」(14.3%)であった。

図表 279 かかりつけ薬剤師について最も重視すること（男女別、単数回答）



(注)・「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

・かかりつけ薬剤師について重視することが無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 280 かかりつけ薬剤師について最も重視すること（年齢階級別、単数回答）①（次表に続く）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	自分の飲んでいる薬をすべて把握してくれること	いろいろな医療機関からの処方薬を確認してもらえること	残っている薬がある場合は調整してくれること	服薬管理・指導を丁寧にしてくれること	薬についてわかりやすく説明してくれること	薬に関する相談に対応してくれること	後発医薬品についての使用希望を必ず聞いてくれること
全体	1339 100.0	362 27.0	238 17.8	16 1.2	40 3.0	160 11.9	192 14.3	4 0.3
29歳以下	101 100.0	18 17.8	14 13.9	1 1.0	1 1.0	16 15.8	27 26.7	0 0.0
30～39歳	95 100.0	16 16.8	25 26.3	2 2.1	0 0.0	16 16.8	16 16.8	0 0.0
40～49歳	140 100.0	34 24.3	28 20.0	1 0.7	1 0.7	18 12.9	21 15.0	1 0.7
50～59歳	186 100.0	41 22.0	43 23.1	1 0.5	2 1.1	26 14.0	32 17.2	1 0.5
60～64歳	108 100.0	38 35.2	14 13.0	1 0.9	1 0.9	13 12.0	13 12.0	1 0.9
65～69歳	132 100.0	41 31.1	21 15.9	2 1.5	2 1.5	15 11.4	15 11.4	0 0.0
70～74歳	145 100.0	50 34.5	34 23.4	0 0.0	5 3.4	18 12.4	15 10.3	0 0.0
75～79歳	165 100.0	44 26.7	30 18.2	1 0.6	9 5.5	11 6.7	25 15.2	1 0.6
80歳以上	244 100.0	76 31.1	28 11.5	7 2.9	17 7.0	19 7.8	25 10.2	0 0.0

図表 281 かかりつけ薬剤師について最も重視すること（年齢階級別、単数回答）②

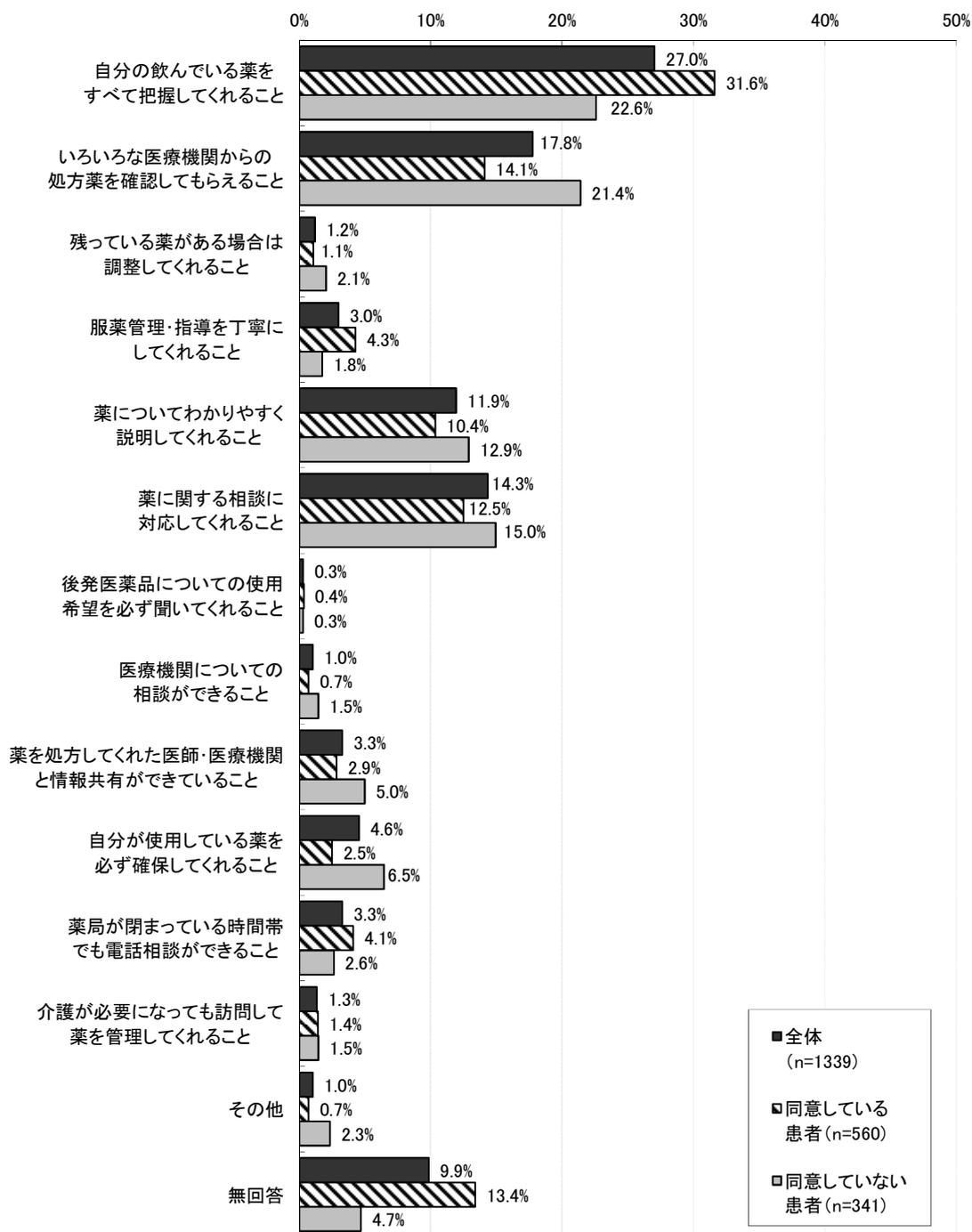
（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	医療機関についての 相談ができること	薬を処方してくれた 医師・医療機関と情 報共有ができてい ること	自分が使用している 薬を必ず確保して くれること	薬局が閉まっている 時間帯でも電話相談 ができること	介護が必要になっ ても訪問して薬を管理 してくれること	その他	無回答
全体	1339 100.0	14 1.0	44 3.3	61 4.6	44 3.3	18 1.3	14 1.0	132 9.9
29歳以下	101 100.0	1 1.0	2 2.0	4 4.0	10 9.9	2 2.0	1 1.0	4 4.0
30～39歳	95 100.0	0 0.0	5 5.3	3 3.2	5 5.3	0 0.0	1 1.1	6 6.3
40～49歳	140 100.0	1 0.7	5 3.6	12 8.6	4 2.9	2 1.4	0 0.0	12 8.6
50～59歳	186 100.0	2 1.1	5 2.7	12 6.5	6 3.2	2 1.1	4 2.2	9 4.8
60～64歳	108 100.0	3 2.8	4 3.7	5 4.6	3 2.8	0 0.0	0 0.0	12 11.1
65～69歳	132 100.0	4 3.0	5 3.8	6 4.5	1 0.8	3 2.3	3 2.3	14 10.6
70～74歳	145 100.0	0 0.0	3 2.1	6 4.1	1 0.7	1 0.7	0 0.0	12 8.3
75～79歳	165 100.0	1 0.6	9 5.5	2 1.2	1 0.6	0 0.0	2 1.2	29 17.6
80歳以上	244 100.0	2 0.8	6 2.5	10 4.1	12 4.9	8 3.3	3 1.2	31 12.7

（注）・「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

・かかりつけ薬剤師について重視することが無回答であったものを除いて集計対象とした。

図表 282 かかりつけ薬剤師について最も重視すること  
 (かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別、単数回答)



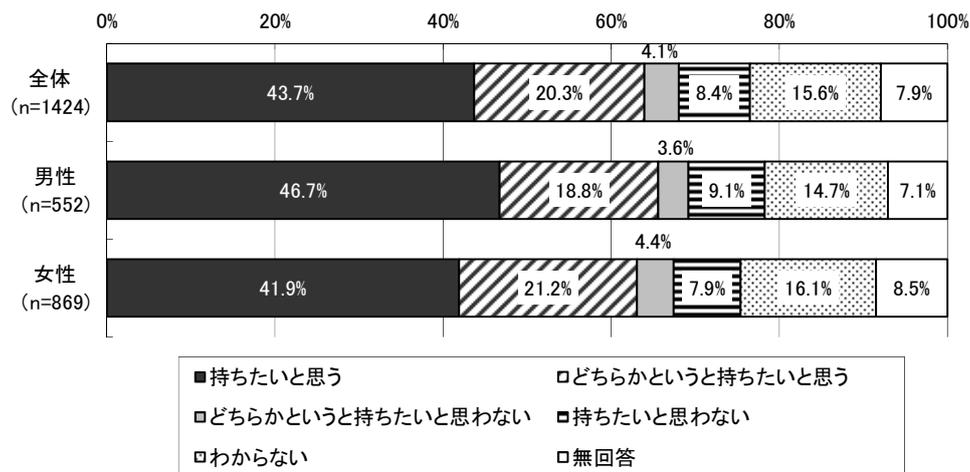
(注)・「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者 438 人が含まれる。

・かかりつけ薬剤師について重視することが無回答であったものを除いて集計対象とした。

### ⑤かかりつけ薬剤師についての意向

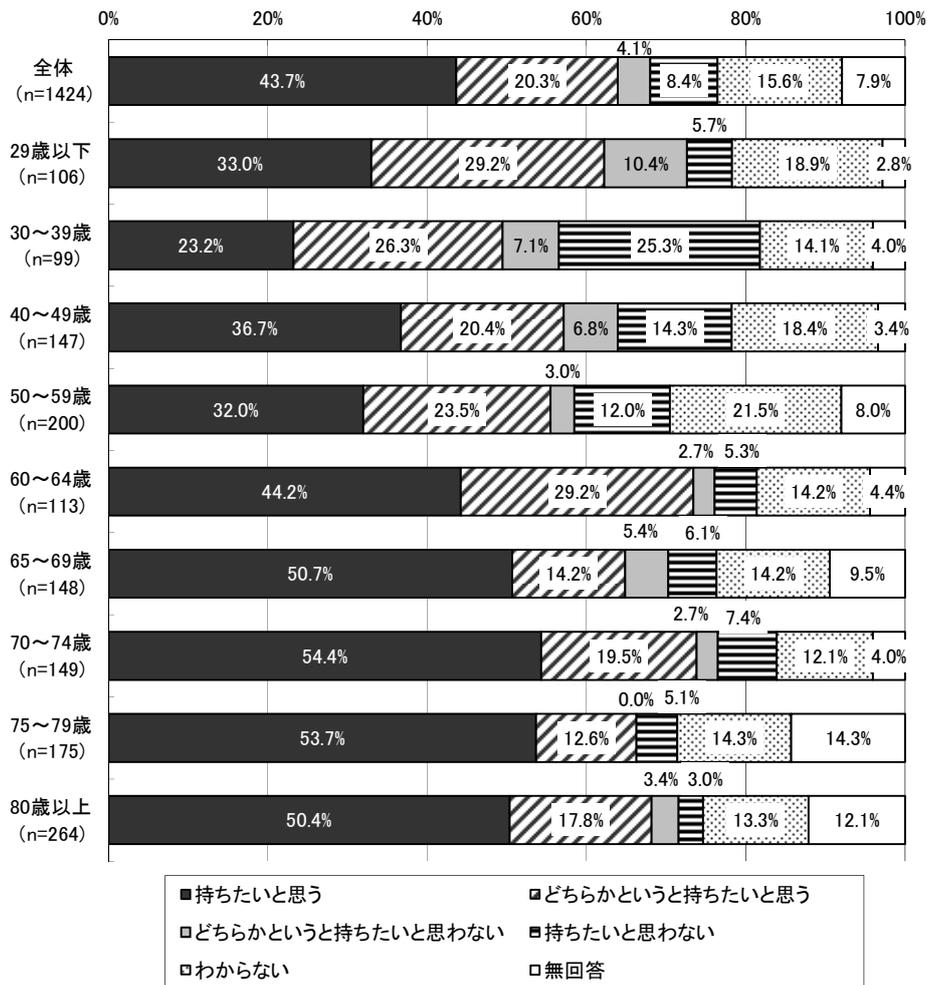
かかりつけ薬剤師についての意向を尋ねたところ、「持ちたいと思う」が 43.7%、「どちらかというを持ちたいと思う」が 20.3%で、両者を合わせると、意向のある人の割合は 64.0%となった。一方で、「どちらかというを持ちたいと思わない」が 4.1%、「持ちたいと思わない」が 8.4%で、両者を合わせると 12.5%であった。また、「わからない」が 15.6%であった。

図表 283 かかりつけ薬剤師についての意向（男女別）



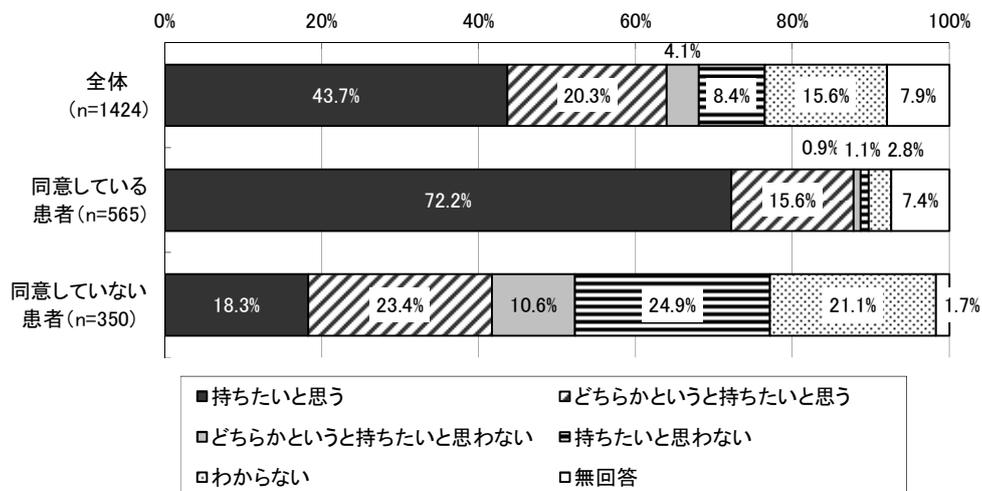
(注)「全体」には、性別について無回答の3人が含まれる。

図表 284 かかりつけ薬剤師についての意向（年齢階級別）



(注)「全体」には、年齢について無回答の23人が含まれる。

図表 285 かかりつけ薬剤師についての意向（かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況別）



(注)「全体」には、かかりつけ薬剤師指導料等の同意状況について「わからない」「無回答」であった患者509人が含まれる。

# 参 考 资 料



## (1) 保険薬局調査

保険薬局調査において、「かかりつけ薬剤師」としての機能を強化する上での課題等について自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

### ○かかりつけ薬剤師指導料の意義・業務内容と患者負担金

- ・かかりつけ薬剤師と、そうでない薬剤師の仕事内容についての差がはっきりとはわかりにくい。
- ・今まで何かお世話をすると「申し訳ない」という気持ちを抱く患者もいたが、点数化したことで問合せ等がしやすくなったと感じてくれる患者もいる。反面、患者負担が高くなるので、負担に思う患者には勧めにくい。
- ・薬剤師の名前を覚えているのはもちろんのこと、薬以外の話もできるくらい関わりがある患者に対してのみ、かかりつけ薬剤師の説明を行っている。説明後は、患者から「かかりつけ薬剤師になってください」と申出がある場合のみ同意書を作成し指導しているので、算定を増やすという意味では難しい。
- ・飲み合わせ、残薬のチェック、24 時間対応などはかかりつけ薬剤師の点数に関わらず行ってきたことで、患者が「かかりつけ薬剤師」を持つことで、新たに受けられるサービスというのは薬剤師を指定できるということだけ。店舗に薬剤師が 1 人しかいない場合には契約しても患者にメリットはない。
- ・同意数などを薬局自体の評価項目とし、基準調剤加算のような全体の底上げなどにしてはと考える。現状の「かかりつけ薬剤師」の制度は医療従事者の指名料のような感じがして不自然。 / 等

### ○週 32 時間以上の勤務要件

- ・1 人薬剤師でも機能を発揮できるよう、24 時間対応できない場合は指導料を低くする等して参加できるようにしてほしい。また、女性薬剤師のパートの方は、時間的制限があり（家庭の事情）、やりたくてもできない有能な人がいる。そのような薬剤師も貢献できるような、参加できるような制度にならないか。
- ・薬剤師は女性が多い。多くの薬剤師がかかりつけ薬剤師として活躍できるよう、届出できる薬剤師の「32 時間以上の勤務」は緩和した方がよい。
- ・薬剤師不足が続く中、パートを集めている薬局が多いと思われる。正社員のように週 32 時間勤務できる要員が確保できない薬局が多いと感じる。
- ・年要件や勤務時間要件が緩和されれば更に強化できると思う。今の条件だとかかりつけ薬剤師となった正社員に業務が偏り、疲弊している。
- ・かかりつけ薬剤師となった職員が患者を多数かかえている。その薬剤師の患者がまとめて来局すると待ち時間が非常に長くなることがある。 / 等

### ○24 時間体制の整備等

- ・24 時間体制にかかる費用をどうするか（電話を持たせるとか、在宅での服用薬や薬歴を

見る手段)が課題。薬局からすぐに出られないタイミングで患者から家に来るよう要望があった時にどうしたらいいか。

- ・1人薬剤師で24時間対応することは過剰な労働時間だと思う。自宅にまで夜中にでも届けるとなると問題も起こる可能性がある。点数はとれなくても時間内に相談は受けるし、薬の確保もできているので、あえて届出はしない。
- ・24時間の調剤対応は負担が大きい。薬局か薬剤師かが個々に対応するのではなく、病院のように当番制にするなどの仕組みも必要。
- ・薬剤師個人に24時間対応を求められるのは厳しい。薬局内での分担制などが導入できるとよい。 /等

#### ○かかりつけ薬局としての機能強化

- ・専任の薬剤師となった場合、他の薬剤師からのチェックや意見などが入りにくい。「かかりつけ薬剤師」としてではなく「かかりつけ薬局」としてすべての薬剤師で患者をフォローしていく方がより良いのではないか。
- ・かかりつけ薬剤師の同意を得られたとしてもその患者が「常に」出勤時に来てくれるとは限らない。複数の患者をかかりつけとして持った場合、担当薬剤師はほぼ休日がなくなる。
- ・「かかりつけ薬剤師」としての個人を評価するのではなく、「かかりつけ薬局」としての施設を評価した方が、患者の利便性を高めると思う。
- ・同一店舗内では情報を共有することで複数担当は可能ではないか。あるいは、個人ではなく店舗を「かかりつけ薬局」とし、その地域で継続した「かかりつけ店舗」として登録し、その患者をみていくようにした方が良いのではないか。
- ・患者は「かかりつけ薬局」を決め、その薬局で調剤されると自己負担金が安くなるようにし、薬局はその患者割合が高くなると加算が算定できるようにしてはどうか。 /等

#### ○地域活動参画の要件

- ・地域活動で学校薬剤師をしているが、夏場は検査等で薬局を抜けることが多くなり、他の薬剤師にサポートを受けている。薬局内で一人でも地域活動をしていれば、かかりつけ薬剤師として認定が受けられる仕組みであれば、他の勤務薬剤師も「かかりつけ薬剤師」となれる。
- ・「かかりつけ薬剤師」の登録をしようとしたが、地域活動という要件で受理されなかった。何が地域活動にあたるのか明確にしてほしい。
- ・医療に係る地域活動の取組に参画という項目が、条件的に厳しい。
- ・地域活動の参加の要件が不明瞭、薬剤師会に入会していないと、行政からの依頼も受けにくい。
- ・地域活動のハードルが高い。忙しい事務の合間にできることは限られている。お薬相談会や健康広場を独自開催しても宣伝活動とみなされ、地域活動と認められない。 /等

#### ○地域や患者等への周知

- ・地域や患者における、かかりつけ薬剤師の認知度がまだ低い。利用者以外にも知ってもらいたい。
- ・患者、他職種に対して、かかりつけ薬剤師について周知する活動が必要。かかりつけ薬剤師そのものが浸透していない。
- ・患者にかかりつけ薬剤師の役割についてもっと啓発活動を行い、指導対象を拡げていく必要がある。ブラウンバッグやお薬手帳などの積極的な活用を勧める。
- ・かかりつけ薬剤師の仕組みについて一から説明するのは患者側の負担になってしまうこともあるので、テレビや新聞で「かかりつけ薬剤師」についてとりあげてほしい。認知度が高まれば、同意してもらえる機会も増えるのではないかと。
- ・かかりつけ薬剤師について、説明するのですが、高齢者は理解出来ない方が多くいて、必要な方に同意をもらえない。 /等

#### ○薬剤師における知識や技術のスキル向上等

- ・今まで以上に自己研鑽に努めなければならないと思う。患者や家族からの情報も細かく収集する必要があると思う。
- ・OTC や健康食品についてもある程度の知識を身につけておく必要がある。
- ・介護相談にのれる薬局体制の整備が必要。
- ・薬局薬剤師およびスタッフ全員のスキルアップが必要。また、かかりつけ薬剤師以外の薬剤師によって調剤された薬について病院や薬局間でスムーズに情報共有できる体制づくりが必要。 /等

#### ○その他

- ・かかりつけ薬局に処方せんを持ち込みやすくするため、処方せんの有効期限を 7 日間程度に延長してほしい。
- ・かかりつけ薬剤師の制度が始まり、他院からの処方せんを受け付けるケースも増えたが、急を要する薬の在庫がない場合もあり、「隣でもらえばよかった」と言われたケースも多い。かかりつけ薬剤師の業務を積極的に行おうと思っても、在庫の面、経営面で厳しい。
- ・一番の問題は、在宅業務との兼務が難しいこと。現在、かかりつけ薬剤師となっている患者 4 名と、在宅患者 6 名を担当しているが、ほぼ毎日、昼～夕まで薬局に不在となる。「かかりつけ」となっている患者に迷惑をかけることもしばしば。患者を増やせない要因となっている。
- ・個人情報やコストのこともあると思うが、他の薬局や病院での院内処方せんが瞬時にかかりつけ薬剤師に伝わるようなシステムがあれば、患者から薬の情報をすべて把握しているのが「かかりつけ薬剤師」だということになり、役割がはっきりする。
- ・「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」から、そのまま在宅へと移行してくれればよいが、患者本人の意向は無視され、在宅医やケアマネのつながりで薬局が変えられてしまう。

- ・チェーン調剤薬局がやや強引にかかりつけ薬剤師の契約書を集めている。患者は家からその薬局が非常に遠いにもかかわらず、自宅近隣で交付された処方せんでさえも、バスに乗ってその薬局へと足を運ばねばならない。かかりつけ薬剤師制度によって服薬管理が一つの薬局でできることは事実だが、それに見合わない患者負担が発生していることも考えるべき。
- ・院内処方 of 病院や診療所での処方薬がお薬手帳に記録してもらえない場合がある。／等

## (2) 診療所調査

診療所調査において、平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等に関するご意見について自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

- ・患者の残薬を減少させるためには「常日頃から患者に残薬がないか」を問う医院側の姿勢と「薬が余っても恥ずかしくない」と患者に思わせることが大切だと思う。また、患者は結構気楽に「薬を処分廃棄する方が多い」ので、この考え方の教育が必要と以前から思っている。
- ・多剤投与が若干減った。
- ・24 時間対応してくれている薬局との連携が多いため、もともと残薬調整、服薬指導などをしてくれていた。ただ疑義照会は以前と比べて増加。お互いに手間が増えた。
- ・以前から長期処方薬の残薬確認はしており、今さら何も変わってはいない。
- ・疑義照会が増え、業務効率が悪くなった。
- ・残薬の確認等、診療所の方で実施し、その都度飲み忘れ等をチェックし、次回の処方に反映させているため、患者側に薬の大切さが浸透していると思う。点数を上げてほしい。
- ・地域包括診療加算の説明、文章作成、毎回毎回の他医からの処方確認、カルテへの記載・保存の手間が増え、診察にかけられる時間が減少した。
- ・「かかりつけ薬剤師」ができることで患者が薬に関して質問をしやすくなっているように感じる。多剤投与について意識するようになってきている。
- ・へき地にあるため、調剤薬局がまわりになく、また「かかりつけ薬剤師」もみない。現在でも患者が数冊のお薬手帳を持っていて、別々に各々の手帳を出している状況。当院には薬剤師はいないが、問診の際（残薬等、重複受診等を）聞き出すこと、お薬手帳を 1 つにまとめることをスタッフで手分けしてこの改定後にやっている。早く「かかりつけ薬剤師」を機能させてほしい。
- ・残薬の確認等、診療所の方で実施し、その都度飲み忘れ等をチェックし、次回の処方に反映させているため、患者側に薬の大切さが浸透していると思う。点数を上げてほしい。無医地区、患者減少のため医師側の情熱だけで続けています。従業員を雇うだけで赤字がでます。何とかならないものかと思えます。
- ・確かに保険薬局からの連絡を多く受けるようになった。／等

### (3) 病院調査

病院調査において、平成 28 年度診療報酬改定の影響・効果等に関するご意見について自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

- ・「かかりつけ薬局」制度の実感がない。地域性もあると思われるが、この近隣では、制度は、浸透していないようだ。
- ・施設への薬は各調剤薬局が残薬の連絡をくれるようになり良くなったが、患者の負担金増となっている。
- ・地方においては、24 時間対応の薬局の開設は困難。
- ・残薬調整のための処方日数の変更は増加。
- ・残薬調整するためのチェックボックスの利用がされていない現状がある。
- ・持参薬の区別（自院処方を使用不可、他院処方主病名に関わらないものは使用可など）が煩雑である。入院中、持参薬を使用せずに薬を処方し直したり、院内採用のある薬に変更したりしていると、かえって残薬が多くなるのではないかと懸念される。 / 等

### (4) 患者調査

患者調査において、かかりつけ薬剤師・薬局に関するご意見について自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

○かかりつけ薬剤師の制度はよい

- ・かかりつけ薬剤師・薬局の制度は、とても良いと思う。母として子供に対してたくさん不安を抱えている。判断しにくい病、薬の飲ませ方など、全てに丁寧かつ的確に相談にのってくれ、何度も助けられた。時間外でも対応してもらったこともあり本当に心強く安心できた。
- ・病気のことは医師に相談をするが、薬の飲み方や保管の方法、家に置いてあった（昔もらった薬のこと）薬について、どういう薬なのか教えてくれるのは薬剤師。この「かかりつけ薬剤師」の制度によって専門性をもっと活用できるのではないか。処方せんがなくても、いつでも気軽に相談できる薬剤師を自分のかかりつけにしたい。
- ・医師には言いにくいこともあるので、気軽に相談できる場所であってほしい。
- ・1 か所の薬局でかかりつけ薬剤師にしたことで、相談しやすくなり、とても良かった。
- ・いつでも安心して相談できる。4 病院受診しているので薬の種類も多く、病状についても相談（話を聞いてもらっている）している。
- ・いつも行く薬局があるのは心強い。
- ・もっと近い薬局はあるが、対応の良い、今の薬局を選んでいる。いつも正確に、自分の以前の薬や経過なども覚えていて対応してくれるので安心。
- ・費用がかかることを説明してもらっているが、それ以上のサービスをしてくれると思う。
- ・高齢であれば複数の医療機関から同様の薬を処方されていることもある。かかりつけ薬

局があれば調整でき、重複処方や飲み忘れ等の医療費の削減にもつながると思う。／等

#### ○かかりつけ薬局・薬剤師を決めたくない

- ・医師にも専門があるように薬剤師にも得意分野があると思う。いろいろな薬剤師の違う角度からの指導は患者にとってもメリットがあると思う。
- ・「かかりつけ薬局」は良いと思うが、「かかりつけ薬剤師」は必要ないと思う。自分が利用している薬局は薬剤師が3人しかいないので誰でも同様に対応してくれる。3人それぞれ個性があって、1人に偏るともったいないと思う。
- ・今、利用している薬局の薬剤師は全員対応が良いので、1人の薬剤師さんにこだわる必要がない。
- ・1か所に持つて行くのが手間。薬は直ぐに飲みたいのに違う薬局にもらいに行くのは不便。
- ・風邪薬や痛み止めだけなど簡単な薬をもらう場合、かかりつけ薬剤師、薬局は不要だと思う。いちいち説明されるのも面倒。かかりつけでなくても、いろんな薬局で丁寧に対応してもらえば十分。／等

#### ○周知が不十分

- ・「かかりつけ薬剤師」が制度としてあることを知らなかった。同様に「かかりつけ薬剤師指導料」というものがあることも知らなかった。
- ・「かかりつけ薬剤師」というのをはじめて知った。
- ・「かかりつけ薬剤師・薬局」についての意義・役割について理解が不足している。
- ・私は社会変化への関心はあるほうだと思っているが、この制度に関してパンフレット・掲示物等何も見たことがない。薬剤師の社会的位置づけ、役割のPRが不十分だと思う。
- ・現在の薬剤師に「あなたのかかりつけ薬剤師になっても良いですか」と聞かれ、同意したが、「かかりつけ薬剤師指導料」という言葉は今回の調査で初めて知った。

#### ○かかりつけ薬剤師指導料の負担

- ・いつも行っている薬局の薬剤師が十分に対応してくれている。指導料まで払って対応してもらおうとは思わない。
- ・かかりつけでもそうでない人でも同じ対応をしてくれているので必要性がわからない。
- ・かかりつけ薬剤師という特別な区別をつけなくても薬剤師としての当たり前の行為・業務ではないか。
- ・この薬局に「かかりつけ薬剤師」になってもらいたいとお願いしたが、資格がないためなれないと丁寧に断られた。その方以外にかかりつけ薬剤師になってほしいと思える方がいないので他で持ちたいとは思わない。また、「かかりつけ薬剤師」と同等のことをしてくれているので満足している。
- ・なるべく「かかりつけの薬剤師」のところに処方せんを持って行くようにしているが、薬の取り寄せに日数がかかることもあり、持っていくのを躊躇してしまう。そのため、病院の隣にある薬局でもらうこともある。

- 薬局を選ぶのはいいと思うが、薬剤師まで特定してしまったら待ち時間も長くなると思うし、料金が高くなるので不要。 / 等